

鎌ケ谷市こども・若者アンケート調査報告書

令和6年5月

鎌ケ谷市

目次

第1章 調査の概要

1 調査の目的・方法	2
2 報告書の利用にあたって	2
3 回収結果	3
4 調査対象に関する概要	4

第2章 分析編

1 保育サービスのニーズに関する分析	8
2 「こどもの権利」・意見表明に関する分析	14
3 子育ての負担度合いに関する分析	16
4 こどもの貧困対策に関する分析	18
5 若者の居場所に関する分析	24
6 ヤングケアラーに関する分析	28
7 自己肯定感に関する分析	31
8 外出状況に関する分析	34

第3章 集計編

1 未就学児保護者、小学生保護者調査	
(1) 子どもの育ちをめぐる環境について	35
(2) 就労状況について	41
(3) 教育・保育事業（幼稚園・保育所等）の利用について	46
(4) 子育て支援サービスの利用について	54
(5) 放課後の過ごし方について	62
(6) 育児休業や短時間勤務制度について	68
(7) 地域とのかかわりについて	72
(8) 「こどもの権利」について	74
(9) 子育て環境や支援について	78
(10) 暮らしの状況について	88
2 中学生調査、高校生・若者調査	
(1) 普段の生活のことについて	100
(2) 居場所について	106
(3) 外出状況について	112
(4) 思いや気持ち、地域のことについて	116
(5) ご家庭について	126
(6) 鎌ヶ谷市のこども・若者支援施策について	129

第1章 調査の概要

1 調査の目的・方法

(1) 調査の目的

この調査は、鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画の策定及び、今後の市のこども・若者施策を推進するための基礎資料として、市民の皆さまの意見や要望を把握することを目的に実施しました。

(2) 調査対象者と抽出方法

調査名	調査対象者	調査方法
未就学児保護者調査	鎌ケ谷市内の未就学児童がいる世帯・保護者	郵送配布・郵送回収
小学生保護者調査	鎌ケ谷市内の小学生児童がいる世帯・保護者	
中学生調査	鎌ケ谷市内の公立中学校に通う生徒	調査に関する案内用紙を配付し、インターネットを通して回答
高校生・若者調査	鎌ケ谷市に在住する15～29歳の市民	

(3) 調査時期

令和6年2月～3月

2 報告書の利用にあたって

- (1) ．選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがあります。
- (2) ．調査結果の比率は、その設問の回答者数を母数（ n と表記）として、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。
- (3) ．複数回答形式の場合は、すべての回答者が1つの回答しか選択しなかったという特殊な場合を除き、回答比率の合計が100%を超えます。
- (4) ．表中の「全体」は回答者数となっており、複数回答の場合、回答数の合計とは異なります。

3 回収結果

対象	未就学児保護者	小学生保護者	中学生	高校生・若者
サンプル数	1,200	1,200	950	1,400
回収数	538	508	196	261
回収率	44.8%	42.3%	20.6%	18.6%

（参考）標本誤差の状況

本調査は対象を抽出して行う標本調査であり、調査結果と、実際の状況（母平均）の間に標本誤差が生じます。

調査結果から一定の範囲を定めた時にその範囲に95%の確率で母平均が含まれる時の範囲である、95%信頼区間について、各調査における状況は以下の通りです。

※例えば、中学生調査で、ある選択肢に30%の回答がみられた場合、 $\pm 6.2\%$ （23.8%～36.2%）の範囲に95%の確率で実際の値（母平均）が含まれると考えられます。

95%信頼区間		未就学児保護者	小学生保護者	中学生	高校生・若者
回収数		538	508	196	261
母集団（推定）		4,775	5,134	2,705	15,750
回答割合	10%・90%	$\pm 2.4\%$	$\pm 2.5\%$	$\pm 4.0\%$	$\pm 3.6\%$
	30%・70%	$\pm 3.6\%$	$\pm 3.8\%$	$\pm 6.2\%$	$\pm 5.5\%$
	50%	$\pm 4.0\%$	$\pm 4.1\%$	$\pm 6.7\%$	$\pm 6.0\%$

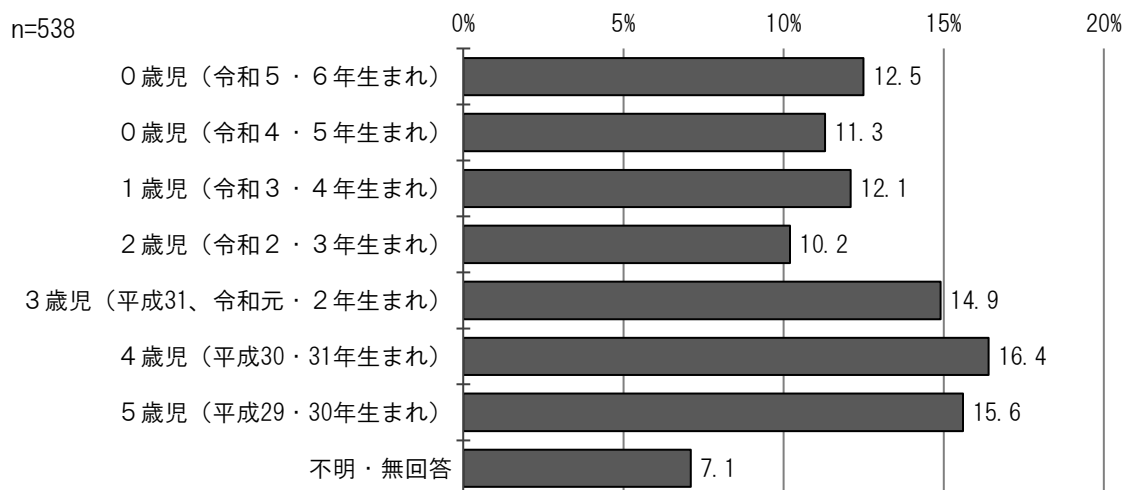
4 調査対象に関する概要

(1) 未就学児保護者調査、小学生保護者調査

問1 宛名のお子さまの生年月をご記入ください。

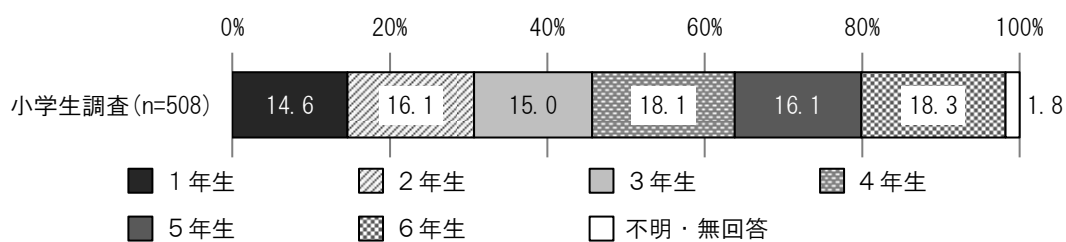
生年月から算出した年齢（令和5年度時点の学年）については、各年齢でそれぞれ1割台となっています。

（未就学調査）



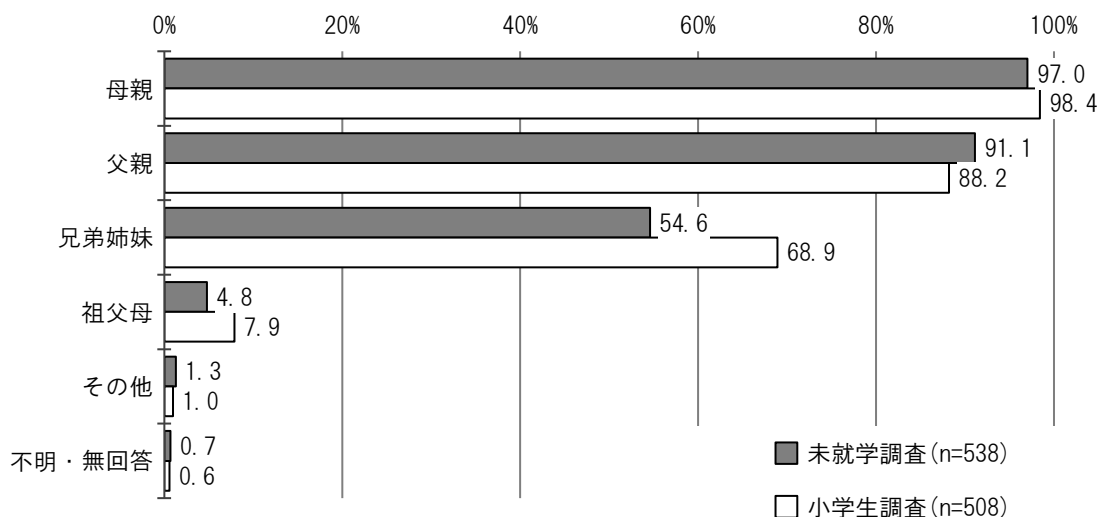
問1 宛名のお子さまの生年月をご記入ください。

生年月から算出した学年については、1年生から6年生までそれぞれ1割台となっています。



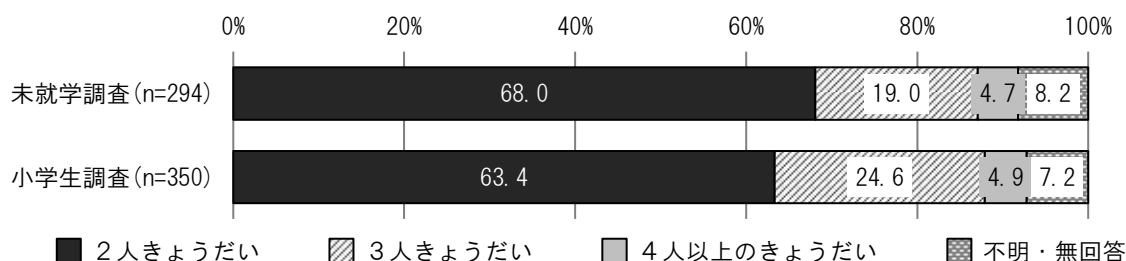
問2 宛名のお子さまと同居されている方はどなたですか。宛名のお子さまからみた関係でお答えください。（複数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「母親」は9割台後半、「父親」は約9割となっています。「兄弟姉妹」は〈未就学調査〉では54.6%、〈小学生調査〉では68.9%となっています。



付問 兄弟姉妹の人数 ※問2で「兄弟姉妹」を選んだ方のみ回答（単数回答）

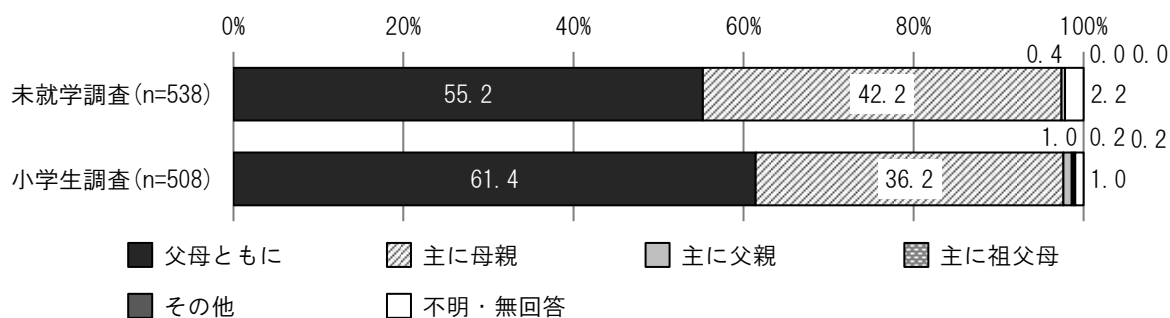
〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「2人きょうだい」が6割台、「3人きょうだい」が2割前後となっています。



問3 宛名のお子さまの子育てを主に行っているのはどなたですか。宛名のお子さまからみた関係でお答えください。（単数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「父母ともに」が最も多くなっています。

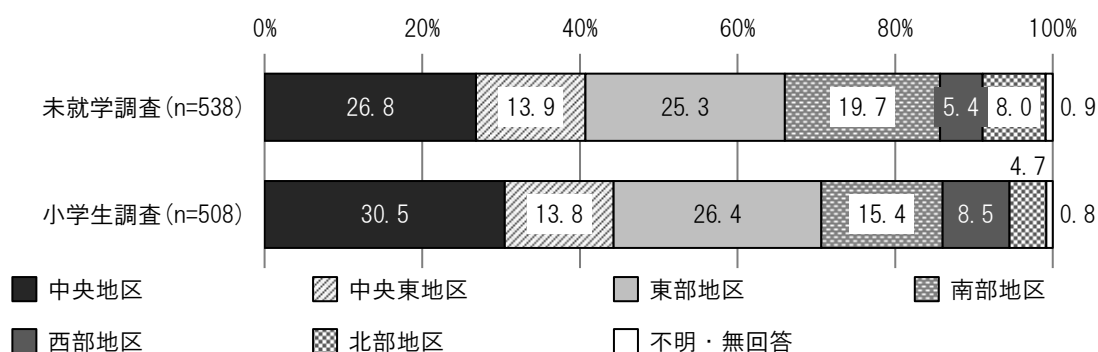
〈未就学調査〉においては、「主に母親」が42.2%と、小学生調査よりやや多くなっています。



問4 お住まいの地区はどちらですか。

(単数回答)

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「中央地区」が最も多く、次いで「東部地区」となっています。



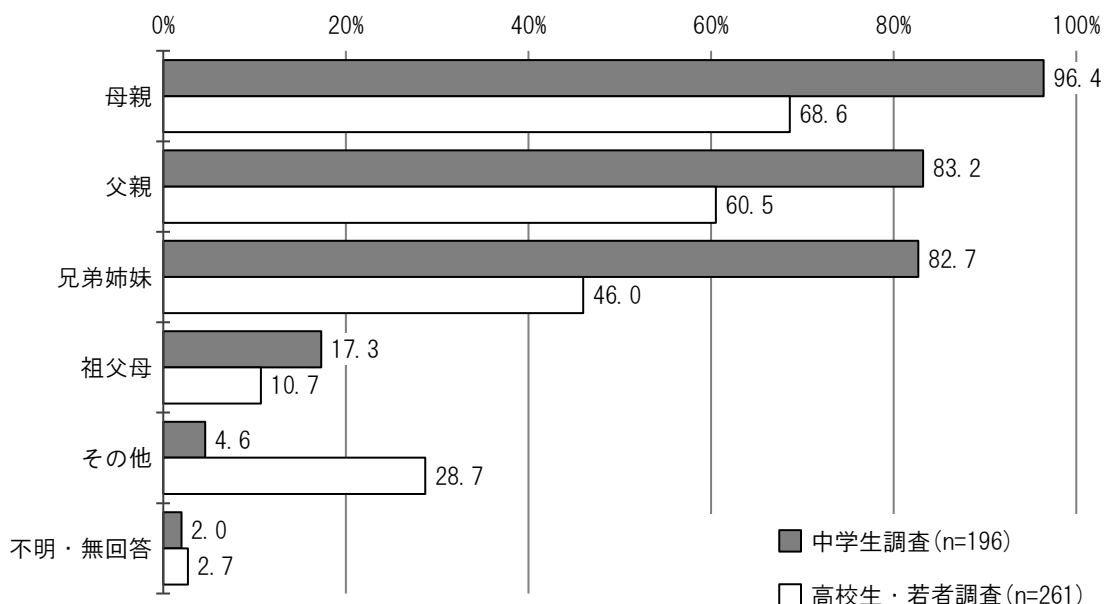
(2) 中学生調査、高校生・若者調査

問1 あなたと同居されている方はどなたですか。あなたからみた関係でお答えください。

(複数回答)

〈中学生調査〉では、「母親」が96.4%と多く、次いで「父親」「兄弟姉妹」が8割台となっています。

〈高校生・若者調査〉では、「母親」「父親」は6割台となっています。「その他」としては、「配偶者・パートナー・婚約者」等が54件(20.7%)、「ひとり暮らし」が14件(5.4%)となっています。

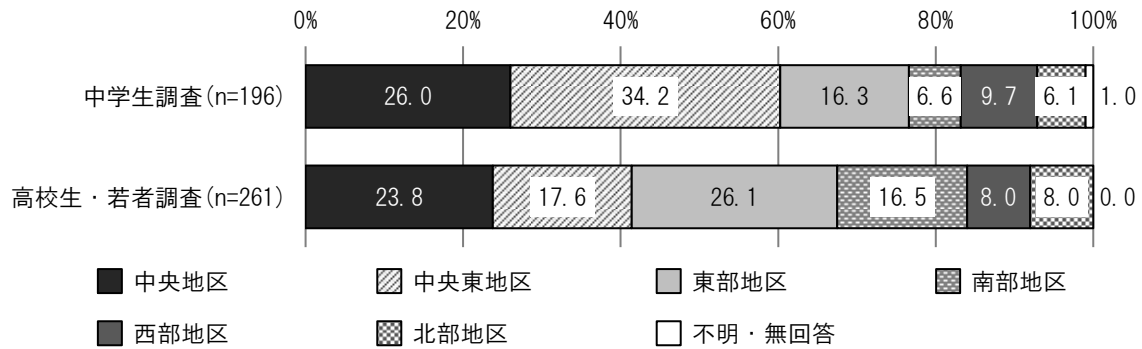


問2 お住まいの地区はどちらですか。

(単数回答)

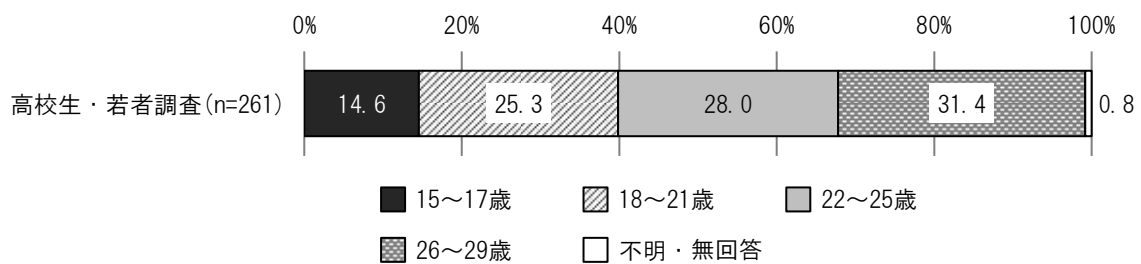
〈中学生調査〉では、「中央東地区」が34.2%と最も多く、次いで「中央地区」となっています。

〈高校生・若者調査〉では、「東部地区」が26.1%と最も多く、次いで「中央地区」となっています。



問3 (高校生・若者調査) 年齢をお答えください。(令和6年4月2日時点の年齢) (単数回答)

「26～29歳」が31.4%と最も多くなっています。



第2章 分析編

1 保育サービスのニーズに関する分析

(1) 母親の就労状況について

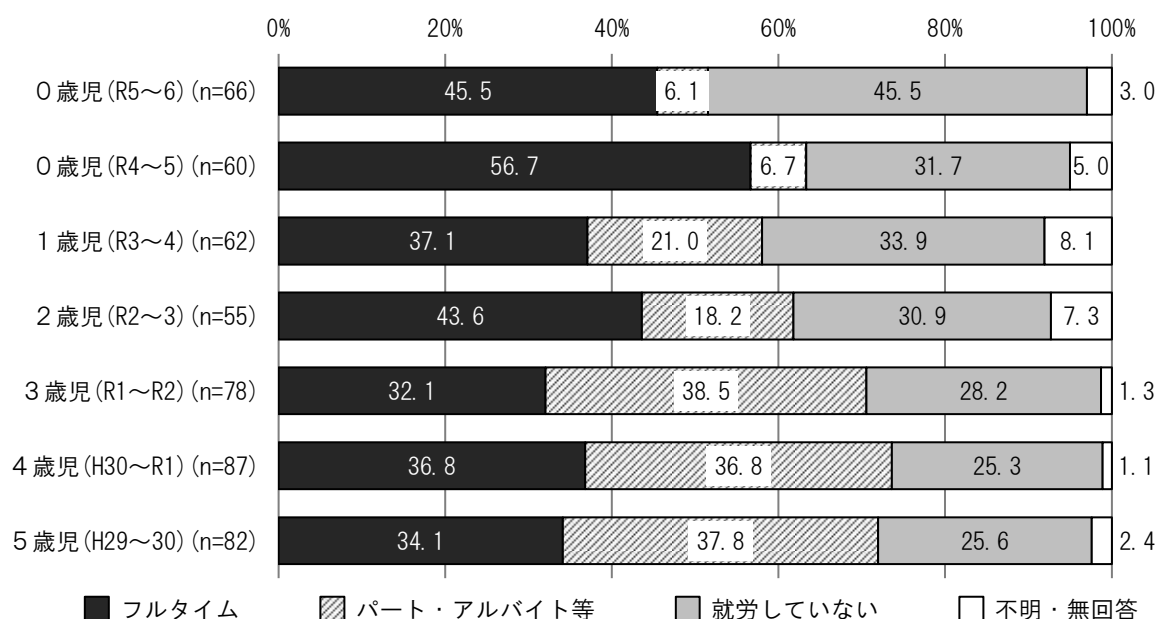
問9①母親 就労状況について × 年齢

(単数回答)

〈0歳児〉の2区分では、「フルタイム」「就労していない」が他の区分に比べて多くなっています。

〈1歳児〉以上の区分では、「フルタイム」は3～4割となっています。

また、1歳児から4歳児にかけ、「就労していない」について年代が上がるほど少なくなる傾向です。

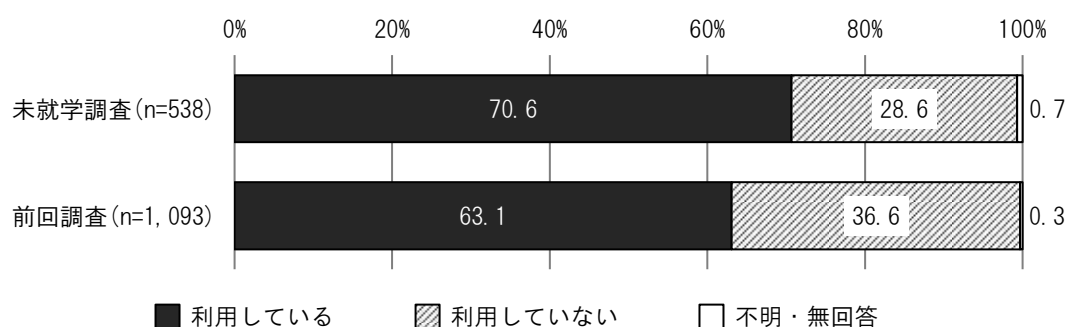


(2) 定期的な教育・保育事業の利用について

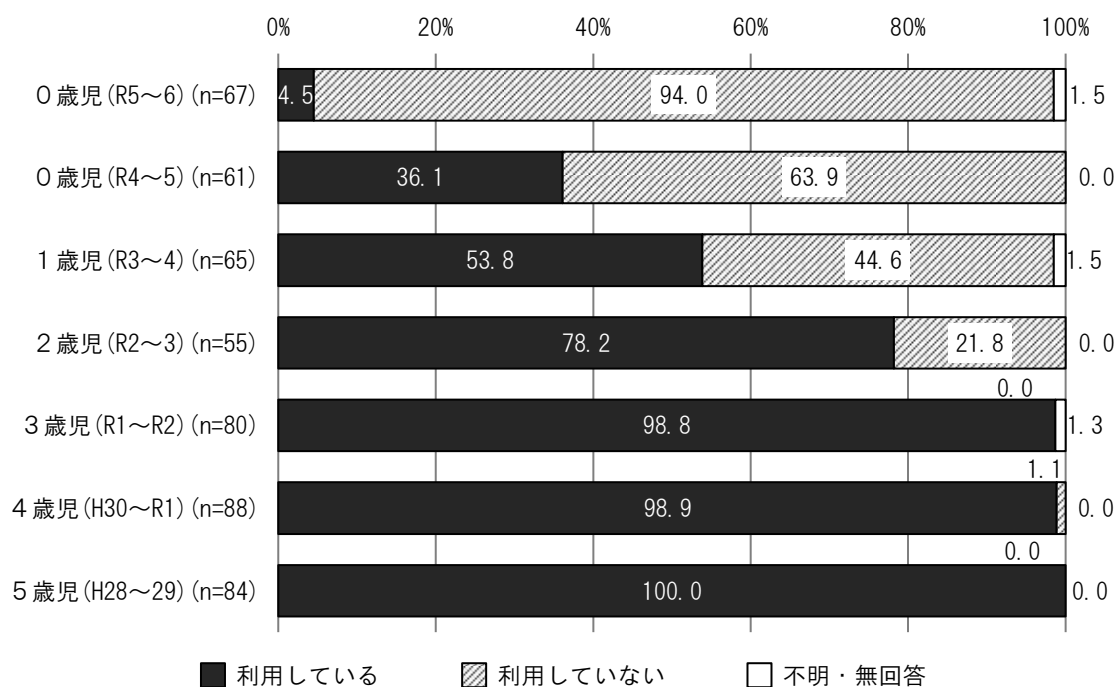
「利用している」が70.6%、「利用していない」が28.6%となっています。

〈前回調査〉と比べて、「利用している」がやや増加しています。

年代別にみると、年齢が上がるほど「利用している」が多くなり、3歳児以上ではほとんどが「利用している」となっています。

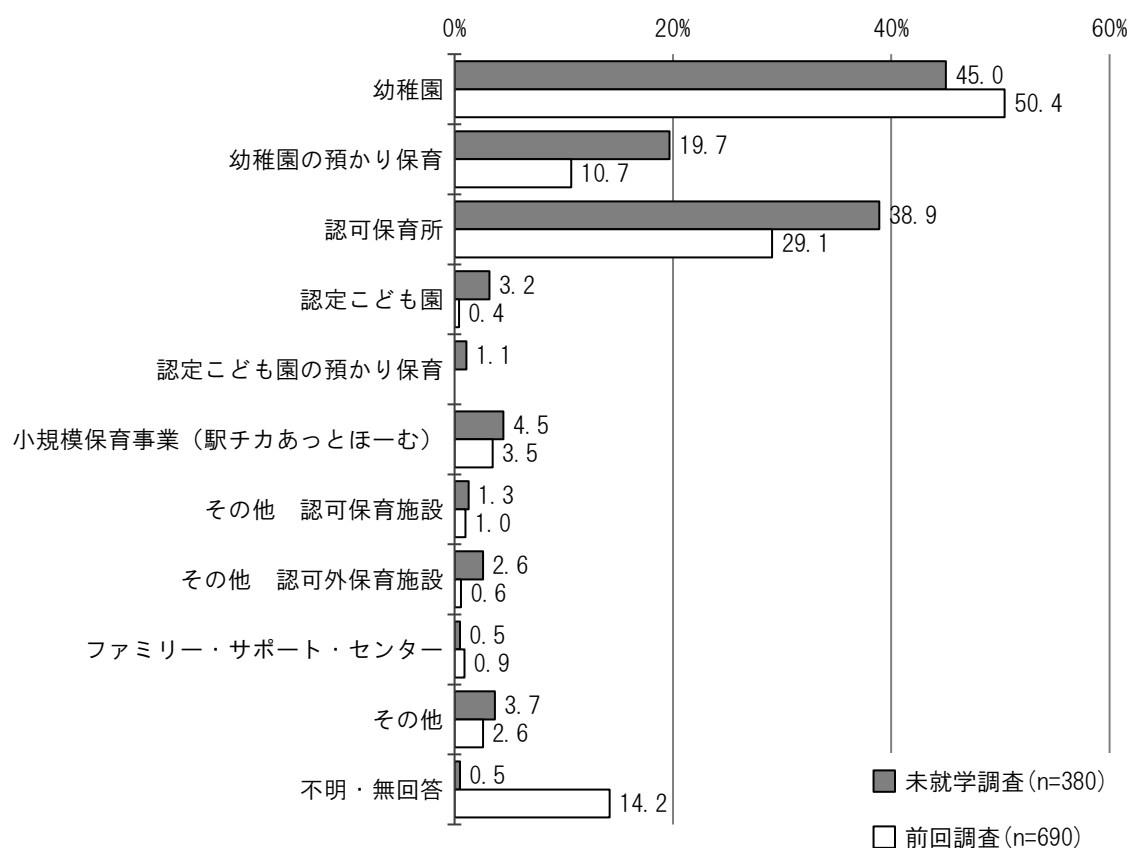


(年代別のグラフについては、右上に掲載)



定期的な事業を利用している方における、利用している事業の種類については、「幼稚園」が 45.0% と最も多く、次いで「認可保育所」が 38.9% となっています。

前回調査と比較すると、「認可保育所」「幼稚園の預かり保育」で 10 ポイント程度増加しています。

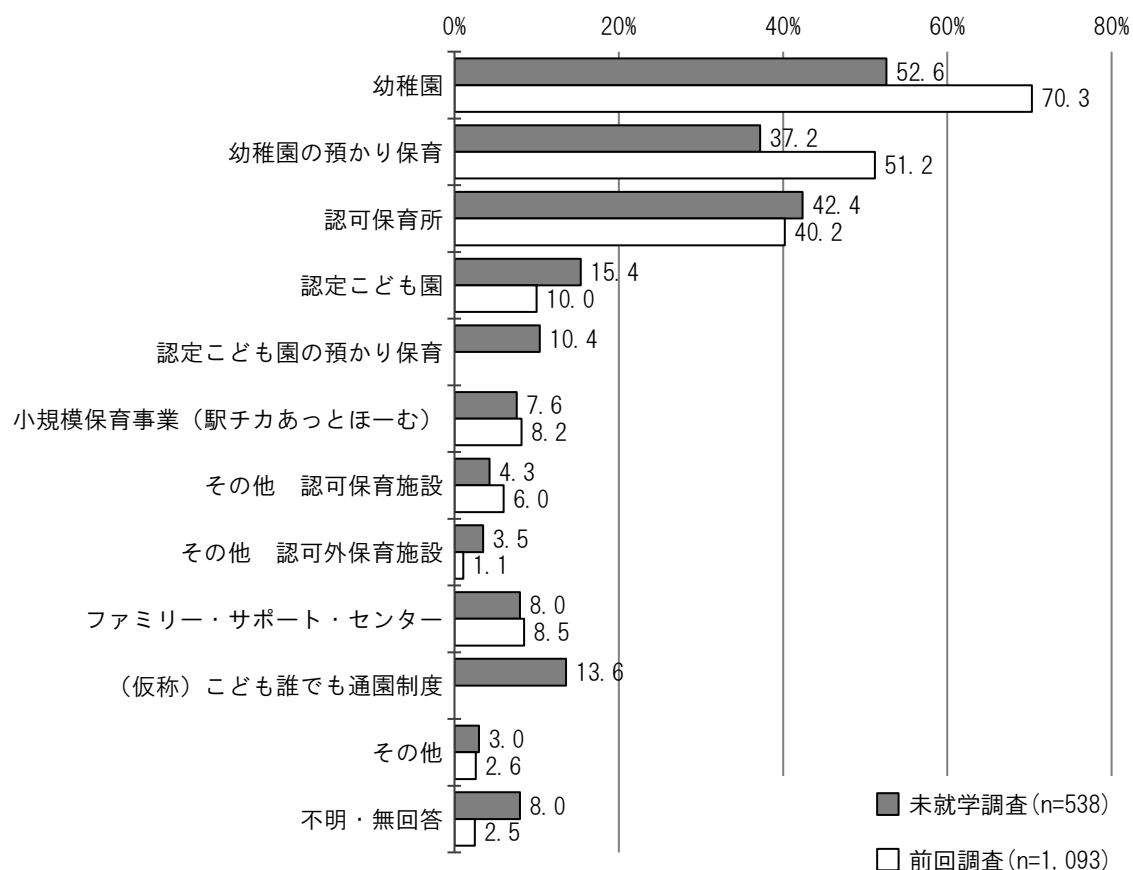


※「認定こども園の預かり保育」は、今回調査で追加した選択肢です。

定期的な事業の利用に関する今後の希望について、「幼稚園」が52.6%と最も多く、次いで「認可保育所」が42.4%となっています。

前回調査と比較すると、「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」で低下がみられる一方、「認定こども園」で5ポイント程度増加しています。

また、今回から新たに設けた選択肢である「認定こども園の預かり保育」「こども誰でも通園制度」はいずれも1割台となっています。



※「認定こども園の預かり保育」「こども誰でも通園制度」は、今回調査で追加した選択肢です。

（３）第3期子ども・子育て支援事業計画量の見込み算出に向けた分析速報値

子ども・子育て支援事業計画の策定にあたっては、世帯構成や就労状況からみた「家庭類型」の割合を算出した上で、各類型における事業の利用意向を踏まえてニーズを推計します。

第3期子ども・子育て支援事業計画の策定にあたっては、実際の利用状況とアンケートから算出されるニーズに乖離がみられることを踏まえつつ、第2期計画策定時の結果と比較して、トレンドを踏まえた量の見込みを算出することが求められています。

これを踏まえて算出した、第3期の見込みにかかる家庭類型及び利用意向の変化について、以下に示します。なお、数値は速報値であり、今後、国の考え方やより詳細な調査分析を踏まえた補正を行い、計画値へと調整します。

「潜在家庭類型」についてみると、「A. ひとり親家庭」「B. フルタイム×フルタイム」「C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）」で増加し、「C'. フルタイム×パートタイム（下限時間未満）」「D. 専業主婦（夫）」で減少しています。

全体として、保育のニーズが高い区分の割合が増加しています。

今後の就労意向を踏まえた「潜在家庭類型」	第2期調査	第3期調査
A. ひとり親家庭	3.6%	10.2%
B. フルタイム×フルタイム	37.3%	41.4%
C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）	10.3%	15.4%
C'. フルタイム×パートタイム（下限時間未満）	15.8%	11.5%
D. 専業主婦（夫）	32.6%	21.0%
E. パートタイム×パートタイム（双方が下限時間以上）	0.1%	0.0%
E'. パートタイム×パートタイム（Eを除く）	0.0%	0.4%
F. 無業×無業	0.2%	0.0%

時間外保育の利用意向率についてみると、「ひとり親家庭」で上昇、「フルタイム×フルタイム」では横ばい、「フルタイム×パートタイム」では減少となっています。

時間外保育 利用意向率（利用意向がある人の割合）	第2期調査	第3期調査
A. ひとり親家庭	3.0%	16.2%
B. フルタイム×フルタイム	15.0%	14.2%
C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）	5.4%	3.7%

ショートステイの利用意向日数についてみると、「ひとり親家庭」で0.6日と、他の区分に比べてやや高くなっています。

ショートステイ 利用意向日数（1人あたりの平均利用意向日数）	第2期調査	第3期調査
A. ひとり親家庭	—	0.6日／人
B. フルタイム×フルタイム	—	0.3日／人
C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）	—	0.3日／人
C' . フルタイム×パートタイム（下限時間未満）	—	0.3日／人
D. 専業主婦（夫）	—	0.3日／人

※ショートステイについては、第2期計画策定時から国の示す算出方法が変更となっています。

地域子育て支援拠点事業の利用意向回数についてみると、いずれの区分でも上昇しています。

地域子育て支援拠点事業 利用意向回数（1人あたりの平均利用意向回数）	第2期調査	第3期調査
A. ひとり親家庭	0.5回／人	3.6回／人
B. フルタイム×フルタイム	1.5回／人	1.8回／人
C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）	1.3回／人	1.6回／人
C' . フルタイム×パートタイム（下限時間未満）	1.1回／人	2.3回／人
D. 専業主婦（夫）	1.4回／人	3.1回／人

幼稚園在園児を対象とした一時預かりの利用意向日数についてみると、2号認定の区分で上昇、1号認定の区分で低下しています。

幼稚園在園児を対象とした一時預かり 利用意向日数（1人あたりの平均利用意向日数）	第2期調査	第3期調査
A. ひとり親家庭（2号認定）	229日／人	243日／人
B. フルタイム×フルタイム（2号認定）	204日／人	242日／人
C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）（2号認定）	223日／人	232日／人
C' . フルタイム×パートタイム（下限時間未満）（1号認定）	18.1日／人	9.5日／人
D. 専業主婦（夫）（1号認定）	21.9日／人	4.5日／人

幼稚園在園児を対象としたもの以外の一時預かりの利用意向日数についてみると、いずれの区分でも上昇しています。

幼稚園在園児を対象としたもの以外の一時預かり 利用意向日数（1人あたりの平均利用意向日数）	第2期調査	第3期調査
A. ひとり親家庭	5.0日／人	7.0日／人
B. フルタイム×フルタイム	5.9日／人	6.4日／人
C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）	7.8日／人	9.2日／人
C' . フルタイム×パートタイム（下限時間未満）	7.7日／人	9.9日／人
D. 専業主婦（夫）	5.0日／人	9.4日／人

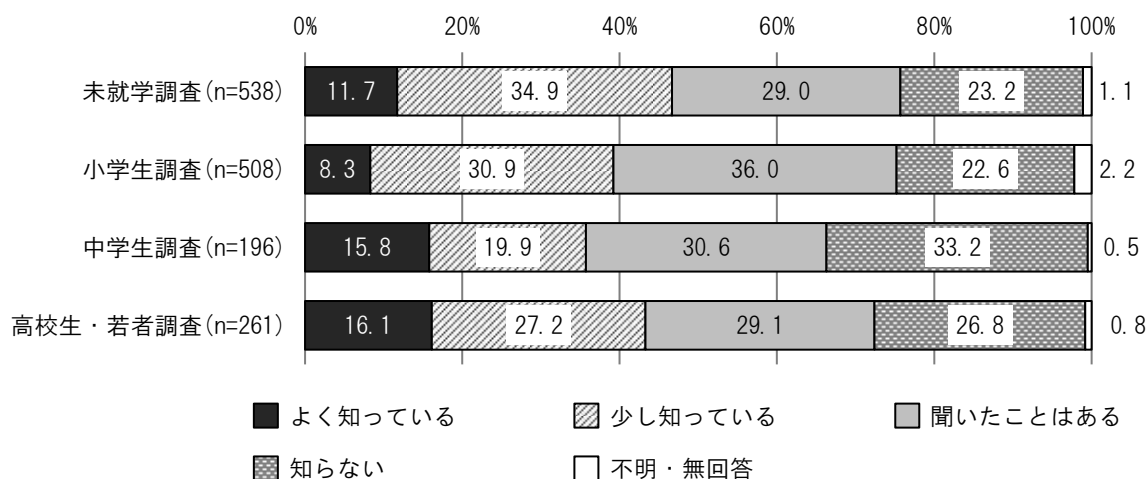
病児保育・病後児保育及びファミリー・サポート・センター（病児・病後児）の利用意向日数についてみると、いずれの区分でも上昇しています。

病児保育・病後児保育及びファミリー・サポート・センター（病 児・病後児）利用意向日数（1人あたりの平均利用意向日数）	第2期調査	第3期調査
A. ひとり親家庭	0.9日／人	2.9日／人
B. フルタイム×フルタイム	2.1日／人	3.0日／人
C. フルタイム×パートタイム（下限時間以上）	0.8日／人	1.4日／人

2 「こどもの権利」・意見表明に関する分析

(1)「こどもの権利」の認知度

「こどもの権利」について、よく知っている・少し知っているの合計は、〈未就学調査〉で 46.6%、〈小学生調査〉で 39.2%、〈中学生調査〉で 35.7%、〈高校生・若者調査〉で 43.3%となっています。



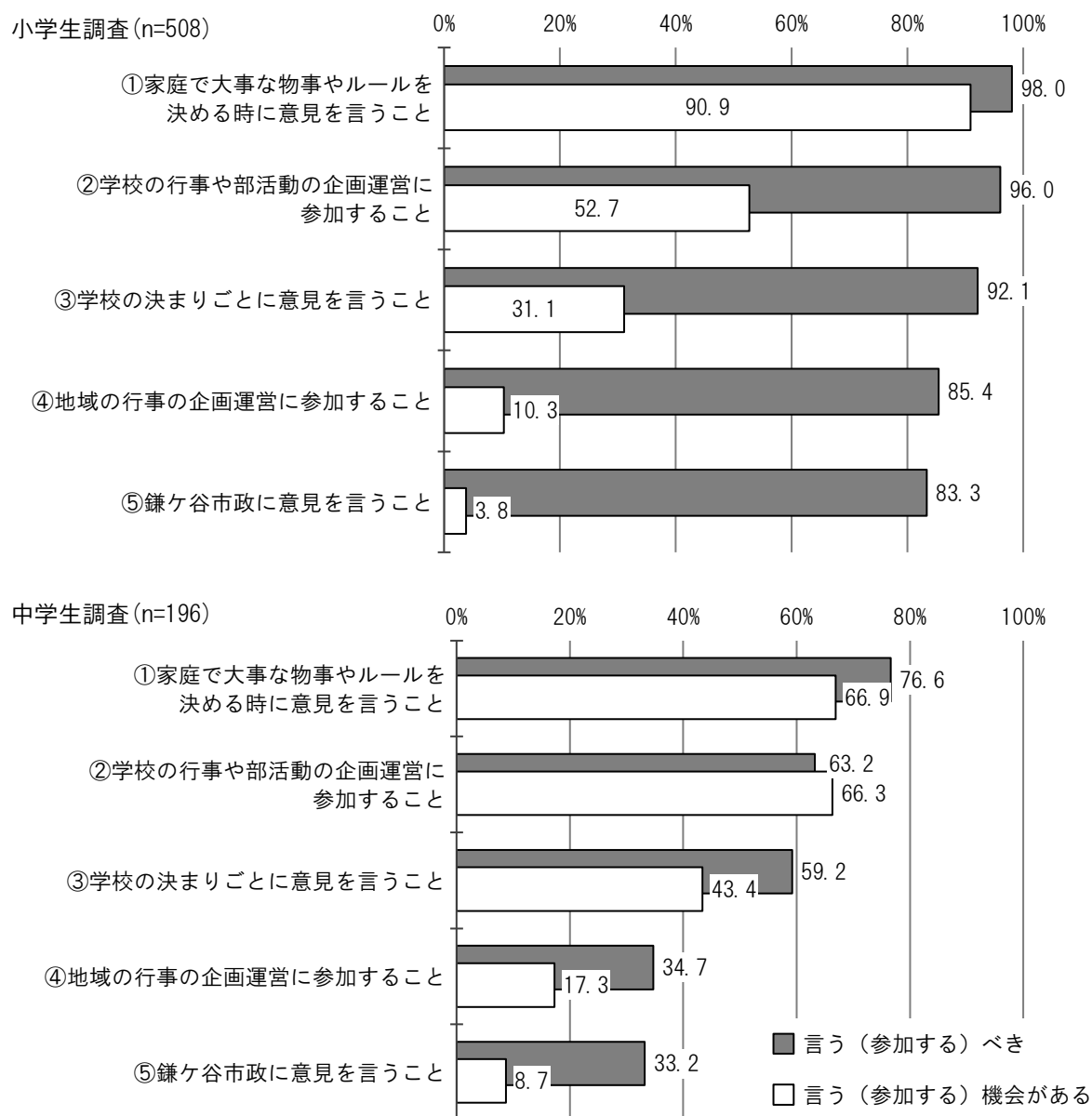
(2) 守られていないと思う権利について

守られていないと思う権利について、「こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること」「教育を受ける権利」「体やこころを休めることができる権利」が中学生調査で2割台となっています。

項目	未就学調査 (n=538)	小学生調査 (n=508)	中学生調査 (n=196)
どんな理由でも差別されない権利	13.9%	14.0%	14.8%
大人はそのこどもにとって最も良いことを優先すること	13.8%	13.4%	18.4%
命が守られ、必要な支援を受けながら成長できる権利	9.9%	9.4%	11.2%
こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること	13.2%	19.5%	23.5%
あらゆる暴力から守られる権利	13.4%	12.0%	14.3%
教育を受ける権利	8.7%	9.3%	21.9%
体やこころを休めることができる権利	11.5%	13.0%	21.9%
遊んだり、文化芸術活動に参加したりできる権利	8.6%	11.2%	8.7%

(3) 意見表明の現状と意向について

中学生調査の<②学校の行事や部活動の企画運営に参加すること>を除き、「言う（参加する）べき」が「言う（参加する）機会がある」を上回っています。特に、<④地域の行事の企画運営に参加すること> <⑤鎌ケ谷市政に意見を言うこと>では差が大きく、意見表明の機会の確保が求められます。



意見表明の手法としては、中学生調査で「通っている学校を通じて意見を伝える」「市が立ち上げたSNSの専用アカウントに意見を伝える」「市が立ち上げた専用のホームページやウェブサイトで、意見交換や交流をする」について、<鎌ケ谷市政に意見を言う意向がある方>で3割程度からそれ以上の参加ニーズがみられ、学校やインターネットを通じた参加しやすい機会の提供が求められています。

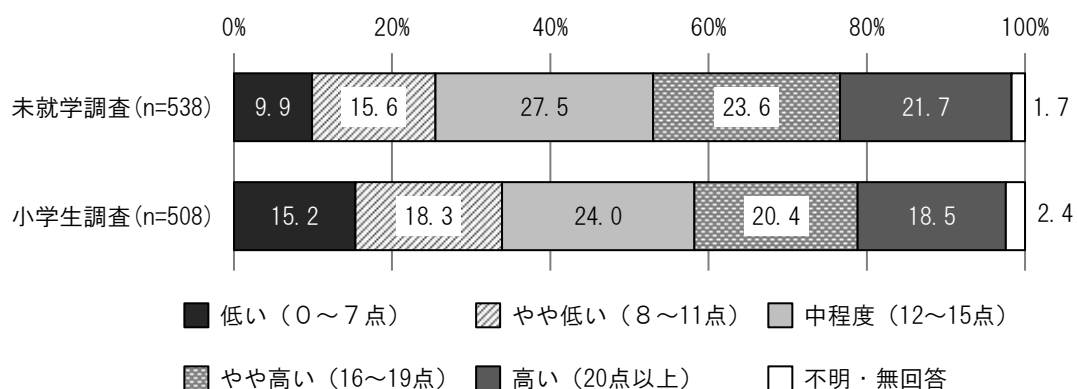
参加しやすい方法（回答が多い選択肢）	中学生調査 (n=196)	意向がある方 (n=65)
通っている学校を通じて意見を伝える	36.2%	52.3%
市が立ち上げたSNSの専用アカウントに～	26.0%	40.0%
市が立ち上げた専用のホームページや～	14.3%	29.2%

3 子育ての負担度合いに関する分析

(1) 子育ての負担度合いの状況

未就学調査では「やや高い」が23.6%、「高い」が21.7%となっています。

また、小学生調査では「やや高い」が20.4%、「高い」が18.5%となっています。



※「子育ての負担度合い」については、

①子どもを育てるのは楽しい、②子どもの顔をみると気持ちが安らぐ、③子どもがいると家庭が明るくなる、の各項目について、「全く感じない」を3点、「あまり感じない」を2点、「時々感じる」を1点、「よく感じる」を0点として、

④子どものことで、どうしたらよいかわからなくなる、⑤子どもの世話が嫌になる、⑥子どもをたたきたくなることや、あたりたくなることがある、⑦自分の時間がとれず、自由がない、⑧親の責任として、子育てに不安や負担を感じる、⑨子育てに追われ、社会から孤立するように感じる、⑩子育てによる身体の疲れを感じる、⑪子育てに関する不安や悩みを気軽に相談できる相手が身近にいない、⑫仕事や地域活動などの社会活動と子育ての両立が難しい、⑬自分の子どもと他人の子どもを比べてしまうの各項目について、「よく感じる」を3点、「時々感じる」を2点、「あまり感じない」を1点、「全く感じない」を0点として、39点満点の合計を算出しています。

(2) 子育ての負担度合いと地域での孤立

未就学調査・小学生調査ともに、「困ったときに子どもを預けられる仲間がいる」や「まめに連絡をくれる仲間がいる」等は子育ての負担度合いが低い方で多く、「特にいない」は子育ての負担度合いが高い方で多くなっています。

%	子育ての負担度合い	困ったときに子どもを預けられる仲間がいる	子どもと一緒に出かけられる仲間がいる	子育てについて相談し合える仲間がいる	まめに連絡をくれる仲間がいる	特にいない	不明・無回答
未就学調査	低い(n=53)	30.2	56.6	77.4	52.8	17.0	-
	やや低い(n=84)	31.0	58.3	67.9	42.9	22.6	-
	中程度(n=148)	23.6	51.4	62.8	33.8	25.0	2.7
	やや高い(n=127)	18.9	45.7	58.3	30.7	33.9	0.8
	高い(n=117)	11.1	40.2	49.6	27.4	40.2	0.9
小学生調査	低い(n=77)	45.5	62.3	76.6	48.1	10.4	-
	やや低い(n=93)	31.2	62.4	73.1	35.5	16.1	1.1
	中程度(n=122)	34.4	56.6	63.9	27.0	23.8	-
	やや高い(n=110)	19.1	39.1	59.1	16.4	25.5	0.9
	高い(n=94)	19.1	34.0	50.0	17.0	37.2	3.2

(3) 子育ての負担度合いが高い方における支援ニーズについて

鎌ケ谷市の子育て支援環境を良くしていくために力を入れていく必要があると思う取り組みについてみると、未就学調査・小学生調査ともに、負担度合いが高い方においても全体と近い傾向となっています。

その中で、〈未就学調査〉においては「障がい児への支援」「経済的な子育て支援」が全体より高いで5ポイント程度高くなっており、複合的課題への対応が求められます。

%		子どもの権利の尊重	子どもの生きる力、心の育成	子育てサービスの情報提供	子育て相談	子育てと仕事の両立支援	障がい児への支援	児童虐待への対応
子育ての負担度合い	未就学調査(n=538)	8.7	18.0	25.5	7.1	60.0	8.4	9.1
	低い(n=53)	5.7	13.2	18.9	3.8	47.2	3.8	13.2
	やや低い(n=84)	6.0	16.7	25.0	4.8	61.9	9.5	6.0
	中程度(n=148)	12.8	18.9	27.0	7.4	61.5	6.1	12.2
	やや高い(n=127)	7.9	16.5	27.6	7.1	63.0	7.1	4.7
	高い(n=117)	8.5	23.1	24.8	7.7	62.4	14.5	10.3
%		子どもと親の健康の確保	子どもの教育環境の整備	子育てを支援する生活環境の整備	地域で行う子育て支援	経済的な子育て支援	その他	不明・無回答
子育ての負担度合い	未就学調査(n=538)	19.3	36.1	32.3	12.8	60.8	6.7	2.0
	低い(n=53)	17.0	30.2	32.1	11.3	69.8	7.5	3.8
	やや低い(n=84)	17.9	40.5	26.2	15.5	57.1	7.1	1.2
	中程度(n=148)	20.9	35.8	35.1	13.5	56.8	4.7	-
	やや高い(n=127)	20.5	43.3	36.2	8.7	62.2	6.3	1.6
	高い(n=117)	19.7	30.8	30.8	15.4	65.0	9.4	1.7

%		子どもの権利の尊重	子どもの生きる力、心の育成	子育てサービスの情報提供	子育て相談	子育てと仕事の両立支援	障がい児への支援	児童虐待への対応
子育ての負担度合い	小学生調査(n=508)	8.7	21.7	9.8	5.9	34.6	7.3	5.3
	低い(n=77)	6.5	22.1	10.4	6.5	24.7	5.2	6.5
	やや低い(n=93)	5.4	19.4	8.6	2.2	35.5	6.5	5.4
	中程度(n=122)	8.2	19.7	9.0	7.4	36.1	7.4	7.4
	やや高い(n=110)	11.8	23.6	10.9	6.4	35.5	7.3	5.5
	高い(n=94)	9.6	23.4	11.7	7.4	43.6	10.6	2.1
%		子どもと親の健康の確保	子どもの教育環境の整備	子育てを支援する生活環境の整備	地域で行う子育て支援	経済的な子育て支援	その他	不明・無回答
子育ての負担度合い	小学生調査(n=508)	14.4	40.7	33.3	5.7	59.4	4.3	3.3
	低い(n=77)	11.7	37.7	24.7	5.2	64.9	3.9	3.9
	やや低い(n=93)	11.8	52.7	36.6	3.2	57.0	2.2	1.1
	中程度(n=122)	16.4	41.8	32.8	9.8	58.2	4.1	1.6
	やや高い(n=110)	22.7	34.5	34.5	5.5	64.5	3.6	1.8
	高い(n=94)	7.4	40.4	37.2	3.2	57.4	8.5	2.1

4 こどもの貧困対策に関する分析

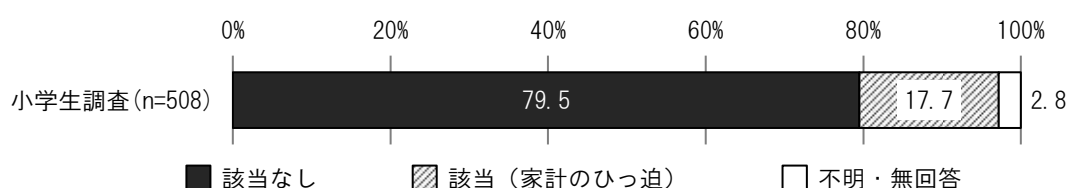
(1) 経済的に課題を抱えていると考えられる層の抽出について

小学生保護者調査、中学生調査の2種類の調査の中で、「千葉県子どもの生活実態調査」を参考として、経済的に課題を抱えていると考えられる層を抽出するための設問を設けています。

- 小学生保護者調査においては、「家計のひっ迫」「体験や所有物の欠如」の2つの要素から、抽出を行っています。
- 中学生調査においては「体験や所有物の欠如」の要素から、抽出を行っています。

●家計のひっ迫について

小学生調査において、家計のひっ迫に該当する割合は、17.7%となっています。

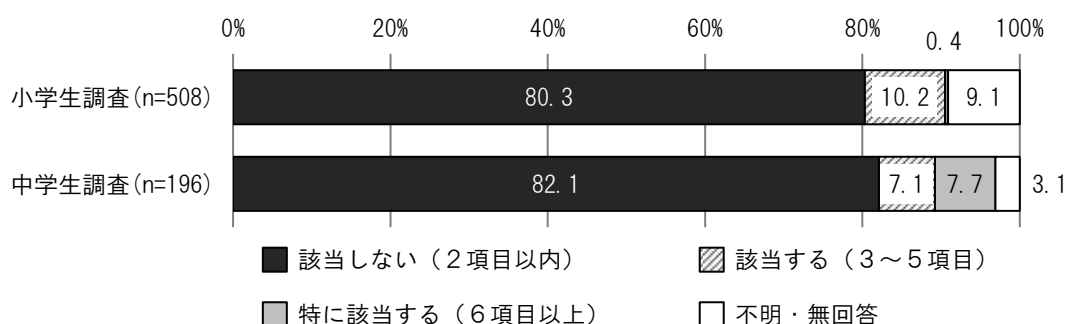


※「家計のひっ迫」については、①電話料金、②電気料金、③ガス料金、④水道料金、⑤家賃のいずれかを経済的な理由で過去1年間のうちに滞納している又は、家族が必要とする⑥食料、⑦衣類のいずれかについてお金が足りなくて買えないことがあった方を該当として判定しています。

●体験や所有物の欠如について

体験や所有物の欠如について、小学生保護者調査において、「該当する(3～5項目)」は10.2%、「特に該当する(6項目以上)」は0.4%となっています。

また、中学生調査においては、「該当する(3～5項目)」は7.1%、「特に該当する(6項目以上)」は7.7%となっています。



※「体験や所有物の欠如」については、

①海水浴、②博物館・科学館・美術館、③キャンプやバーベキュー、④スポーツ観戦や劇場、⑤遊園地やテーマパーク、⑥毎月お小遣いを渡す、⑦毎年新しい洋服・靴を買う、⑧習い事(音楽、スポーツ、習字等)、⑨学習塾(家庭教師、通信教育を含む)、⑩お誕生日のお祝いをする、⑪1年に1回くらい家族旅行に行く、⑫クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる、⑬年齢にあった本、⑭子ども用のスポーツ用品・おもちゃ、⑮自宅で宿題(勉強)をすることができる場所のうち、経済的な理由でしていない・無いものとして当てはまる項目数をもとに判定しています。

(2) 支援のニーズについて

(小学生調査)

家計のひっ迫・体験の欠如がみられる方における孤立の状況を見ると、〈家計のひっ迫〉では全体と傾向の差はみられません。

一方で、〈体験の欠如〉においては「困ったときに子どもを預けられる仲間がいる」「子どもと一緒に出かけられる仲間がいる」「まめに連絡をくれる仲間がいる」が少なく、「特にいない」が多くなっています。

体験の欠如に該当する世帯においては、孤立があらわてみられると考えられます。

%	困ったときに子どもを預けられる仲間がいる	子どもと一緒に出かけられる仲間がいる	子育てについて相談し合える仲間がいる	まめに連絡をくれる仲間がいる	特にいない	不明・無回答
小学生調査(n=508)	28.7	50.0	63.8	27.6	23.4	1.2
該当(家計のひっ迫)(n=90)	28.9	60.0	57.8	26.7	23.3	1.1
該当(体験の欠如)(n=54)	18.5	27.8	55.6	14.8	37.0	-

家計のひっ迫・体験の欠如がみられる方における心配事や悩みの状況を見ると、〈家計のひっ迫〉では「子どもの進学や受験が心配」「子どもの教育費に負担がある」が全体と比較して多くなっています。

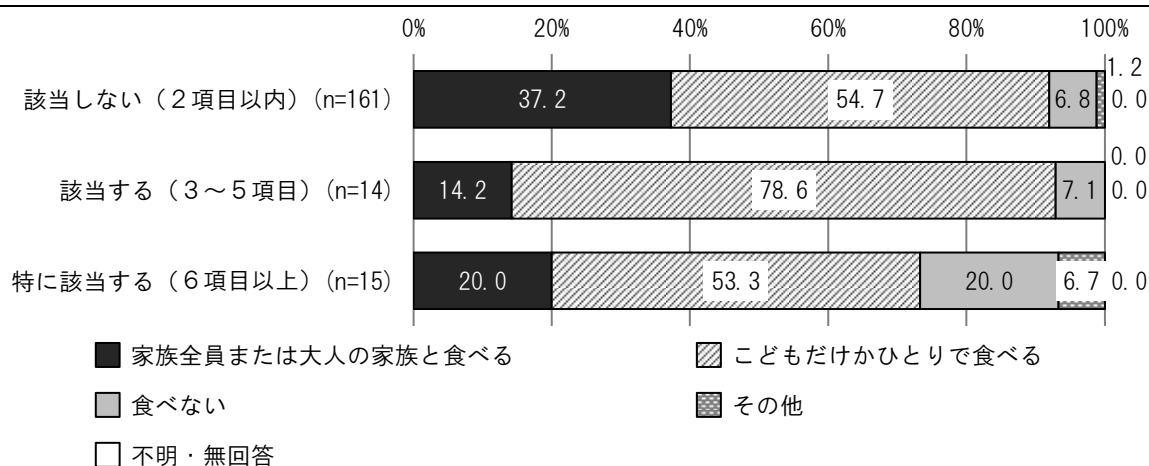
一方で、〈体験の欠如〉では「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」「子どもの身体の発育や病気が心配」が全体と比較して多くなっています。

%	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子育てが楽しいと思えない	子育てに配偶者の協力が得られない	子育て仲間がいない	子どもの基本的な生活習慣(あいさつ、整理整頓など)が不安	子どもの勉強習慣が不安	子どもの進学や受験が心配
小学生調査(n=508)	24.8	4.5	7.9	3.9	27.2	40.4	42.5
該当(家計のひっ迫)(n=90)	23.3	5.6	10.0	3.3	26.7	44.4	55.6
該当(体験の欠如)(n=54)	42.6	5.6	7.4	7.4	35.2	48.1	46.3

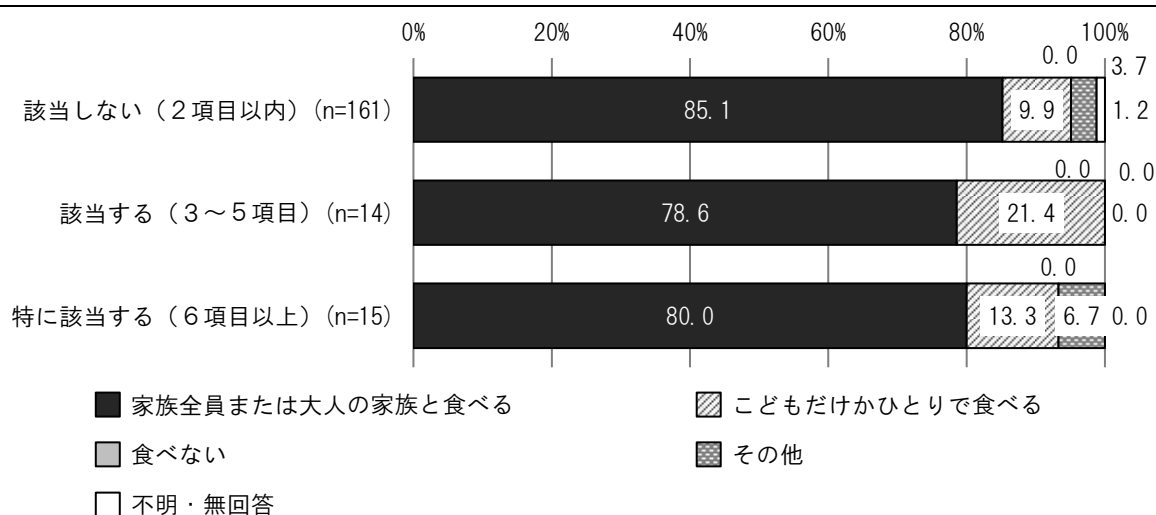
%	子どもの友人関係が心配	子どもの身体の発育や病気が心配	子どもが非行や問題行動をする	子どもの教育費に不安がある	その他	特に心配や悩みはない	不明・無回答
小学生調査(n=508)	28.3	17.7	3.7	40.6	3.0	17.1	1.8
該当(家計のひっ迫)(n=90)	30.0	24.4	6.7	66.7	2.2	10.0	3.3
該当(体験の欠如)(n=54)	33.3	29.6	7.4	40.7	-	16.7	1.9

(中学生調査)

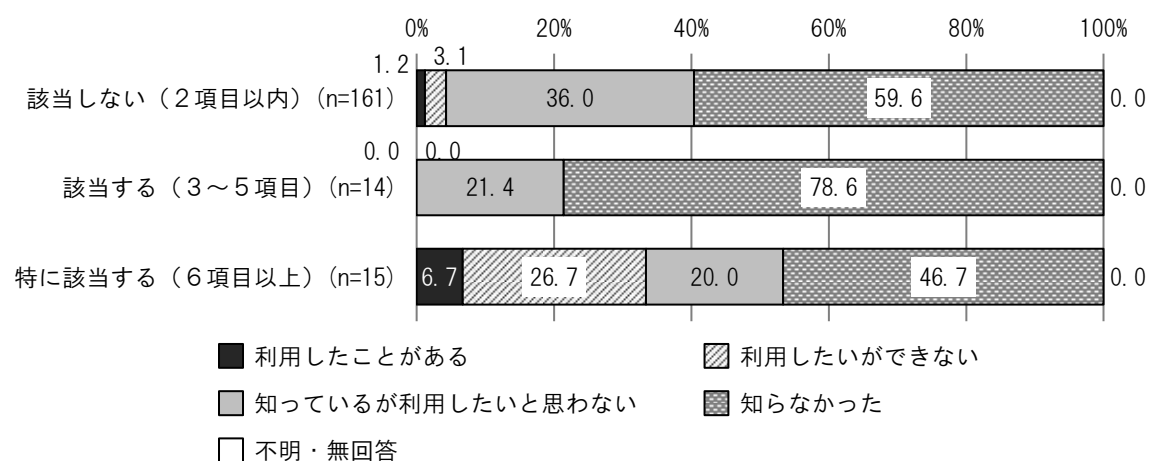
朝ごはんについて、体験の欠如に〈該当する〉では「こどもだけかひとりで食べる」、〈特に該当する〉では「食べない」が多くなっています。



朝ごはんについては差がみられましたが、晩ごはんについては体験の欠如による大きな差はみられません。



こども食堂の利用状況・利用意向についてみると、〈特に該当する (6項目以上)〉で、「利用したいができない」が26.7%と、ニーズが高くなっています。

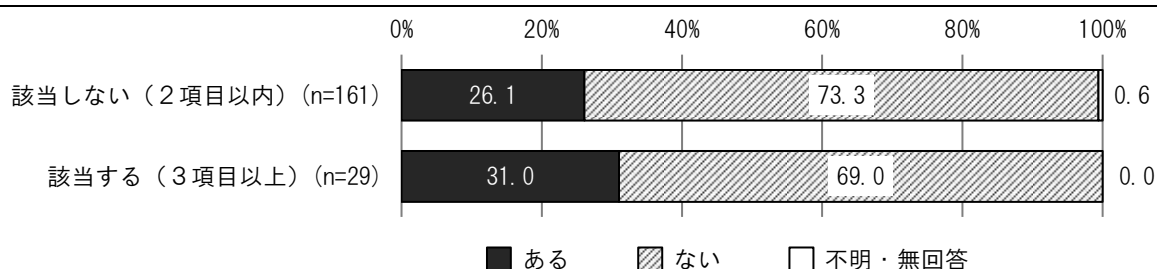


抱えている悩みについてみると、体験の欠如に<該当する>で「勉強や進学のこと」「将来のこと」が多く、「特に悩みや不安はない」が少なくなっています。

%	友人関係のこと	勉強や進学のこと	学校生活のこと	自分の性格のこと	自分の見た目のこと	将来のこと	特に悩みや不安はない
中学生調査(n=196)	23.0	65.3	20.4	26.0	20.9	32.1	23.5
該当しない(2項目以内)(n=161)	23.0	64.0	21.1	27.3	19.9	29.8	26.1
該当する(3～5項目)(n=14)	28.6	71.4	28.6	28.6	35.7	35.7	14.3
特に該当する(6項目以上)(n=15)	20.0	73.3	13.3	13.3	20.0	60.0	13.3

※回答の多い選択肢を抜粋

悩んでいることや不安に感じていることについて、だれかに相談できれば良かった、または、もっと他の人に相談できれば良かったと思ったことがあるかについてみると、体験の欠如に<該当する>、全体よりも「ある」やや高く、31.0%となっています。



家庭で我慢することが多いかについて、体験の欠如に<該当する>では「ややあてはまる」が、<特に該当する>では「あてはまる」が多くなっています。

%	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	不明・無回答
中学生調査(n=196)	15.8	23.5	33.7	26.5	0.5
該当しない(2項目以内)(n=161)	13.7	21.1	35.4	29.8	-
該当する(3～5項目)(n=14)	14.3	64.3	14.3	7.1	-
特に該当する(6項目以上)(n=15)	40.0	20.0	26.7	13.3	-

守られていないと思う「こどもの権利」について、体験の欠如に<該当する><特に該当する>では、「大人はそのこどもにとって最も良いことを優先すること」「こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること」が多く、「特にない」が少なくなっています。

%	どんな理由でも差別されない権利	大人はそのこどもにとって最も良いことを優先すること	命が守られ、必要な支援を受けながら成長できる権利	こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること	あらゆる暴力から守られる権利	教育を受ける権利	体やこころを休めることができる権利
中学生調査(n=196)	14.8	18.4	11.2	23.5	14.3	10.2	21.9
該当しない(2項目以内)(n=161)	14.3	11.8	9.9	20.5	12.4	8.1	19.3
該当する(3～5項目)(n=14)	21.4	64.3	7.1	42.9	7.1	14.3	21.4
特に該当する(6項目以上)(n=15)	20.0	40.0	26.7	40.0	33.3	20.0	53.3
%	遊んだり、文化芸術活動に参加したりできる権利	特にない					
中学生調査(n=196)	8.7	53.1					
該当しない(2項目以内)(n=161)	6.8	59.6					
該当する(3～5項目)(n=14)	7.1	28.6					
特に該当する(6項目以上)(n=15)	26.7	26.7					

(不明・無回答は省略)

(3) 教育や学校における状況、将来の実現について

(小学生調査)

〈家計のひっ迫〉〈体験の欠如〉ともに、「何事にもがんばって取り組んでいる」「嫌なことがあっても気持ちを切り替えることができる」「信頼できる」「将来が楽しみである」が少なくなっています。

特に、「信頼できる」については、〈体験の欠如〉で全体と比較して10ポイント以上低くなっています。

%	何事にもがんばって取り組んでいる	嫌なことがあっても気持ちを切り替えることができる	信頼できる	将来が楽しみである
小学生調査(n=508)	91.7	80.7	92.7	93.9
該当（家計のひっ迫）(n=90)	90.0	76.6	91.1	90.0
該当（体験の欠如）(n=54)	83.3	74.1	81.4	85.2

学校の授業を理解できていると思うかについてみると、〈体験の欠如〉で「あまり理解できていないと思う」が多くなっています。

%	よく理解できていると思う	ある程度はついていけていると思う	あまり理解できていないと思う	全く理解できていないと思う	状況がわからない	不明・無回答
小学生調査(n=508)	28.1	59.3	9.8	0.6	0.8	1.4
該当（家計のひっ迫）(n=90)	23.3	62.2	12.2	1.1	-	1.1
該当（体験の欠如）(n=54)	20.4	50.0	25.9	1.9	-	1.9

将来について一緒に考えたり、話したりすることがあるかについてみると、〈家計のひっ迫〉〈体験の欠如〉で「よくする」が少なく、「全くしない」が多くなっています。

%	よくする	たまにする	あまりしない	全くしない	不明・無回答
小学生調査(n=508)	24.6	58.9	13.6	2.2	0.8
該当（家計のひっ迫）(n=90)	21.1	60.0	12.2	6.7	-
該当（体験の欠如）(n=54)	14.8	61.1	13.0	11.1	-

(中学生調査)

体験の欠如に<該当する><特に該当する>で「学校の勉強についていけなかった」「学校で我慢することが多かった」が多くなっています。

%	学校の勉強についていけなかった	学校で我慢することが多かった
中学生調査(n=196)	43.9	48.0
該当しない(2項目以内)(n=161)	41.0	44.1
該当する(3～5項目)(n=14)	57.1	71.4
特に該当する(6項目以上)(n=15)	60.0	60.0

将来を考える時に、見本にしたり参考にしたりできる人についてみると、体験の欠如に<該当する><特に該当する>で「親」「学校の先生」が低く、「有名人やスポーツ選手、歴史上の人物」「そのような人はいない」が多くなっています。

%	親	兄・姉	学校の先生	塾や習い事の先生	有名人やスポーツ選手、歴史上の人物	そのような人はいない
中学生調査(n=196)	52.6	21.9	17.9	15.3	41.3	13.3
該当しない(2項目以内)(n=161)	55.3	23.0	18.6	16.1	41.6	11.8
該当する(3～5項目)(n=14)	50.0	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3
特に該当する(6項目以上)(n=15)	40.0	20.0	6.7	13.3	53.3	20.0

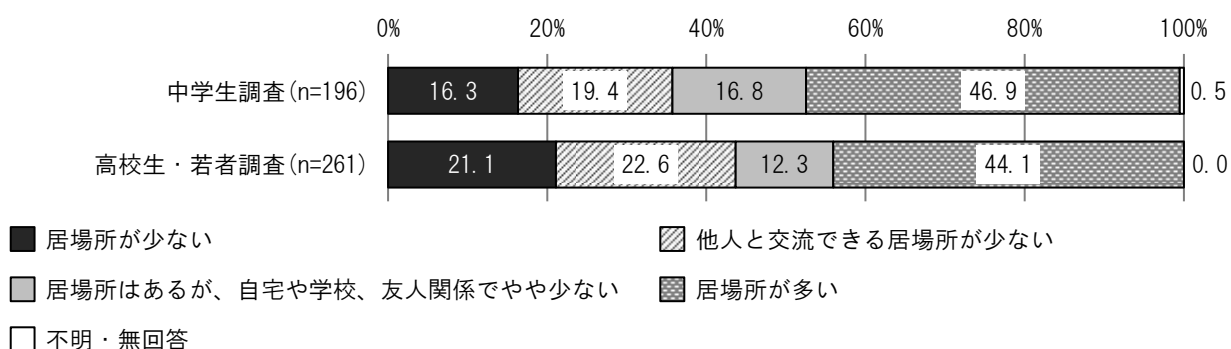
5 若者の居場所に関する分析

中学生調査、高校生・若者調査の2種類の調査の中で、居場所だと感じる場所や状況の数や属性による分類をもとに、居場所の有無や状況がどのような影響を及ぼすのかを分析しています。

(1) 居場所の状況に関する分析について

居場所の状況について、中学生調査において、「居場所が少ない」は16.3%、「他人と交流できる居場所が少ない」は19.4%となっています。

また、高校生・若者調査においては、「居場所が少ない」は21.1%、「他人と交流できる居場所が少ない」は22.6%となっています。



※「居場所」については、次のことをしているときにその場所を居場所だと思うかに関する、

- ① **自分の部屋**にひとりできて、勉強をしたり本を読んだり動画をみたり、好きに過ごしているとき、
- ② **家族のあつまる部屋**にいて、ご飯を食べたり家族と話したりしているとき、
- ③ **友達の家**に遊びに行っているとき、
- ④ **親せきの家**を訪れているとき、
- ⑤ **学校の教室**で、休み時間を過ごしているとき、
- ⑥ **職場**で仕事をしているときや、同僚と会話をしているとき（中学生調査では設定していません）、
- ⑦ **部活動やクラブ活動**などをしているとき、または、**趣味のサークル・コミュニティ**などに参加しているとき、
- ⑧ ゲームセンターなどの**娯楽施設**で遊んでいるとき、
- ⑨ ひとりや友達と一緒にカフェなどの**飲食店**にいるとき、
- ⑩ インターネット上で、**テキストやチャット**のやりとりをしているとき、
- ⑪ インターネットを使って音声のやりとりをしているとき（**通話・ゲーム**など）、
- ⑫ インターネットを使って、**VR上の空間**で誰かと交流しているとき

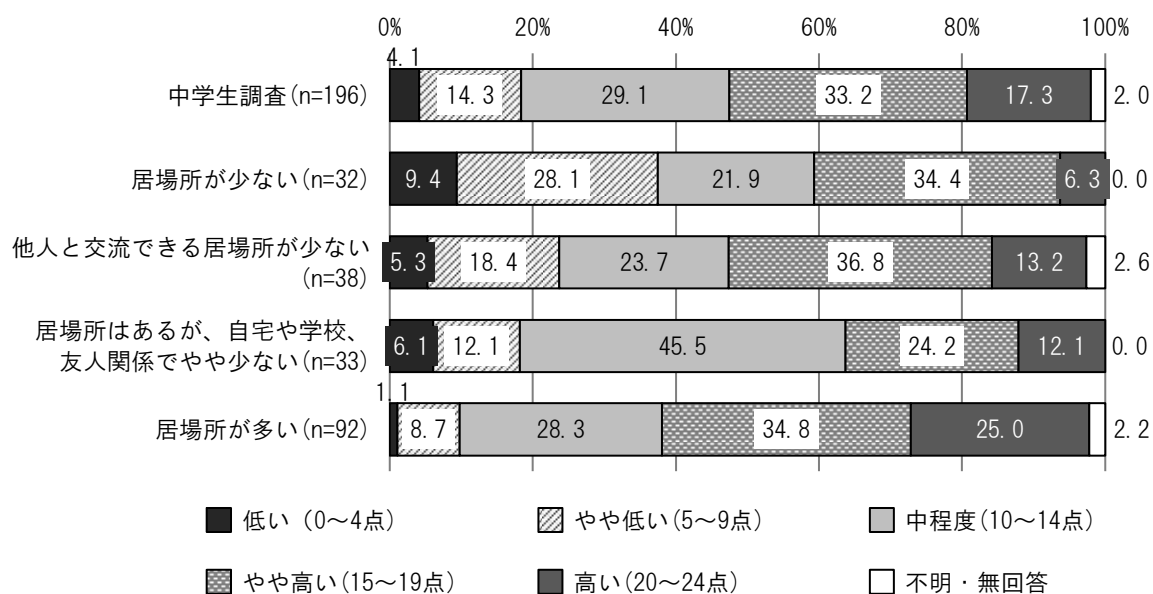
の12項目のうち該当する項目の状況及び、付問「⑧・⑨を居場所だと感じるときは、ひとりである時か、友達という時か、どちらが多いか」の結果をもとに、以下の4区分へと分類しています。

A 居場所が少ない	「①」～「⑨」、「⑪」、「⑫」のうち4つ以下
B 他人と交流できる居場所が少ない	「②」～「⑨」、「⑫」のうち、4つ以下（Aを除く） ※「⑧」、「⑨」で「ひとりであることの方が多いい」場合は数に加えない
C 居場所はあるが、自宅や学校、友人関係でやや少ない	「①」～「③」、「⑤」～「⑦」のうち、4つ以下（A・Bを除く）
D 自宅や学校、友人関係も含めて居場所が多い	「①」～「③」、「⑤」～「⑦」のうち、5つ以上（A・Bを除く）

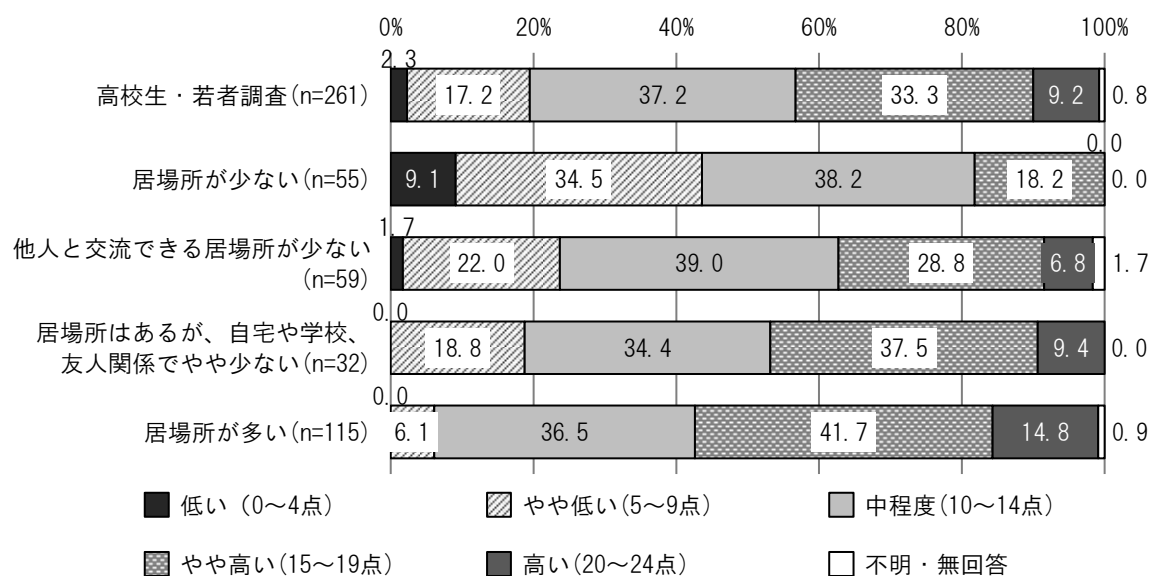
(2) 自己肯定感について

中学生調査、高校生・若者調査ともに、居場所が少ない区分ほど自己肯定感が低く、居場所が多い区分ほど自己肯定感が高い傾向がみられます。

(中学生調査)

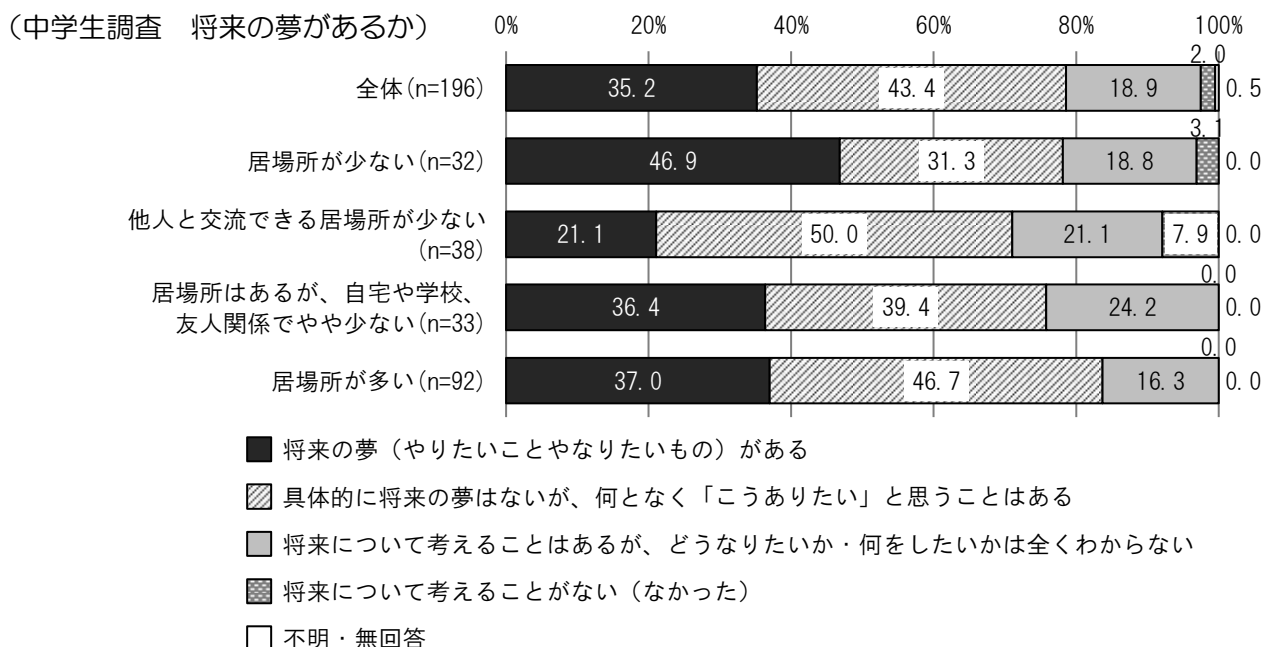


(高校生・若者調査)

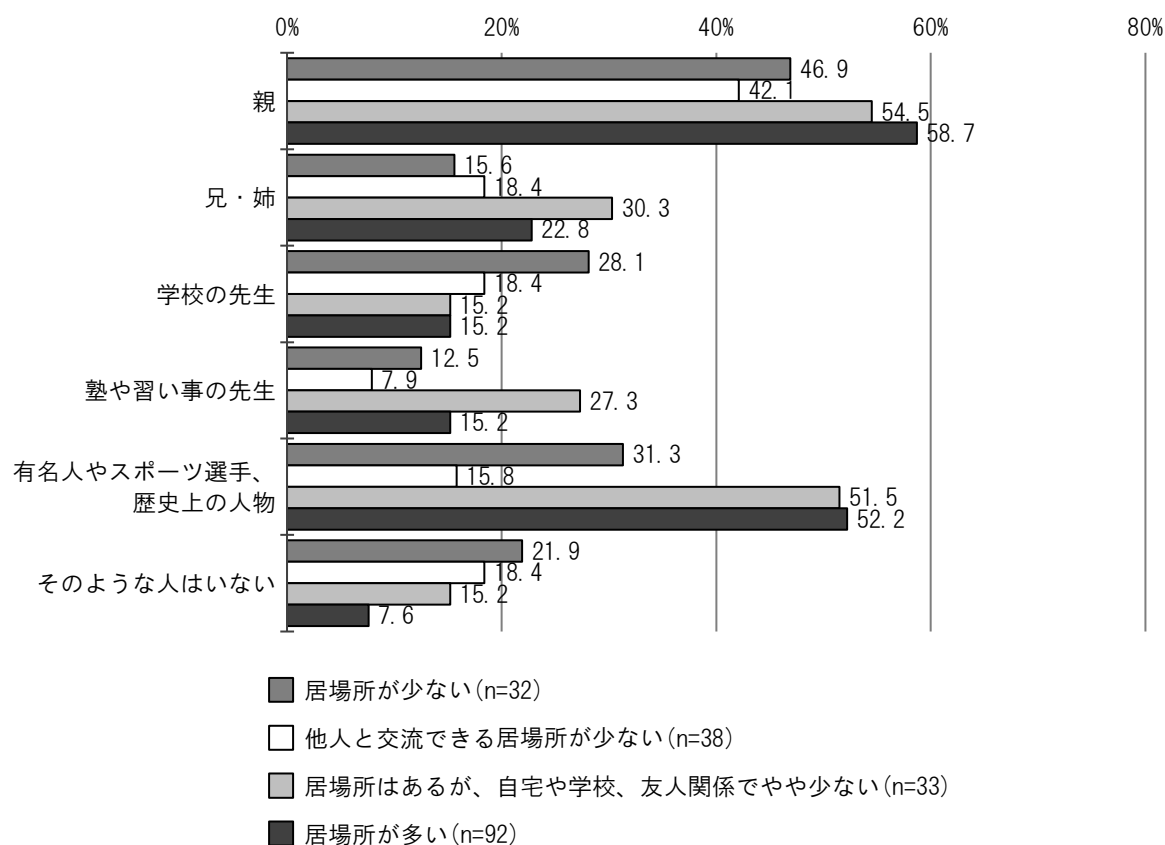


(3) 将来の実現について

中学生調査において、将来の夢があるかについて居場所の数別にみると、大きな傾向の差はみられません。一方で、将来の夢を実現するために参考となる大人や先輩についてみると、居場所が少ないほど「そのような人はいない」が多くなっています。



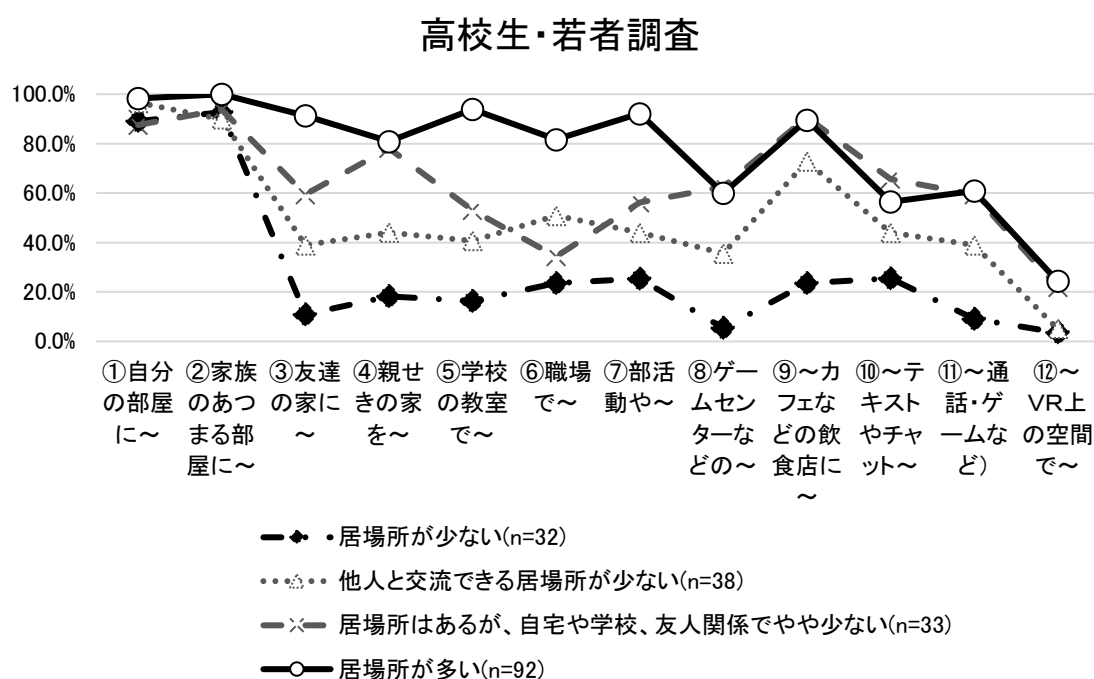
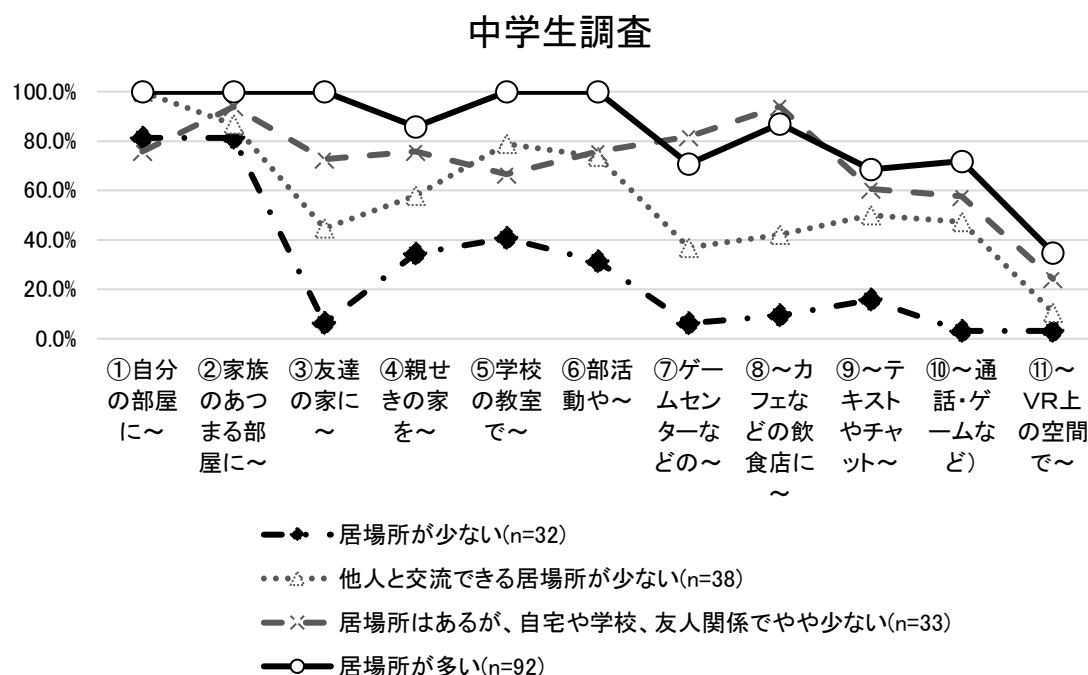
(中学生調査 将来の夢を実現するために参考となる大人や先輩について)



(4) 居場所の数別にみた具体的な居場所の種類について

居場所の数別に、どのような場所が居場所だと思うかについてみると、〈居場所が少ない〉と〈居場所が多い〉の差が大きくなっているのは、中学生調査では③友達の家、⑥部活動、⑧飲食店、⑩通話となっています。

また、高校生・若者調査では③友達の家、⑤教室、⑦部活動、⑨飲食店となっています。

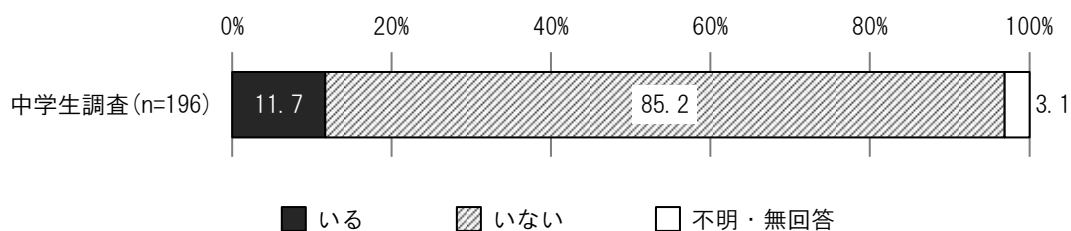


6 ヤングケアラーに関する分析

中学生調査において、ケアの有無や悩みの状況、支援に対するニーズ等について分析しています。

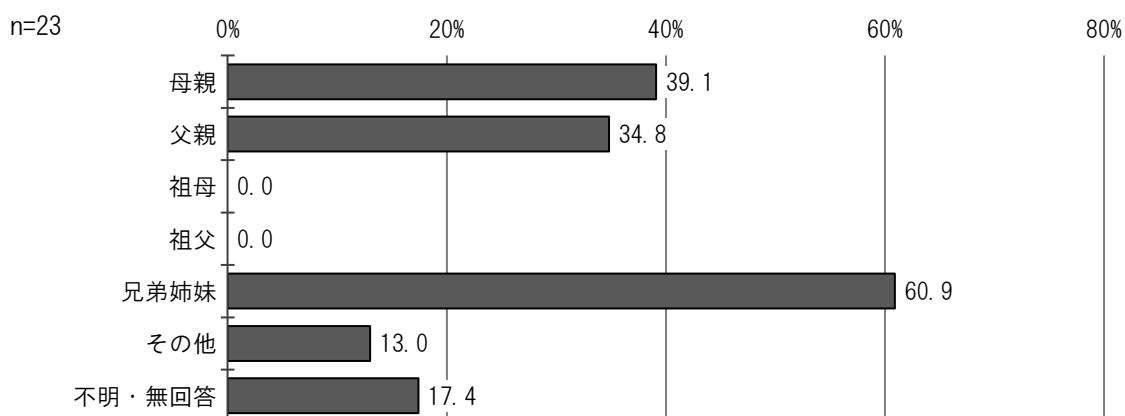
(1) ヤングケアラーの状況について

家族の中に、あなたがお世話（普通大人が行うような家事や家族のお世話のこと）をしている人はいるかについてみると、「いる」が11.7%となっています。

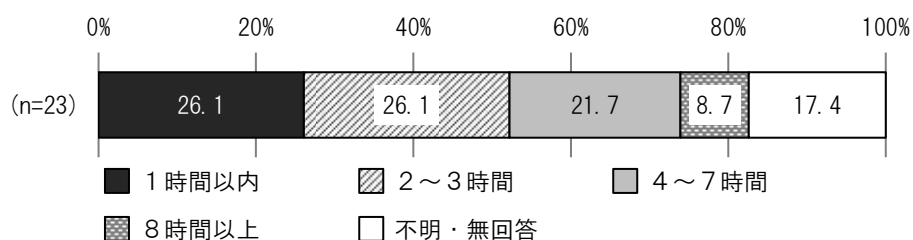


以下の設問は、お世話をしている人が「いる」方のみ回答

誰をお世話しているかについては、「兄弟姉妹」が最も多く60.9%、次いで「母親」が39.1%、「父親」が34.8%となっており、「祖母」「祖父」という回答はありませんでした。

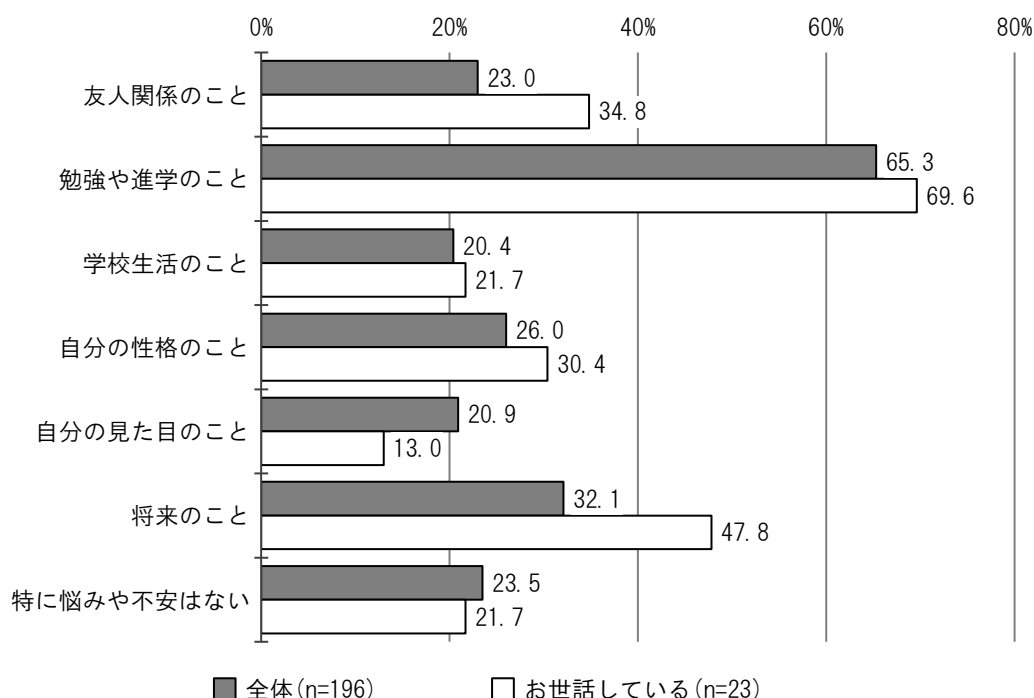


休日のうちお世話にかけている時間については、2時間以上の区分が合計で56.5%となっています。



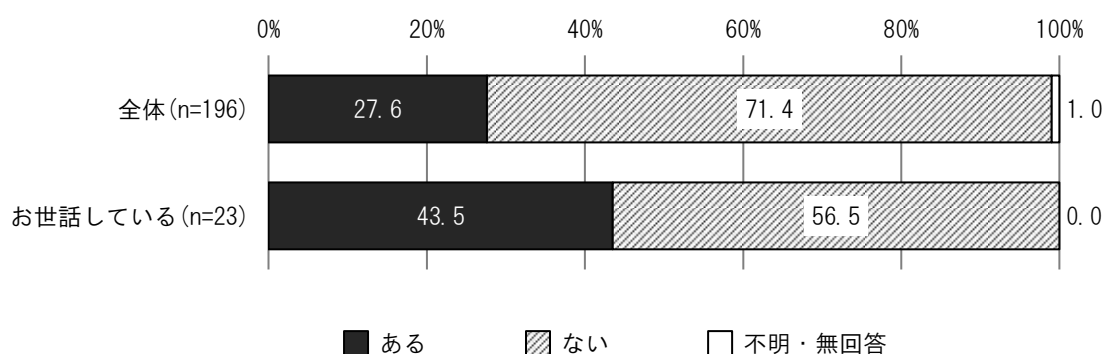
(2) ヤングケアラーが抱える悩みについて

家族のお世話をしている人においては、「友人関係のこと」「将来のこと」について悩んでいる割合が、全体と比較して 10 ポイント以上高くなっています。



※グラフは全体で 20%以上の回答があった項目を抜粋

悩んでいることや不安に感じていることについて、だれかに相談できれば良かった、または、もっと他の人に相談できれば良かったと思ったことがあるかについてみると、家族のお世話をしている人においては、全体よりも「ある」が高く、43.5%となっています。

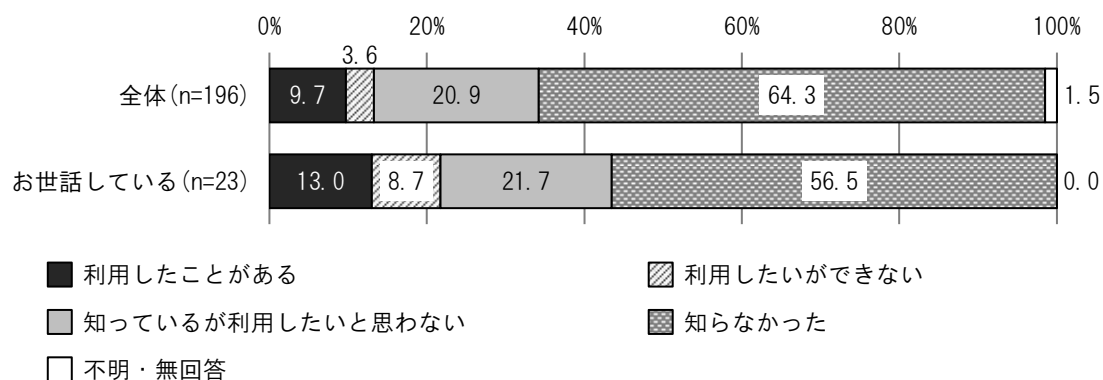


(3) ヤングケアラーへの支援について

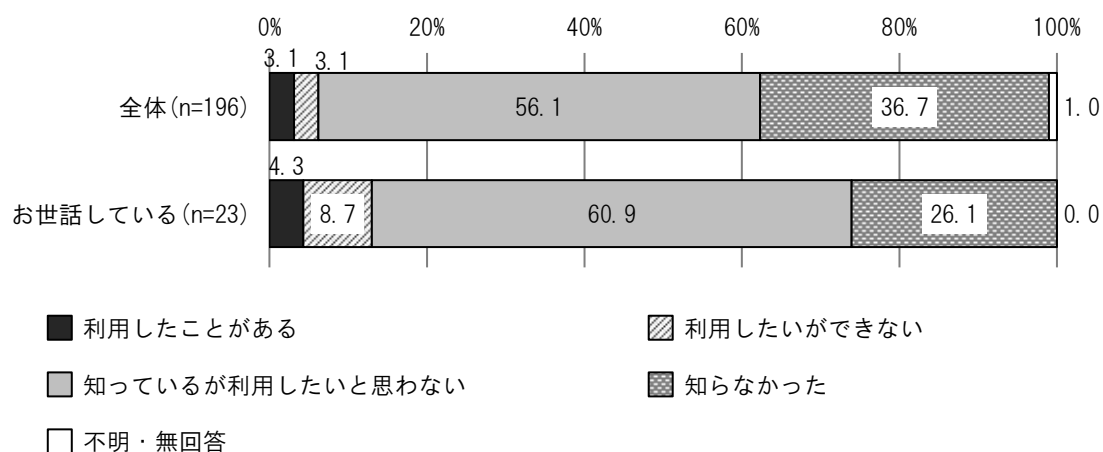
家族のお世話をしている人においては、「子どもの学習、生活支援事業」や「教育相談など、市の相談窓口」で「利用したことがある」「利用したいができない」が全体と比較して多く、ニーズがみられます。

一方で、「子どもの学習、生活支援事業」については、「知らなかった」が多数を占めています。

(子どもの学習、生活支援事業)



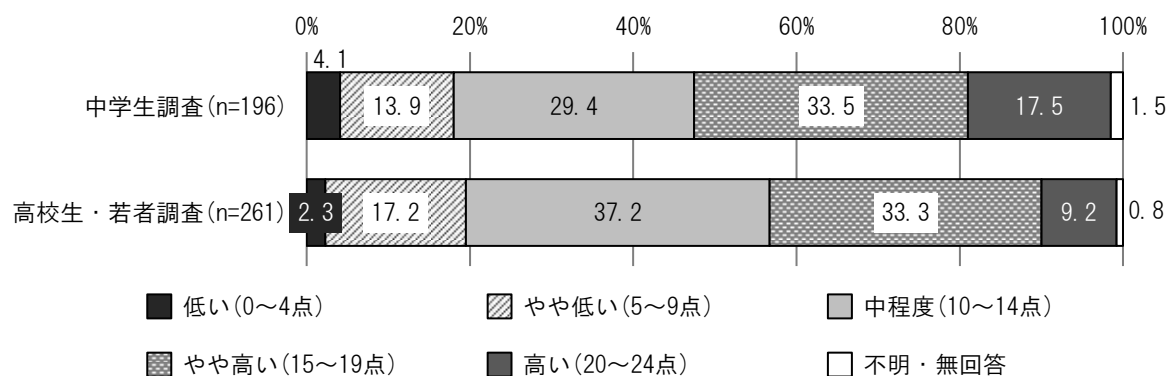
(教育相談など、市の相談窓口)



7 自己肯定感に関する分析

(1) 自己肯定感について

自己肯定感について、中学生調査においては、「低い」が4.1%、「やや低い」が13.9%となっています。また、高校生・若者調査においては、「低い」が2.3%、「やや低い」が17.2%となっています。



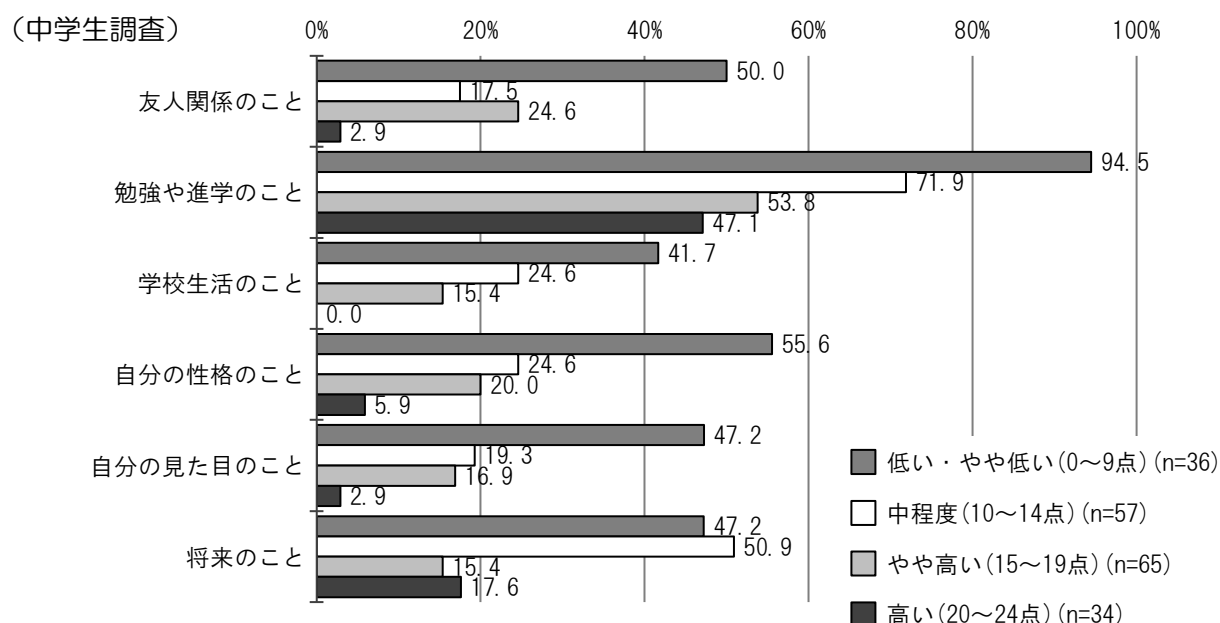
※「自己肯定感」については、

①頑張れば、報われると思う、②自分は価値のある人間だと思う、③自分は家族に大切にされていると思う、
 ④自分は友達に好かれていると思う、⑤不安に感じることはないと思う、⑥孤独を感じることはない、
 ⑦自分の将来が楽しみだ、⑧自分のことが好きだ

の各項目について、「とても思う」を3点、「思う」を2点、「あまり思わない」を1点、「思わない」を0点として、24点満点の合計を算出しています。

(2) 自己肯定感別の悩みの状況について

自己肯定感が低いほど、様々な面において悩みを持っている割合が高い傾向にあります。

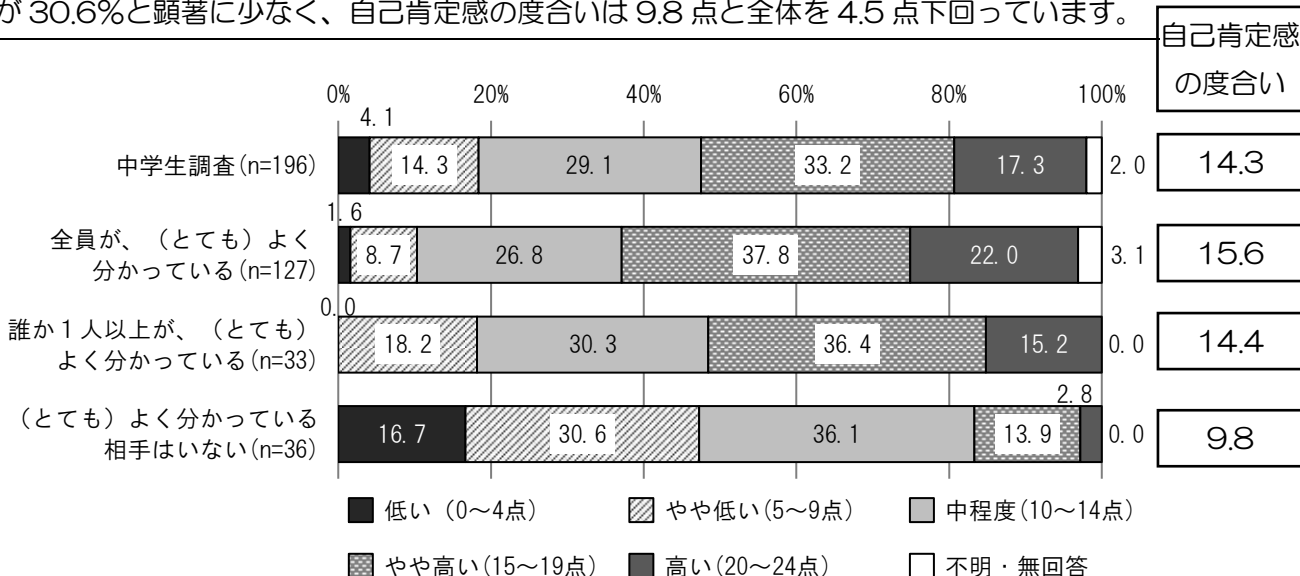


(3) 家庭の状況による自己肯定感への影響について

家族のうち、自分のことをよく分かっている人がいるか別に自己肯定感の状況をみると、よく分かっている人がいるほど自己肯定感が高い傾向がみられます。

特にく(とても)よく分かっている相手はいないでは、自己肯定感が「低い」が16.7%、「やや低い」が30.6%と顕著に少なく、自己肯定感の度合いは9.8点と全体を4.5点下回っています。

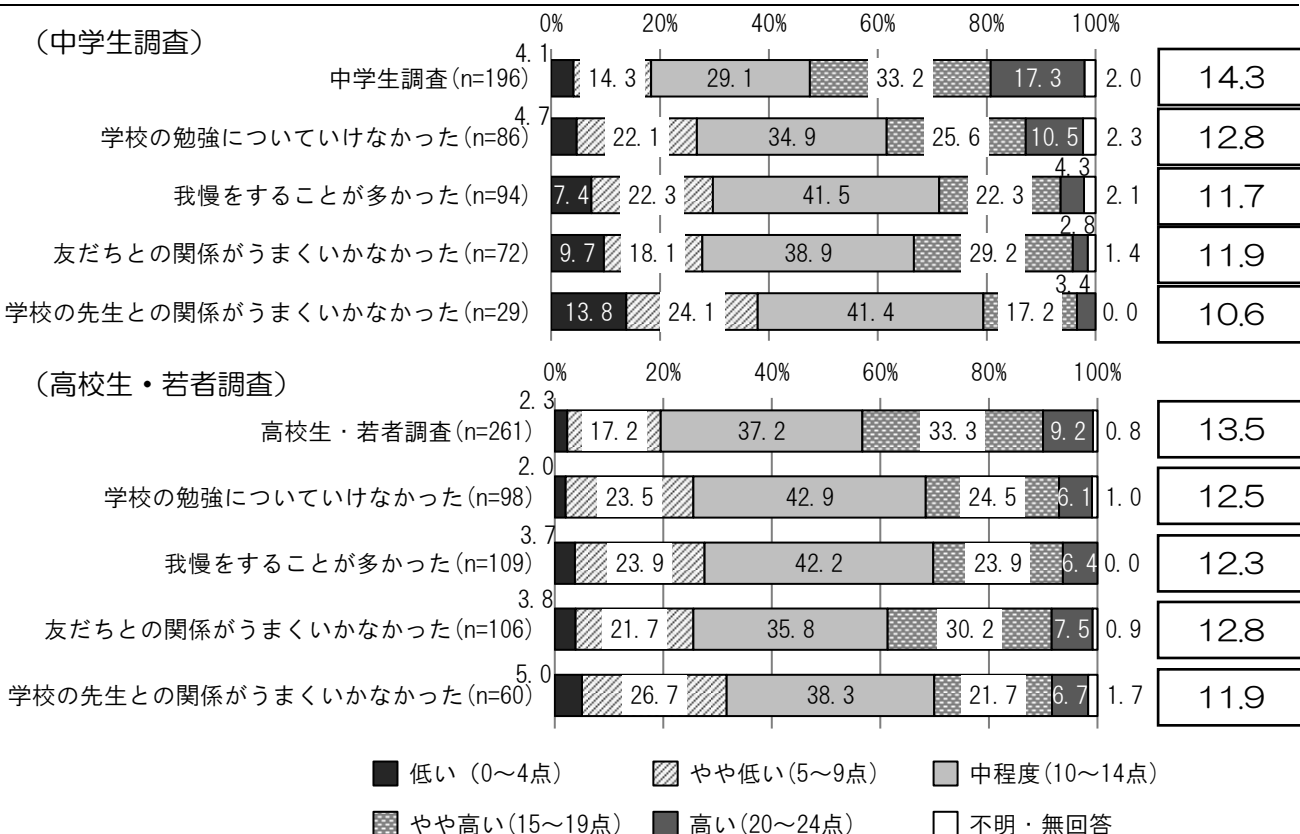
家族が自分のことを分かっているか



(4) 学校の状況による自己肯定感への影響について

学校における経験別に自己肯定感の状況をみると、〈勉強についていけなかった〉〈我慢することが多かった〉〈学校の先生との関係がうまくいかなかった〉〈友だちとの関係がうまくいかなかった〉において低い傾向がみられます。

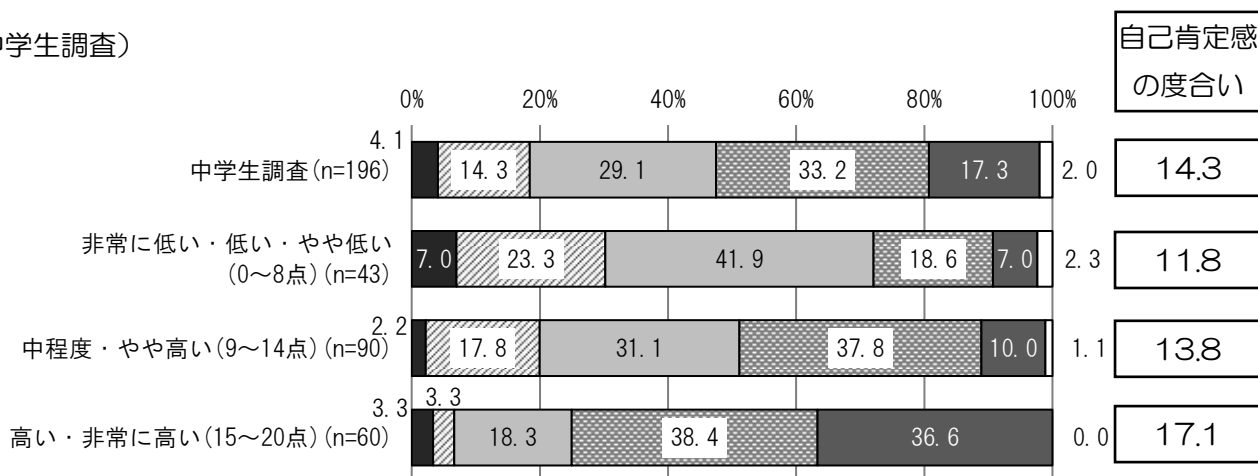
学校における経験



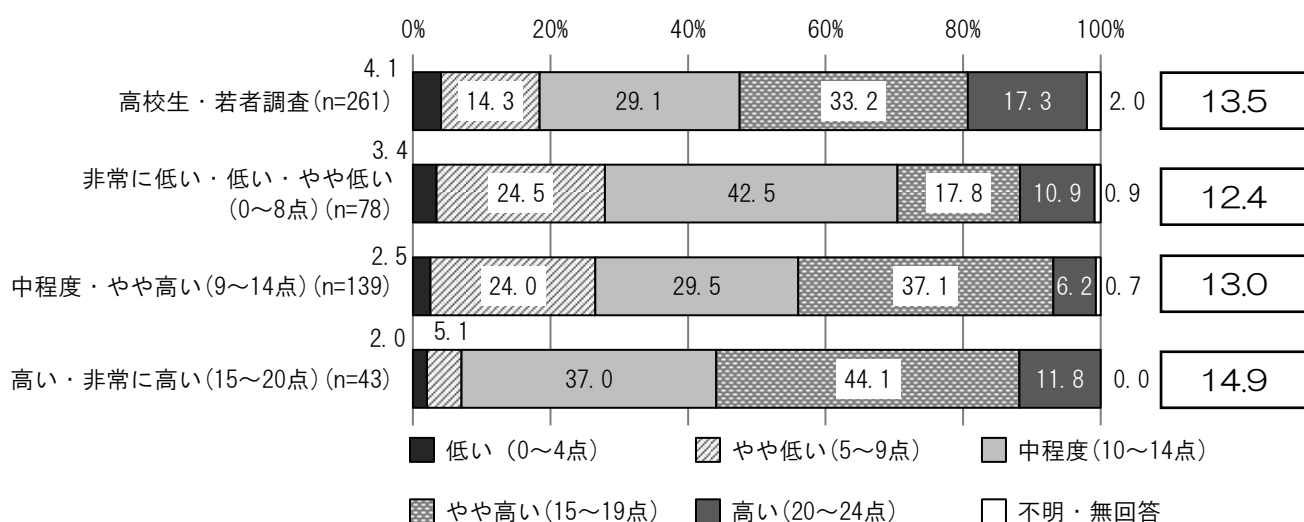
(5) 地域への満足度による自己肯定感への影響について

地域への満足度別に自己肯定感の状況をみると、中学生調査、高校生・若者調査ともに、地域への満足度が高いほど、自己肯定感が高い傾向がみられます。

(中学生調査)



(高校生・若者調査)



※「地域への満足度」については、

- ①まちなか、公園、川沿いなどで心地よく歩ける場所がある、②身近に自然を感じることができる、③歩道や信号が整備されていて安心である、④市役所は、地域のことを真剣に考えてくれていると思う、⑤小さな子どもたちがいきいきと暮らせると思う、

の各項目について、「非常にあてはまる」を4点、「ある程度あてはまる」を3点、「どちらとも言えない」を2点、「あまりあてはまらない」を1点、「全くあてはまらない」を0点として、20点満点の合計を算出しています。

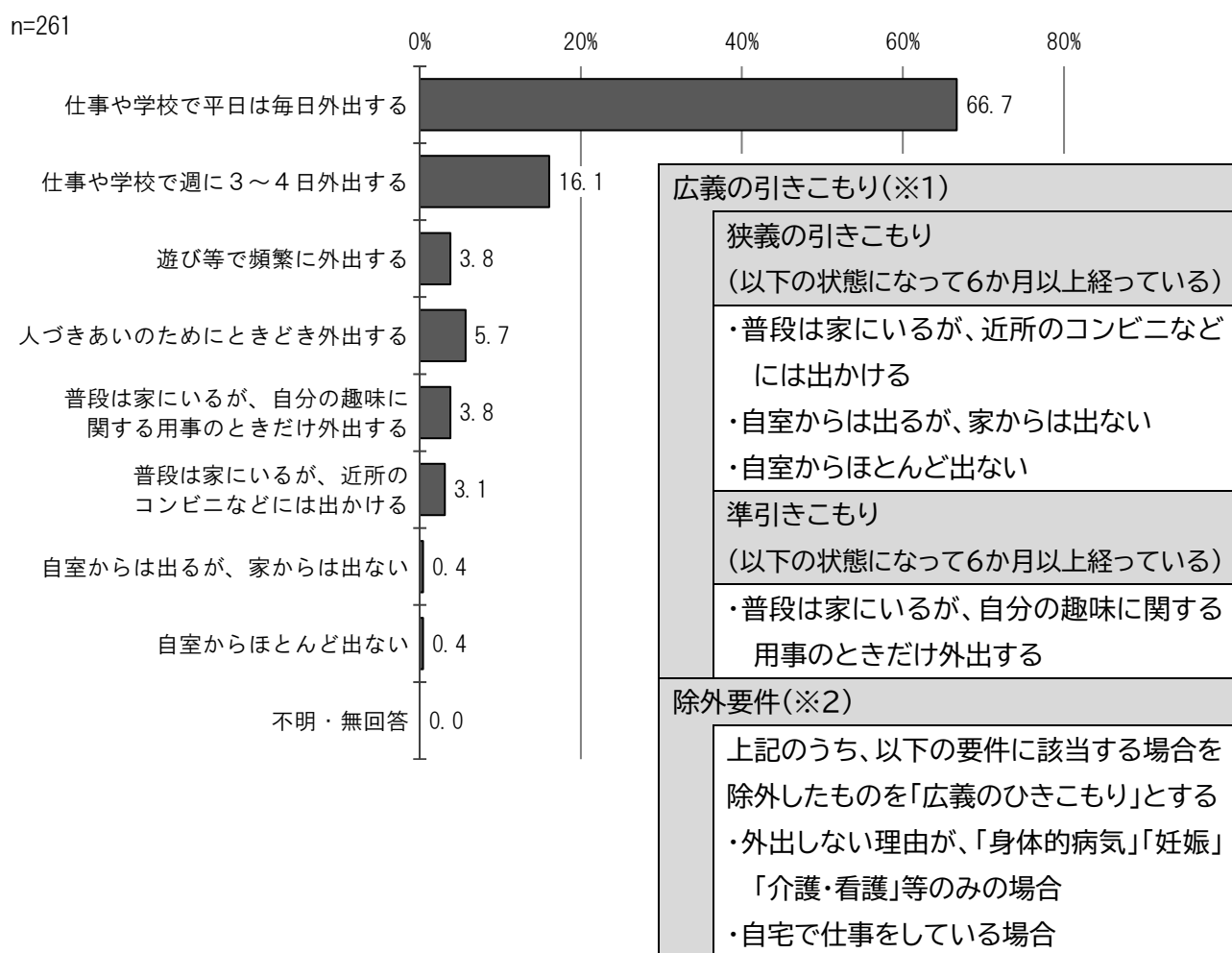
※「自己肯定感の度合い」については、「加重平均」の考え方をを用いて、「低い」「やや低い」「中程度」「やや高い」「高い」のそれぞれにおける中央の値を階級値として、不明・無回答を除外した上で算出しています。

8 外出状況に関する分析

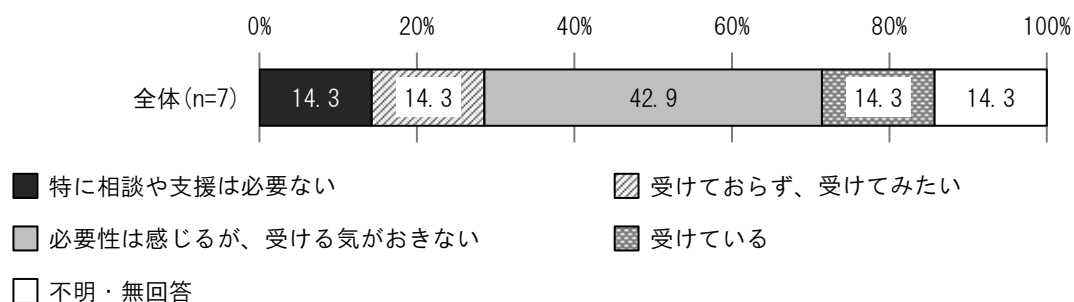
(1) 外出頻度が低い方の状況について

外出の状況について、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」は 3.8%、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」は 3.1%となっています。

広義の引きこもり(※1)について、除外要件(※2)を除いた該当する件数は7件(2.7%)となっています(内閣府令和4年度調査では2.05%)。



外出が難しくなっていることについて、相談や支援を受けたいと思うかについてみると、「必要性は感じるが、受ける気がおきない」が最も多くなっています。



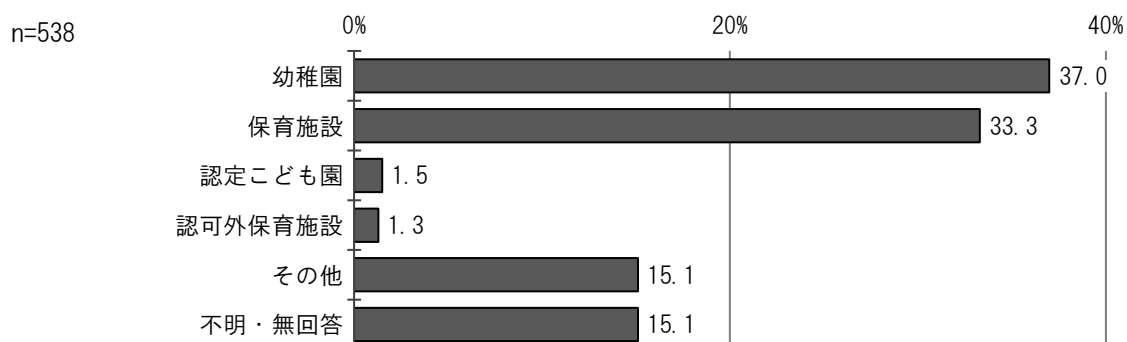
第3章 集計編

1 未就学児保護者、小学生保護者調査

(1) 子どもの育ちをめぐる環境について

問5（未就学調査） 宛名のお子さまの子育てに日常的に関わっている施設をお答えください。
（複数回答）

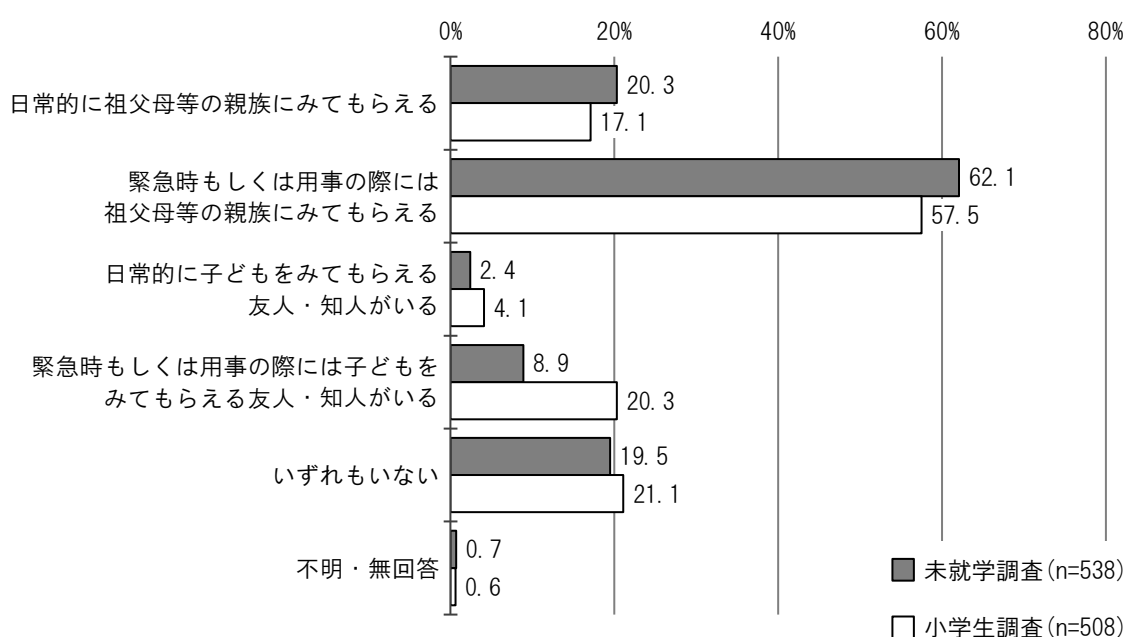
「幼稚園」「保育施設」がそれぞれ3割台となっています。



問6（未就学調査） 問5（小学生調査）
日頃、宛名のお子さまをみてもらえる親族・知人はいますか。（複数回答）

〈未就学調査〉では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 62.1%と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 20.3%となっています。

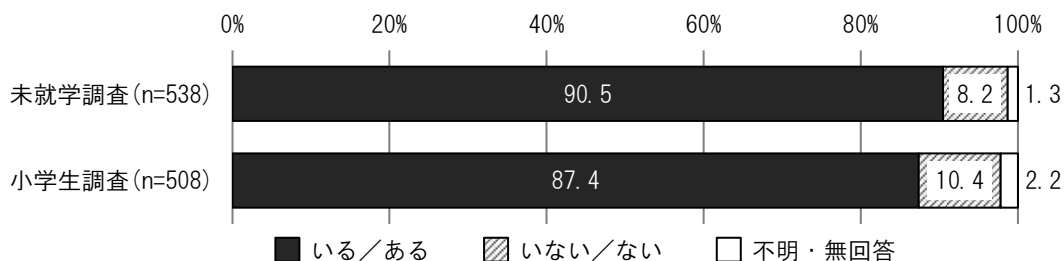
〈小学生調査〉では、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 57.5%と最も多く、次いで「いずれもない」が 21.1%となっています。



問7（未就学調査） 問6（小学生調査）

宛名のお子さまの子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所
はありますか。（単数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「いる／ある」が約9割、「いない／ない」が約1割となっています。



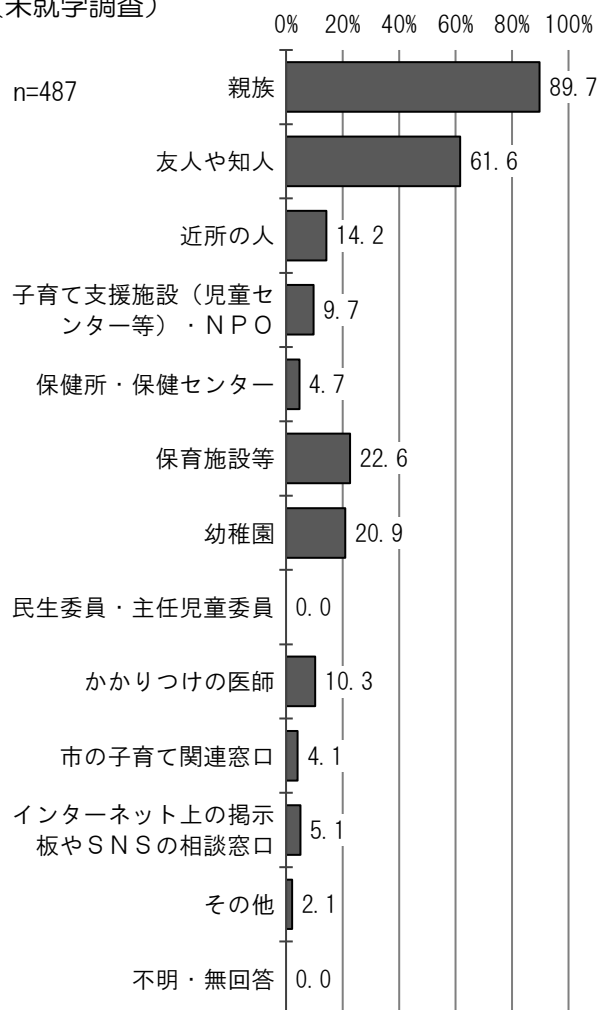
付問 お子さまの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

※問7（8）で「いる／ある」を選んだ方のみ回答

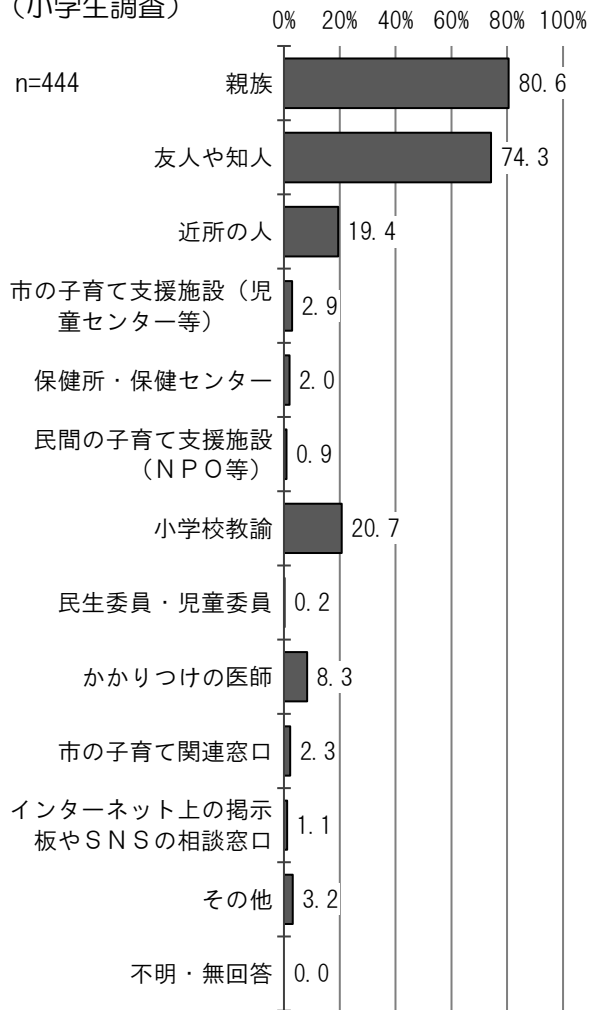
（複数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉いずれも、「親族」が8割台となっている一方、子育て支援施設や保健所、市の窓口では1割未満となっています。

（未就学調査）



（小学生調査）



問8（未就学調査） 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。

周囲からあればよいと考えるサポートについての回答件数及び、主なご意見については次の通りです。

（未就学調査）

分類	件数	主なご意見
一時預かり等の 支援サービスの充実	88	・どんな理由でも預かってもらえる場所があれば良い。 ・3時間前後で利用しやすい預かりのサービスがあれば良い。 ・保護者が体調不良等で通院する際に預けられるサービスがあれば良い。 ・保育所等での一時預かりについて、急な用事で預けたい時に、定員がいっぱいでキャンセル待ちになってしまうことが多い。 ・両親ともに休みがとりづらいため、子どもが体調不良の時に預けられる場所があれば良い。 ・市役所の手続き中等の時間、小さい子は待っているのが難しいので、少しでも預けられる場所があれば良い。 ・預かり保育を充実させて、リフレッシュなどで気軽に利用できるようにしてほしい。 ・土曜や休日にも対応している預かりや保育施設を確保して欲しい。
病児保育や医療体制 の充実	58	・病児保育は定員が少なかったり料金が高かったりと利用しづらい。 ・病児保育を利用するために白井市まで行くのが遠い。 ・子どもの具合が悪い時に、救急を要するのか判断できるかが分かるパンフレットがあれば良い。 ・夜間・休日に対応いただける小児科病院があれば良い。
相談体制の充実、 保護者同士の交流や 孤立の防止	41	・気軽に相談できる場所を増やしてほしい。 ・チャットなどで相談できるサービスがあれば、気軽に利用できる。 ・何でも相談できる窓口があればよい。 ・発達について気がかりなことがあっても、病院以外に相談できるイメージが無い。市役所でも相談できるなら、そのことを広報して欲しい。 ・継続的に相談できるサポートがあれば良い。 ・相談しようと思っても、相談を受ける人がどのような考え方が分からないため、子育てに対する考え方などが違って否定されるのではないかと不安に感じて相談できない。 ・子育てに関する悩みやアイデアを共有できる場があれば良い。 ・保護者同士が交流でき友人ができる機会があればうれしい。

分類	件数	主なご意見
経済的支援の充実	35	・習い事や給食費を補助して欲しい。 ・手当を増額して欲しい。 ・生活用品や食品のクーポンを発行するなど家計負担を軽減させてほしい。 ・習い事に補助金を出してほしい。
遊び場の確保	22	・子どもが遊んだり運動したりできる場所が多くあれば良い。 ・雨の日に遊べる施設を増やしてほしい。 ・公園が清掃前でゴミなどが散乱していることがあるので、対策してほしい。
放課後児童クラブの充実	20	・放課後児童クラブに送迎サービスがあれば良い。 ・放課後児童クラブに関する情報を未就学児の保護者にも提供して欲しい。 ・小学校に進学してから、放課後児童クラブに入れないかもしれないと不安。 ・放課後児童クラブにより長時間預けられるようにしてほしい。

問7（小学生調査） 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。

周囲からあればよいと考えるサポートについての回答件数及び、主なご意見については次の通りです。

（小学生調査）

分類	件数	主なご意見
一時預かり・病児保育等のサービスの充実	65	・学童保育の利用開始を朝 7:30 からにしていきたい。 ・学童保育を、1 か月単位ではなく日ごとで利用したい。 ・登校前の時間、子どもを預けられるサポートがあればよい。 ・集団が苦手な子を預けられる場所が増えてほしい（放課後等デイサービスは市内に少なく利用できる日数も少ない）。 ・家庭でトラブルがあったときに子どもが一時的に親から離れられる場所を確保して欲しい。 ・ファミリー・サポート・センターの提供会員数が増えてほしい。 ・子どもが急病で学校を休む際に、母親が休む以外の選択肢が無いので、何か支援があれば良い。 ・病児保育の定員を増やしてほしい。 ・病児保育が白井市内にしかないので、鎌ヶ谷市内に整備して欲しい。（2件）
相談体制の充実、アウトリーチ、保護者同士の交流や孤立の防止	36	・こどものことで困ったら何でも相談できる場所があれば良い。 ・どの相談窓口にいけば良いのか分からないので、どこに相談するのか判断できる表があれば良い。 ・家庭訪問で困りごとが無いかが聞いて欲しい。 ・自分から相談できない課題を抱える世帯に対するアプローチは必要だと感じるが、近隣の人がいきなり児童相談所に連絡するのはハードルが高い。アプリやメールなどで市に報告できるシステムがあっても良いのではないかな。 ・同じような悩みを抱える保護者が集まれる場所があれば良い。 ・家族同士で交流できるイベントが、フルタイムで働いていても参加しやすい、平日の夜や土休日にあれば良い。 ・スクールカウンセラーの予約が埋まりがちで、日数が増えれば心強い。（3件） ・発達に関する相談を医師にしようとしても予約が数か月先になる。気軽に相談できる場所が身近に増えてほしい。

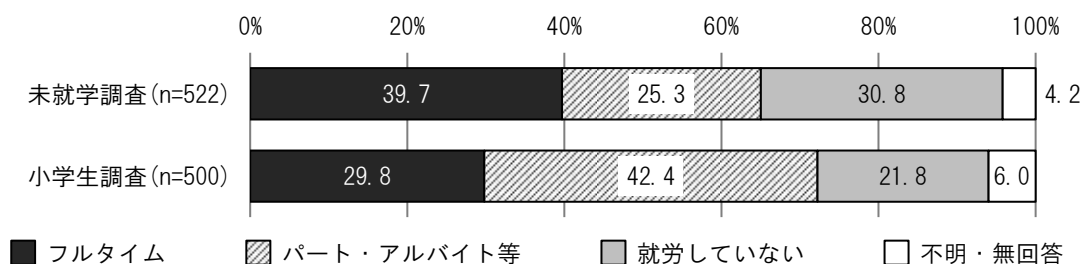
分類	件数	主なご意見
経済的支援の充実	30	・ひとり親世帯の就労支援や教育に関する経済的支援に取り組んでほしい。 ・校外学習や体操服、学校で使う教材・道具、オムツや子どもに関するものを安くしてほしい。 ・習い事に関する経済的負担が大きい。 ・給食費の負担を軽減させてほしい。 ・経済的事情で子どもに満足できる量の食事を与えられていないので、支援が欲しい。 ・家事の負担軽減のために、電化製品の購入支援があれば良い。
学びの環境の充実	18	・子どもの将来や進路に関する情報を提供して欲しい。 ・進学に関する市全体の情報を提供して欲しい。 ・学習塾の選び方について情報提供して欲しい。 ・学習塾より気軽に公民館などで学校の宿題をみってくれる場所がほしい。 ・英検や漢検等を取得するための講習を開いてほしい。 ・より個性を磨ける教育の機会があれば良い。 ・不登校の子が通える場所が少ないと思う。 ・不登校の子の勉強をみってくれるサポートが欲しい。
遊び場の確保	20	・安心して遊ぶことができる公園の整備、環境の改善。 ・ボール遊びなど、自由に遊べる公園があれば良い。 ・放課後や長期休暇期間中に遊んで過ごせる居場所があれば良い。
地域の見守りの充実	8	・登下校の見守り。（3件）

(2) 就労状況について

問9（未就学調査） 問8（小学生調査）①母親の就労状況 ※問2で「母親」を選んだ方のみ集計（単数回答）

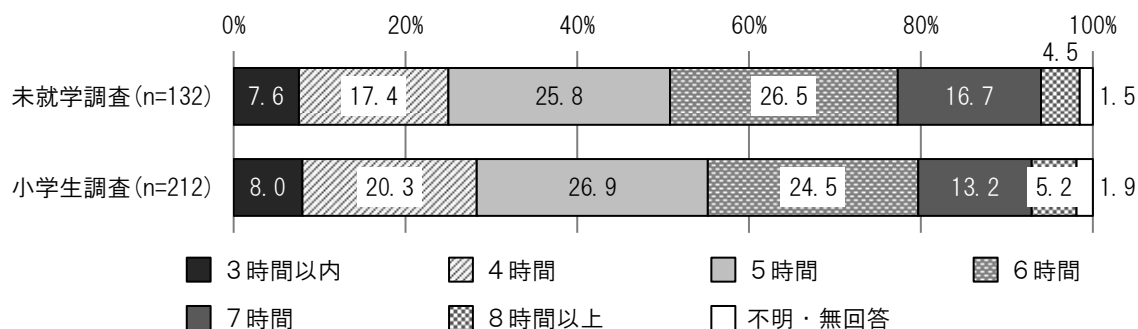
〈未就学調査〉では、「フルタイム」が39.7%と最も多く、次いで「就労していない」が30.8%となっています。

〈小学生調査〉では、「パート・アルバイト等」が42.4%と最も多く、次いで「フルタイム」が29.8%となっています。



付問 母親 パート・アルバイトにおける就労時間 ※問9（8）①で「パート・アルバイト等」を選んだ方のみ回答、「0時間」は集計対象外とした（単数回答）

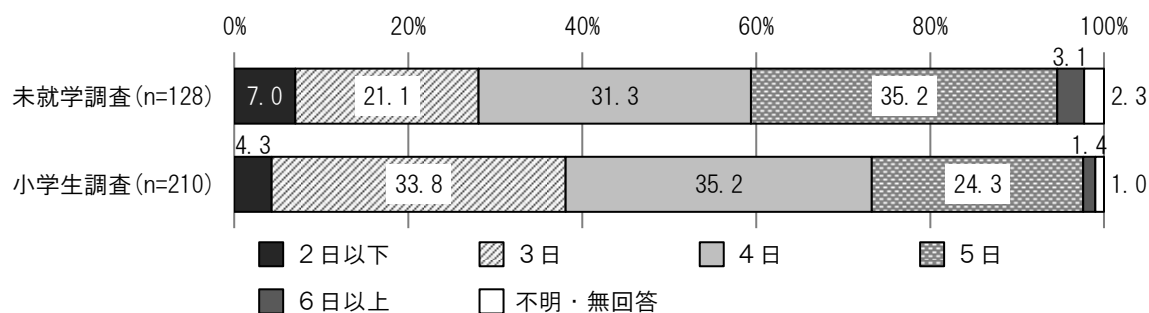
〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「5時間」「6時間」が2割台となっています。



付問 母親 パート・アルバイトにおける週当たりの就労日数 ※問9（8）①で「パート・アルバイト等」を選んだ方のみ回答、「0日」は集計対象外とした（単数回答）

〈未就学調査〉では、「5日」が35.2%と最も多く、次いで「4日」が31.3%となっています。

〈小学生調査〉では、「4日」が35.2%と最も多く、次いで「3日」が33.8%となっています。



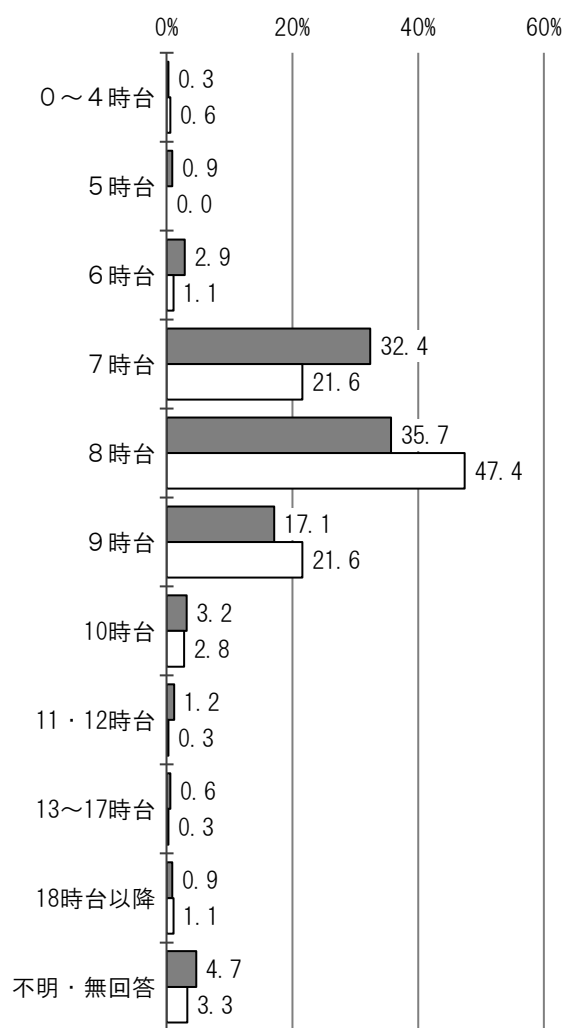
付問 母親 家を出る時間・帰宅時間

※問9(8)①で「フルタイム」「パート・アルバイト等」を選んだ方のみ回答（単数回答）

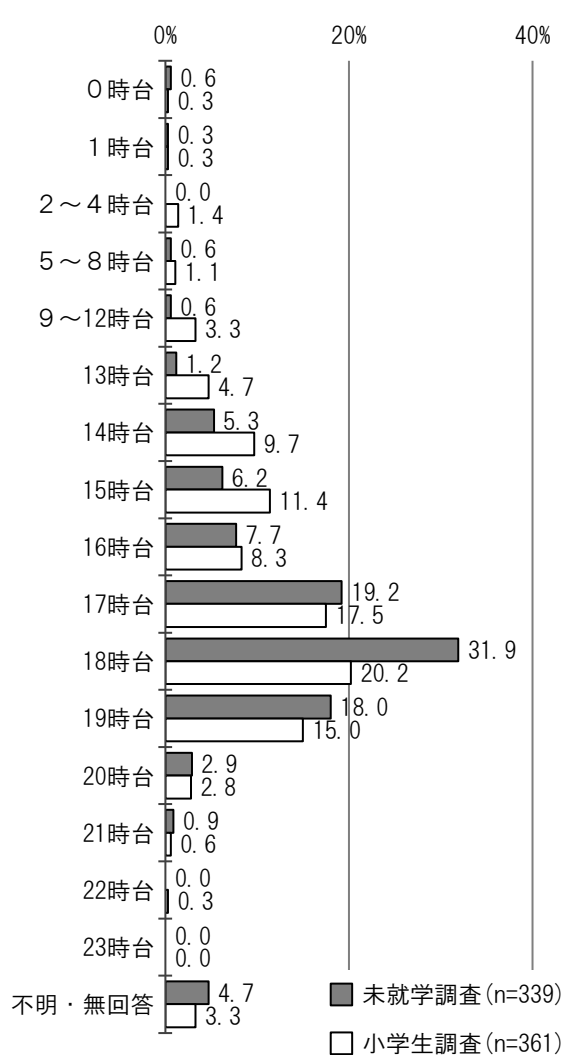
家を出る時間について、〈未就学調査〉では、「7時台」「8時台」がそれぞれ3割台、〈小学生調査〉では、「8時台」が47.4%となっています。

帰宅時間について、〈未就学調査〉では、「18時台」が31.9%、〈小学生調査〉では「17時台」「18時台」がそれぞれ2割前後となっています。

（家を出る時間）



（帰宅時間）

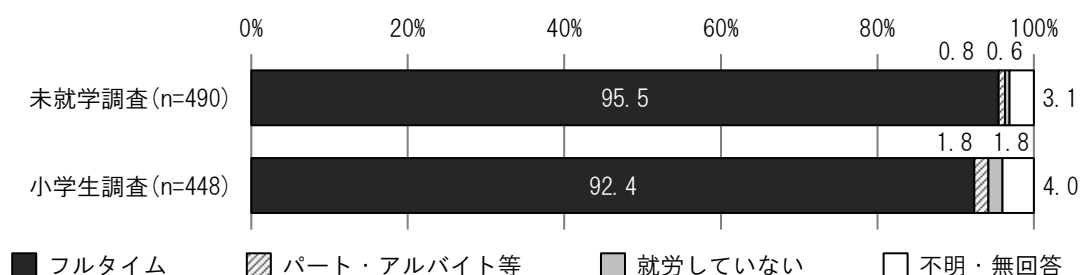


問9（未就学調査） 問8（小学生調査）

②父親の就労状況 ※問2で「父親」を選んだ方のみ集計

（単数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「フルタイム」が9割台となっています。



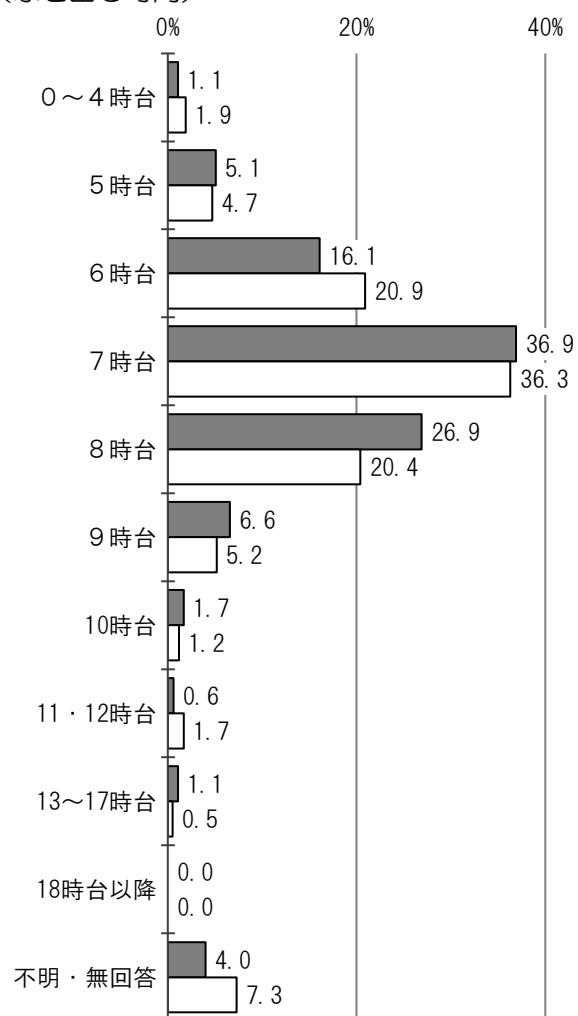
付問 父親 家を出る時間・帰宅時間

※問9②で「フルタイム」「パート・アルバイト等」を選んだ方のみ回答

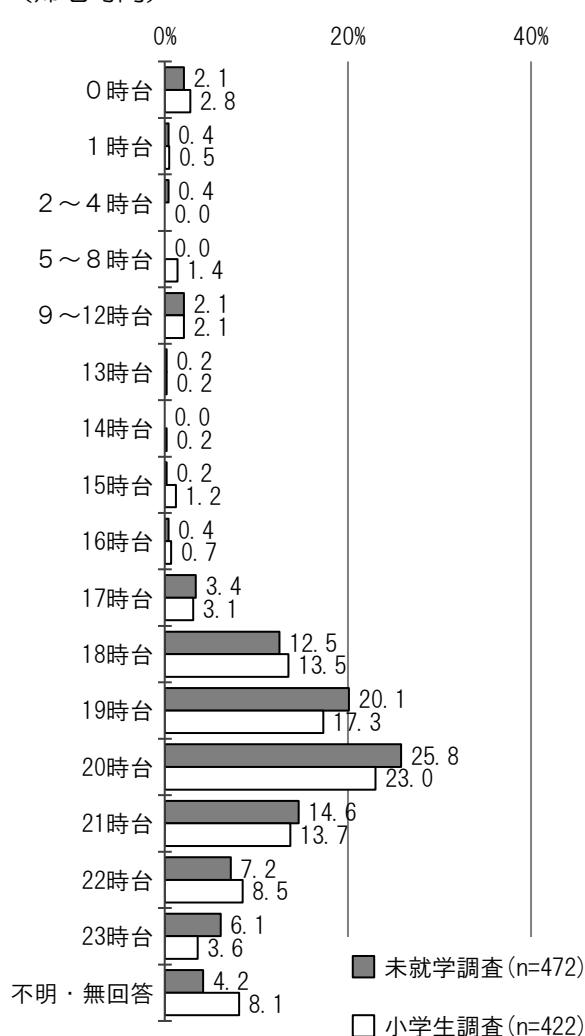
（単数回答）

家を出る時間について、〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに「7時台」が3割台、「6時台」「8時台」がそれぞれ2割前後となっています。帰宅時間について、〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに「20時台」が最も多く2割台となっています。

（家を出る時間）



（帰宅時間）

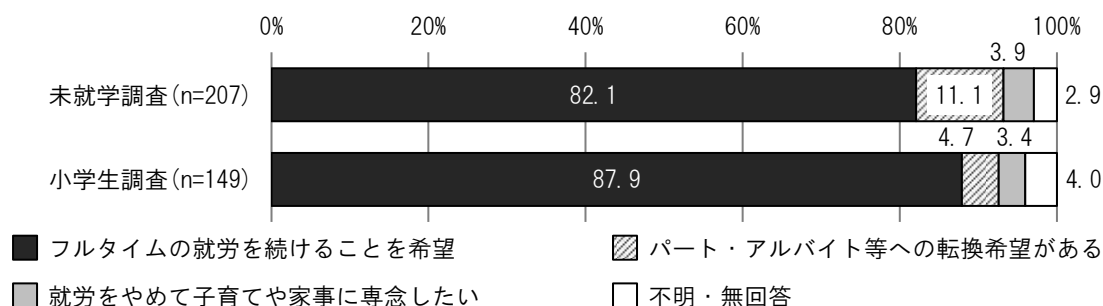


問10（未就学調査） 問9（小学生調査） ①母親 今後の就業希望をお答えください。

※問9（8）①で「フルタイム」を選んだ方のみ回答

（単数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「フルタイムの就労を続けることを希望」が8割台となっています。

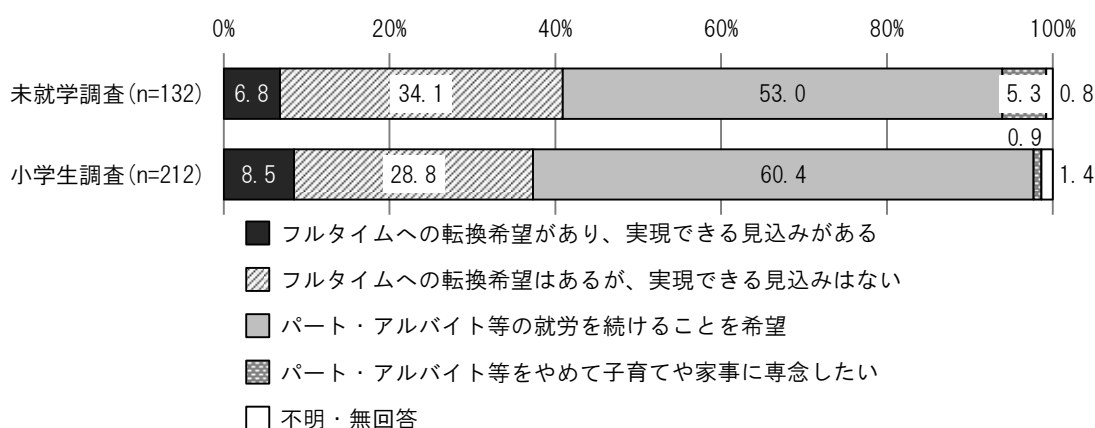


問11（未就学調査） 問10（小学生調査） ①母親 フルタイムへの転換希望はありますか。

※問9（8）①で「パート・アルバイト等」を選んだ方のみ回答

（単数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が最も多く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」となっています。



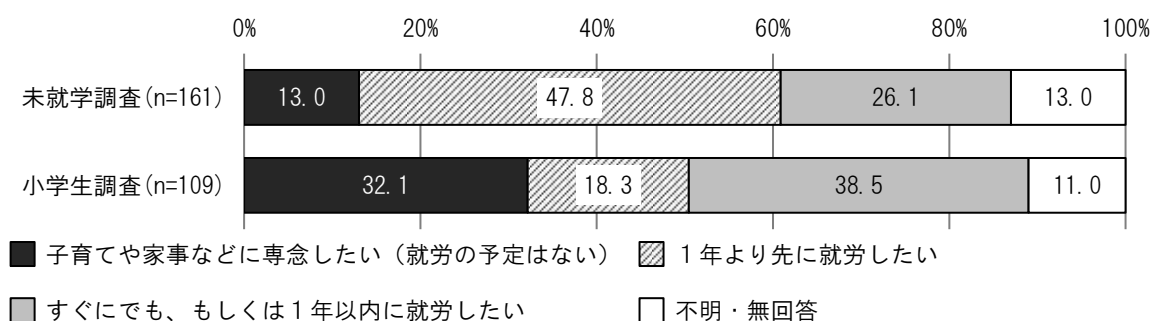
問12（未就学調査） 問11（小学生調査） ①母親 就労したいという希望はありますか。

※問9（8）①で「就労していない」を選んだ方のみ回答

（単数回答）

〈未就学調査〉では、「1年より先に就労したい」が47.8%と最も多く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が26.1%となっています。

〈小学生調査〉では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が38.5%と最も多く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が32.1%となっています。

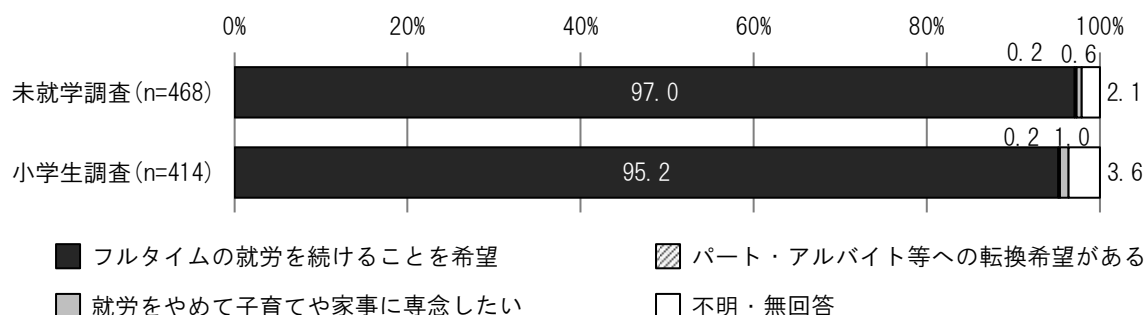


問 10（未就学調査） 問 9（小学生調査） ②父親 今後の就業希望をお答えください。

※問 9（8）②で「フルタイム」を選んだ方のみ回答

（単数回答）

＜未就学調査＞＜小学生調査＞では、「フルタイムの就労を続けることを希望」が9割台となっています。



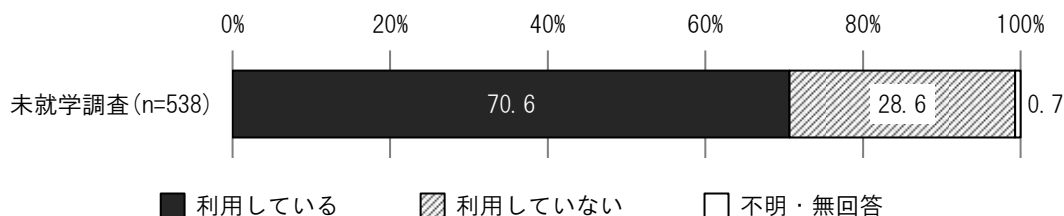
※今後の就労の希望について、一部の設問は回答対象者が少ないため、以下に結果を列記します。

対象	項目	区分	n	結果
母親	1年より先に就労したい母親について、一番下の子どもが何歳になったところに就労したいか	未就学	77	2～3歳、4～5歳、6～7歳がそれぞれ2割台
		小学生	20	6～7歳、12歳以上がそれぞれ5件
	すぐにでも就労したい母親の、希望する就労形態	未就学	42	パート・アルバイト等が約8割
		小学生	42	パート・アルバイト等が約8割
父親	パート・アルバイト等で就労している父親の、今後の意向	未就学	4	不明・無回答が2件
		小学生	8	フルタイムへの転換希望ありが4件、うち実現見込は2件。不明・無回答が4件。
	就労していない父親の、今後の意向	未就学	3	1年より先に就労したい、すぐにでも就労したい、不明・無回答が1件ずつ
		小学生	8	すぐにでも就労したいが3件、不明・無回答が4件
	1年より先に就労したい父親について、一番下の子どもが何歳になった頃に就労したいか	未就学	1	3歳が1件
		小学生	0	—
	すぐにでも就労したい父親の、今後の意向	未就学	1	パート・アルバイト等が1件
		小学生	3	フルタイムが2件、不明・無回答が1件

(3) 教育・保育事業（幼稚園・保育所等）の利用について

問 13（未就学調査） 宛名のお子さまは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。（単数回答）

「利用している」が70.6%、「利用していない」が28.6%となっています。

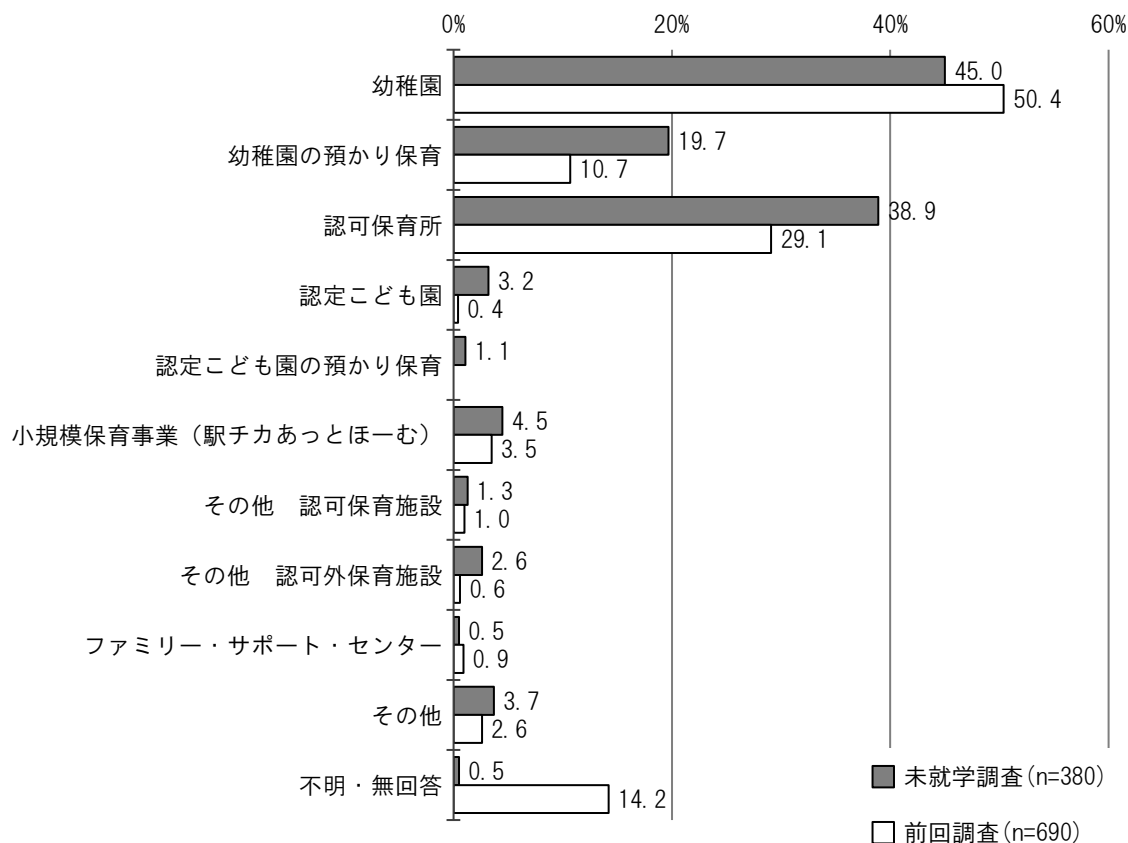


問 13-1（未就学調査） 宛名のお子さまは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。

※問 13 で「利用している」を選んだ方のみ回答

（複数回答）

「幼稚園」が45.0%と最も多く、次いで「認可保育所」が38.9%となっています。



問 13-2（未就学調査） 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、現在の利用状況をお答えください。※問 13 で「利用している」を選んだ方のみ回答

詳細な利用状況については、以下の通りです。

事業の種類	件数	利用開始時間	利用終了時間
幼稚園	168	「8時」40件 「9時」120件	「14時」132件 「15時」20件
幼稚園の預かり保育	67	「7時」6件 「8時」9件 「14時」40件	「16時」15件 「17時」23件 「18時」16件
認可保育所	146	「7時」57件 「8時」63件、 「9時」26件	「16時」14件 「17時」35件 「18時」68件 「19時」29件
認定こども園	12	「8時」7件	「18時」7件
小規模保育事業 （駅チカあっとほーむ）	17	「7時」5件 「8時」10件	「17時」6件 「18時」7件
その他 認可外保育施設	10	「8時」3件 「9時」5件	「17時」4件
ファミリー・サポート・センター	13	「10時」6件	「14時」4件 「16時」3件

※各項目内で多い回答を抜粋しています。

事業の種類	件数	利用地域						
		中央	中央東	東部	南部	西部	北部	市外
幼稚園	168	34	15	49	39	5	12	10
幼稚園の預かり保育	67	14	3	18	19	1	4	6
認可保育所	146	42	14	34	17	20	9	8
認定こども園	12	-	1	7	2	-	-	2
小規模保育事業 （駅チカあっとほーむ）	17	11	-	1	2	1	-	1
その他 認可外保育施設	10	2	1	1	2	-	-	4
ファミリー・サポート・センター	13	2	3	6	1	-	-	-

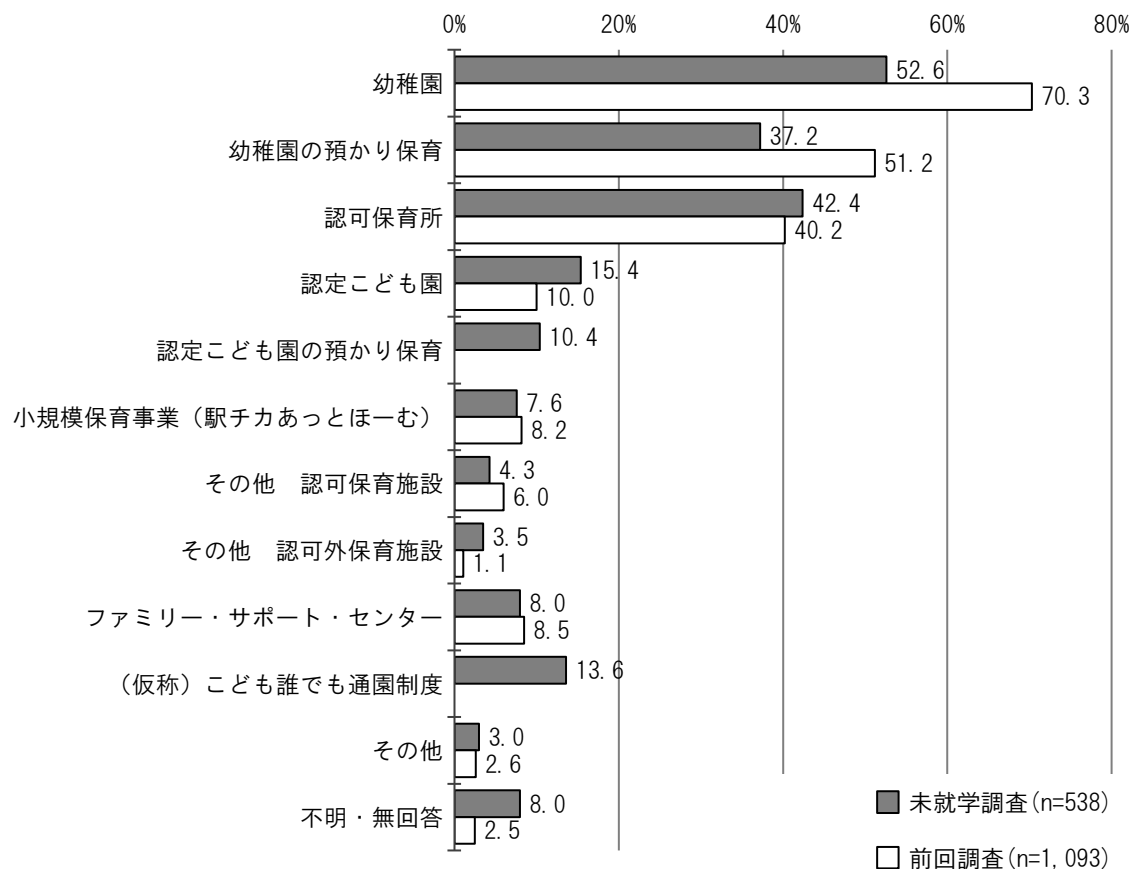
※無回答があるため、利用地域の合計は件数と一致しません。

※「認定こども園の預かり保育」（3件）、「その他 認可保育施設」（8件）は省略しています。

問 14（未就学調査） すべての方にうかがいます。現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さまの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。（複数回答）

「幼稚園」が52.6%と最も多く、次いで「認可保育所」が42.4%となっています。

「こども誰でも通園制度」については、13.6%となっています。



※「認定こども園の預かり保育」「（仮称）こども誰でも通園制度」は、今回調査で追加した選択肢です。

（各事業の利用意向について見開きで掲載するため、設問の掲載順を入れ替えています）

問 14-1（未就学調査） 定期的に利用したい事業について、希望する利用時間・地域をそれぞれお答えください。

詳細な利用希望については、以下の通りです。

事業の種類	件数	利用開始時間	利用終了時間
幼稚園	229	「7時」20件 「8時」79件 「9時」120件	「14時」107件 「15時」45件 「16時」16件 「17時」17件 「18時」22件 「19時」9件
幼稚園の預かり保育	152	「7時」25件 「8時」40件 「14時」59件 「15時」10件	「16時」23件 「17時」41件 「18時」39件 「19時」27件
認可保育所	203	「7時」77件 「8時」90件 「9時」31件	「16時」15件 「17時」46件 「18時」70件 「19時」48件 「20時」16件
認定こども園	63	「7時」15件 「8時」32件 「9時」15件	「17時」10件 「18時」19件 「19時」13件
認定こども園の預かり保育	26	「7時」7件 「8時」7件	「17時」6件 「18時」5件 「19時」7件
小規模保育事業 （駅チカあっとほーむ）	25	「7時」12件 「8時」12件	「17時」5件 「18時」10件 「19時」7件
ファミリー・サポート・センター	28	「7時」6件 「9時」4件 「18時」4件	「17時」6件 「18時」5件 「19時」8件 「20時」4件
（仮称）こども誰でも通園制度	52	「9時」26件 「10時」7件	「16時」7件 「17時」10件

※各項目内で多い回答を抜粋しています。

事業の種類	件数	利用地域						
		中央	中央東	東部	南部	西部	北部	市外
幼稚園	229	56	16	56	50	9	13	11
幼稚園の預かり保育	152	38	11	39	36	3	6	9
認可保育所	203	66	24	48	20	20	14	7
認定こども園	63	11	12	19	5	5	2	4
認定こども園の預かり保育	26	9	3	7	3	2	-	1
小規模保育事業 （駅チカあっとほーむ）	25	9	5	1	4	2	1	2
ファミリー・サポート・センター	28	10	-	9	5	2	1	-
（仮称）こども誰でも通園制度	52	18	6	16	7	-	4	-

※無回答があるため、利用地域の合計は件数と一致しません。

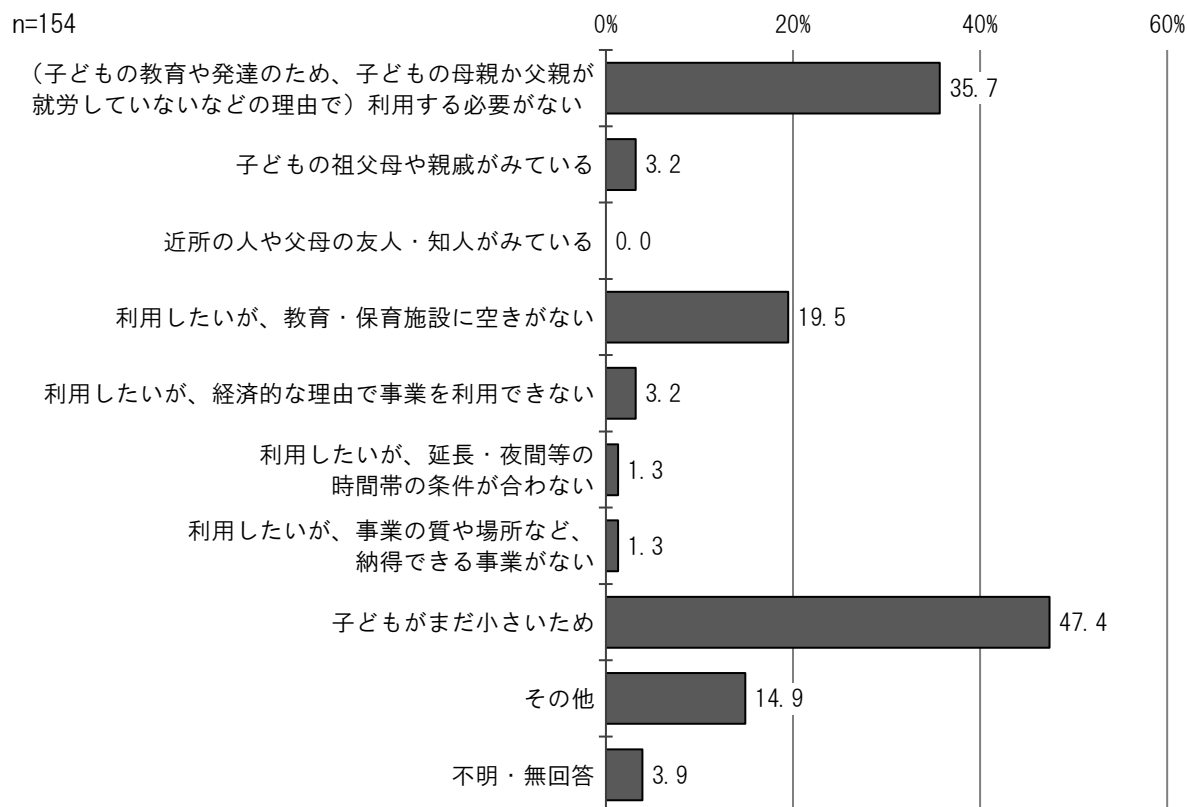
※その他 「認可保育施設」（12件）、「その他 認可保育施設」（10件）は省略しています。

問 13-3（未就学調査） 利用していない理由は何ですか。

※問 13 で「利用していない」を選んだ方のみ回答

（複数回答）

「子どもがまだ小さいため」が 47.4%、「利用する必要がある」が 35.7%、「利用したいが、教育・保育施設に空きがない」が 19.5%となっています。

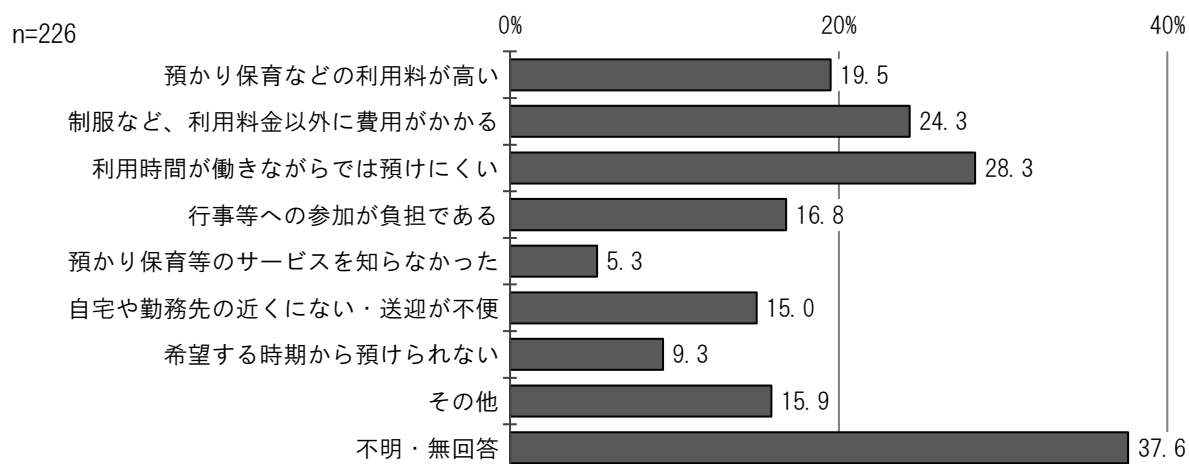


問 14 付問 幼稚園においても、預かり保育などの利用により、保育所等と同等のサービスを受けることが可能ですが、幼稚園の利用を希望しない理由は何ですか。

※問 14 で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」を選ばなかった方のみ回答

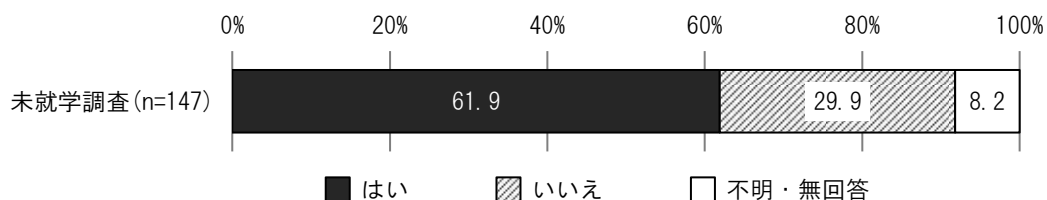
（複数回答）

「利用時間が働きながらでは預けにくい」が 28.3%、「制服など、利用料金以外に費用がかかる」が 24.3%となっています。



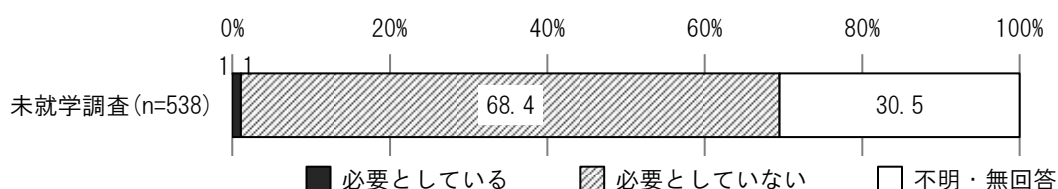
問 15（未就学調査） 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合も含む）の利用を強く希望しますか。※問 14 で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」を選び、かつ他の選択肢も選んだ方のみ回答 （単数回答）

「はい」が61.9%、「いいえ」が29.9%となっています。



問 16（未就学調査） 宛名のお子さまは、現在、医療的ケアを必要としていますか。 （単数回答）

「必要としている」が1.1%となっています。

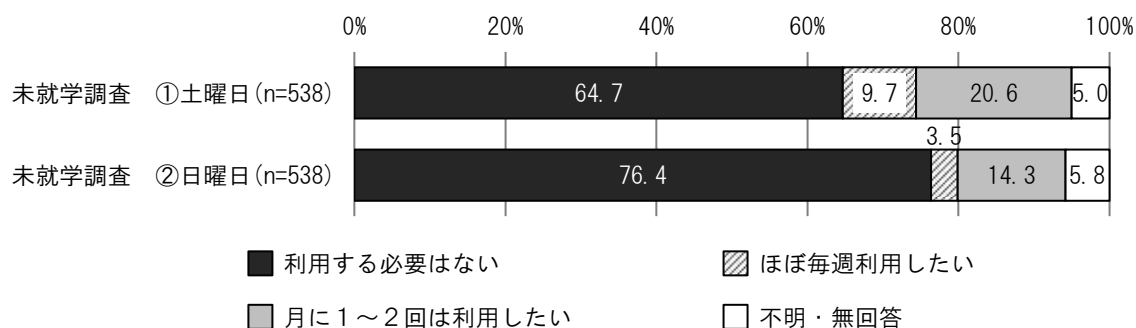


問 16-1（未就学調査） 医療的ケアを必要としている方について、入園に関する状況をお答えください。 （単数回答）

「既に保育所等に入園している」が2件、「主治医や行政機関等に入園に向けた相談を行っている」「保育所等の利用を希望するが、相談先がわからないなど、相談できていない」がそれぞれ1件となっています。

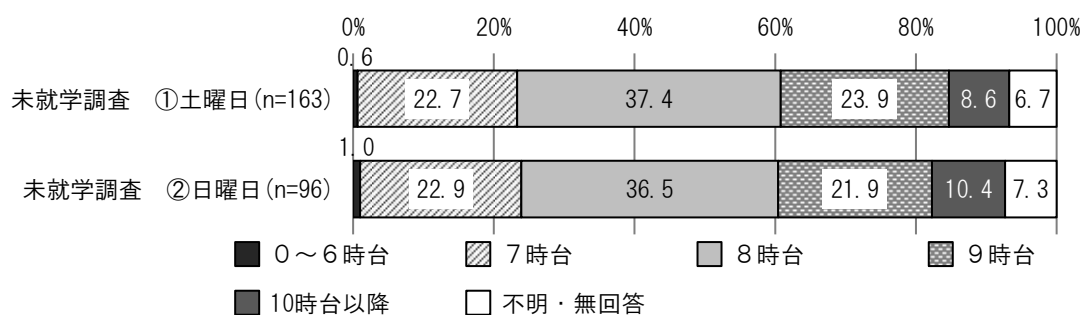
問 17（未就学調査） 宛名のお子さまについて、土曜日・日曜日に定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。（単数回答）

「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回利用したい」をあわせて、土曜日で約3割、日曜日で1割台のニーズがみられます。



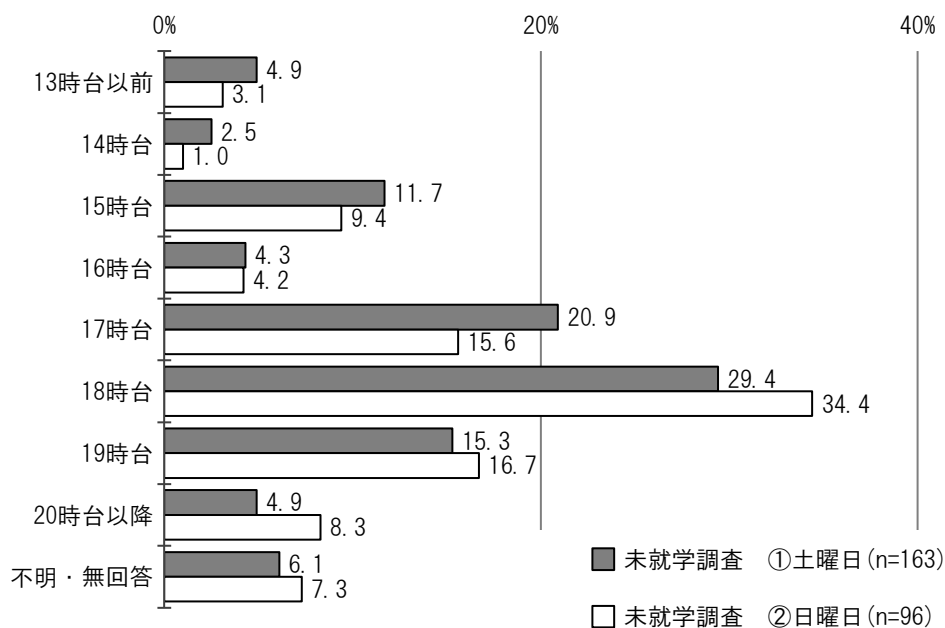
付問 利用したい時間帯（開始時間）※それぞれ利用したい方のみ回答（数量回答）

土曜日・日曜日について、いずれも「8時台」が最も多くなっています。



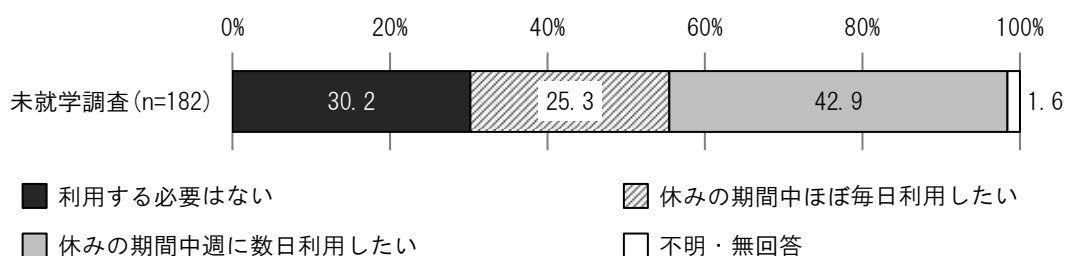
付問 利用したい時間帯（終了時間）※それぞれ利用したい方のみ回答（数量回答）

土曜日・日曜日について、いずれも「18時台」が最も多くなっています。



問 18 宛名のお子さまについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。 ※問 13 で「幼稚園」「幼稚園の預かり保育」を選んだ方のみ回答（単数回答）

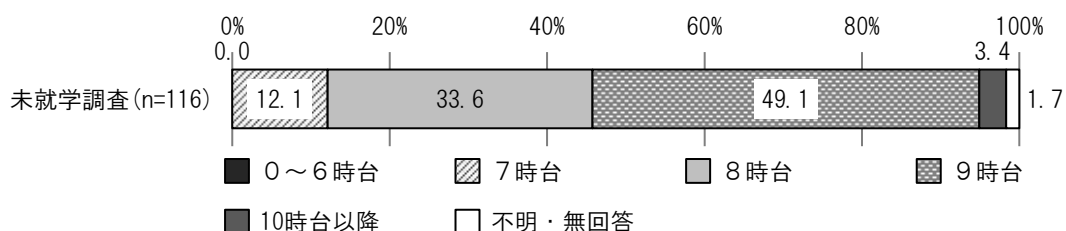
「休みの期間中週に数日利用したい」が42.9%と最も多くなっています。



付問 利用したい時間帯（開始時間） ※利用したい方のみ回答

（数量回答）

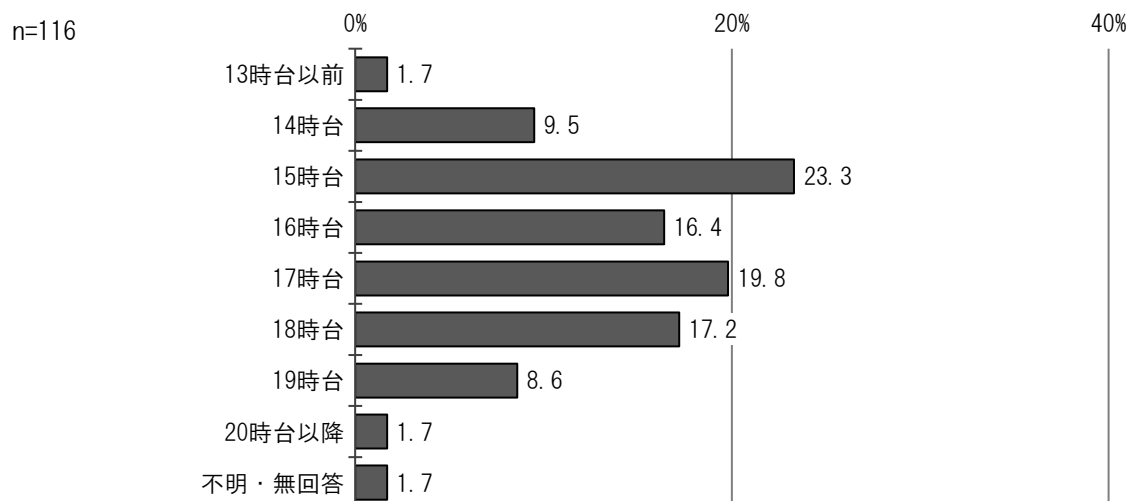
「9時台」が49.1%と最も多くなっています。



付問 利用したい時間帯（終了時間） ※利用したい方のみ回答

（数量回答）

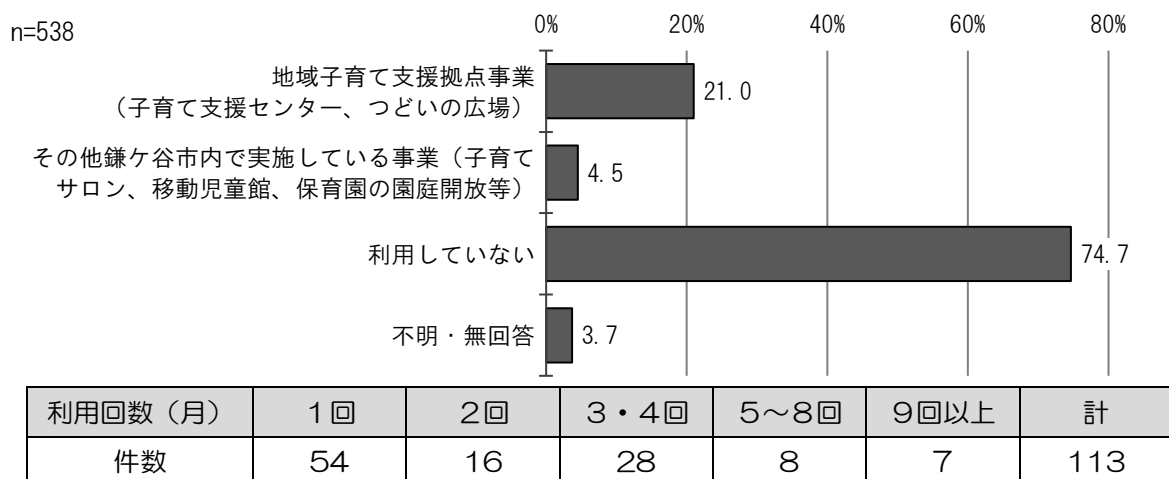
「15時台」が23.3%、次いで「17時台」が19.8%となっています。



(4) 子育て支援サービスの利用について

問 19（未就学調査） 宛名のお子さまは、現在、鎌ヶ谷市の地域子育て支援拠点事業を利用していますか。おおよその利用回数（頻度）もご記入ください。（複数回答）

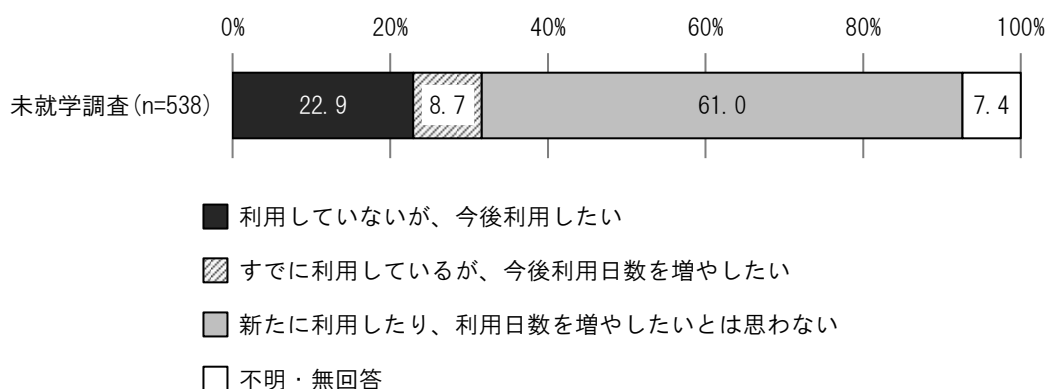
「利用していない」が74.7%、「地域子育て支援拠点事業」が21.0%となっています。
地域子育て支援拠点事業の利用回数は、月1回が最も多くなっています。



問 20（未就学調査） 鎌ヶ谷市の地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。（単数回答）

「利用していないが、今後利用したい」は22.9%となっています。

現状の利用回数と今後増やしたい回数を足して算出した、今後の利用回数の希望については、「1回」「3・4回」が多くなっています。



問 21（未就学調査） 次の事業について、知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。（単数回答）

「⑥児童センター」については、認知度・利用経験・利用意向がいずれも高くなっています。

「⑦子育て相談窓口」については、認知度は高いですが、利用経験は低くなっています。利用意向については、約4割と一定程度みられます。

「⑨子育て・子育て支援ガイド、ホームページ、アプリ」については、全事業の中で利用意向が2番目に高くなっています。

「⑬発達相談窓口」など6つの事業で認知度が5割を下回っていますが、いずれも利用意向は2割程度みられます。

事業（n=538, 単位：％）	知っている	これまでに利用したことがある	今後利用したい
⑥児童センター	84.8	70.3	62.1
③保健推進員による乳児訪問	80.5	72.3	30.1
⑤保育園の園庭開放等	72.9	32.3	42.9
⑦子育て相談窓口	71.9	14.5	37.7
⑨子育て・子育て支援ガイド、ホームページ、アプリ	70.6	48.1	52.0
①プレママ教室・パパママ教室	65.8	29.4	15.1
④ブックスタート事業	63.2	55.4	41.3
②新ママサロン・0歳児サロン	50.2	19.5	17.3
⑬発達相談窓口	41.4	11.7	26.6
⑩健康増進課主催の地区健康相談	40.5	16.4	27.7
⑧乳児療育相談窓口	39.8	6.7	22.5
⑭子育て支援コーディネーター（窓口・ホームページ）	30.7	8.0	24.7
⑫ふれあい談話室・教育相談室	19.7	1.7	19.5
⑪公民館主催の家庭教育セミナー	16.0	1.5	17.5

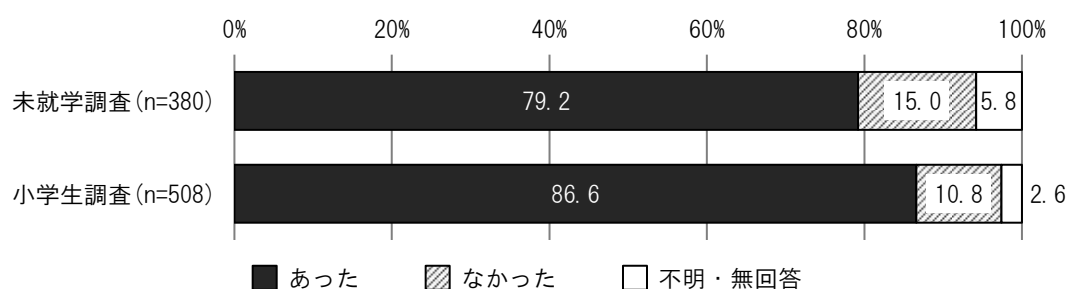
※「知っている」が多い順で掲載

問 22（未就学調査） 問 18（小学生調査） この1年間に、宛名のお子さまが病気やケガで施設の利用ができなかったことはありますか。

※未就学調査では定期的な教育・保育事業の利用がある方のみ回答

（単数回答）

「あった」について、〈未就学調査〉では79.2%、〈小学生調査〉では86.6%となっています。



付問 宛名のお子さまが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法はどれですか。

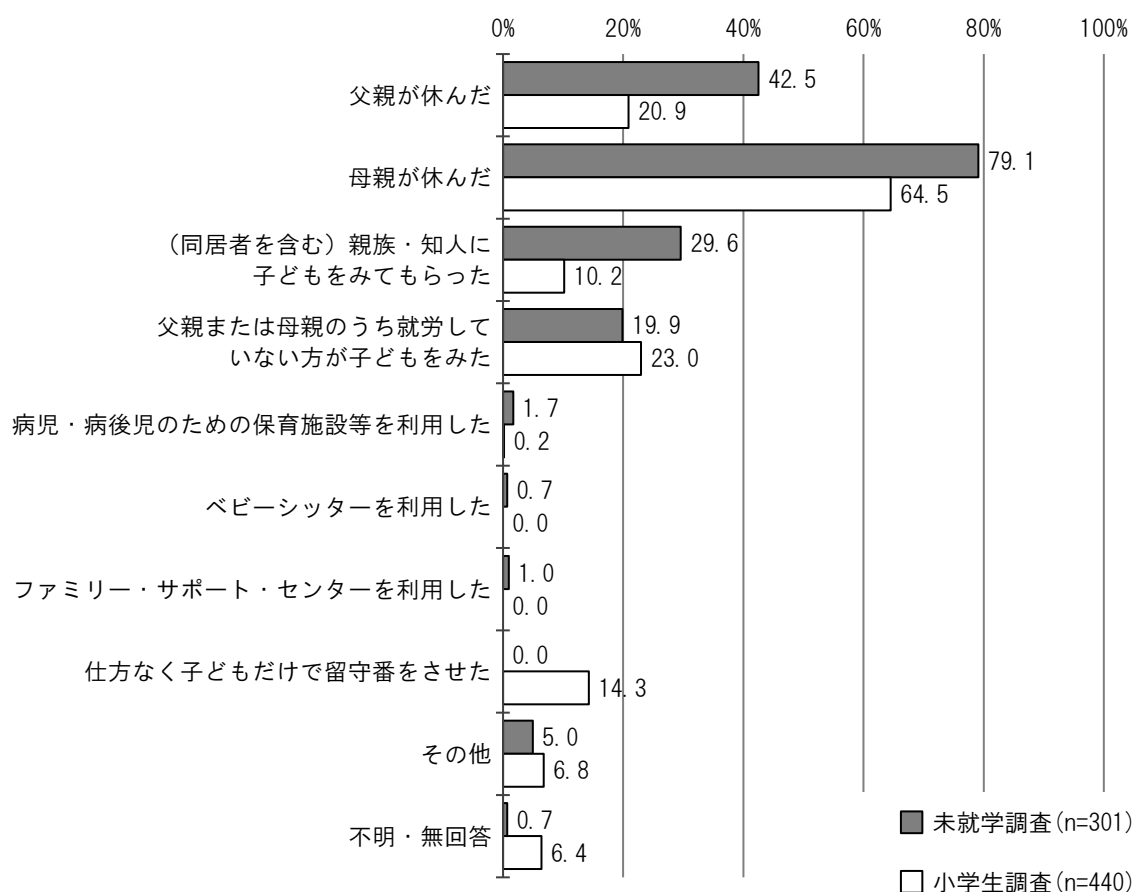
※問22(18)で「あった」を選んだ方のみ回答

(複数回答)

〈未就学調査〉では、「母親が休んだ」が79.1%と最も多く、次いで「父親が休んだ」が42.5%となっています。

〈小学生調査〉では、「母親が休んだ」が64.5%と最も多く、次いで「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」が23.0%となっています。

対処方法の日数については表の通りで、未就学調査で小学生調査より長い傾向がみられます。



(対処方法ごとの日数：%) ※不明・無回答は掲載を省略しています。

調査種類	対処方法	n	1・2日	3・4日	5～9日	10～14日	15～19日	20日以上
未就学調査	父親が休んだ	128	26.6	14.1	28.9	17.2	6.3	3.1
	母親が休んだ	238	5.5	9.2	31.5	22.7	8.4	13.9
	親族・知人にみてもらった	89	19.1	16.9	21.3	22.5	2.2	7.9
	就労していない方がみた	60	10.0	5.0	16.7	25.0	5.0	28.3
小学生調査	父親が休んだ	91	58.2	22.0	12.1	2.2	1.1	0.0
	母親が休んだ	282	26.6	23.0	24.5	14.9	1.4	1.4
	親族・知人にみてもらった	45	28.9	33.3	22.2	6.7	2.2	0.0
	就労していない方がみた	101	7.9	18.8	29.7	19.8	4.0	7.9
	留守番をさせた	62	56.5	17.7	12.9	3.2	1.6	0.0

付問 病気やケガのお子さまを父親または母親が休んでみた際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。

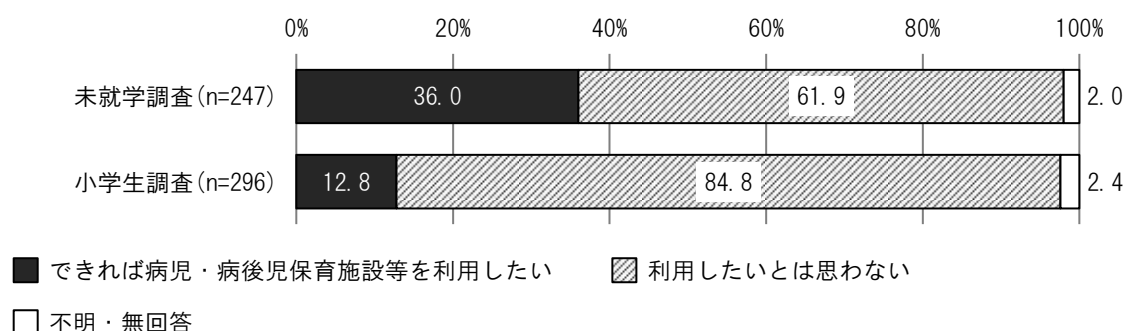
※前問で「父親が休んだ」または「母親が休んだ」を選んだ方のみ回答

(単数回答)

〈未就学調査〉では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が36.0%となっています。

〈小学生調査〉では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が12.8%となっています。

利用したいと思った日数については、〈未就学調査〉では「10～14日」が、〈小学生調査〉では「5～9日」が多くなっています。



(できれば利用したいと思った日数：%) ※不明・無回答は掲載を省略しています。

	n	1・2日	3・4日	5～9日	10～14日	15～19日	20日以上
未就学調査	88	13.6	13.6	25.0	27.3	2.3	10.2
小学生調査	34	10.5	31.6	34.2	13.2	0.0	0.0

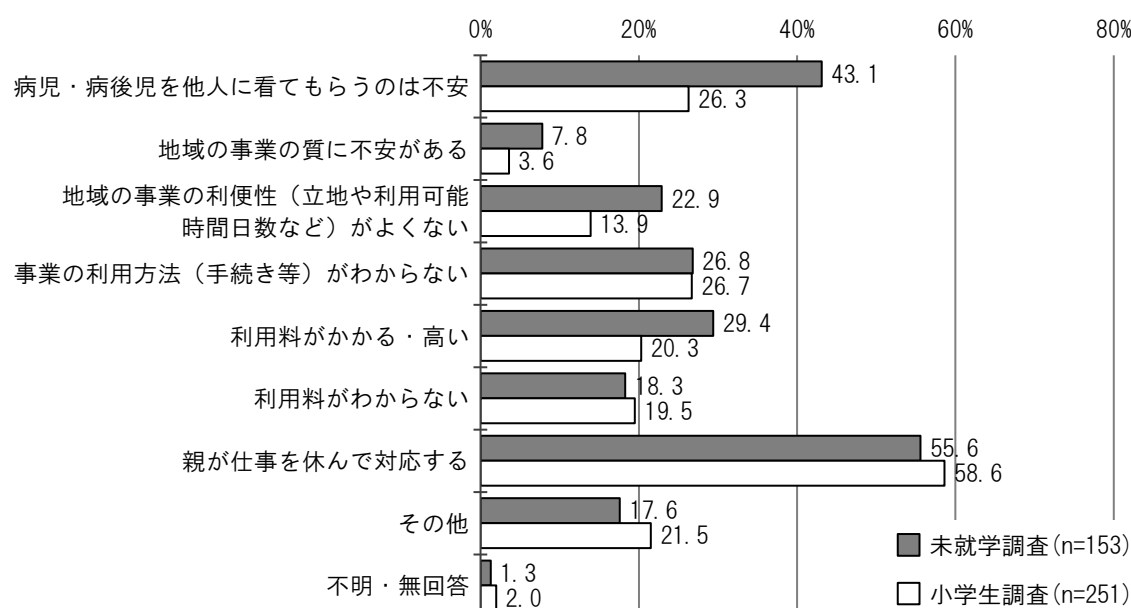
付問 利用したいとは思わない理由はなんですか。

※前問で「利用したいとは思わない」を選んだ方のみ回答

(複数回答)

〈未就学調査〉では、「親が仕事を休んで対応する」が55.6%と最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が43.1%となっています。

〈小学生調査〉では、「親が仕事を休んで対応する」が58.6%と最も多く、次いで「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が26.7%となっています。

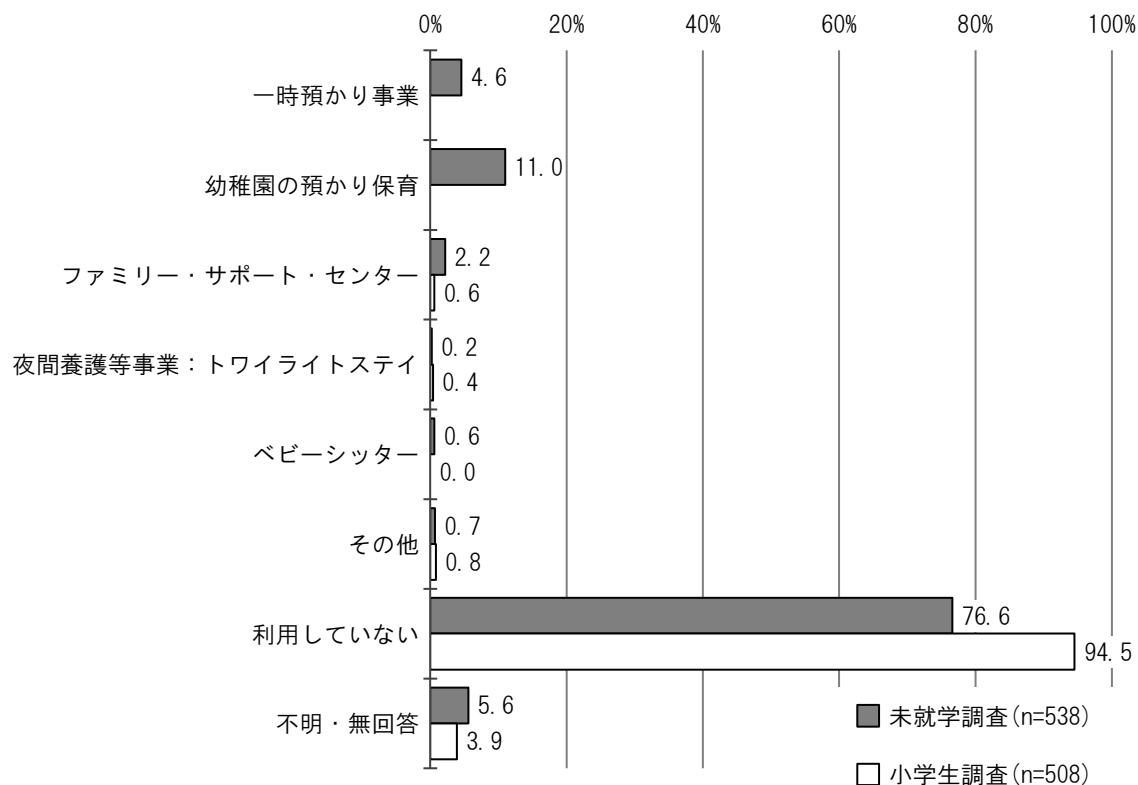


問 23（未就学調査） 問 19（小学生調査）

宛名のお子さまについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。（複数回答）

〈未就学調査〉では、「利用していない」が76.6%、「幼稚園の預かり保育」が11.0%となっています。

〈小学生調査〉では、「利用していない」が94.5%となっています。



※「一時預かり事業」「幼稚園の預かり保育」は、未就学調査のみの選択肢です。

（利用している日数：％）※不明・無回答は掲載を省略しています。

区分・事業		n	1～4日	5～9日	10～14日	15～19日	20～39日	40日以上
未就学調査	一時預かり事業	25	16.0	32.0	0.0	24.0	12.0	12.0
	幼稚園の預かり保育	58	19.0	15.5	8.6	29.3	15.5	13.8

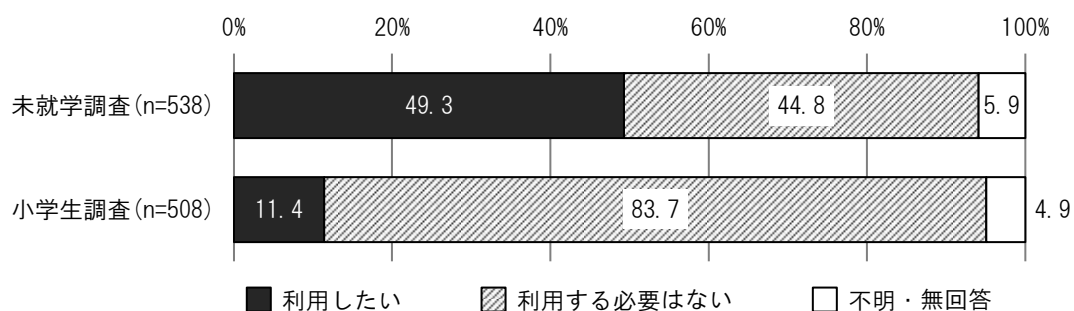
問 24（未就学調査） 問 20（小学生調査）

宛名のお子さまについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、事業を利用する必要があると思いますか。
（単数回答）

〈未就学調査〉では、「利用したい」が49.3%となっています。

〈小学生調査〉では、「利用したい」が11.4%となっています。

利用したいと思う日数については、合計では〈未就学調査〉で10～19日、〈小学生調査〉で5～9日が最も多くなっています。



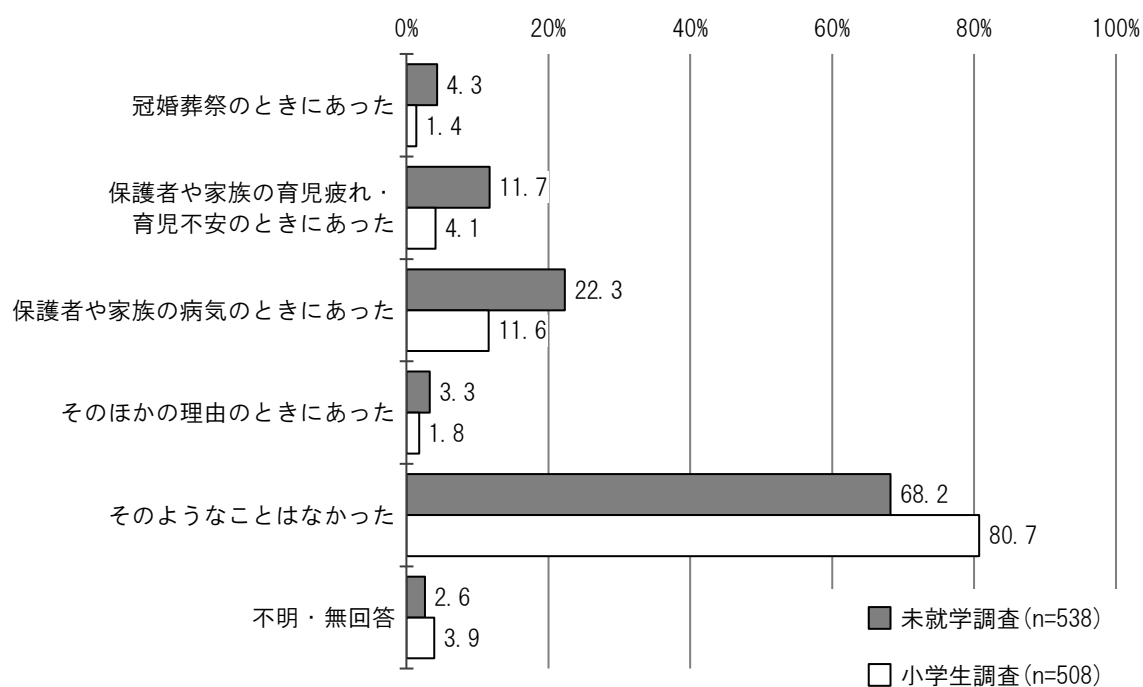
（目的別にみた利用したいと思う割合・日数：％）

区分・事業		n	1～4日	5～9日	10～19日	20～39日	40日以上	0日・無回答
未就学調査	私用・リフレッシュ目的	265	16.6	18.1	28.3	8.7	2.7	25.6
	冠婚葬祭、学校行事、通院	265	16.9	18.8	22.3	3.8	0.0	38.1
	不定期の就労	265	4.2	3.8	9.1	2.6	3.4	77.0
	合計日数	265	11.3	12.1	32.8	21.9	10.2	11.7
小学生調査	私用・リフレッシュ目的	58	25.8	13.7	10.4	6.9	0.0	43.2
	冠婚葬祭、学校行事、通院	58	22.4	29.3	17.2	0.0	0.0	31.0
	不定期の就労	58	10.4	6.9	1.7	3.5	0.0	77.6
	合計日数	58	12.1	36.2	20.7	10.3	5.1	15.5

問 25（未就学調査） 問 21（小学生調査） この１年間で、以下のような用事や育児の負担・不安から、宛名のお子さまを泊りがけで家族以外にみてもらう必要があると感じたことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。 （複数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに「そのようなことはなかった」が最も多くなっています。

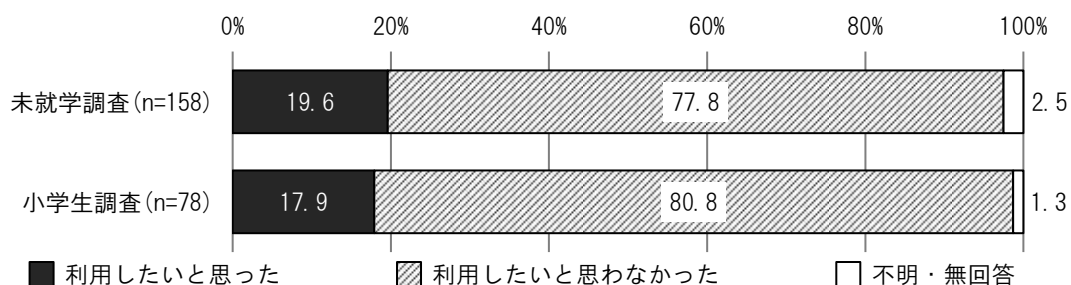
次いで「保護者や家族の病気のときにあった」が〈未就学調査〉では 22.3%、〈小学生調査〉で 11.6%となっています。



付問 泊りがけで家族以外に宛名のお子さまをみてもらわないといけなかったとき、短期入所生活援助事業を利用したいと思いましたか。※問 25 (21) で「冠婚葬祭のときにあった」から「その他の理由のときにあった」のうち1つ以上を選んだ方のみ回答 (単数回答)

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに「利用したいと思った」が2割弱となっています。

利用したいと思う日数については、1・2日が多くなっています。



(利用したいと思う日数：%) ※不明・無回答は掲載を省略しています。

	n	1・2日	3・4日	5～9日	10～14日	15日以上
未就学調査	31	67.7	12.9	3.2	12.9	0.0
小学生調査	14	50.0	21.4	21.4	0.0	0.0

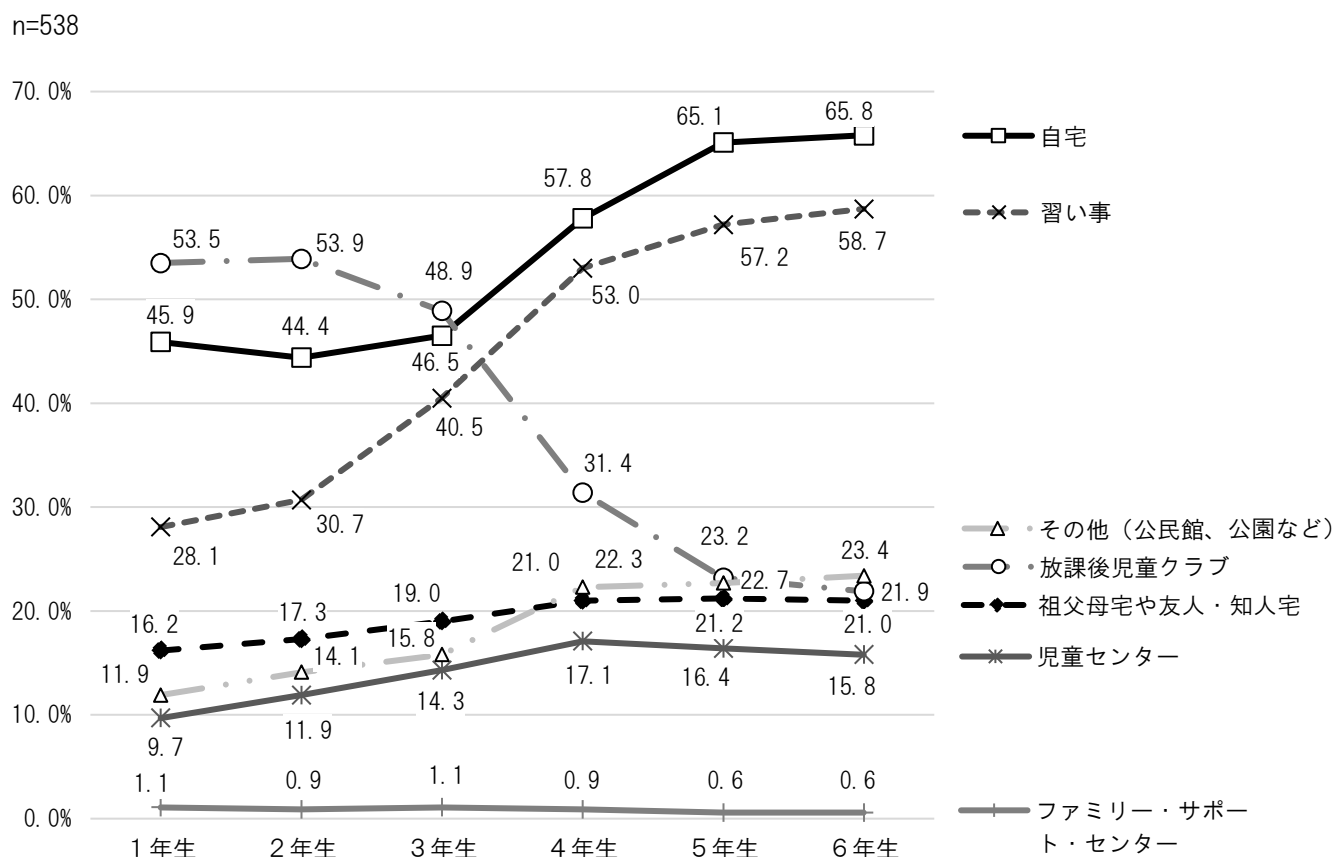
(5) 放課後の過ごし方について

問 26 (未就学調査) 宛名のお子さまについて、小学生になったとき、放課後をどのような場所で過ごさせたいと思っていますか。(複数回答)

問 27 (未就学調査) 宛名のお子さまについて、問 26 で選んだ場所で過ごさせたいと希望するのは、週何日くらいですか。(数量回答)

「放課後児童クラブ」については、3年生以下では約5割、4年生で約3割、5・6年生で約2割となっています。「習い事」については、年代が上がるほど増加しています。

日数についてみると、低学年のうちでは放課後児童クラブで「5～7日」が多くなっています。



未就学調査 (%)		n	1・2日	3・4日	5～7日	0日・無回答
低学年のうち	自宅	538	35.7	19.1	20.1	25.2
	祖父母宅や友人・知人宅	538	18.4	2.5	1.5	77.6
	習い事	538	33.5	6.3	0.6	59.6
	児童センター	538	9.9	2.0	1.9	86.2
	放課後児童クラブ	538	8.2	12.4	31.6	47.8
	ファミリー・サポート・センター	538	1.6	0.0	0.0	98.4
	その他 (公民館、公園など)	538	11.4	4.8	1.1	82.7
高学年になってから	自宅	538	33.3	24.0	25.3	17.4
	祖父母宅や友人・知人宅	538	21.9	4.1	1.3	72.7
	習い事	538	44.4	16.5	3.4	35.7
	児童センター	538	14.7	2.8	0.6	81.9
	放課後児童クラブ	538	9.9	5.4	7.9	76.8
	ファミリー・サポート・センター	538	0.6	0.0	0.0	99.4
	その他 (公民館、公園など)	538	17.0	7.2	2.6	73.2

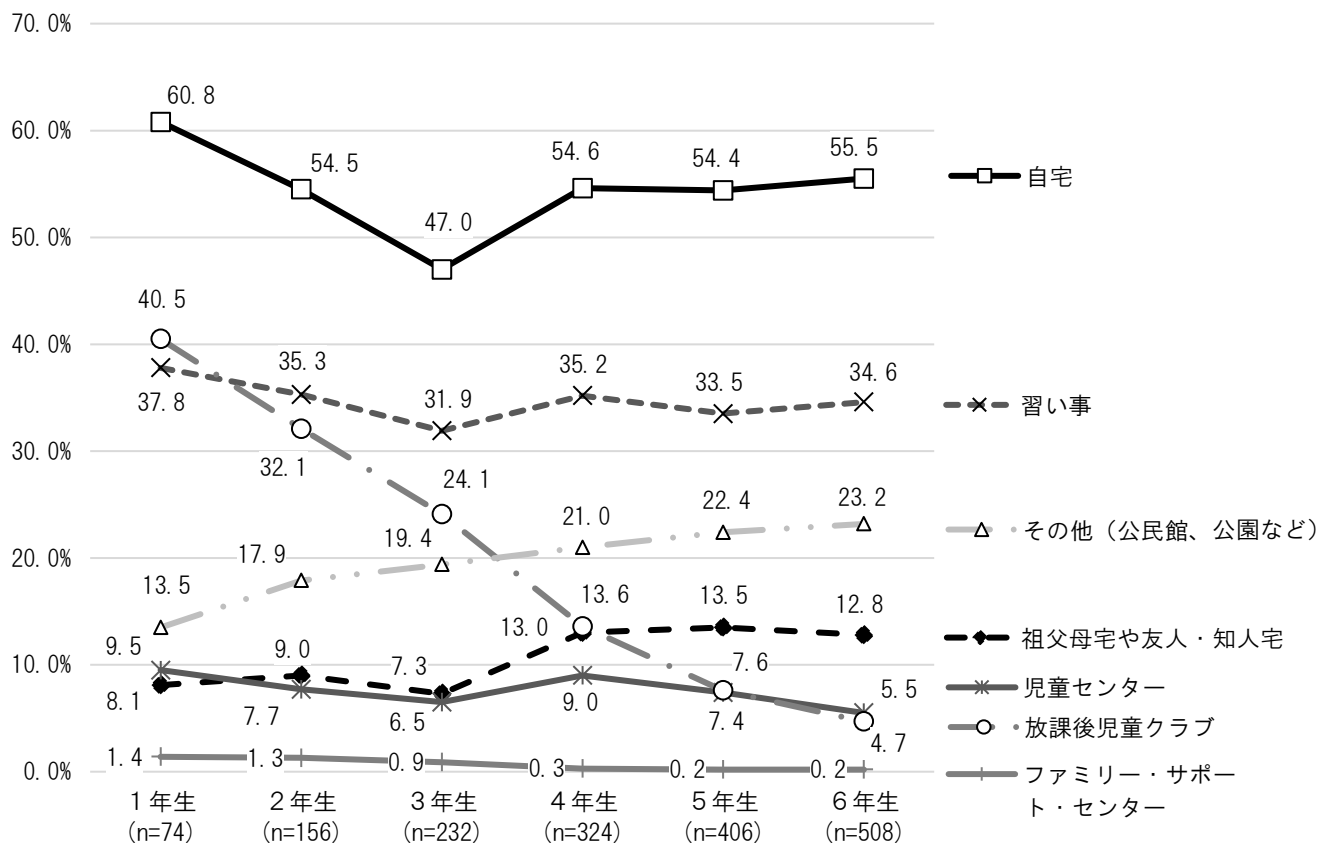
問 12 (小学生調査) 宛名のお子さまについて、放課後をどのような場所で過ごしていますか。また、
 今後はどのような場所で過ごさせたいと思っていますか。 (複数回答)

問 13 (小学生調査) 宛名のお子さまについて、問 26 で選んだ場所で過ごさせたいと希望するのは、
 週何日くらいですか。 (数量回答)

「放課後児童クラブ」については、年代が上がるほど少なくなっています。

「自宅」「習い事」については、年代による大きな変化の傾向はみられません。

nは学年ごとに記載



※現在及び未来について回答 (例えば、5年生は5・6年生についてのみ回答)

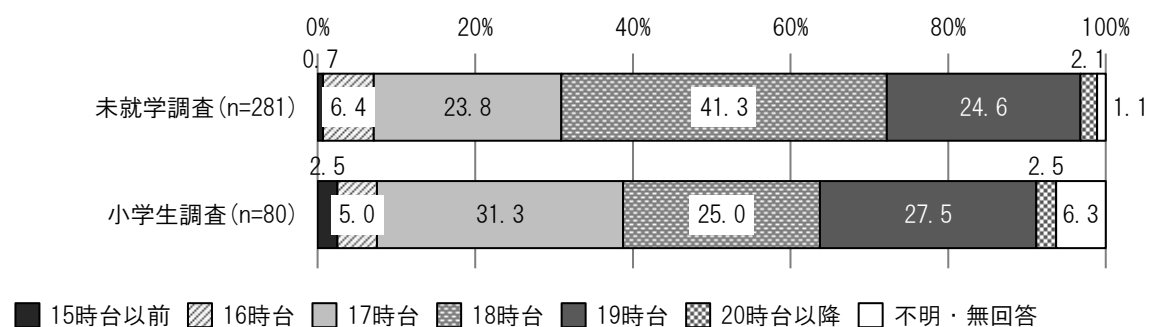
小学生調査 (%)		n	1・2日	3・4日	5～7日	0日・無回答
低学年のうち	自宅	232	31.8	27.2	23.7	17.3
	祖父母宅や友人・知人宅	232	15.5	0.5	0.0	84.0
	習い事	232	36.7	16.9	0.8	45.6
	児童センター	232	8.6	1.3	1.3	88.8
	放課後児童クラブ	232	2.6	9.9	15.1	72.4
	ファミリー・サポート・センター	232	0.8	0.5	0.0	98.7
	その他 (公民館、公園など)	232	22.8	6.5	0.9	69.8
高学年になつてから	自宅	508	27.5	24.4	22.9	25.2
	祖父母宅や友人・知人宅	508	16.1	1.2	1.0	81.7
	習い事	508	29.3	19.1	3.2	48.4
	児童センター	508	7.5	0.8	0.6	91.1
	放課後児童クラブ	508	2.4	2.4	2.4	92.8
	ファミリー・サポート・センター	508	0.4	0.2	0.2	99.2
	その他 (公民館、公園など)	508	22.6	7.9	2.6	66.9

※「低学年のうち」については1～3年生のみ回答

問 27-1（未就学調査） 問 14（小学生調査）

①低学年 宛名のお子さまについて、放課後児童クラブを下校時から何時くらいまで利用したいと思いますか。※小学生調査では、1～3年生のみ回答（数量回答）

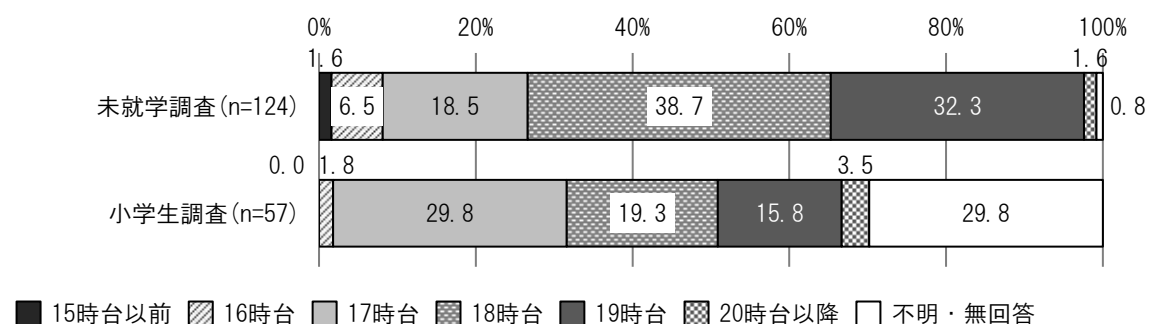
＜未就学調査＞では、「18 時台」が 41.3%と最も多く、次いで「19 時台」が 24.6%となっています。
 ＜小学生調査＞では、「17 時台」が 31.3%と最も多く、次いで「19 時台」が 27.5%となっています。



問 27-1（未就学調査） 問 14（小学生調査）

②高学年 宛名のお子さまについて、放課後児童クラブを下校時から何時くらいまで利用したいと思いますか。（数量回答）

＜未就学調査＞では、「18 時台」が 38.7%と最も多く、次いで「19 時台」が 32.3%となっています。
 ＜小学生調査＞では、「17 時台」が 29.8%と最も多く、次いで「18 時台」が 19.3%となっています。

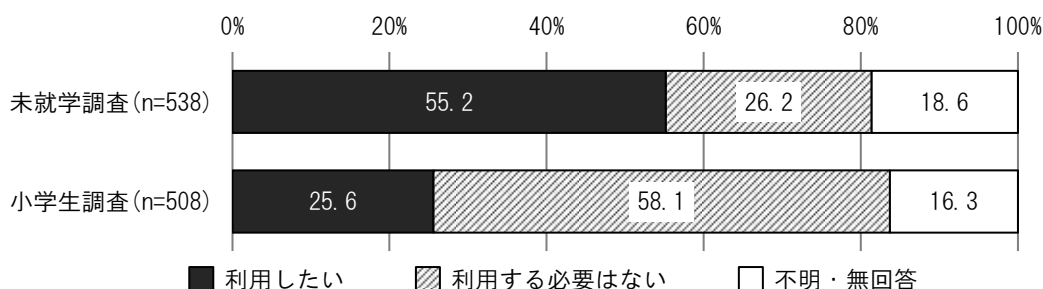


問 28（未就学調査） 問 15（小学生調査）

宛名のお子さまについて、お子さまの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。（単数回答）

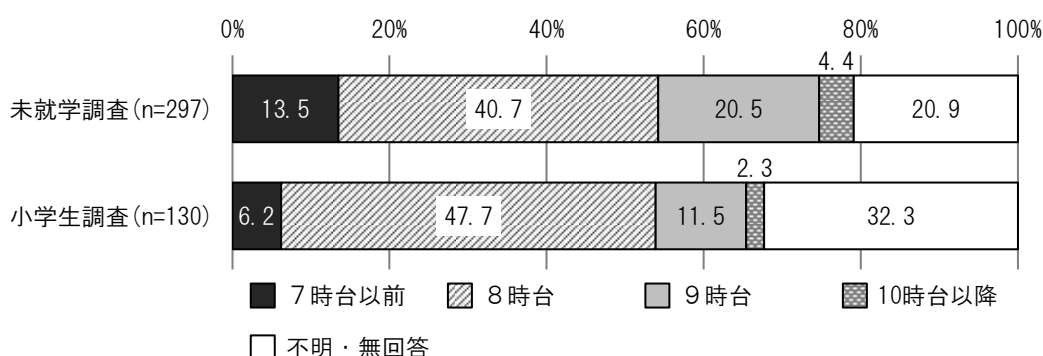
〈未就学調査〉では、「利用したい」が55.2%、「利用する必要はない」が26.2%となっています。

〈小学生調査〉では、「利用する必要はない」が58.1%、「利用したい」が25.6%となっています。



付問 利用したい時間帯（開始時間） ※問 28（15）で「利用したい」を選んだ方のみ回答
（数量回答）

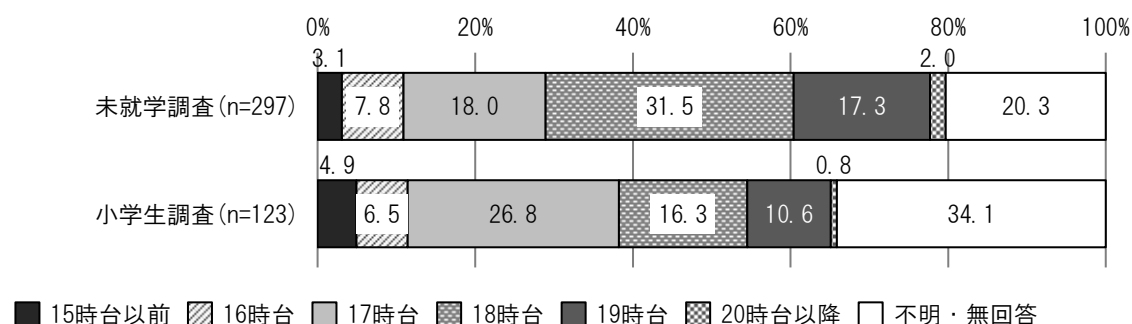
〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「8時台」が4割台と最も多く、次いで「9時台」となっています。



付問 利用したい時間帯（終了時間） ※問 28（15）で「利用したい」を選んだ方のみ回答
（数量回答）

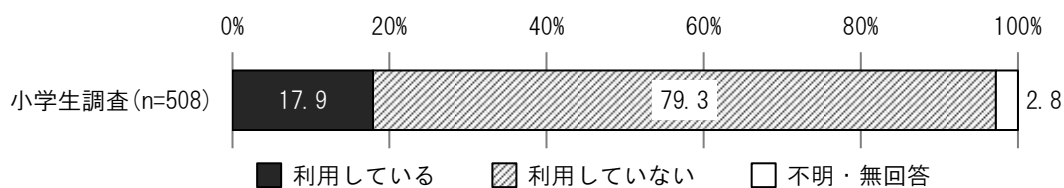
〈未就学調査〉では、「18時台」が31.5%と最も多く、次いで「17時台」が18%となっています。

〈小学生調査〉では、「17時台」が26.8%と最も多く、次いで「18時台」が16.3%となっています。



問 16（小学生調査） 宛名のお子さまは、普段児童センターを利用していますか。（単数回答）

「利用している」は 17.9%となっています。

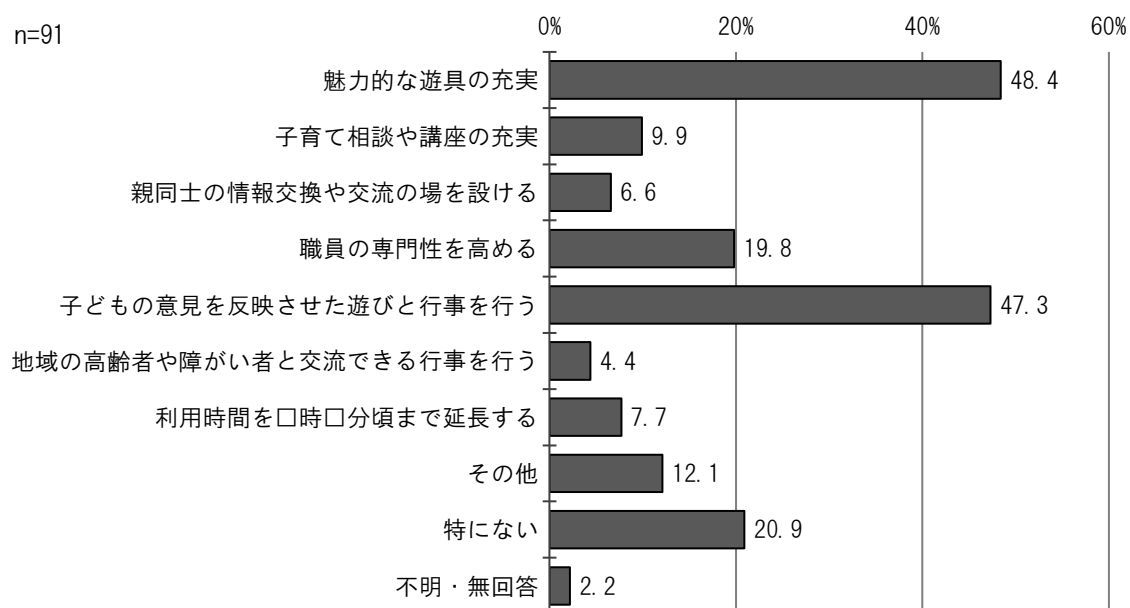


問 16-1 児童センターに対して何か要望はありますか。

※問 16 で「利用している」を選んだ方のみ回答

（複数回答）

「魅力的な遊具の充実」「子どもの意見を反映させた遊びと行事を行う」が5割弱となっています。

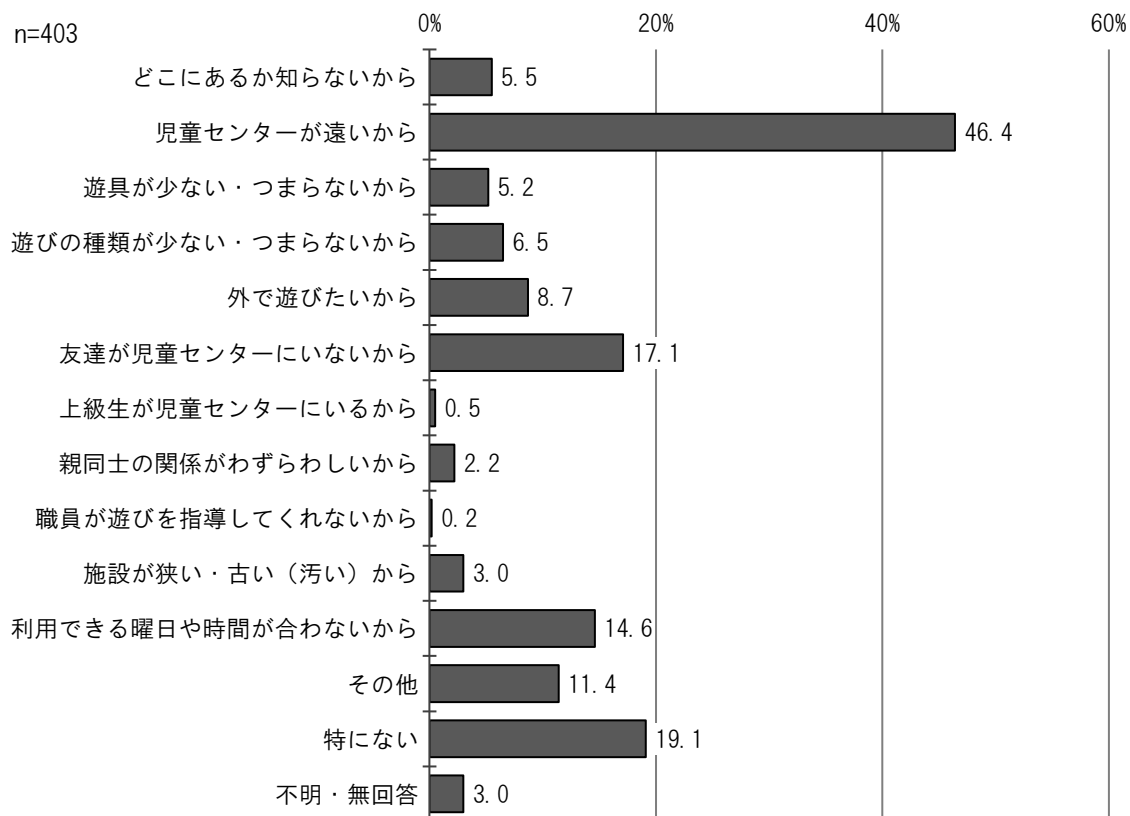


問 16-2 児童センターを利用していない理由は何ですか。

※問 16 で「利用していない」を選んだ方のみ回答

(複数回答)

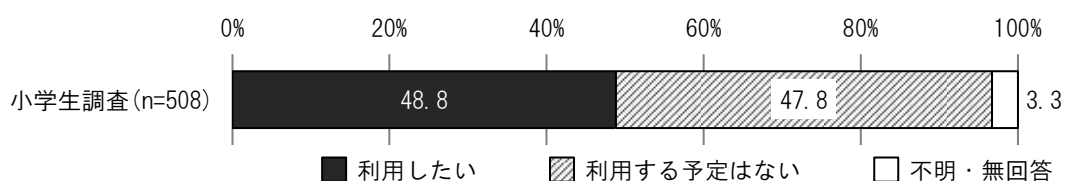
「児童センターが遠いから」が 46.4%と最も多く、次いで「特にない」「友達が児童センターにいないから」となっています。



問 17 児童センターを今後利用したいと思いますか。

(単数回答)

「利用したい」が 48.8%となっています。



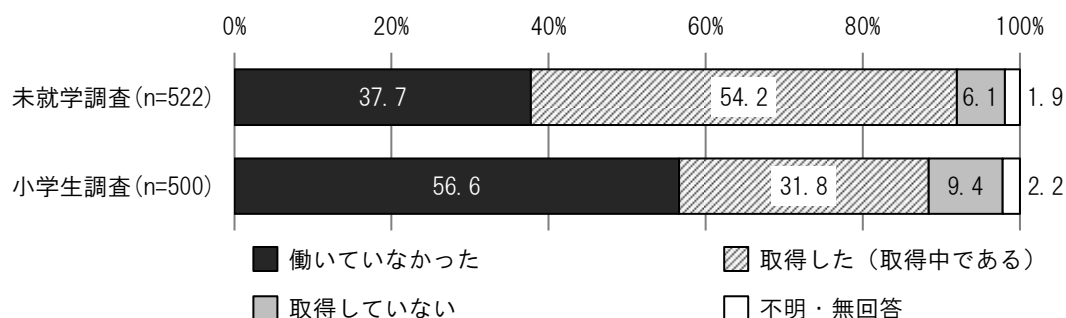
(6) 育児休業や短時間勤務制度について

問 29 (未就学調査) 問 25 (小学生調査)

①母親 宛名のお子さまが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。 ※問 2 で「母親」を選んだ方のみ集計 (単数回答)

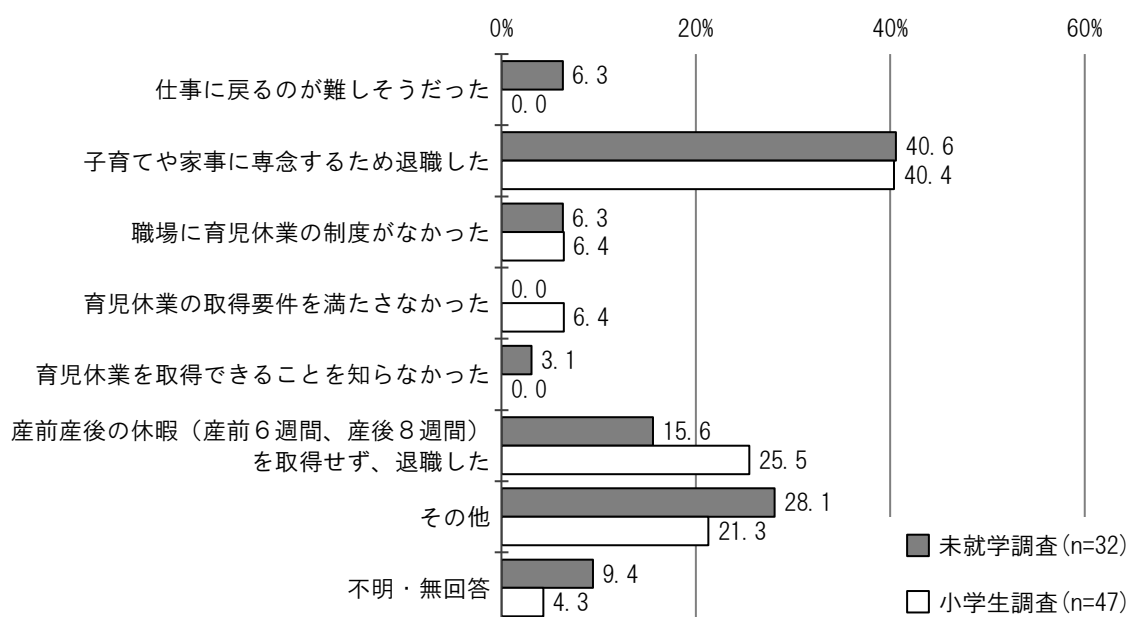
〈未就学調査〉では、「取得した (取得中である)」が 54.2%となっています。

〈小学生調査〉では、「取得した (取得中である)」が 31.8%となっています。



付問 取得していない理由 ※問 29 (25) ①で「取得していない」を選んだ方のみ回答 (複数回答)

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多くなっています。



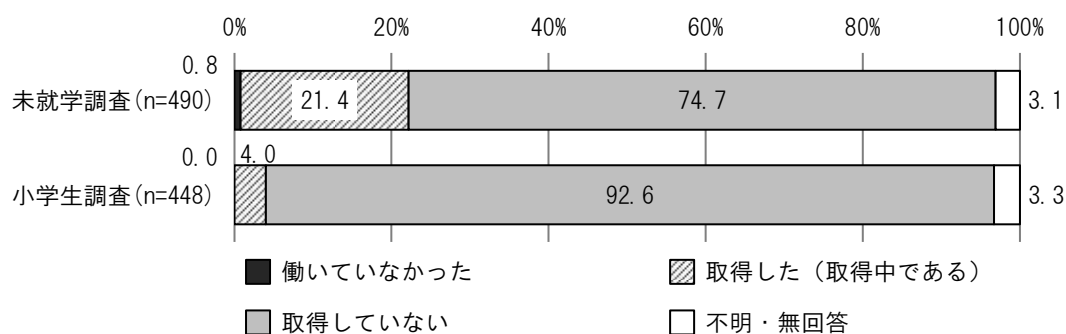
※「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「仕事が忙しかった」「(産休後に) 仕事に早く復帰しなかった」「昇給・昇格などが遅れそうだった」「収入源となり、経済的に苦しくなる」「保育所などに預けることができた」「配偶者が育児休業制度などを利用した」「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」はいずれの区分でも5%未満となっており、グラフへの掲載を省略しています。

問 29（未就学調査） 問 25（小学生調査）

②父親 宛名のお子さまが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。※問2で「父親」を選んだ方のみ集計（単数回答）

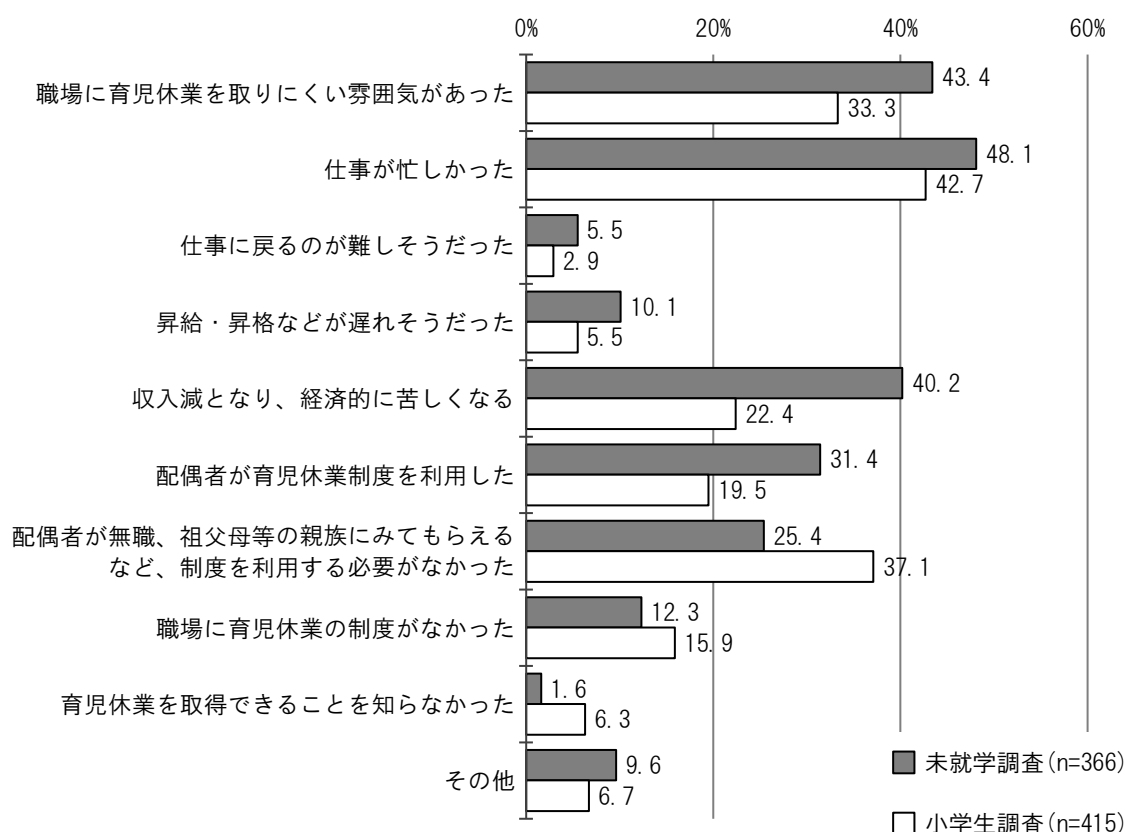
＜未就学調査＞では、「取得した（取得中である）」が21.4%となっています。

＜小学生調査＞では、「取得した（取得中である）」が4.0%となっています。



付問 取得していない理由 ※問 29（25）②で「取得していない」を選んだ方のみ回答（複数回答）

＜未就学調査＞＜小学生調査＞ともに、「仕事が忙しかった」が最も多くなっています。



※「仕事に早く復帰したかった」「保育所などに預けることができた」「子育てや家事に専念するため退職した」「育児休業の取得要件を満たさなかった」はいずれの区分でも5%未満となっており、グラフへの掲載を省略しています。

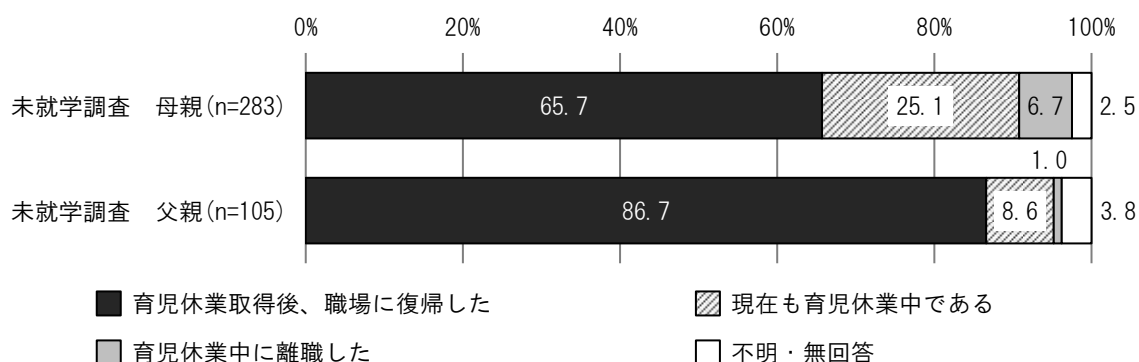
問 29-1（未就学調査） 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

※問 29 で「取得した（取得中である）」を選んだ方のみ回答

（単数回答）

〈未就学調査 母親〉では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が65.7%と最も多く、次いで「現在も育児休業中である」が25.1%となっています。

〈未就学調査 父親〉では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が86.7%と最も多く、次いで「現在も育児休業中である」が8.6%となっています。

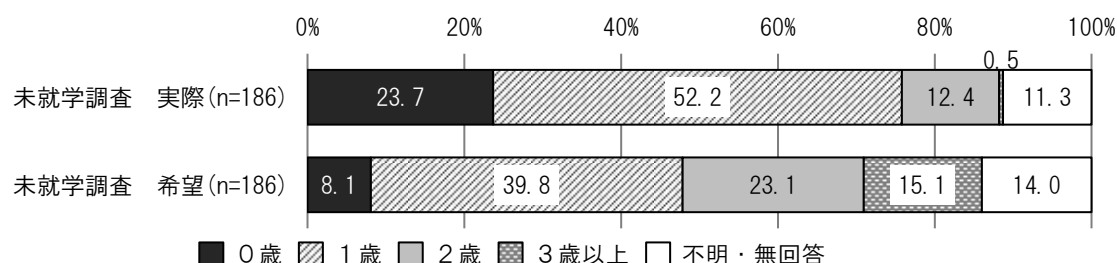


問 29-2（未就学調査） ①母親 育休を何歳まで取得したか

※問 29-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方のみ回答

（単数回答）

〈未就学調査 実際〉では、「1歳」が52.2%と最も多く、次いで「0歳」が23.7%となっています。希望と実際を比較すると、希望では「2歳」「3歳以上」が一定数みられ、長い傾向があります。

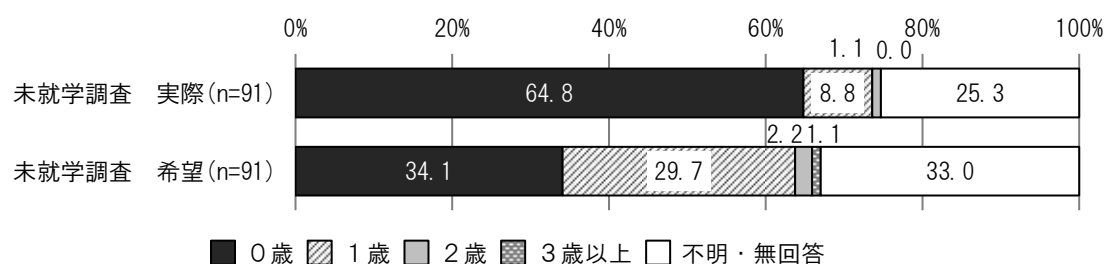


問 29-2（未就学調査） ②父親 育休を何歳まで取得したか

※問 29-1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」を選んだ方のみ回答

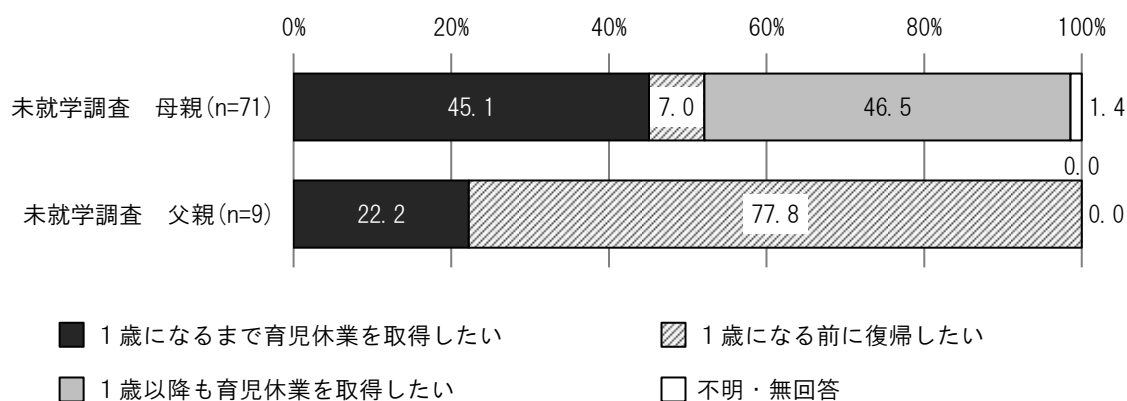
（単数回答）

〈未就学調査 実際〉では、「0歳」が64.8%と最も多く、次いで「1歳」が8.8%となっています。希望と実際を比較すると、希望では「1歳」が29.7%と一定数みられます。



問 29-3（未就学調査） 宛名のお子さまが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。※問 29-1 で「現在も育児休業中である」を選んだ方のみ回答（単数回答）

〈未就学調査 母親〉では、「1歳以降も育児休業を取得したい」が46.5%と最も多く、次いで「1歳になるまで育児休業を取得したい」が45.1%となっています。



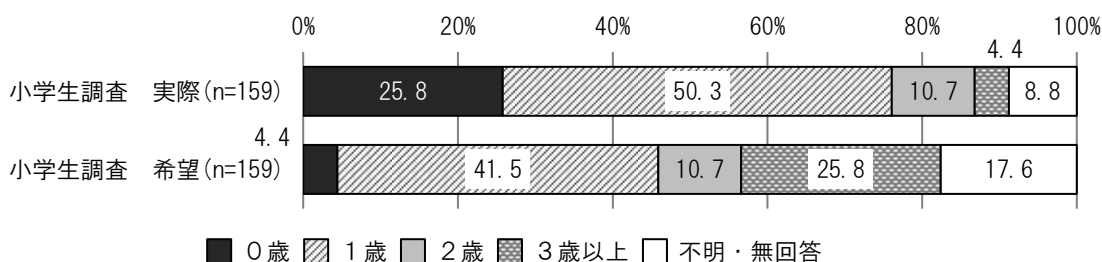
問 25-1（小学生調査） ①母親 育休を何歳まで取得したか

※問 25 で「取得した」を選んだ方のみ集計

（単数回答）

〈小学生調査 実際〉では、「1歳」が50.3%と最も多く、次いで「0歳」が25.8%となっています。

希望と実際を比較すると、希望では「3歳以上」も一定数みられ、長い傾向があります。



問 25-1（小学生調査） ①父親 育休を何歳まで取得したか

※問 25 で「取得した」を選んだ方のみ集計

（単数回答）

実際の取得期間は、18件中「0歳」が7件、不明・無回答が10件となっています。

希望は、18件中「0歳」が7件、不明・無回答が9件となっています。

（回答者数が少ないため、グラフの掲載を省略）

(7) 地域とのかかわりについて

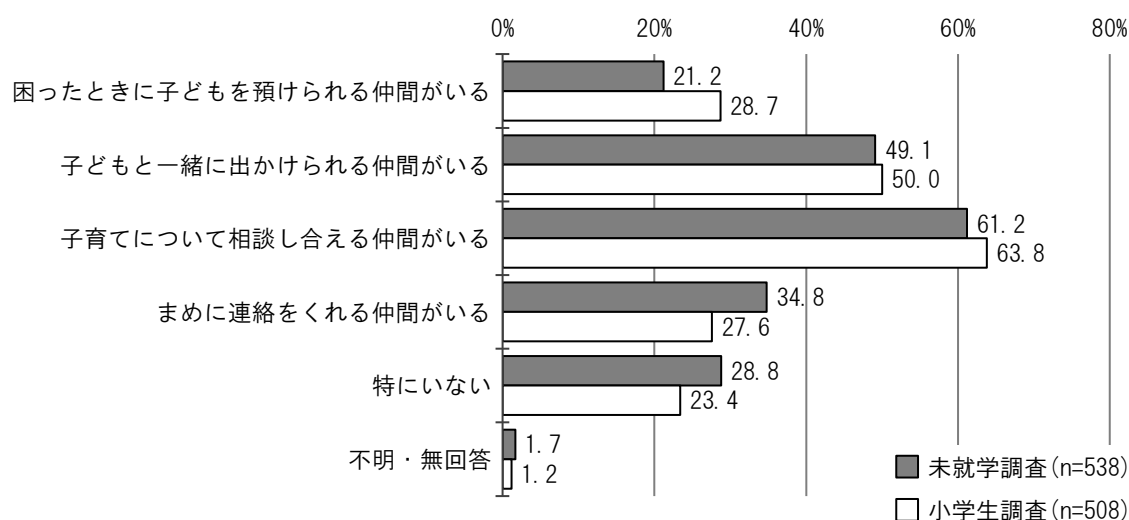
問 30 (未就学調査) 問 22 (小学生調査)

あなたには、子育てのことで交流したり相談できる仲間がいますか。

(複数回答)

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「子育てについて相談し合える仲間がいる」が6割台と最も多く、次いで「子どもと一緒に出かけられる仲間がいる」が約5割となっています。

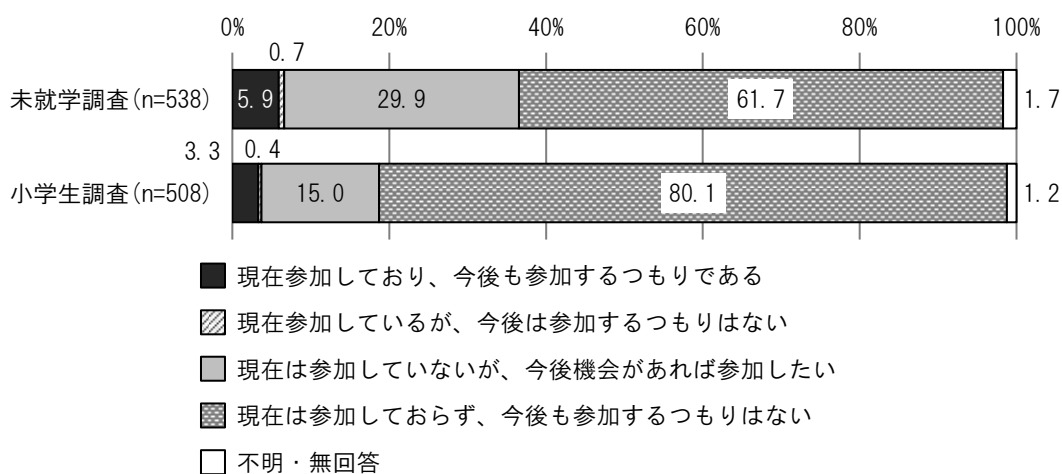
「特にいない」は〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに2割台となっています。



問 31 (未就学調査) 問 23 (小学生調査) あなたは、子育てサークルなどの自主的なグループ活動などに参加していますか。 (単数回答)

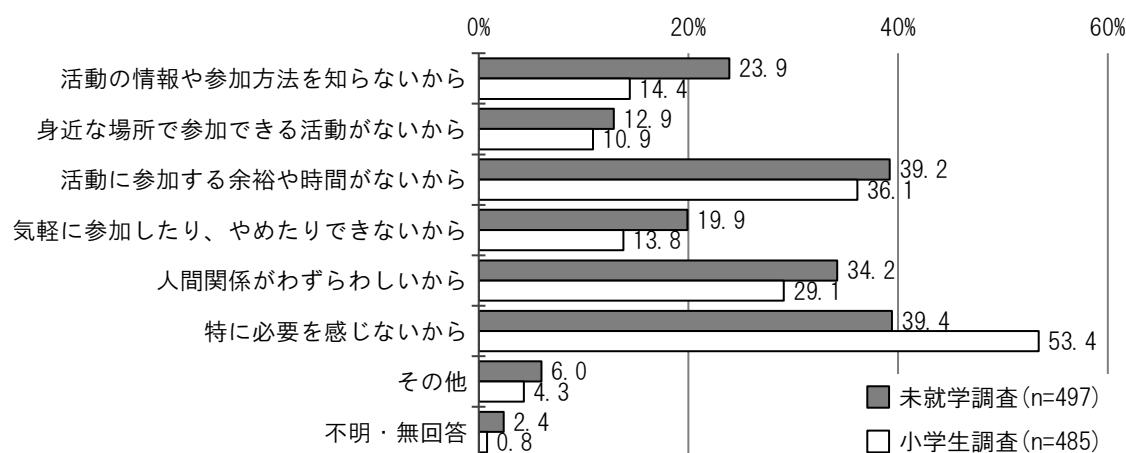
〈未就学調査〉では、「現在は参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が61.7%と最も多く、次いで「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が29.9%となっています。

〈小学生調査〉では、「現在は参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が80.1%と最も多く、次いで「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が15.0%となっています。



付問 参加していない理由、または今後参加しない理由は何ですか。 ※問 31 (23) で「現在参加しており、今後も参加するつもりである」以外を選んだ方のみ集計 (複数回答)

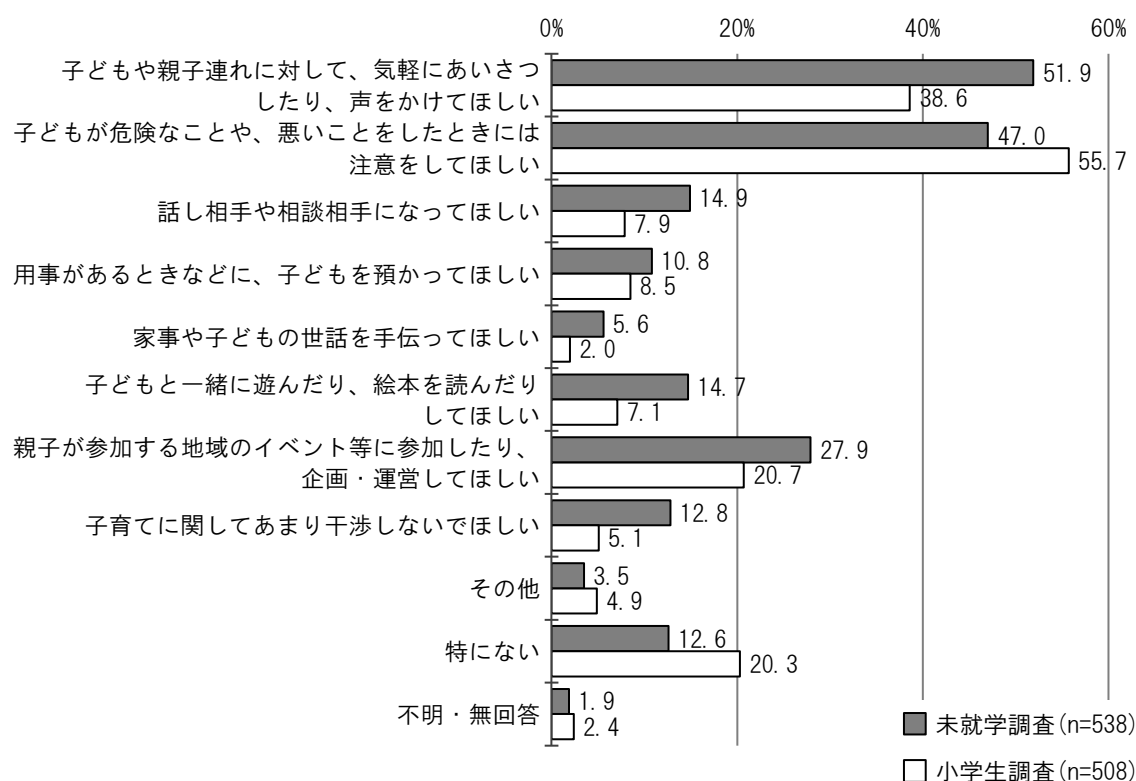
〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「特に必要を感じないから」が最も多く、次いで「活動に参加する余裕や時間がないから」「人間関係がわずらわしいから」となっています。



問 32 (未就学調査) 問 24 (小学生調査)
子育てに関して、地域の人にどのようなことを望みますか。 (複数回答)

〈未就学調査〉では、「気軽にあいさつしたり、声をかけてほしい」が51.9%と最も多く、次いで「危険なことや、悪いことをしたときには注意してほしい」が47.0%となっています。

〈小学生調査〉では、「危険なことや、悪いことをしたときには注意してほしい」が55.7%と最も多く、次いで「気軽にあいさつしたり、声をかけてほしい」が38.6%となっています。



(8)「こどもの権利」について

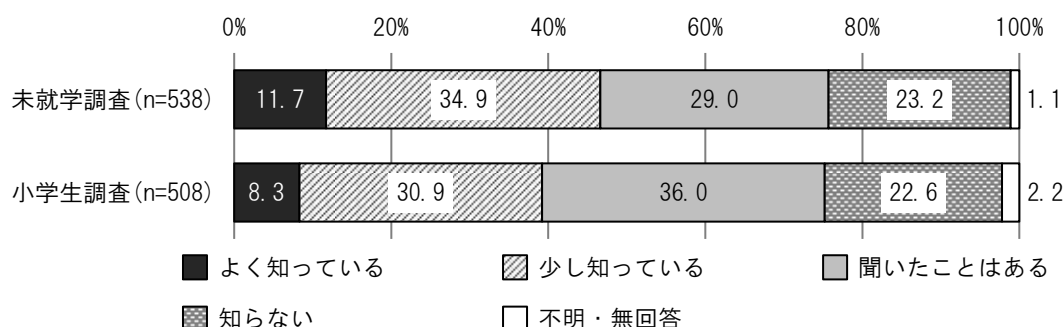
問 33 (未就学調査) 問 29 (小学生調査)

あなたは、「こどもの権利」について知っていますか。

(単数回答)

〈未就学調査〉では、「少し知っている」が34.9%と最も多く、次いで「聞いたことはある」が29.0%となっています。

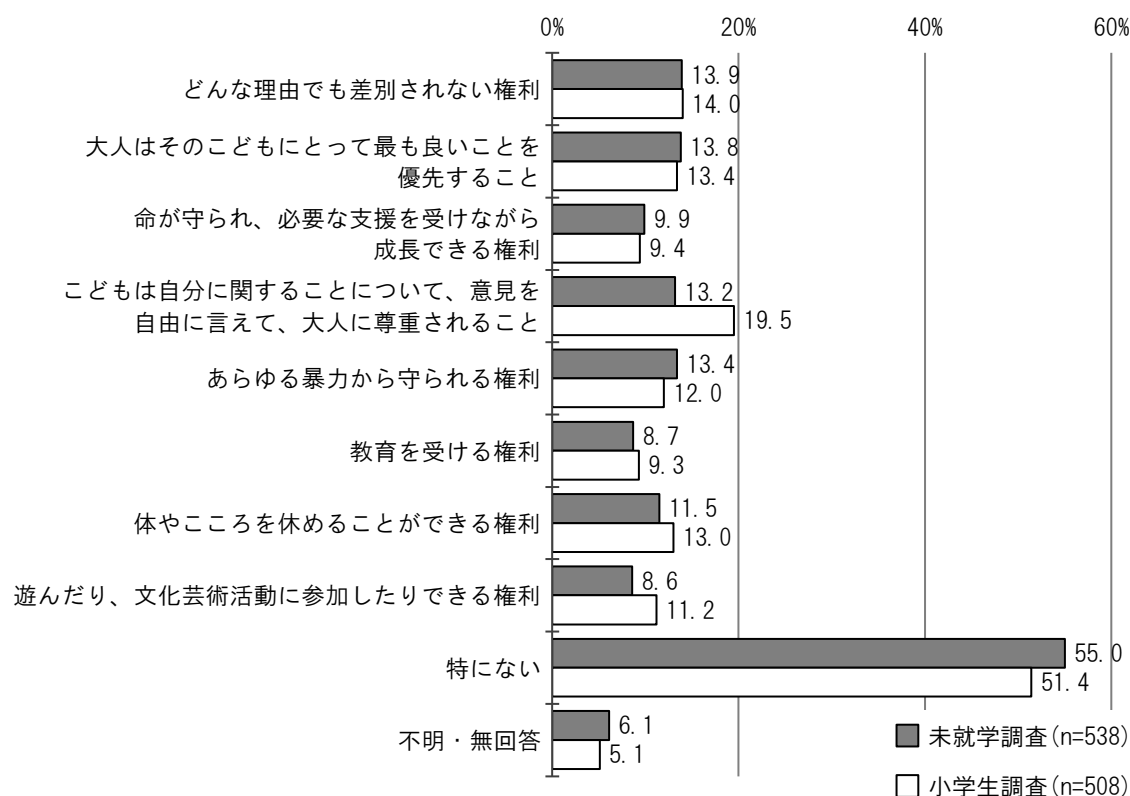
〈小学生調査〉では、「聞いたことはある」が36.0%と最も多く、次いで「少し知っている」が30.9%となっています。



問 34 (未就学調査) 問 30 (小学生調査) あなたの周りの子どもについて、次にあげるような「こどもの権利」が守られていないと感じるものはありますか。 (複数回答)

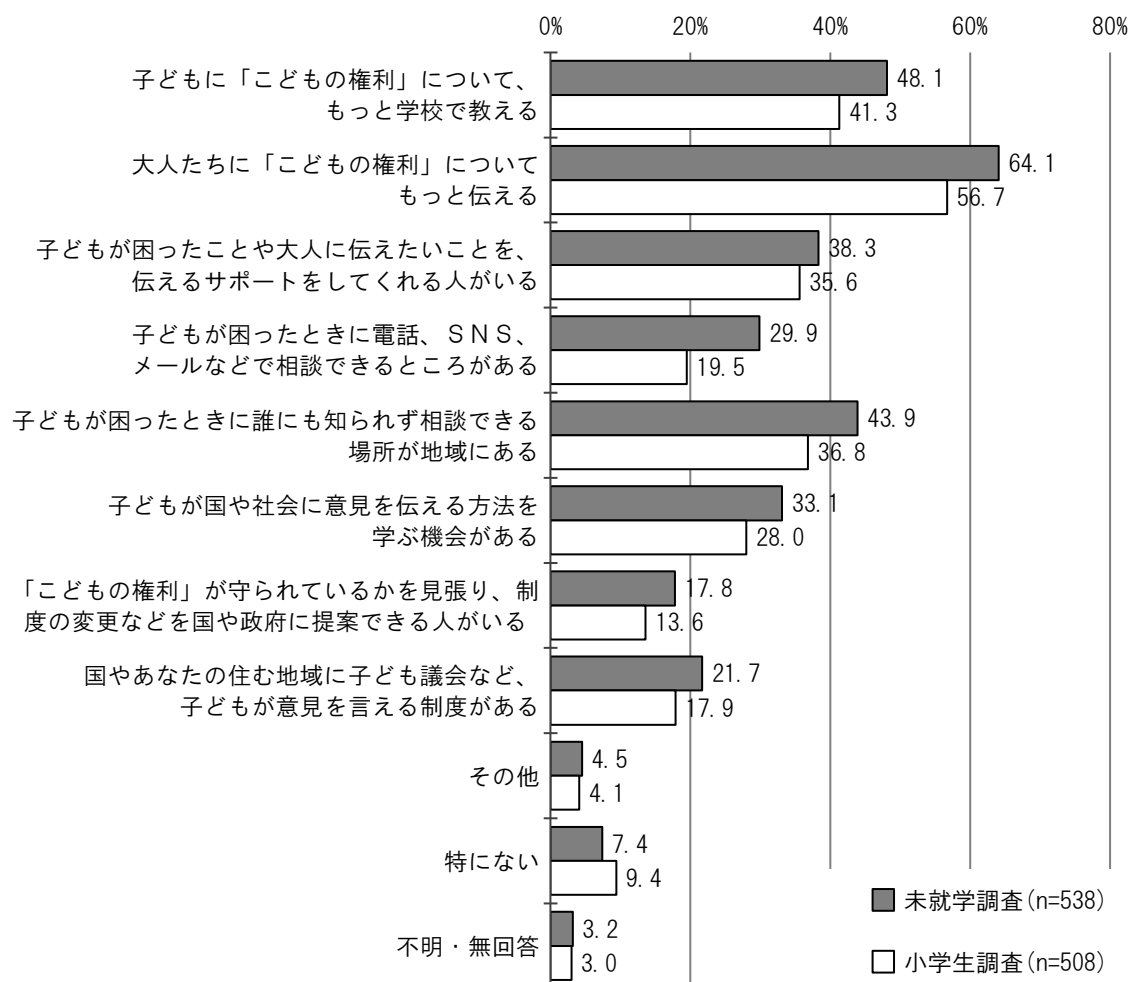
〈未就学調査〉では、「特にない」が55.0%と最も多く、次いで「どんな理由でも差別されない権利」が13.9%となっています。

〈小学生調査〉では、「特にない」が51.4%と最も多く、次いで「こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること」が19.5%となっています。



問 35（未就学調査） 問 31（小学生調査） あなたは、「こどもの権利」を守るために、どのような仕組みがあると良いと思いますか。（複数回答）

〈未就学調査〉〈小学生調査〉ともに、「大人たちに『こどもの権利』についてもっと伝える」が6割前後と最も多く、次いで「子どもに『こどもの権利』について、もっと学校で教える」が4割台となっています。

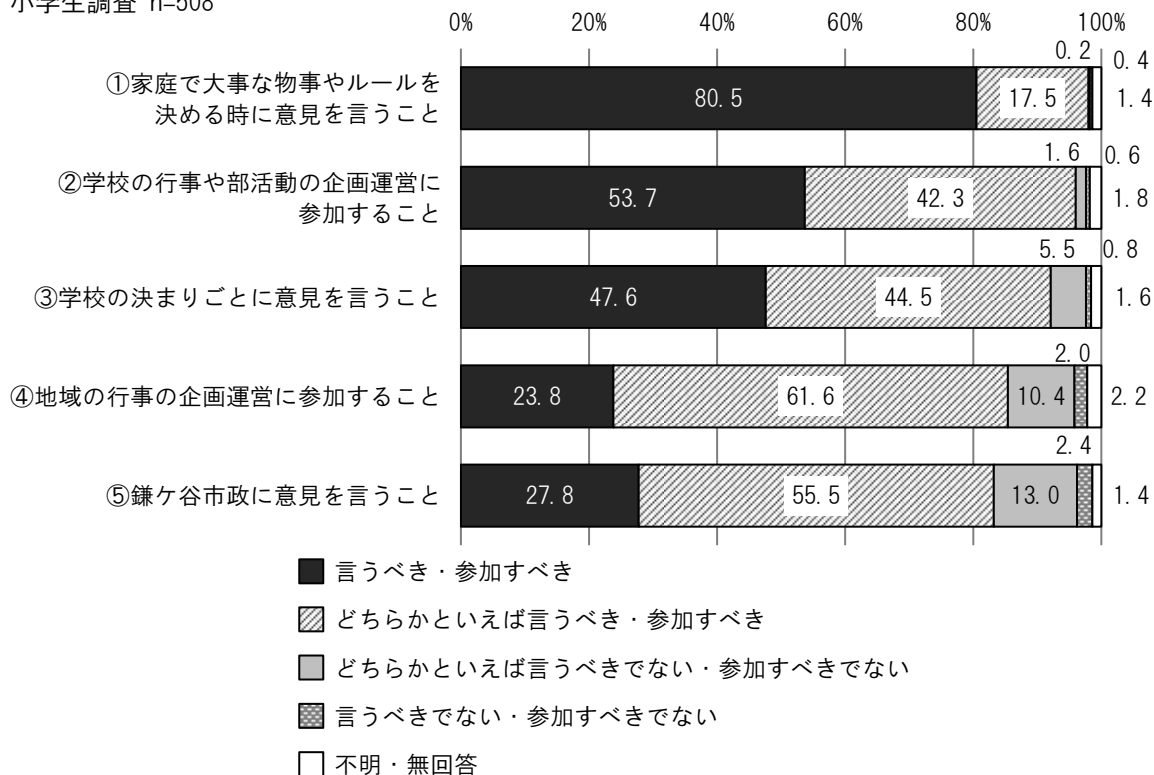


問 32（小学生調査） 次の事柄を決める時などに、宛名のお子さまが、自分の意見を言ったり、参加したりすることについてどのように思いますか。（単数回答）

＜① 家庭で大事な物事やルールを決める時に意見を言うこと＞＜② 学校の行事や部活動の企画運営に参加すること＞＜③ 学校の決まりごとに意見を言うこと＞では、「言うべき・参加すべき」「どちらかといえば言うべき・参加すべき」の合計が9割台となっています。

また、＜④ 地域の行事の企画運営に参加すること＞＜⑤ 鎌ヶ谷市政に意見を言うこと＞では、「言うべき・参加すべき」「どちらかといえば言うべき・参加すべき」の合計が8割台となっています。

小学生調査 n=508



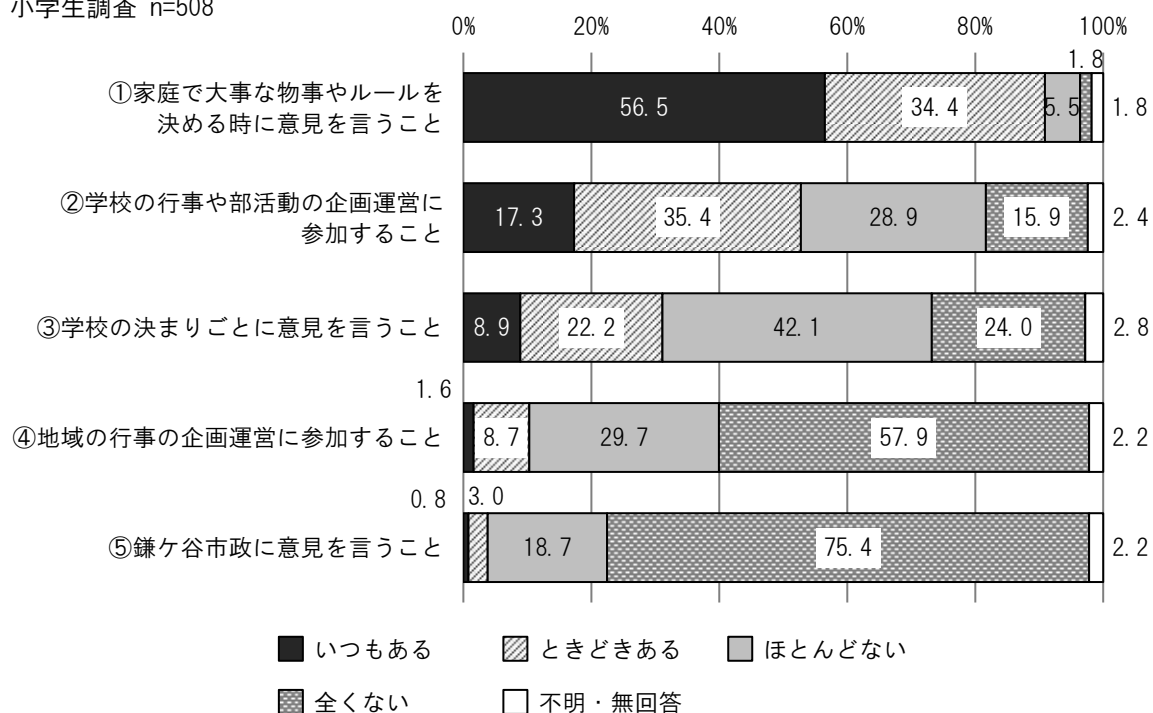
問 33（小学生調査） 次の事柄について、宛名のお子さまが、自分の意見を言ったり、参加したりする機会がありますか。（単数回答）

＜① 家庭で大事な物事やルールを決める時に意見を言うこと＞では、「いつもある」が56.5%と最も多く、次いで「ときどきある」が34.4%となっています。

＜② 学校の行事や部活動の企画運営に参加すること＞では、「いつもある」「ときどきある」の合計と、「ほとんどない」「全くない」の合計がともに半数程度となっています。

＜③ 学校の決まりごとに意見を言うこと＞＜④ 地域の行事の企画運営に参加すること＞＜⑤ 鎌ケ谷市政に意見を言うこと＞では、「ほとんどない」「全くない」の合計が6割台からそれ以上となっています。

小学生調査 n=508



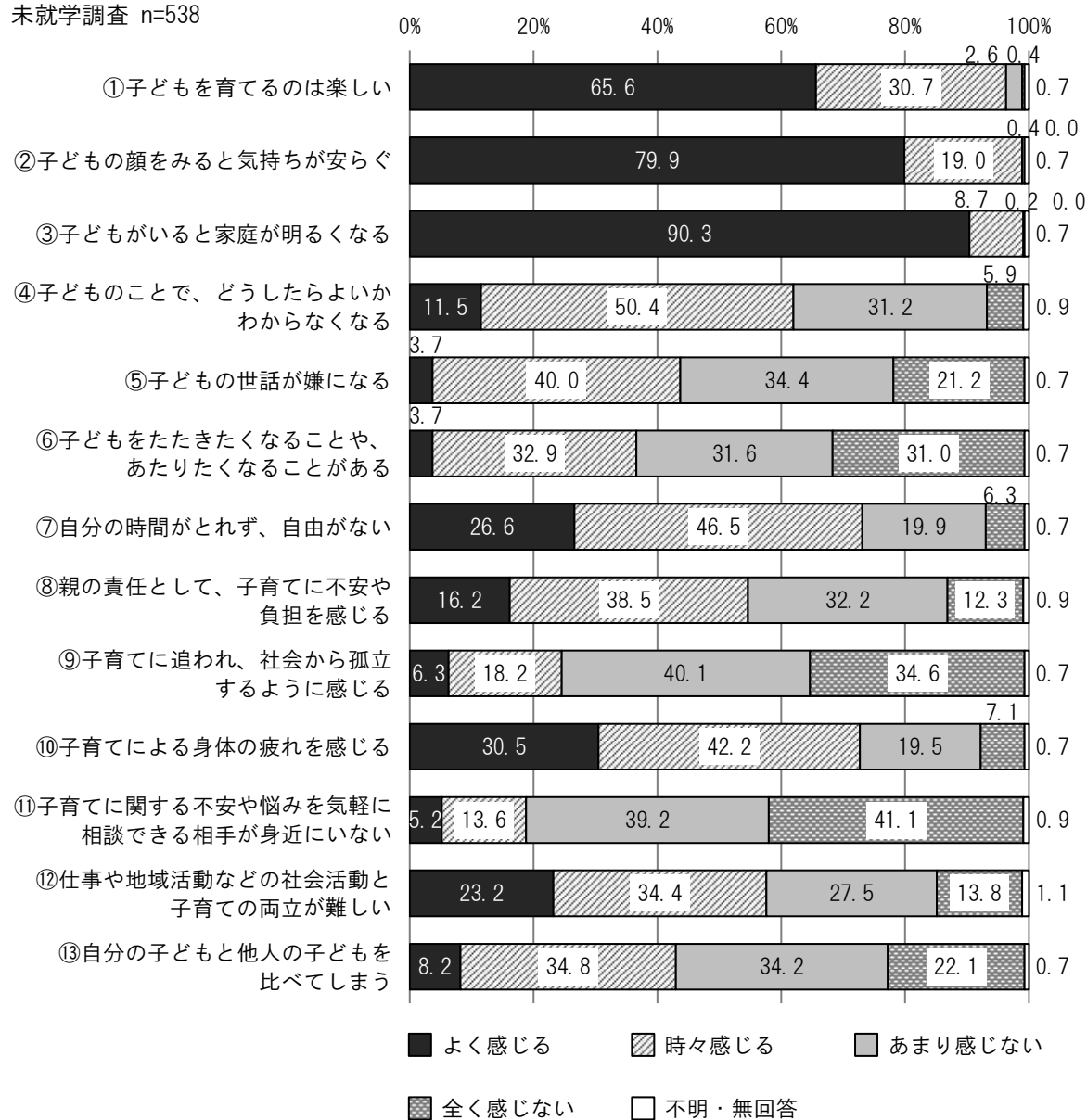
(9) 子育て環境や支援について

問 36（未就学調査） 現在、子育てをする上で次のようなことを感じることはありますか。
（単数回答）

〈① 子どもを育てるのは楽しい〉〈② 子どもの顔をみると気持ちが安らぐ〉〈③ 子どもがいると家庭が明るくなる〉については、「よく感じる」「時々感じる」の合計が9割台となっています。

〈④ 子どものことで、どうしてもよいかわからなくなる〉〈⑦ 自分の時間がとれず、自由がない〉〈⑧ 親の責任として、子育てに不安や負担を感じる〉〈⑩ 子育てによる身体の疲れを感じる〉〈⑫ 仕事や地域活動などの社会活動と子育ての両立が難しい〉については、「よく感じる」が1割以上、「よく感じる」「時々感じる」の合計が9割以上と、比較的多くなっています。

未就学調査 n=538

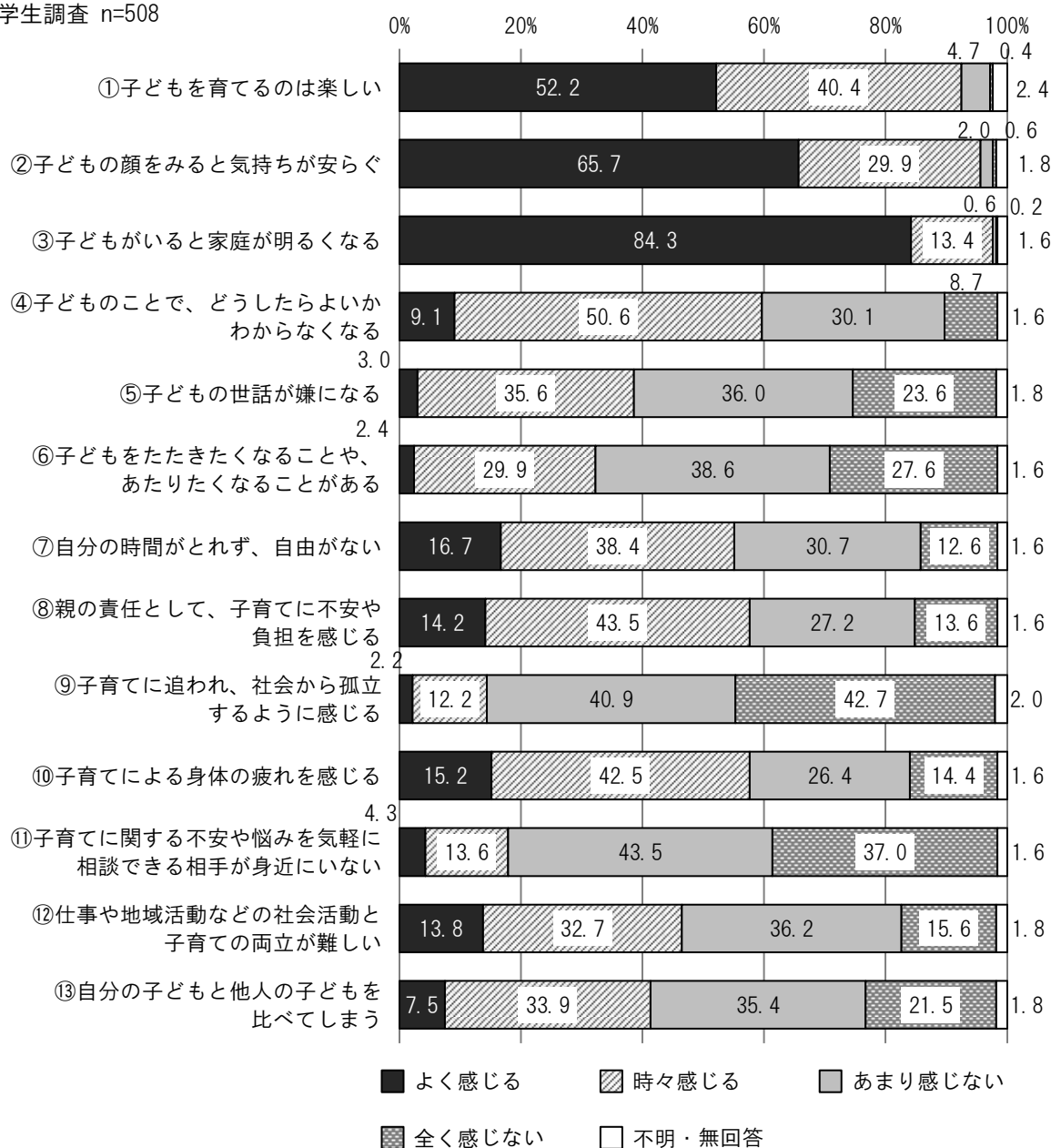


問 26（小学生調査） 現在、子育てをする上で次のようなことを感じることはありますか。
（単数回答）

〈① 子どもを育てるのは楽しい〉〈② 子どもの顔をみると気持ちが安らぐ〉〈③ 子どもがいると家庭が明るくなる〉については、「よく感じる」「時々感じる」の合計が9割台となっています。

〈④ 子どものことで、どうしたらよいかわからなくなる〉〈⑦ 自分の時間がとれず、自由がない〉〈⑧ 親の責任として、子育てに不安や負担を感じる〉〈⑩ 子育てによる身体の疲れを感じる〉については、「よく感じる」が約1割からそれ以上、「よく感じる」「時々感じる」の合計が5割以上と、比較的多くなっています。

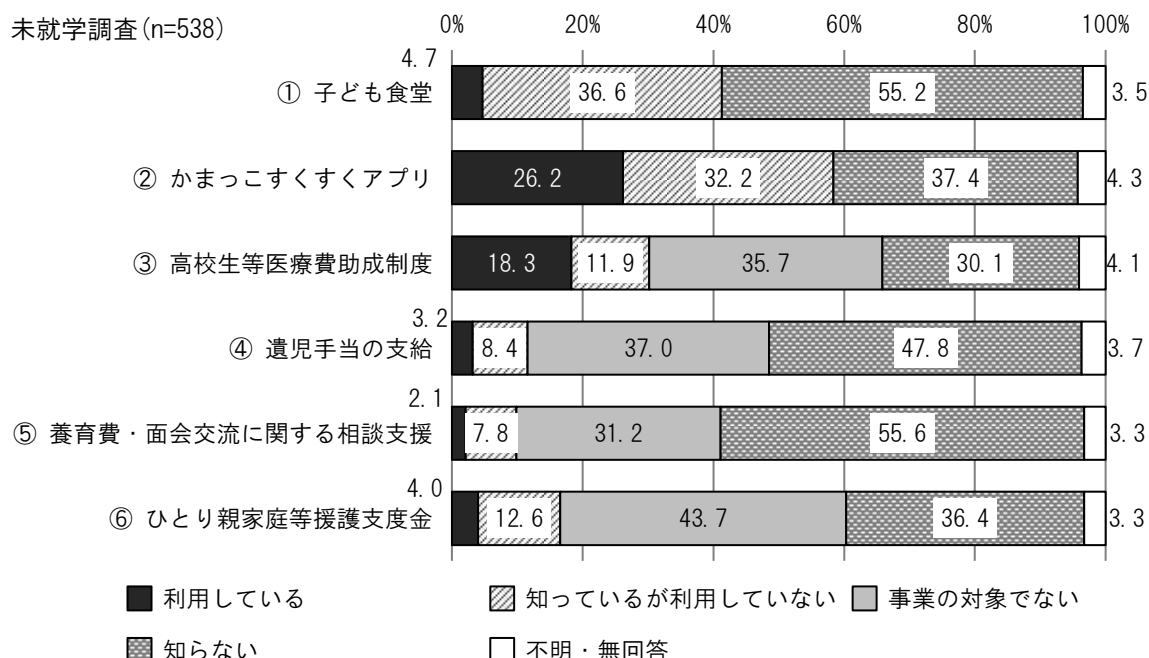
小学生調査 n=508



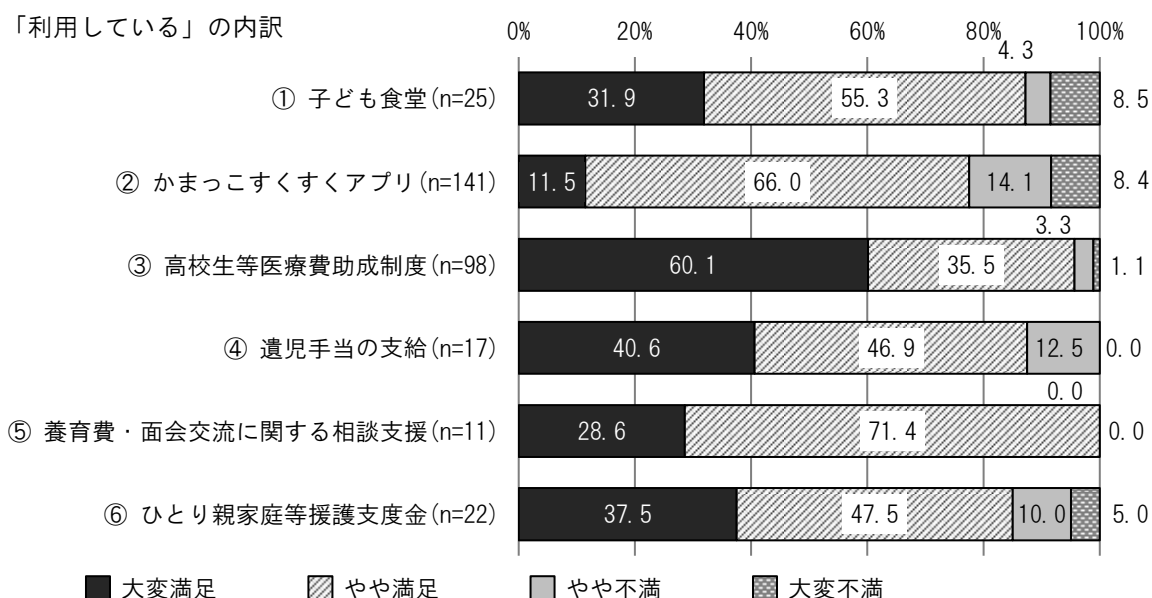
問 37（未就学調査） 鎌ケ谷市や地域において行われている、子育て支援・子どもの貧困対策の取組について、それぞれお答えください。（単数回答）

いずれの事業でも、認知度は4～6割台となっています。

〈② かまっこすくすくアプリ〉は、「利用している」が26.2%と他の事業に比べて多くなっています。利用の満足度についてみると、概ね「大変満足」「やや満足」が多くなっています。



※〈① 子ども食堂〉〈② かまっこすくすくアプリ〉においては、選択肢として「事業の対象でない」を設定していない。（右ページも同様）

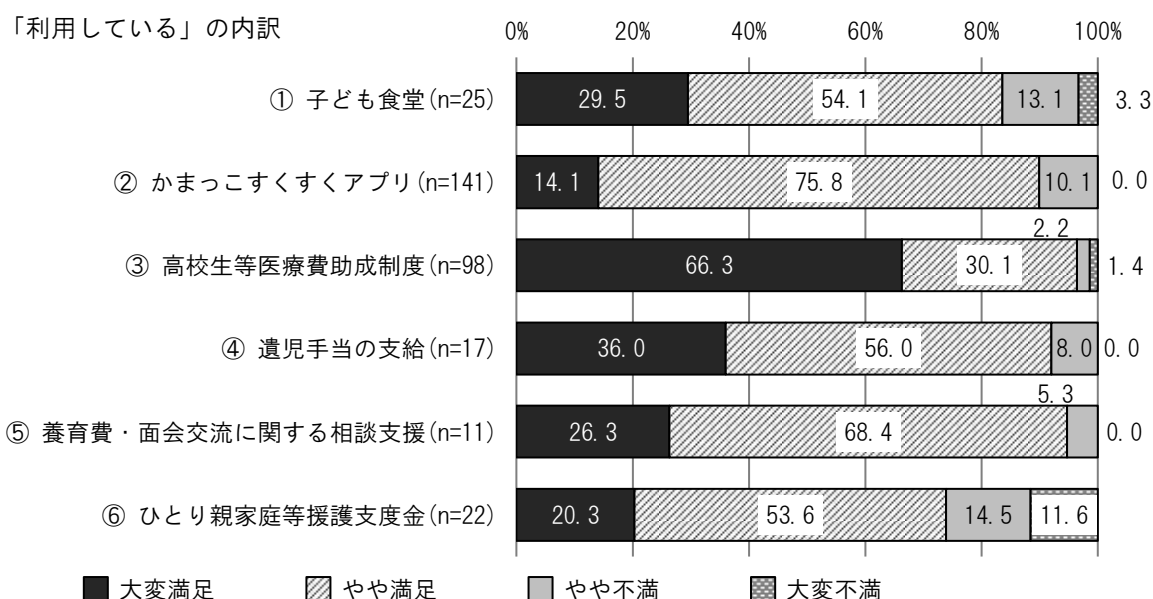
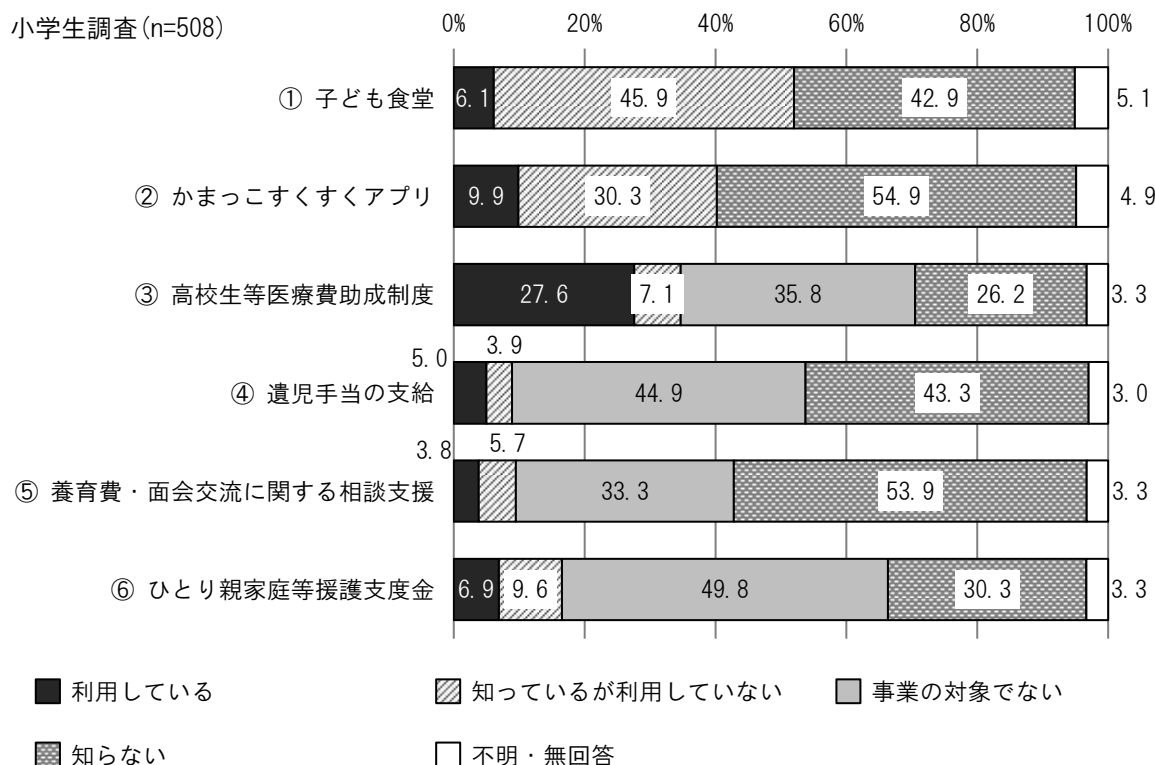


※調査票では、「大変満足」「やや満足」「やや不満」「大変不満」「知っているが利用していない」「事業の対象ではない（③～⑥のみ）」「知らない」の7つの選択肢から選択。上のグラフでは、「大変満足」～「大変不満」を「利用している」とまとめて集計している。（右ページも同様）

問 43（小学生調査） 鎌ケ谷市や地域において行われている、子育て支援・子どもの貧困対策の取組について、それぞれお答えください。（単数回答）

〈② かまっこすくすくアプリ〉〈⑤養育費・面会交流に関する相談支援〉は「知らない」が5割台と高くなっています。

〈③ 高校生等医療費助成制度〉は、「利用している」が 27.6%と他の事業に比べて多くなっています。利用の満足度についてみると、概ね「大変満足」「やや満足」が多くなっています。



付問 問 37 (43) で「やや不満・不満」とお答えいただいた取組について、その理由があればご自由にお書きください。

取組が不満な理由についての回答件数及び、主なご意見については次の通りです。

分類		件数	主なご意見
①子ども食堂について	未就学	2	・子ども食堂がどこで実施されているかわからない。 ・人が多く、落ち着いて食事ができない。料金が値上げされて使いづらくなった。
	小学生	2	・子ども食堂は経済的理由で利用するものだと思われがちなか、近隣自治体の取組は、誰でも利用できる雰囲気があり、うらやましい。
②かまっこすくすくアプリについて	未就学	30	・アプリで完結せず、ホームページへのリンクになっているのが不便。 ・持っている機種に対応していない。 ・情報提供のみではなく、予約や申請までできれば良い。 ・家庭環境やこどもの状況に応じて、マイページ等でカスタムがされると良い。 ・情報が更新されていないことがあり、どれが最新の情報かわからない。 ・転入して、途中から使い始めるにあたっては不便に感じた。
	小学生	2	・使うメリットが分からない。
③高校生等医療費助成制度	未就学	3	・より負担額が小さい自治体と比べると負担に感じる。(3件)
	小学生	4	・領収書の提出が手間に感じる。(2件) ・より負担額が小さい自治体と比べると負担に感じる。(2件)
④遺児手当の支給	未就学	1	・金額が低いと感じる。
⑥ひとり親家庭援護支援金について	未就学	2	・所得制限があるため対象外となる。(2件)
	小学生	7	・所得制限があるため対象外となる。(4件) ・ひとり親ではないが経済的に苦しい家庭への支援が不十分だと感じる。

※⑤養育費・面会交流に関する相談支援については回答がありませんでした。

付問 問 37 (43) で「知っているが利用していない」とお答えいただいた取組について、利用できるように充実・改善してほしいことがあればご自由にお書きください。

取組が利用できるよう改善してほしいことについての回答件数及び、主なご意見については次の通りです。

分類		件数	主なご意見
①子ども食堂について	未就学	48	・自宅の近くにない。(7件) ・行くための手段がない。子ども食堂がバスの路線沿いに合って、利用しやすい時間にききょう号が走っていると良い。 ・オープンしている日数が少ない。(2件) ・料金がかかるため利用をためらう。 ・対象ではないと思ってしまう。自分が利用してよいのかわからない。(4件) ・貧困家庭が対象になっているイメージがあるため、誰でも利用できるならそのことをアピールしてほしい。 ・場所がわからない。広報や保育所からののお便り、市のSNSでの案内等に掲載して欲しい。(4件) ・自分で情報を調べないと利用できないと感じる。 ・利用したことのある人の話を聞く機会がない。 ・雰囲気分からない。情報提供の際に写真などを載せてほしい。(2件)
	小学生	62	・自宅の近くにない。(8件) ・利用できる日が少ない。 ・対象ではないと思ってしまう。自分が利用してよいのかわからない。(4件) ・困っている方が最優先だと思うと、利用するのがためられる。 ・貧困家庭が対象になっているイメージがあるため、誰でも利用できるならそのことをアピールしてほしい。(2件) ・利用者が何人くらいいるのかわからないため雰囲気がわからない。 ・場所や開催日がわからない。(4件) ・利用している知り合いがない。 ・本人が希望していない。(2件) ・こどもだけで行かせるのが不安。

(②～⑥については次のページ以降に記載)

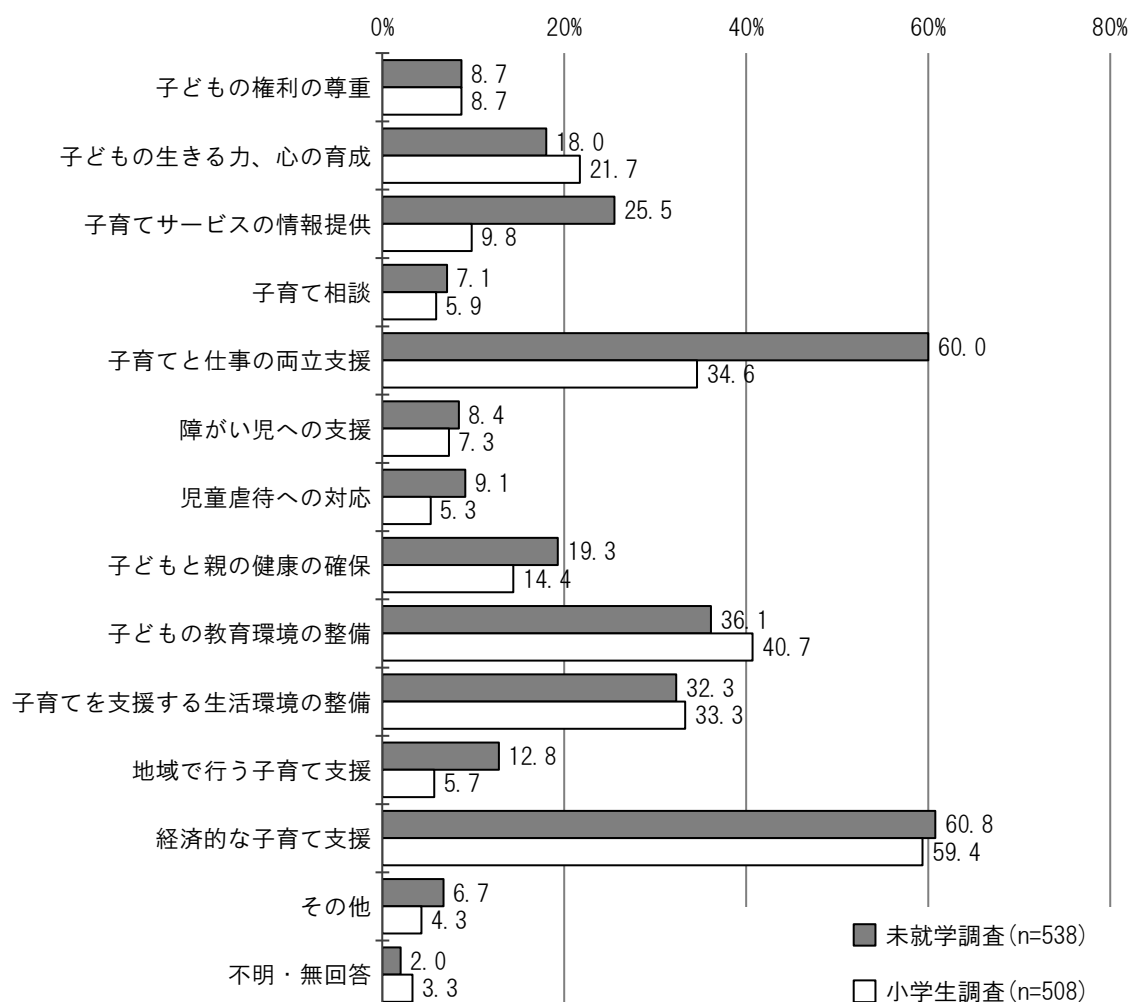
分類		件数	主なご意見
②かまっこすくすくアプリについて	未就学	7	• 必要な機能が特にない。(2件) • どんな情報があるのか、何ができるのかなど、利用のメリットが分からない。(3件) • 子育てに関する悩みの解決につながる情報を発信して欲しい。 • 使いづらい。
	小学生	17	• アプリをダウンロードせずにホームページで見ている。 • 小学生も対象なのか分からない。(7件) • 使うメリットが分からない。
③高校生等医療費助成制度	小学生	1	• 手続きに行くのが大変なため。
⑤養育費・面会交流に関する相談支援	未就学	1	• 相談しても元配偶者と連絡を取れないため進展しない。
	小学生	1	• 元配偶者の問題なので、利用しても改善されないと思う。
⑥ひとり親家庭援護支援金について	未就学	1	• 離婚が成立していないが別居中の段階でも利用できるようにしてほしい。
	小学生	2	• 所得制限をなくすか緩和させてほしい。(2件)

※④遺児手当の支給については回答がありませんでした。

問 38（未就学調査） 問 28（小学生調査） 今後、鎌ヶ谷市の子育て支援環境を良くしていくためには、特にどこに力を入れていく必要があると思いますか。（複数回答）

＜未就学調査＞では、「経済的な子育て支援」「子育てと仕事の両立支援」が約6割となっています。

＜小学生調査＞では、「経済的な子育て支援」が59.4%と最も多く、次いで「子どもの教育環境の整備」が40.7%となっています。

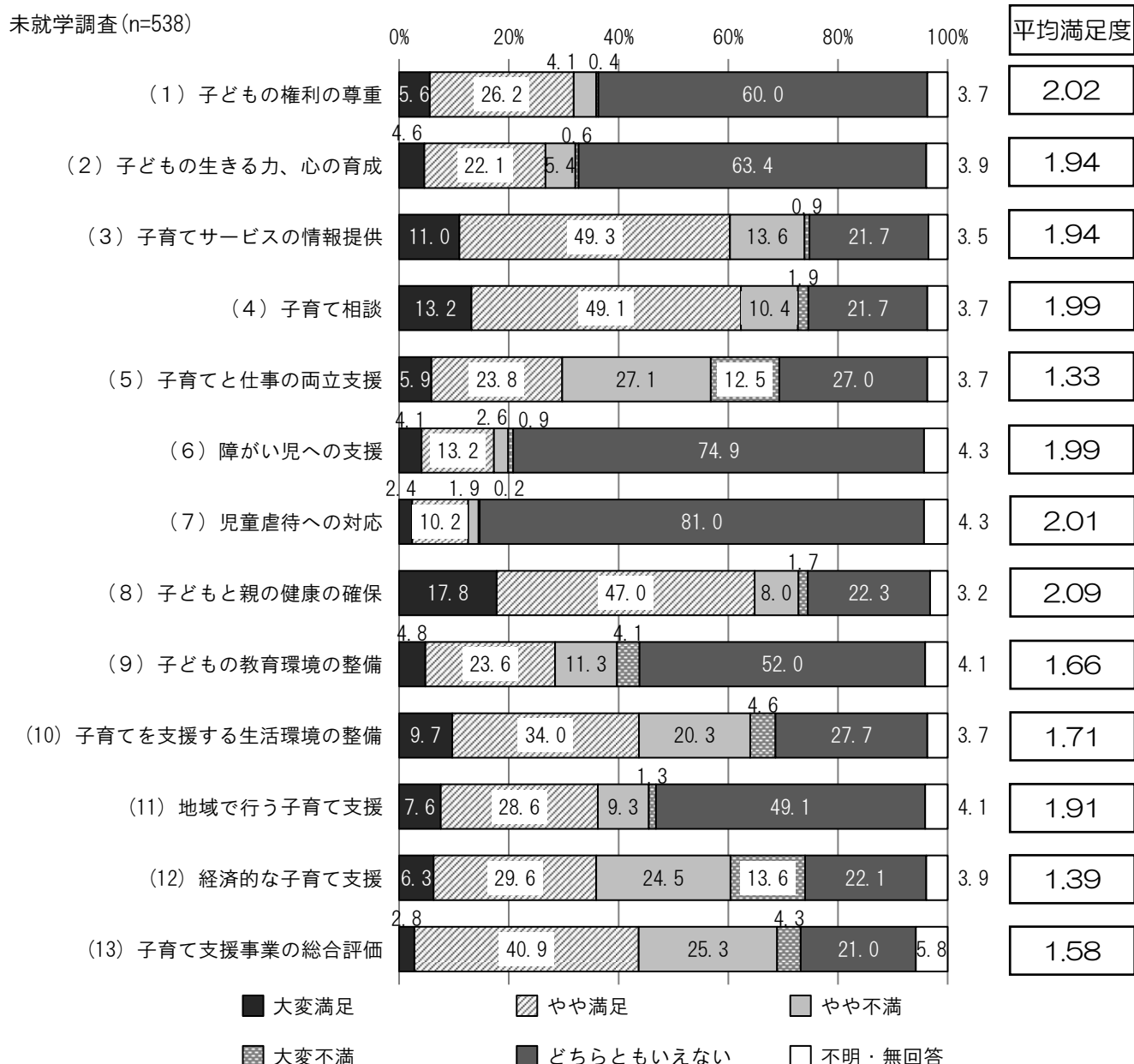


問 39（未就学調査） 鎌ケ谷市ではさまざまな子育て支援の取り組みを行っていますが、次にあげる取り組みについて、どのくらい満足されていますか。（単数回答）

〈(3) 子育てサービスの情報提供〉〈(4) 子育て相談〉〈(8) 子どもと親の健康の確保〉については、「大変満足」「やや満足」の合計が約6割となっています。

〈(1) 子どもの権利の尊重〉〈(2) 子どもの生きる力、心の育成〉〈(6) 障がい児への支援〉〈(7) 児童虐待への対応〉は、「どちらともいえない」が6割以上となっています。

平均満足度をみると、〈(5) 子育てと仕事の両立支援〉〈(12) 経済的な子育て支援〉で満足度が低くなっています。



※「平均満足度」については、加重平均の考え方をういて、「大変満足」を3点、「やや満足」を2点、「やや不満」を1点、「大変不満」を0点として合計したものを、「どちらともいえない」「不明・無回答」を除外したもので割って算出しています。

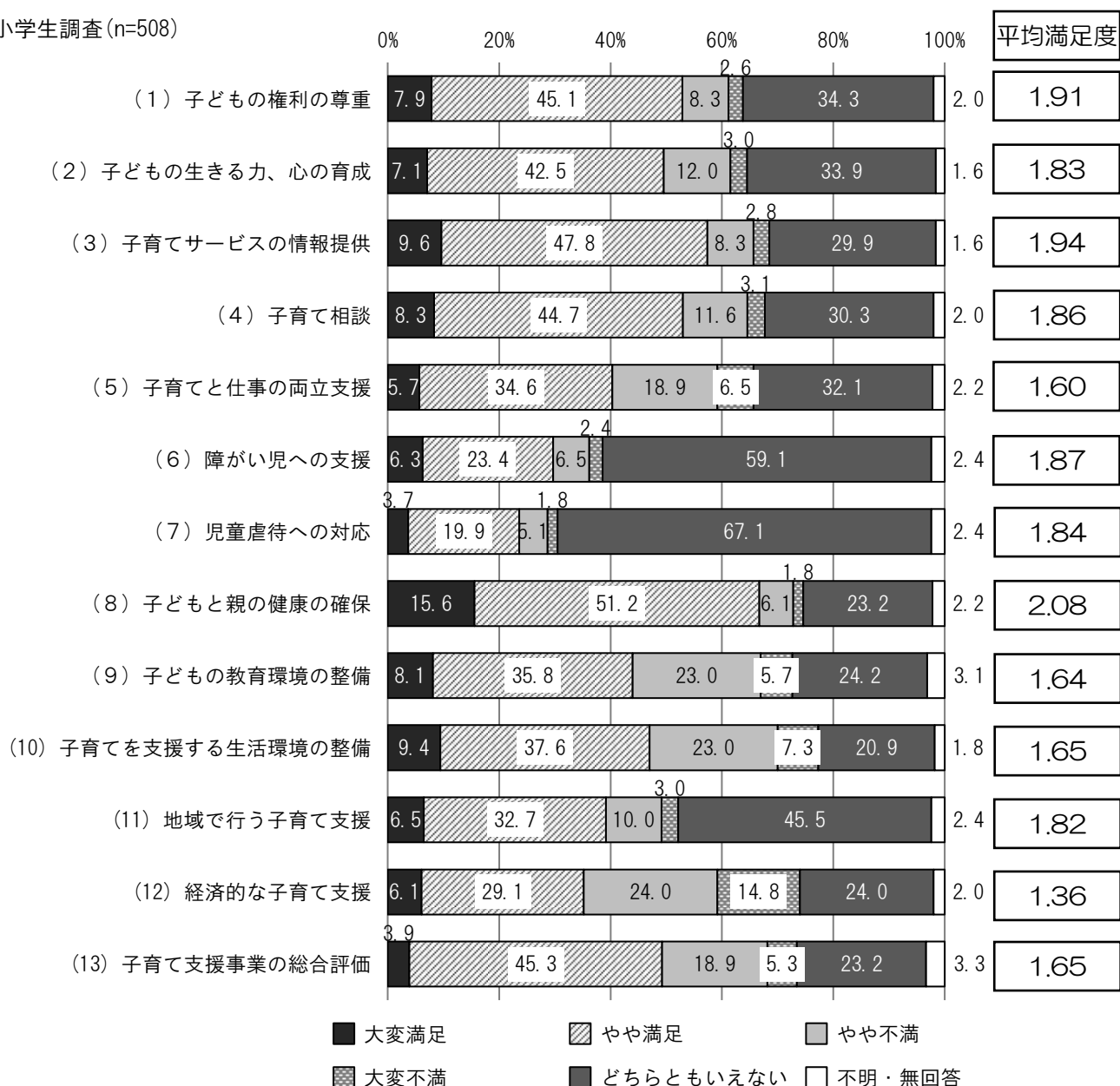
問 27（小学生調査） 鎌ケ谷市ではさまざまな子育て支援の取り組みを行っていますが、次にあげる取り組みについて、どのくらい満足されていますか。（単数回答）

〈(3) 子育てサービスの情報提供〉〈(8) 子どもと親の健康の確保〉については、「大変満足」「やや満足」の合計が約6割となっています。

〈(6) 障がい児への支援〉〈(7) 児童虐待への対応〉は、「どちらともいえない」が6割程度となっています。

平均満足度をみると、〈(12) 経済的な子育て支援〉で満足度が低くなっています。

小学生調査 (n=508)

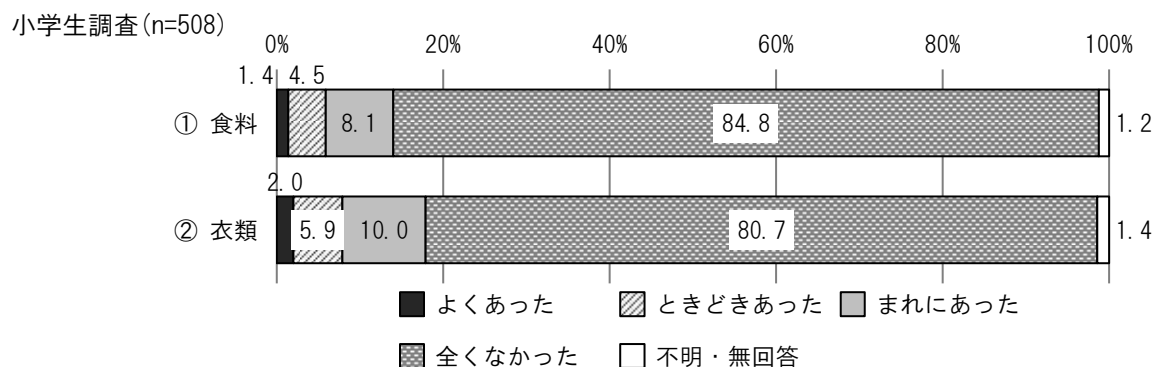


(10) 暮らしの状況について

問 34 (小学生調査) あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料や衣類を買えないことがありましたか。(単数回答)

〈① 食料〉では、「ときどきあった」は4.5%、「まれにあった」は8.1%となっています。

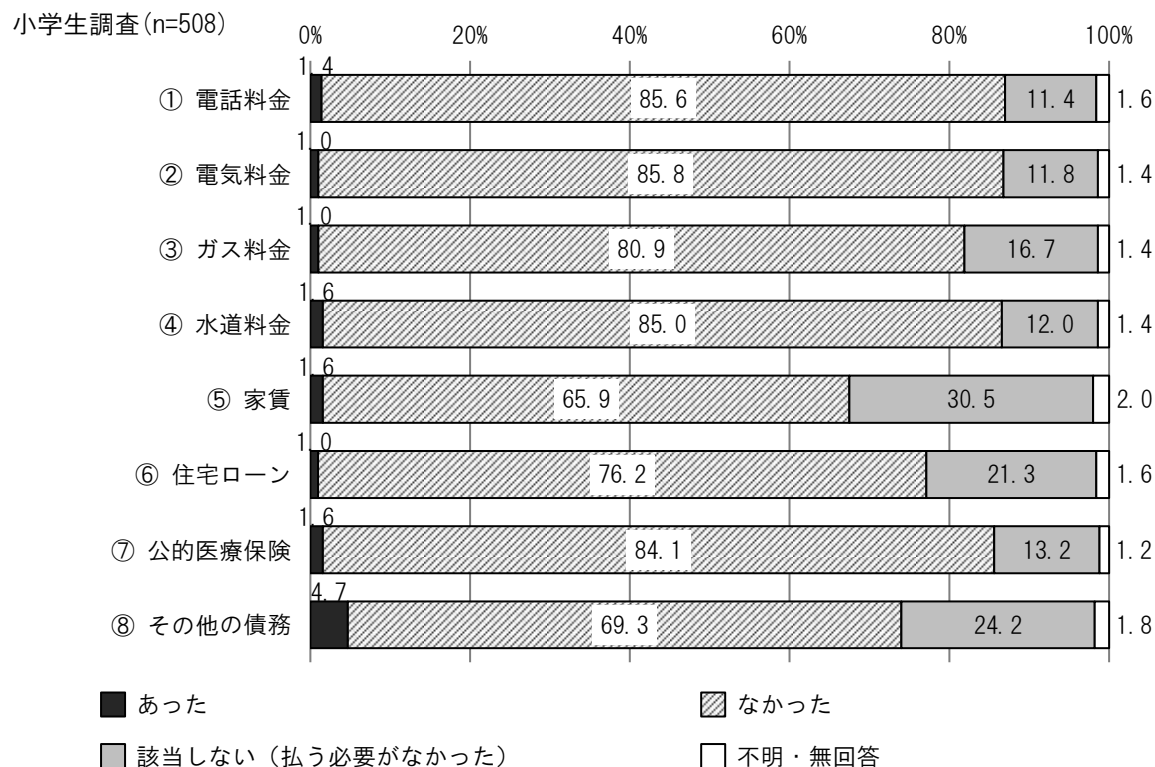
〈② 衣類〉では、「ときどきあった」は5.9%、「まれにあった」が10.0%となっています。



問 35 (小学生調査) 過去1年の間に、経済的な理由で、以下の①～⑧のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。(単数回答)

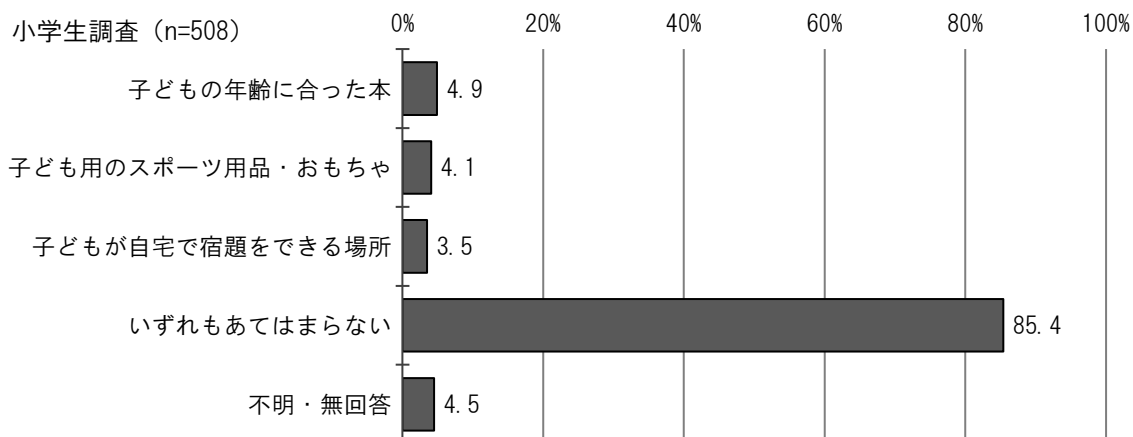
〈① 電話料金〉から〈⑦ 公的医療保険〉までは、「あった」が1%台となっています。

〈その他の債務〉では、「あった」が4.7%となっています。



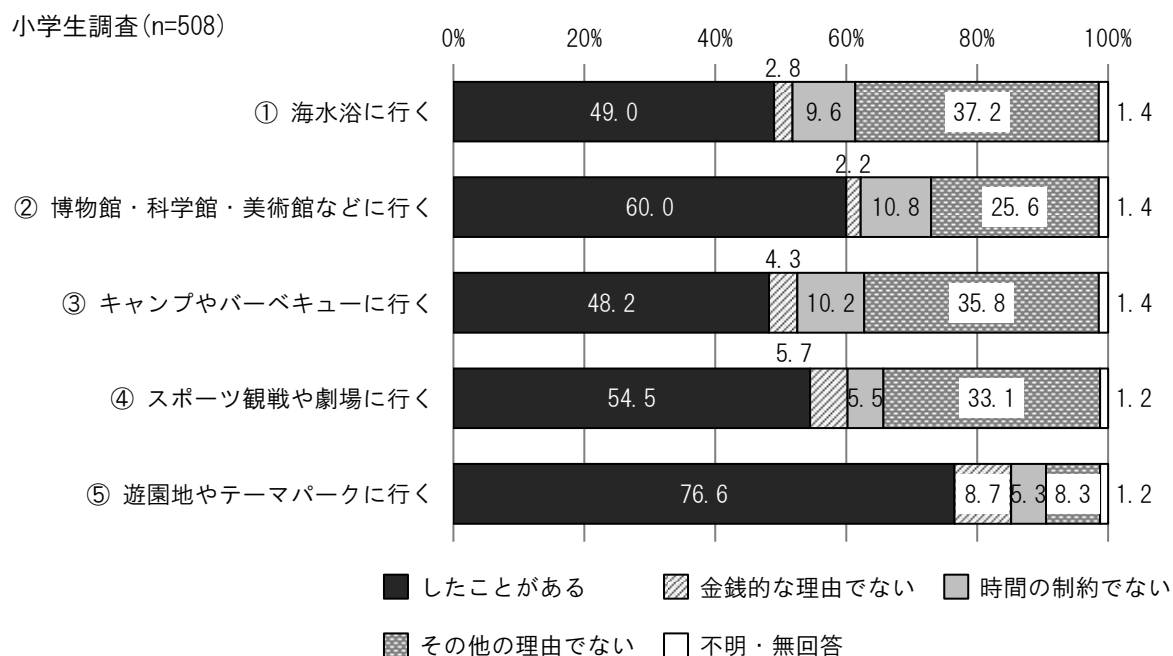
問 36（小学生調査） 次のもののうち、経済的理由のためあなたの世帯にないものはありますか。
（複数回答）

「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をできる場所」はいずれも3～5%となっています。



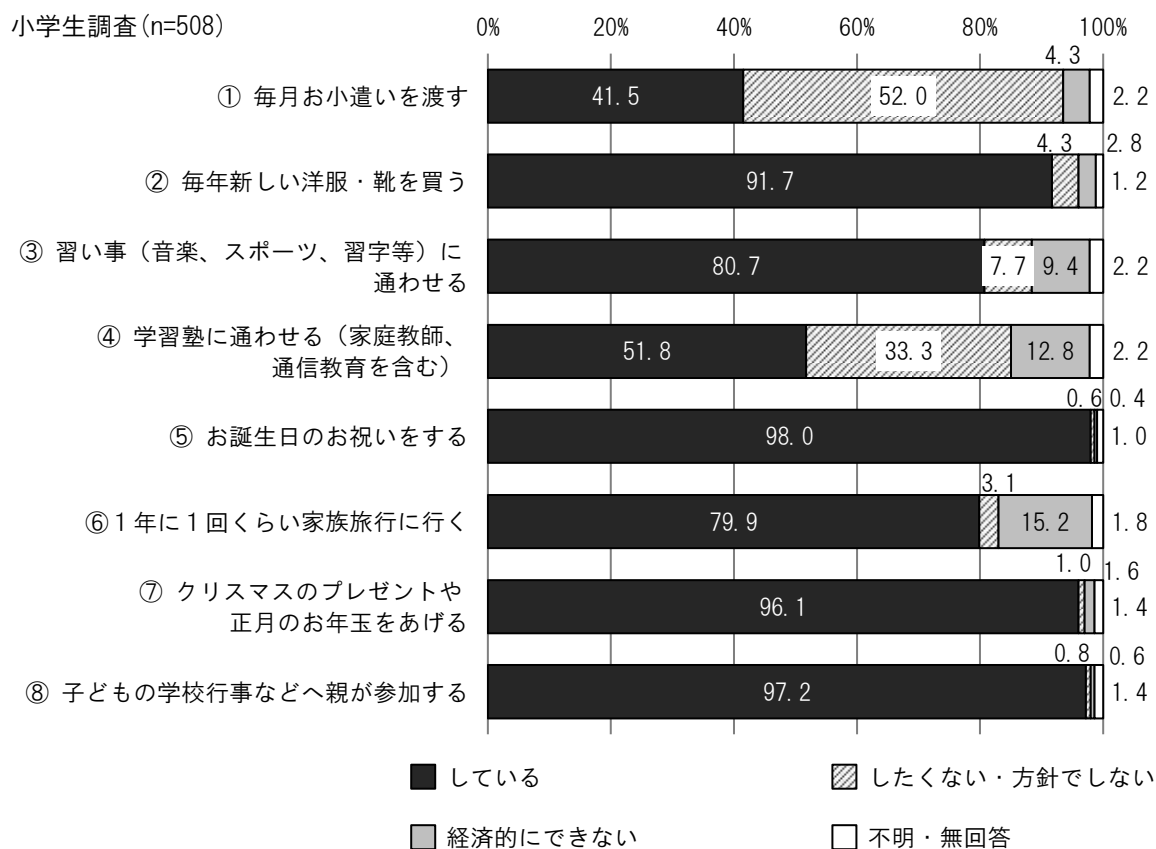
問 37（小学生調査） 過去1年の間に、あなたのご家庭では、宛名のお子さまと次のような体験をしましたか。
（単数回答）

「金銭的な理由でない」について、〈⑤ 遊園地やテーマパークに行く〉で8.7%となっています。



問 38（小学生調査） あなたのご家庭では、お子さまに次のことをしていますか。（単数回答）

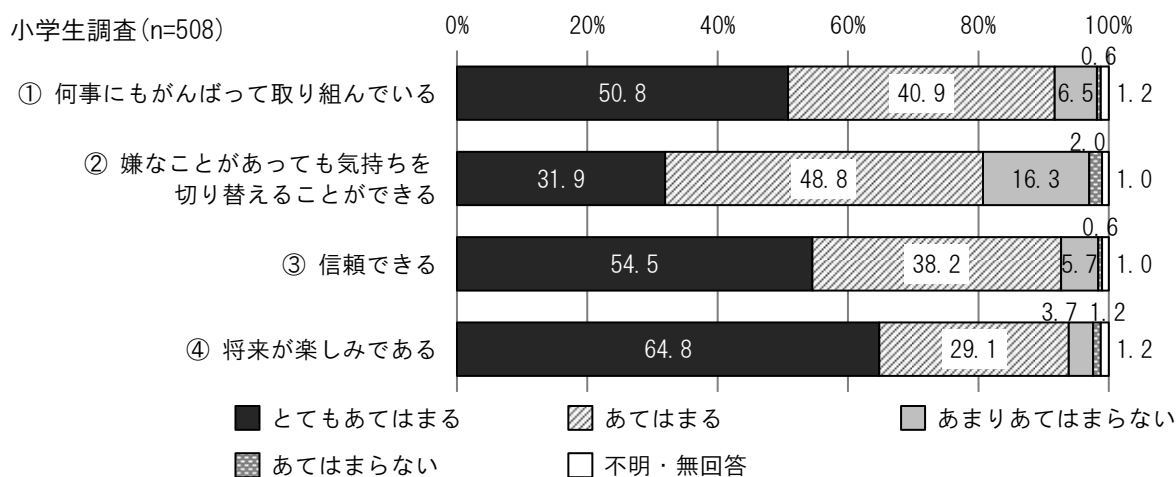
「経済的にできない」は、〈④ 学習塾に通わせる〉〈⑥ 1年に1回くらい家族旅行に行く〉で1割台、〈③ 習い事に通わせる〉で9.4%となっています。



問 39（小学生調査） あなたは、お子さまについてどのように思っていますか。（単数回答）

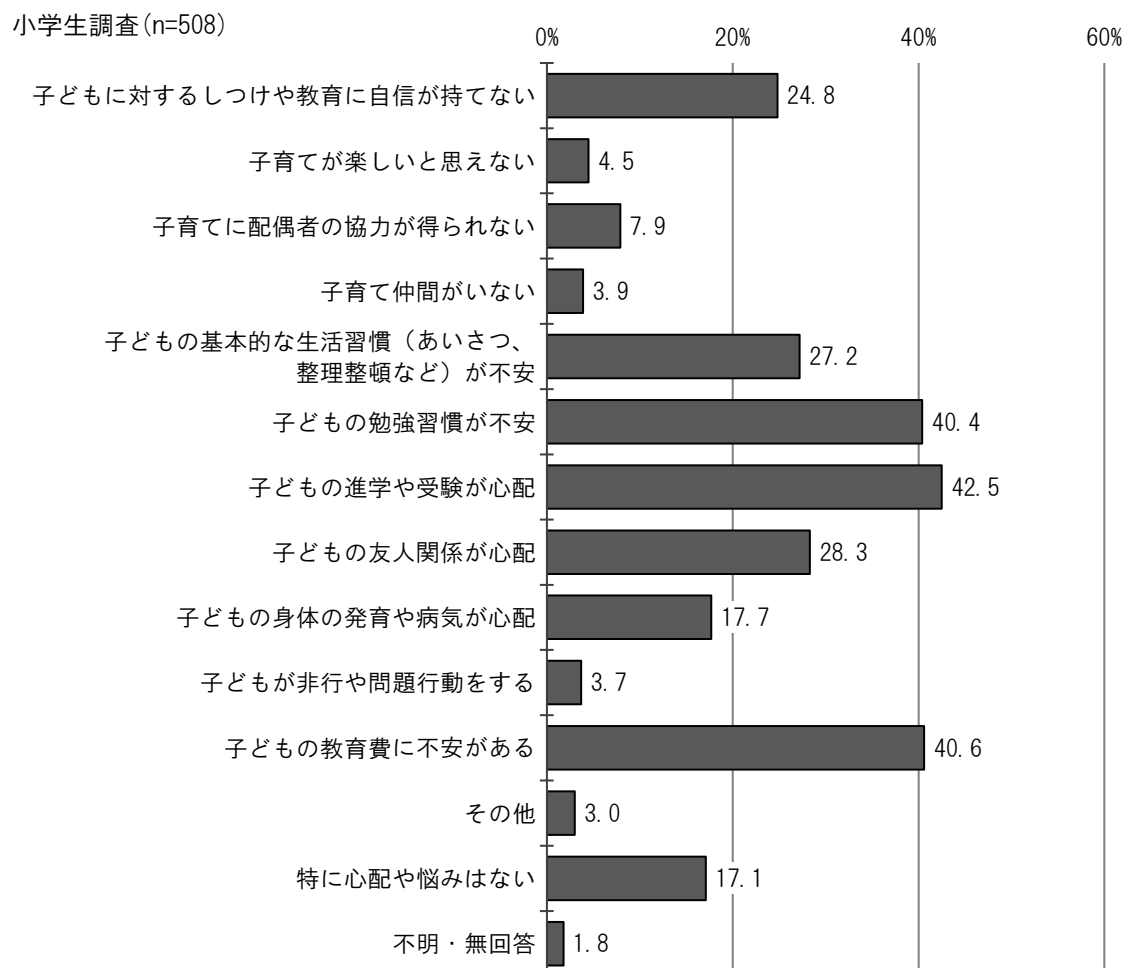
〈① 何事にもがんばって取り組んでいる〉〈③ 信頼できる〉〈④ 将来が楽しみである〉については、「とてもあてはまる」が最も多く、「あてはまる」との合計が9割台となっています。

〈② 嫌なことがあっても気持ちを切り替えることができる〉については、「あまりあてはまらない」が16.3%と、他に比べて多くなっています。



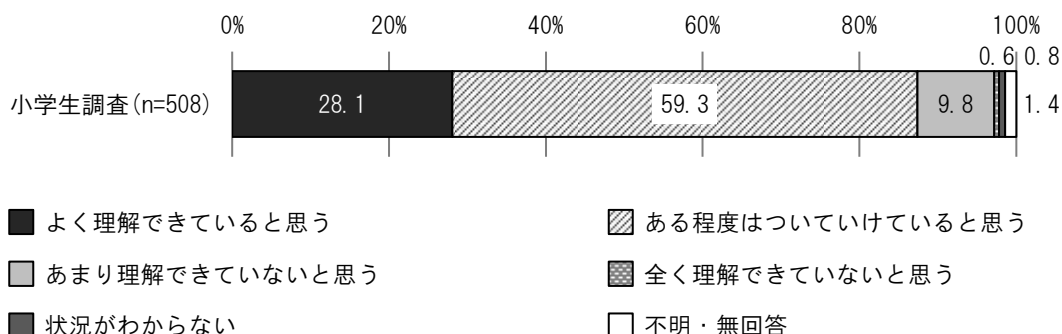
問 40 (小学生調査) お子さまの子育てに関して、以下のような心配ごとや悩みごとはありますか。
(複数回答)

「子どもの進学や受験が心配」「子どもの教育費に不安がある」「子どもの勉強習慣が不安」が4割台となっています。



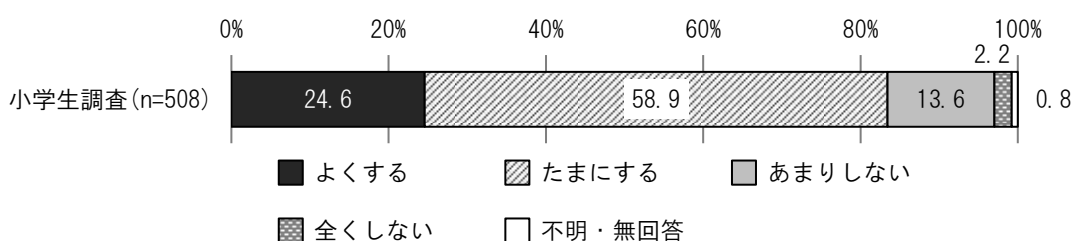
問 41（小学生調査） 宛名のお子さまは、学校の授業を理解できていると思いますか。
（単数回答）

「よく理解できていると思う」「ある程度はついていけていると思う」の合計が約9割となっており、「あまり理解できていないと思う」は9.8%となっています。



問 42（小学生調査） あなたを含めたご家族は、宛名のお子さまの将来（夢・進路・職業等）について、お子さまと一緒に考えたり、話したりすることがありますか。（単数回答）

「よくする」は24.6%、「たまにする」は58.9%、「あまりしない」は13.6%となっています。



最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。（未就学調査）

未就学調査における自由回答の分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（未就学調査）

分類	件数	主なご意見
幼児期の教育・保育事業について	85	・フルタイムに近い時間働くパートタイムが利用できるよう、保育所利用基準の就労時間や得点計算の基準を緩和してほしい（2件） ・子どもが1歳や2歳まで育児休業をしても確実に預けられる体制を確保して欲しい。0歳児クラスに入れなければ、1歳で入園するのがさらに困難になる（5件） ・育児を機に退職したが、キャリアを途切れさせない働き方があればよかったと思う ・希望する園に入りづらいが、送迎などが充実すると他の園を希望することもできると思う ・保育所の送迎保育ステーションがあれば、負担が減ると思う（2件） ・近くの園を希望しても、送迎の負担がかかる遠くの園にしか入れない ・仕事が休みの日は保育所に預けられない決まりになっていて、休みの日のボランティアへの参加に支障が出ている。ボランティアや市の事業、通院などやむを得ない事情の時は預けられるようにしてほしい ・保育所と、ノートなどアナログな方法で連絡をしているが、アプリなどの導入をしてほしい ・公立保育所で英語教室のボランティアをしたい ・配慮が必要な児童への支援を手厚くしてほしい。すべてのこどもや先生が過ごしやすくなることにつながると思う ・生活上支障のない先天性の障がい児が、保育所に入所できるまでに時間がかかった。医ケア児が入所できることを掲げるだけでなく、実際に受け入れられる体制を確保して欲しい ・保育所、幼稚園、学校等の熱中症対策を行って欲しい ・保育所での申請が手書きで手間がかかるため、DX化してほしい ・保育士の負担が大きくなっていないか心配 ・保育所の利用を希望していたが、幼稚園を利用することになり、制服代などの負担が大きい ・0～2歳の教育・保育を無償化してほしい（3件）
こどもの権利について	7	・子育てに温かく見守る地域づくりを進めてほしい（2件） ・こどもたちのSOSに気づける学校・行政であってほしい

分類	件数	主なご意見
子育て支援サービスについて	41	・一時預かりの利用受付の窓口が14時からだが、12時半ごろから並ばないと受け入れてもらえないのが困っている（2件） ・一時預かりが利用しづらかった ・ファミリー・サポート・センターは利用料が高く、保育所の預かりは定員がいっぱいで利用できない ・長期休暇と仕事の繁忙期が重なり、一時預かりの予約が取りづらいのが困っている ・幼稚園の預かり保育が平日に休みのことがあり困っている ・病児保育が少ない（3件） ・他市の病児保育を利用していたが、遠いため利用をあきらめることも多かった。市内の病児保育施設整備や、病児シッター利用の補助をお願いしたい。市内の病後児保育は基準があいまいで利用しづらい（2件） ・子育てサロンや保健推進員のおかげで、友達が増えた。今後さらにサロンへの参加促進や保健推進員のアプローチが進んでいけばよいと思う ・コーディネーターcaféの予約がすぐに埋まり、なかなか行けないので、枠が増えるとうれしい
経済的支援、ひとり親支援、子どもの貧困対策について	33	・特別児童扶養手当の所得制限を撤廃するか引き上げてほしい ・子どもの人数や世帯の状況を問わず利用できる経済的支援を充実させてほしい ・継続的な経済的支援があればよい ・ひとり親で、相談や、美容院・歯医者に行くのが難しいくらい忙しい。柔軟に働ける環境があればよいと感じる
遊び場、居場所や習い事について	42	・放課後児童クラブを充実させてほしい ・小学校の放課後に教室や校庭を開放してすきに過ごせる場所づくりを行って欲しい ・送迎付きの習い事があればよい ・保育所と放課後児童クラブの2か所への送迎は負担が大きい。放課後児童クラブと併設された保育所や、送迎サービスがあればよい ・東部児童館ができるのが楽しみ ・児童センターで習い事ができるようになればよい ・長期休暇にも放課後児童クラブを利用したい ・児童センターのイベントで、手遊びや体操などをさらに充実させてほしい

分類	件数	主なご意見
母子保健・健康・ 発育について	32	・市の健康相談や教室で、昔の情報のまま進めているものがあると感じる。アップデートしてほしい ・小児科が少ない。感染症が流行する中、その他の症状の際にも受診が難しくなっている（6件） ・休日や夜間に子どもを診てくれる医療機関を市内に確保して欲しい（2件） ・健診の際、発達の遅れを指摘する言葉がきつく、もう少し保護者のことを考えた指摘をしてほしかった ・健診で発達の不安について相談していたが、支援につながる事ができず、6年間かかってから不登校になってから病院に行き支援につながる事になった。健診で、もう少し専門知識をもって対応してほしい ・健診で不安や悩みを親身になって聞いていただいて有難かった ・医療費助成の負担金額をさらに下げてほしい（6件）
相談について	5	・電話で市役所に相談した際に、別窓口にと回されて結局何も解決しなかった ・出産後、子どもに障害があることが分かった際に、助産師、保健師、障害福祉課、こども発達センターなど窓口が分かれていて、誰に相談したら良いか不安だった。様々なことをまとめて相談できる窓口があればよい ・発達支援センターには親身に相談に乗っていただいていた有難い
教育・学校について	20	・小学校の短縮日課を減らしてほしい ・IQではなくEQを伸ばす教育に力を入れてほしい ・PTA活動が負担に感じる。納得できる形になってほしい ・学区で指定されている小学校が遠く、それより近い別の小学校（市内・他市を含む）に通わせる、スクールバスを走らせる、鎌ヶ谷小以外でも公共交通を使うなどの対策をしてほしい（6件）
広報・広聴について	17	・アンケートではじめて知ったサービスがあり、情報発信を充実させてほしい（2件） ・子育て支援施策をもっとPRして、市をプロモーションしてほしい ・広報、チラシ、アプリ、SNS、動画サイトなどを活用して、より情報発信を充実させてほしい（4件）
生活環境について	71	・公園の環境を改善してほしい ・通学路を安全なものにしてほしい ・子どもが小さいうちは自転車での移動が難しく、バスの本数が少ないため、子育て支援センターなどに行きづらい ・子どもが被害にあわないよう、防犯の取組を充実させてほしい

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。（小学生調査）

小学生調査における自由回答の分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（小学生調査）

分類	件数	主なご意見
幼児期の教育・保育事業について	15	・0～2歳と3歳以降で転園せずに預けられる保育所が増えてほしい ・幼稚園の預かり保育について、長期休暇中の利用にあたっての経済的負担が大きい ・幼稚園や小学校の先生をはじめ、教育・福祉全般で働く方の待遇を改善させてほしい ・発達障がいを理由に幼稚園を退園することになった際、園の対応が市のセンターの紹介のみで、もっと幼稚園にも相談したかった
子育て支援サービスについて	22	・一時預かりの体制を充実させてほしい、申込の倍率が高く利用ができないことがある（3件） ・一時預かりの申請手続きや乳幼児健診の予約を簡単にできるようにしてほしい（2件） ・市内でショートステイや病児保育を利用しやすいようにしてほしい ・病児保育の利用時間が短い。7時から19時くらいまで使えるようにしてほしい ・病児保育を行っている所があるのかが分からない ・ファミリー・サポート・センターは、預け先が遠いことや知らない人に預けることに不安がある
経済的支援、ひとり親支援、子どもの貧困対策について	38	・子どもの人数や世帯の状況を問わず利用できる経済的支援を充実させてほしい（4件） ・給食費を無償化させてほしい（14件） ・中学、高校、大学における教育費が不安 ・給付金について、家庭内に不和がある場合、直接子育てに携わっている方の親にお金が届かないことがあるため、振込の方法を検討いただきたい ・制服やジャージなどの学用品の購入費負担が大きい（2件） ・助成金など一時的な支援よりも、ひとり親の正規雇用の促進や資格取得などの継続的な支援を優先させてほしい ・PTA活動の負担がひとり親世帯にとっては大きい ・貧困が原因で、勉強についていけなかったり、身なりが不衛生だったりして、結果的に非行につながっている。まずは衣食住がいきたるよう、支援を充実させてほしい。

分類	件数	主なご意見
放課後の居場所 や習い事について	55	・放課後等デイサービスを利用しているが、障がいの有無によって兄弟で預け先が分かれてしまうので、障がいの有無を問わず預けられる場所があればよい ・放課後等デイサービスの定員が少ない ・新設される東部児童センターを利用するのが楽しみ（2件） ・児童センターを増やしてほしい ・高学年だが放課後児童クラブを利用できており、感謝している ・放課後児童クラブの一部の指導員の子どもに対する態度や言動が悪いと感じる（2件） ・放課後児童クラブの指導員の数不足している（2件） ・当日、急な予定が入ったときにも放課後児童クラブに預けられるとよい ・放課後の校庭開放日を増やしてほしい ・学習環境が整った放課後の居場所があればよい ・習い事の手当てがあればよい（2件） ・障がいがある子どもが通える習い事を増やしてほしい
母子保健・健康・ 発育について	20	・医療費助成制度があり助かっている（3件） ・医療費助成の負担金額をさらに下げてほしい（2件） ・予防接種の助成を増やしてほしい ・小児科が少ない、予約が取りづらい（2件） ・小児科に対応した夜間休日急病診療所等が市内にない ・発達、療育を専門に扱うセンターがあればよい ・発達障がい等について早期に気づき、保護者がそれを受け入れて適切な支援につながる仕組みがあればよい ・プレママ教室の内容を時代に合わせてアップデートさせてほしい ・食育や地産地消の観点から給食での地元の食材の利用を増やしてほしい
相談について	9	・スクールカウンセラーとの相談で悩みが解消した ・発達障がいについて対面や電話で相談するハードルが高く、気軽に相談できるようメールなどでの相談があればよい ・発達障がいについて市役所に相談した際、検査はしてもらえたもののそれ以上の助言や指導が無く不満を感じた ・複雑化する課題について、分野を問わず受け止めてもらえるような相談窓口があればよい（2件） ・学校教育に関して行政に相談できる窓口があればよい

分類	件数	主なご意見
教育・学校について	65	・先生の補助をする人を増やすなどして先生の業務負担を軽減することで、先生がいじめやトラブルに気づけるよう子どもたちに目を向ける時間を増やしてほしい ・小学校の先生の待遇を改善させてほしい ・小学校と中学校で行事の日がかぶらないようにしてほしい ・小学校ごとに宿題の量が違うため、学力に差があるように感じる ・小学校の開門（8時）より前に学校の門に来て時間を潰している児童をみるが、見守りが必要ではないか
		・先生と話す機会について、年2～3回の面談では限られ、もう少し増やすか時間を長くしてほしい ・働き方改革により、電話連絡の終了時間が早まった。友達関係のトラブルや、不登校の兆候など、直接話をしたい時に話ができない ・学校教育に関するアンケートや意見を言う機会があればよい ・校則を多様なジェンダーに配慮して見直す機会があればよい
		・特別支援学級を指導する人手が足りておらず、重度の子に付きっきりで指導するため軽度の子が後回しにされている ・発達障がいのある子について、現場の先生には良く対応いただいているが、学年が変わっても続くかが不安。情報を連携させて対応できるようにしてほしい ・不登校の子どもの居場所が少ない。フリースクールや少人数制の学校があれば、通える子もいるのではないか ・不登校の子どもの将来が不安 ・小学校、中学校に不登校支援の教室があることに感謝している
		・給食当番のエプロンを新調するか、個人持ちにしてほしい（2件） ・学校の備品（机）や施設が古い（3件）
		・郷土資料館と図書館以外にも、博物館などの遊びながら学べる場があればよい ・職業体験ができる場があればよい ・長期休暇中に仕事の体験や、先生以外の大人との交流ができる場があればよい ・勉強だけでなく、ボランティア活動等を通じて社会の一員であることを学べる機会があればよい

分類	件数	主なご意見
こどもの権利について	4	・こどもの権利とはどのようなものかを大人がもっと理解することが必要 ・保護者が子どもにとってより良い子育てとは何かを見直せる機会があればよい ・子ども議会では事前に決められたテーマで1つの質問しかできず、もっと主体的で自由に意見を言える場にすべきだと感じる
広報・広聴について	13	・市役所の会議に市民が参加できる機会が増えればよい ・支援や制度について、知らない情報が多いことに気づいた ・障がい児支援について、情報発信を充実させてほしい ・子育てをしながら短時間で働ける求人の情報を提供して欲しい ・子ども本人が利用できる支援について、小学校でイラストを入れた冊子を配るなど、本人に届く形で情報を発信して欲しい ・市に自由に意見を言える仕組みがほしい ・アンケート調査をもとに取り組む内容について、情報発信して欲しい
生活環境について	72	・公園を増やしてほしい、公園の遊具やボール遊び、スポーツができる環境を充実させてほしい（43件） ・通学路等の歩行環境を安全なものにしてほしい（30件）

2 中学生調査、高校生・若者調査

(1) 普段の生活のことについて

問3（中学生調査） 問4（高校生・若者調査）

あなたは、普段（平日）の朝ごはんをどのように食べていますか。

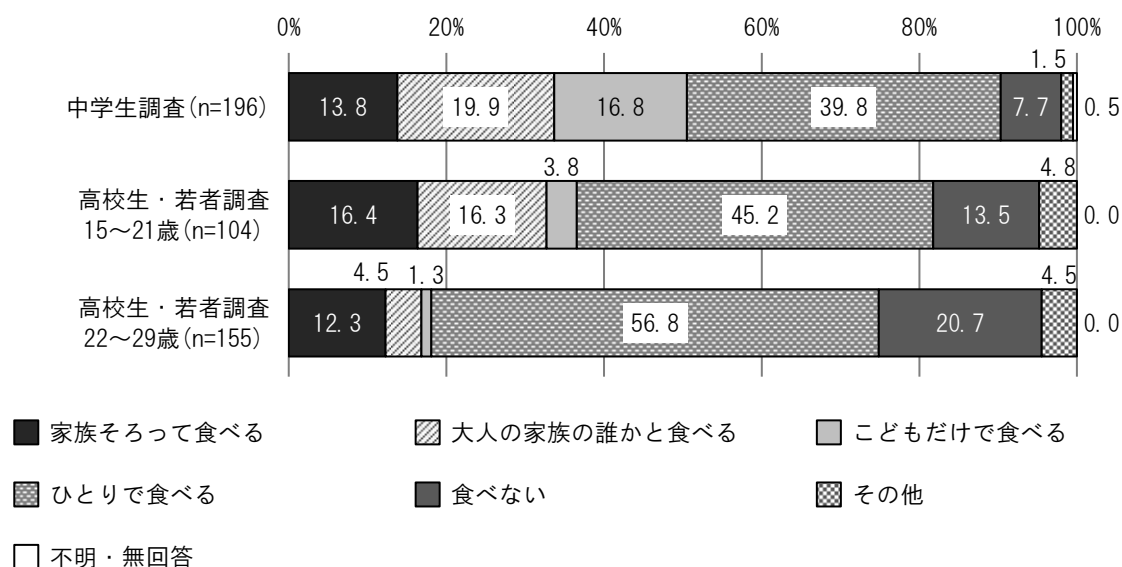
（単数回答）

〈中学生調査〉では、「ひとりで食べる」が39.8%と最も多く、次いで「大人の家族の誰かと食べる」が19.9%となっています。

〈高校生・若者調査 15～21 歳〉では、「ひとりで食べる」が45.2%と最も多く、次いで「家族そろって食べる」が16.4%となっています。

〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「ひとりで食べる」が56.8%と最も多く、次いで「食べない」が20.7%となっています。

年代が上がるほど、「ひとりで食べる」「食べない」の割合が高くなっています。



問3（中学生調査） 問4（高校生・若者調査）

あなたは、普段（平日）の晩ごはんをどのように食べていますか。

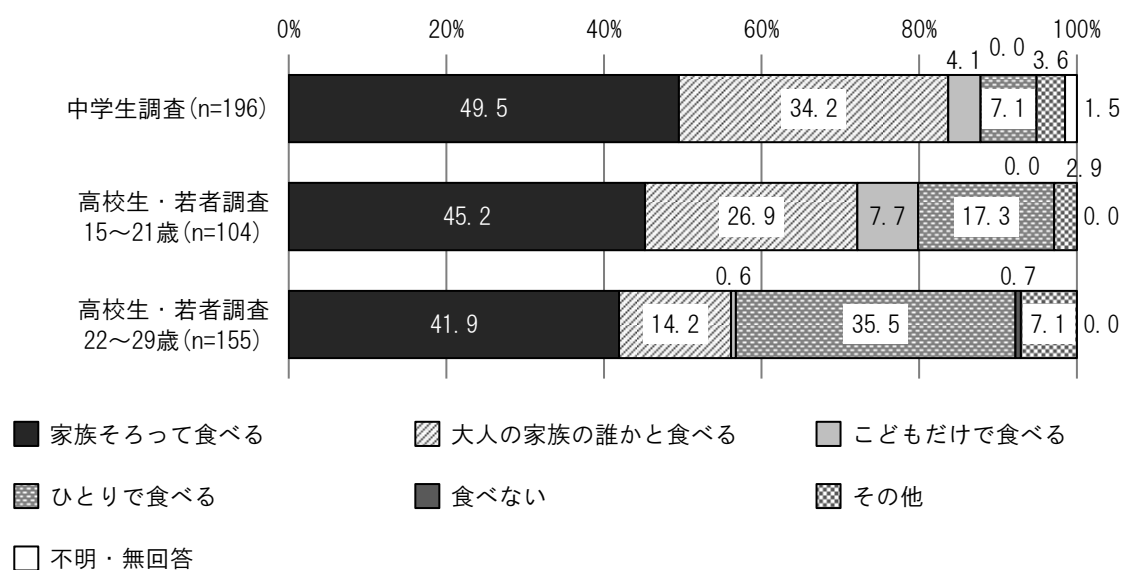
（単数回答）

〈中学生調査〉では、「家族そろって食べる」が49.5%と最も多く、次いで「大人の家族の誰かと食べる」が34.2%となっています。

〈高校生・若者調査 15～21歳〉では、「家族そろって食べる」が45.2%と最も多く、次いで「大人の家族の誰かと食べる」が26.9%となっています。

〈高校生・若者調査 22～29歳〉では、「家族そろって食べる」が41.9%と最も多く、次いで「ひとりで食べる」が35.5%となっています。

年齢が上がるほど、「ひとりで食べる」の割合が高くなっています。



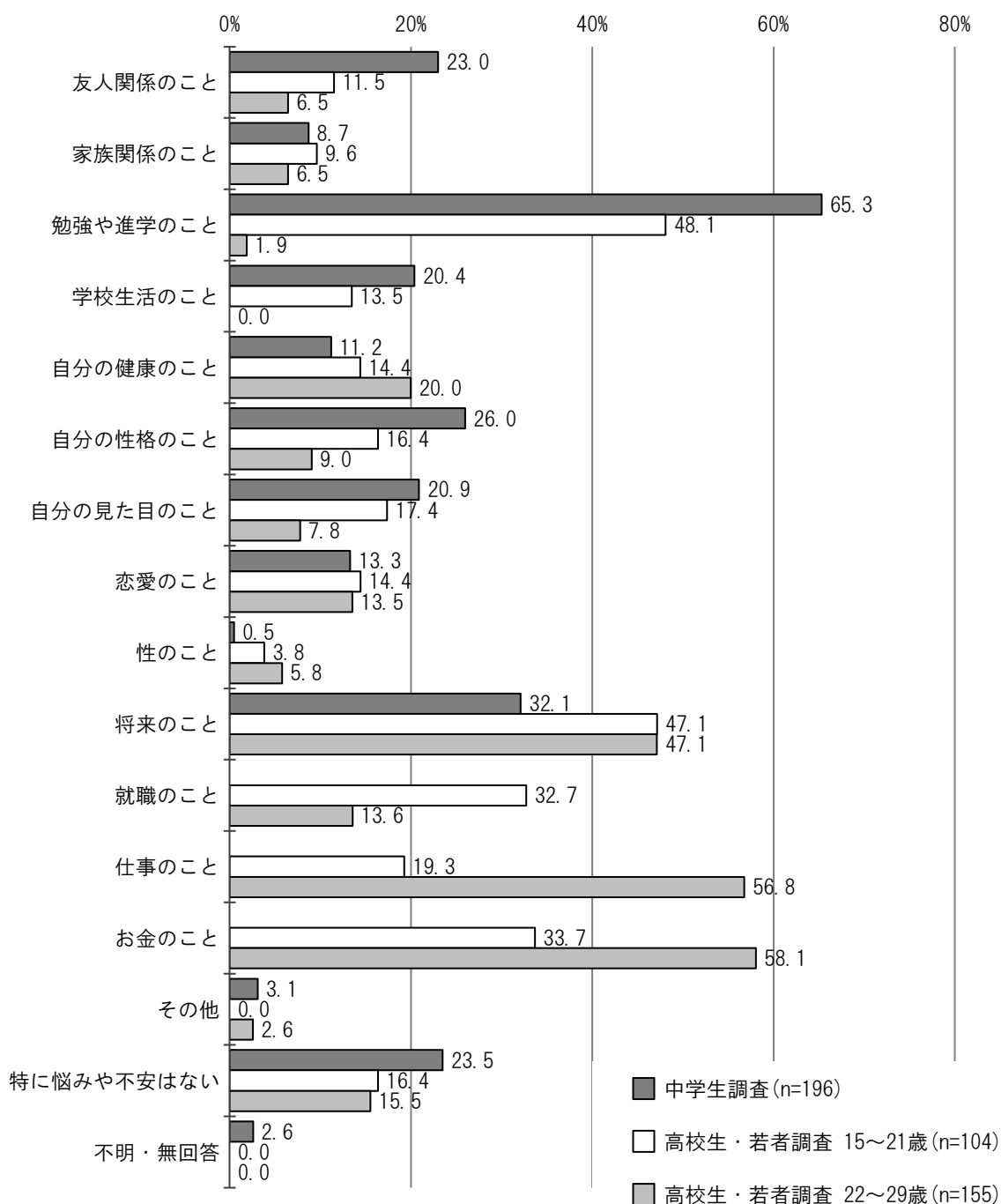
問4（中学生調査） 問5（高校生・若者調査）

現在、悩んでいることや不安に感じていることはありますか。

（複数回答）

〈中学生調査〉〈高校生・若者調査 15～21 歳〉では、「勉強や進学のこと」が最も多く、次いで「将来のこと」となっています。

〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「お金のこと」が58.1%と最も多く、次いで「仕事のこと」が56.8%となっています。



※「就職のこと」「仕事のこと」「お金のこと」は、高校生・若者調査のみの選択肢です。

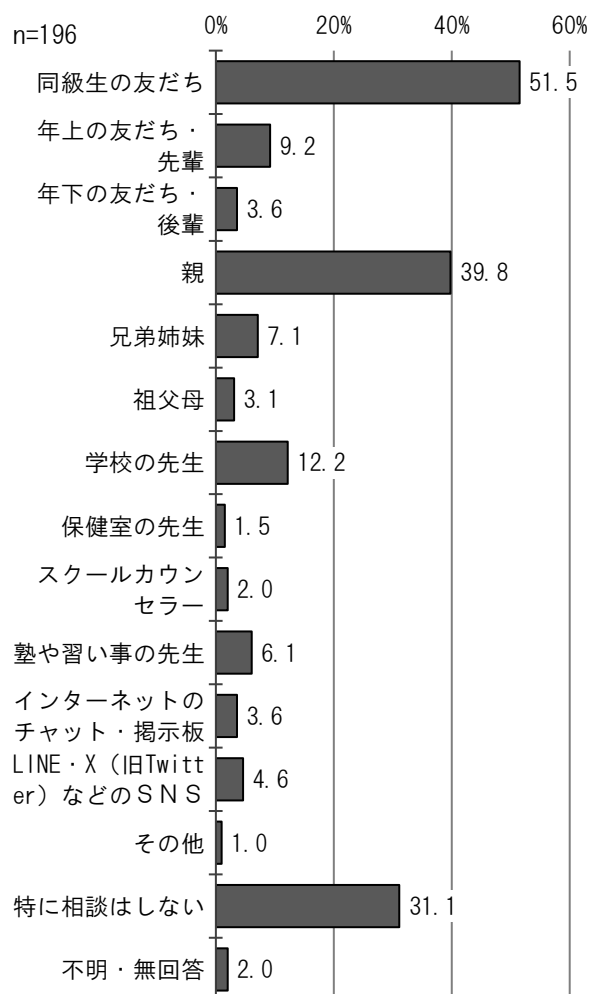
問5（中学生調査） 悩みや不安を感じたときに、だれ・どこに相談していますか。（複数回答）

〈中学生調査〉では、「同級生の友だち」が51.5%と最も多く、次いで「親」が39.8%となっています。

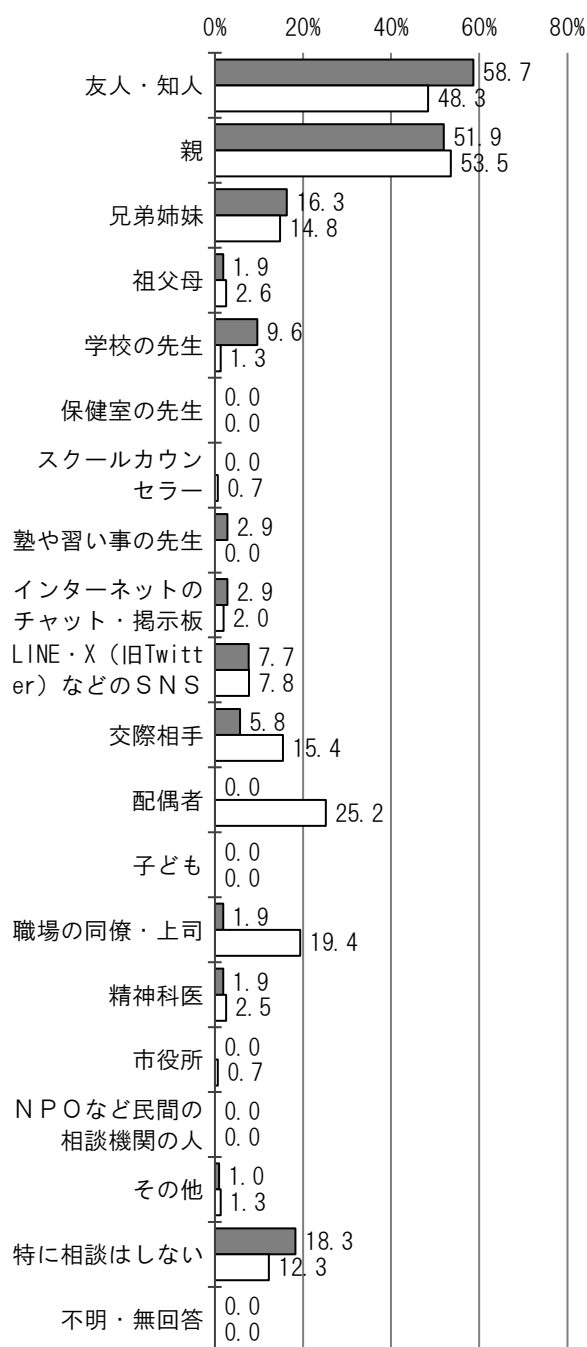
〈高校生・若者調査 15～21 歳〉では、「友人・知人」が58.7%と最も多く、次いで「親」が51.9%となっています。

〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「親」が53.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が48.3%となっています。

（中学生調査）



（高校生・若者調査）

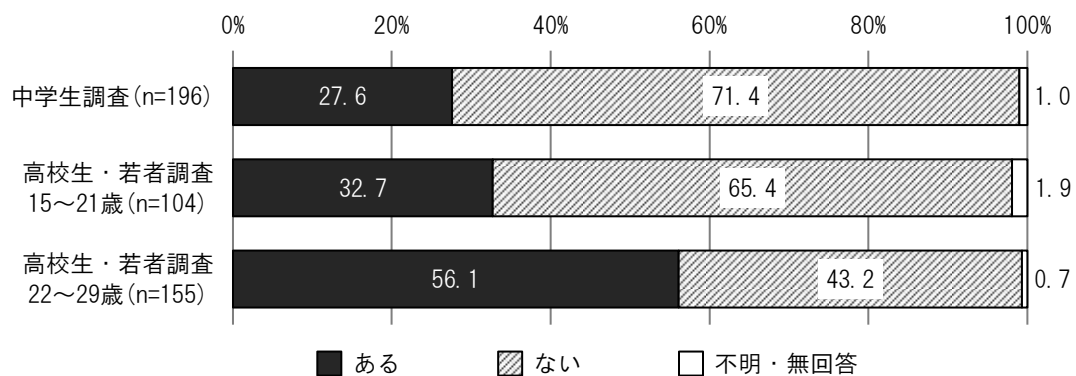


■ 高校生・若者調査 15～21 歳 (n=104) □ 高校生・若者調査 22～29 歳 (n=155)

問6（中学生調査） 問7（高校生・若者調査）

悩んでいることや不安に感じていることについて、だれかに相談できれば良かった、または、もっと他の人に相談できれば良かったと思ったことはありますか。（単数回答）

年代が上がるほど、「ある」が多くなっており、〈高校生・若者調査 22～29歳〉では56.1%となっています。

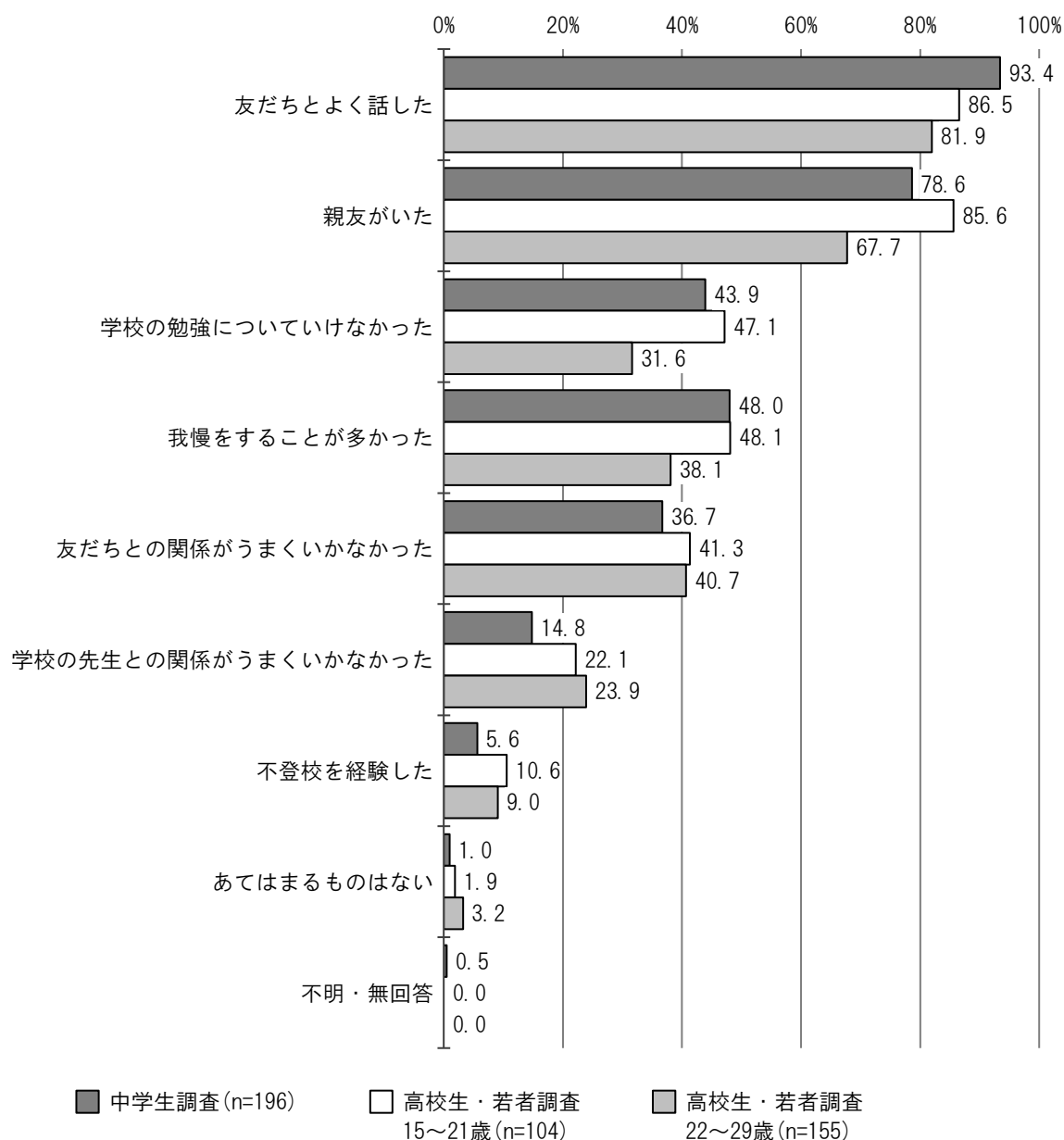


問7（中学生調査） 問8（高校生・若者調査）

あなたはこれまでに、学校で次のような経験をしたことがありますか。（複数回答）

「親友がいた」「学校の勉強についていけなかった」については、〈中学生調査〉〈高校生・若者調査 15～21 歳〉と比べて、〈高校生・若者調査 22～29 歳〉で低くなっています。

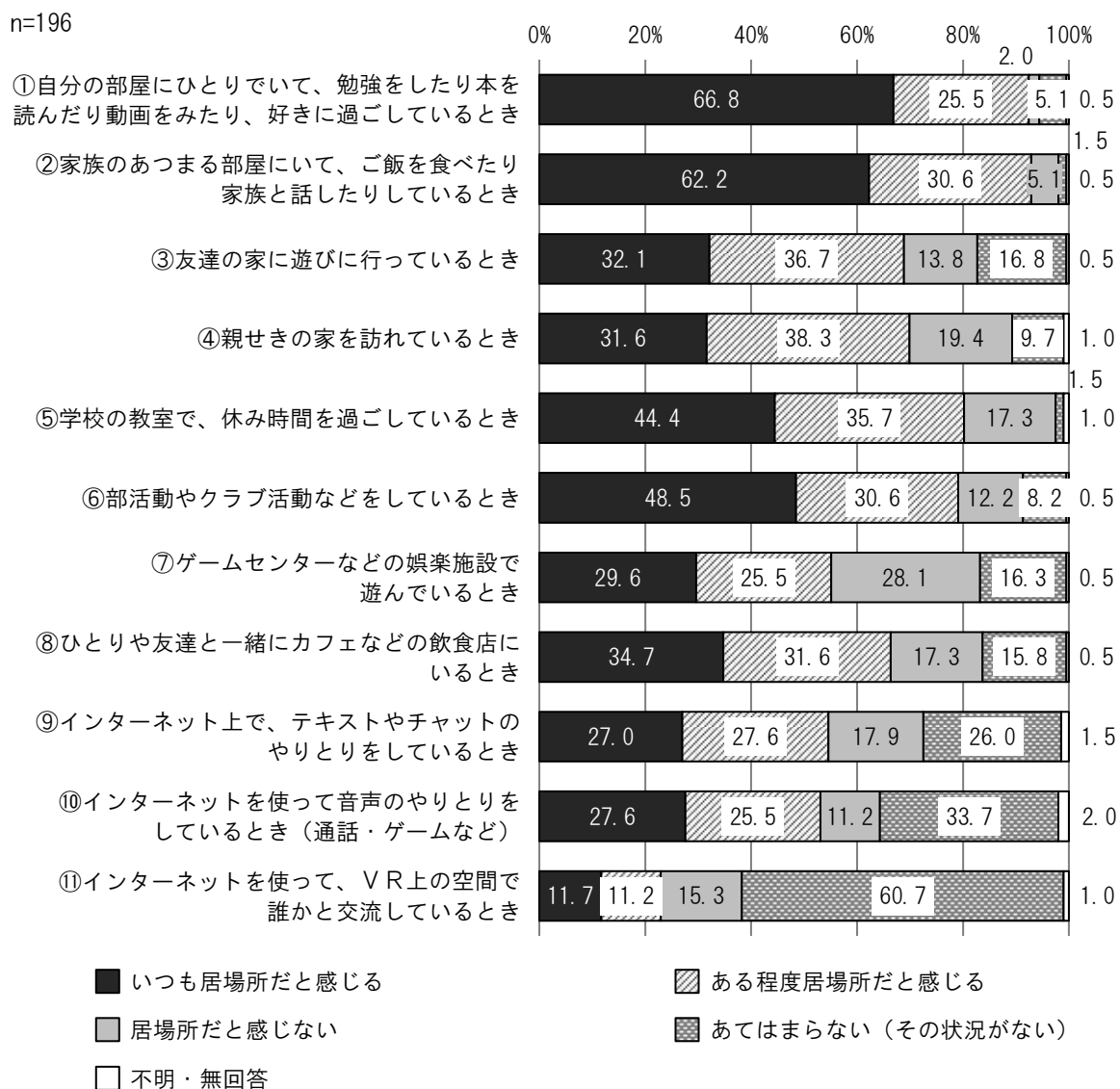
「不登校を経験した」については、〈中学生調査〉では 5.6%、〈高校生・若者調査 15～21 歳〉〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では約 1 割となっています。



(2) 居場所について

問8（中学生調査） 次のようなことをしているとき、そこが居場所になっていると感じますか。
（単数回答）

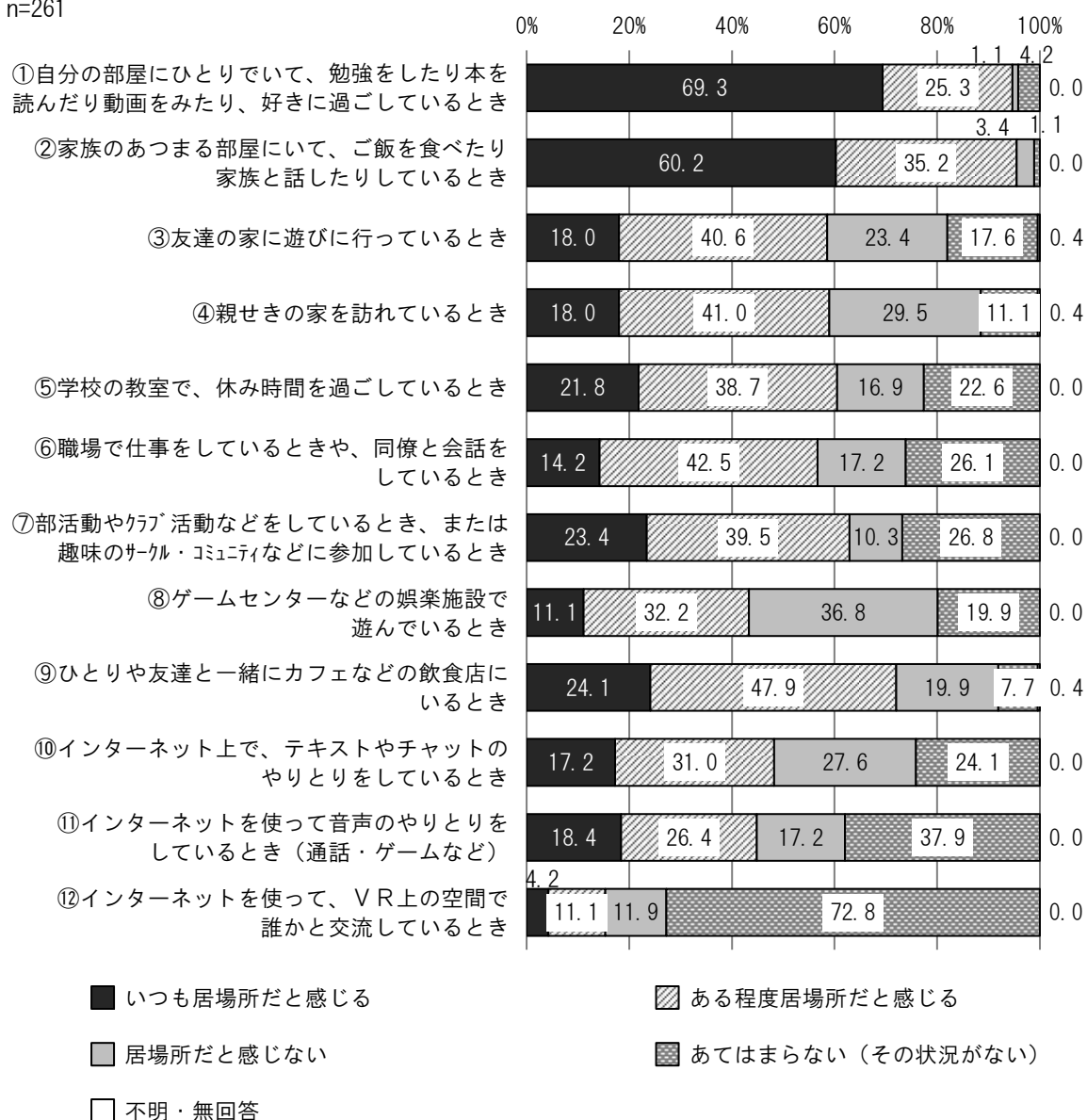
「いつも居場所だと感じる」「ある程度居場所だと感じる」の合計について、〈①自分の部屋〉〈②家族のあつまる部屋〉では約9割、〈⑤学校の教室〉〈⑥部活動やクラブ活動〉では約8割となっています。



問9（高校生・若者調査） 次のようなことをしているとき、そこが居場所になっていると感じますか。（単数回答）

「いつも居場所だと感じる」「ある程度居場所だと感じる」の合計について、〈①自分の部屋〉〈②家族のあつまる部屋〉では約9割、〈⑨カフェなどの飲食店〉では約7割となっています。

n=261

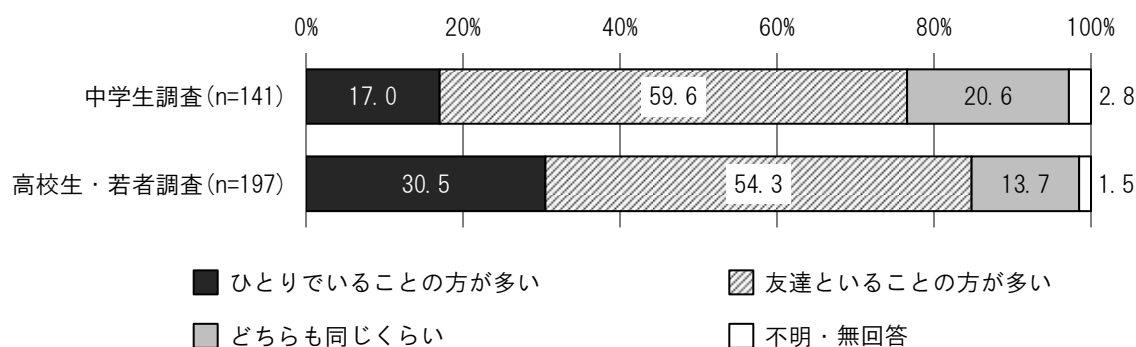


問8（中学生調査） 問9（高校生・若者調査） 付問

⑦（⑧）（ゲームセンター）・⑧（⑨）（カフェ）について、そこを居場所だと感じるときは、ひとりでいる時か、友達という時か、どちらが多いですか。（単数回答）

〈中学生調査〉では、「友達ということが多い」が59.6%と最も多く、次いで「どちらも同じくらい」が20.6%となっています。

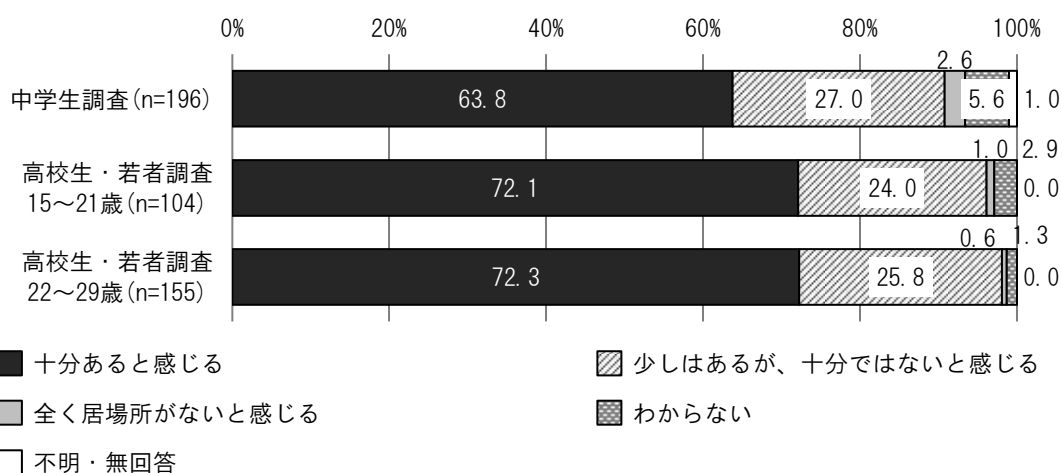
〈高校生・若者調査〉では、「友達ということが多い」が54.3%と最も多く、次いで「ひとりでいることが多い」が30.5%となっています。



問9（中学生調査） 問10（高校生・若者調査）

あなたは、自分にとって「居場所」だと感じるところが十分あると感じますか。（単数回答）

居場所が十分だと感じていない割合は、〈中学生調査〉で約3割、〈高校生・若者調査 15～21 歳〉〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では2割台となっています。

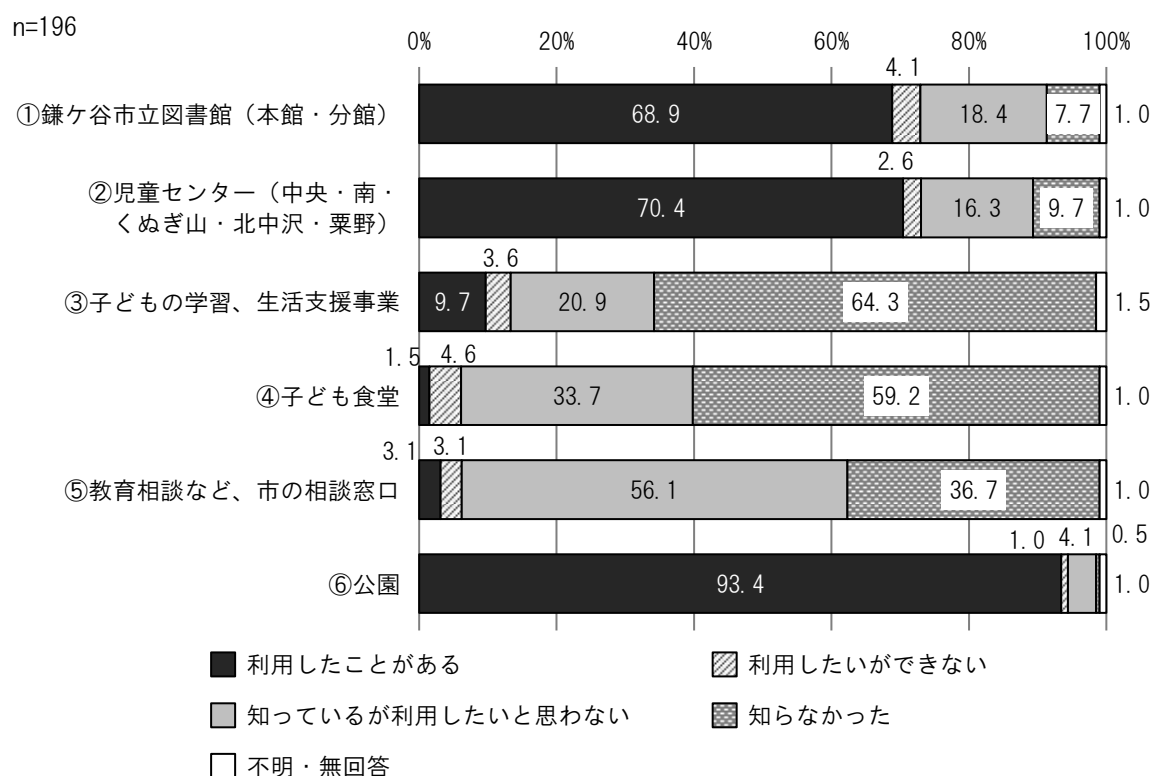


問 10（中学生調査） 居場所づくりにつながる以下の取り組みを知っていますか。また、利用したことがありますか。（単数回答）

中学生調査における、居場所づくりにつながる取り組みの認知・利用状況についてみると、①鎌ケ谷市立図書館<②児童センター><⑥公園>では、「利用したことがある」がと最も多くなっています。

<③子どもの学習、生活支援事業><④子ども食堂>では、「知らなかった」が6割前後と最も多く、次いで「知っているが利用したいと思わない」となっています。

<⑤教育相談など、市の相談窓口>では、「知っているが利用したいと思わない」が56.1%と最も多く、次いで「知らなかった」が36.7%となっています。



各取り組みについて、「利用したいができない」と回答した方の理由についてみると、立地や、施設・機能について、また機会・広報についてのご意見が挙げられています。

分類	主なご意見（カッコ内は「利用したいができない」の取り組み）
立地	・家から遠く、場所が分からない（①②） ・市立図書館を利用したいが、家から遠い（①） ・その場所まで行かないといけないため（③④）
施設・機能	・一人ひとりの居場所となるスペースがあればよい（①） ・学習センターは、多くの方が利用されているためなかなか利用できない
機会・広報	・体験談を聞けると良い（③） ・行くタイミングが無い。イベントや案内があれば行きやすい（③④）

問 11 鎌ヶ谷市や地域に、若者の居場所づくりとして取り組んでほしいことがあれば、ご自由にお書きください。

中学生調査においては、居場所づくりとして取り組んでほしいこととして70件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

(中学生調査)

分類	件数	主なご意見
公園	28 件	・大きな公園があれば良い（11 件） ・地域の住民に気を遣わずに遊べる公園があれば良い（3 件） ・中学生の体格でも遊べる難易度の高い遊具があれば良い（3 件） ・日光アレルギーで公園に行きづらいので、日陰があれば良い（1 件）
スポーツができる場	13 件	・ボールを使って遊べる場所があれば良い（9 件） ・自由に使える体育館があれば良い（2 件）
勉強等ができる場	8 件	・自宅以外に仲間と勉強ができる場所があれば良い（6 件） ・学校外で、無償で勉強を教えてくれる場所があれば良い（1 件）
自由に過ごせる場	12 件	・公園以外に、屋内で交流できる場所があれば良い（5 件） ・明るい人、おとなしい人がそれぞれ好きに過ごせる場があれば良い（1 件） ・何もしなくても良い、若者が交流できる場所があれば良い（1 件）
商業・文化・娯楽施設	9 件	・映画館や娯楽施設があれば良い（4 件） ・ボードゲームで遊べるカフェがあれば良い（1 件）
相談や支援	10 件	・家族や友達に知られずに相談できたり、進路に関する相談ができたりなど、より相談しやすい窓口があれば良い（5 件） ・こども食堂を充実させてほしい（2 件）
コミュニティやイベント	7 件	・ボランティアに関するイベントがあれば良い（1 件） ・色々な人と関われる機会があれば良い（1 件） ・長期休みに気軽に友達と会えるようなイベントがあれば良い（1 件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて1件として計上しています

高校生・若者調査（15～21 歳）においては、居場所づくりとして取り組んでほしいこととして 34 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（高校生・若者調査 15～21 歳）

分類	件数	主なご意見
公園	3件	・幅広い年齢層が居ても良い公園があれば良い（1件）
スポーツができる場	4件	・スポーツを楽しめる場（キャッチボールやサッカーができるグラウンド、バスケットボールのコート、プール）（4件）
勉強等ができる場	6件	・自習や勉強ができる場所があれば良い（6件）
自由に過ごせる場	3件	・1人でもふらっと立ち寄れる、様々な人と交流できる施設があれば良い（1件）
商業・文化・娯楽施設	18件	・映画館や娯楽施設があれば良い（14件） ・若者にとって魅力的な商業施設があれば良い（2件）
相談や支援	2件	・いじめへの対応を充実してほしい（1件） ・キャリア教育に関して学べる場があれば良い（1件）
コミュニティやイベント	2件	・ボランティア参加のきっかけとなる場所があれば良い（1件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて1件として計上しています

高校生・若者調査（22～29 歳）においては、居場所づくりとして取り組んでほしいこととして 52 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（高校生・若者調査 22～29 歳）

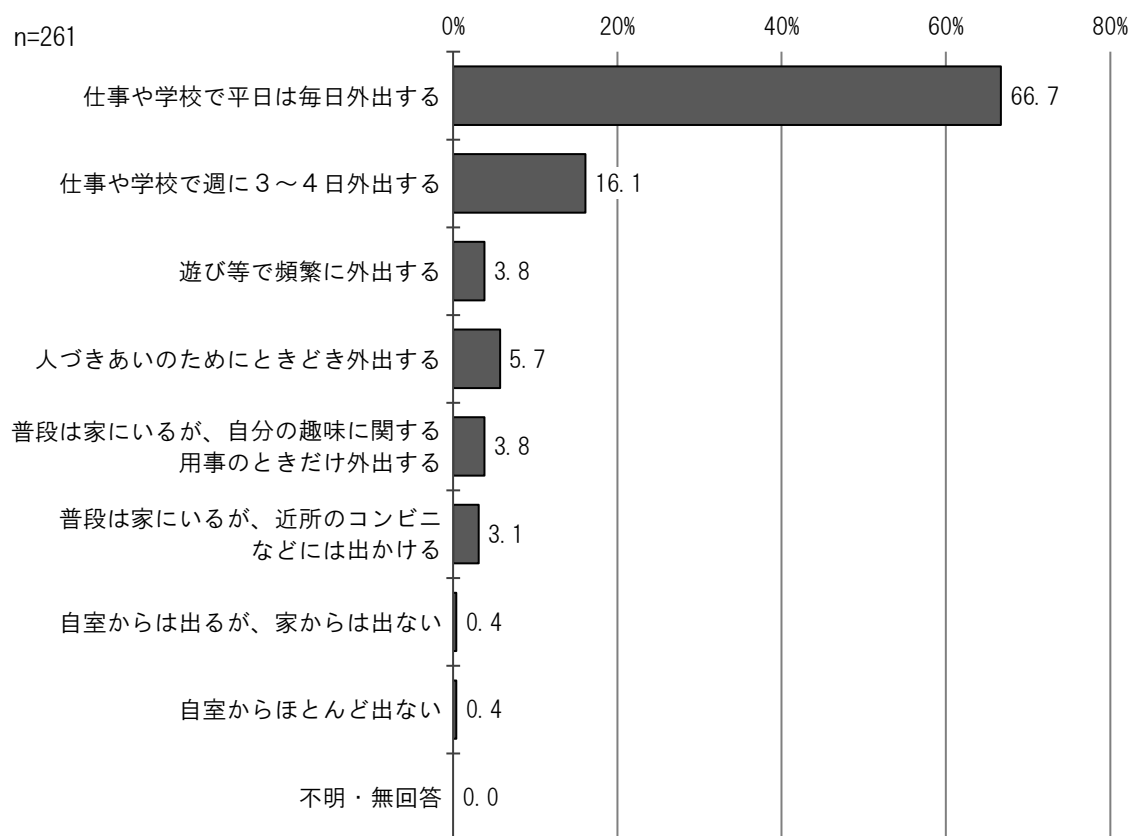
分類	件数	主なご意見
公園	8件	・1人の時間を楽しんだり、交流ができたり、リラックスできる公園があれば良い（2件）
スポーツができる場	4件	・運動サークルの活動や情報提供を充実させてほしい（1件） ・未来の子どもたちが使える運動施設を増やしてほしい（1件）
勉強等ができる場	7件	・勉強や仕事で気軽に使えるスペースがあれば良い（2件） ・勉強を教え合う場があれば、子どもや若者の居場所になると思う（1件）
自由に過ごせる場	7件	・しっかりルールを整備した上で、メタバースを居場所づくりに活用できると良い（1件） ・気軽に友人と長時間談笑できる場所があれば良い（1件）
商業・文化・娯楽施設	23件	・映画館や書店、娯楽施設があれば良い（23件）
相談や支援	5件	・不登校や引きこもりの支援を充実させてほしい（2件）
コミュニティやイベント	4件	・若者同士で交流できるコミュニティや場があれば良い（2件） ・日本人と外国人が交流できるコミュニティがあれば良い（2件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて1件として計上しています

(3) 外出状況について

問 12 (高校生・若者調査) あなたは、普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。(単数回答)

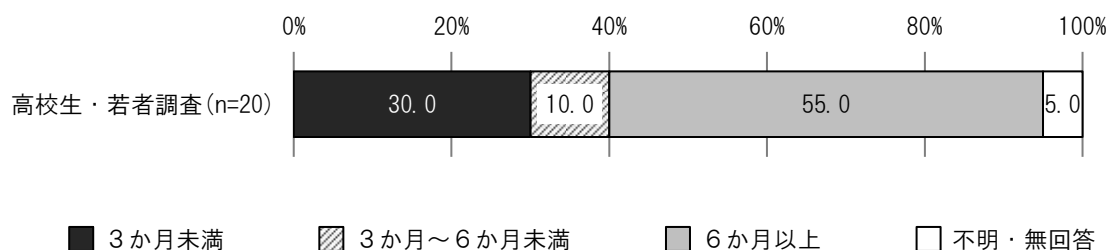
「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」は 3.8%、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」は 3.1%となっています。



問 12-1 (高校生・若者調査) あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。

※ 問 12 で「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」～「自室からほとんど出ない」を選んだ方のみ回答 (単数回答)

外出が少なくなってからの期間について、「6か月以上」は 55.0%となっています。



広義の引きこもり（※1）について、除外要件（※2）を除いた該当する件数は7件（2.7%）となっています（内閣府令和4年度調査では2.05%）。

問 12-2～問 12-4 については、広義の引きこもりに該当する回答を集計対象とします。

広義の引きこもり(※1)	
狭義の引きこもり(以下の状態になって6か月以上経っている)	
・普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	・自室からは出るが、家からは出ない
・自室からほとんど出ない	
準引きこもり(以下の状態になって6か月以上経っている)	
・普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	
除外要件(※2)	
上記のうち、以下の要件に該当する場合を除外したものを「広義のひきこもり」とする	
・外出しない理由が、「身体的病気」「妊娠」「介護・看護」等のみの場合	
・自宅で仕事をしている場合	

問 12-2（高校生・若者調査） あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。
（単数回答）

現在の外出状況になった年齢については、「12～14 歳」が2件、「15～17 歳」が1件、「18～21 歳」が1件、「22～25 歳」が1件、「26～29 歳」が1件、無回答が1件となっています。

（回答者数が7と少ないため、グラフ省略）

問 12-2（高校生・若者調査） あなたの外出状況が現在の状態になった理由は何ですか。
（単数回答）

外出状況が現在の状態になった理由については、「人間関係がうまくいかなかったこと」「病気のため」「退職したこと」がそれぞれ2件、「学校になじめなかったこと」「中学校時代の不登校」「就職活動がうまくいかなかったこと」「職場になじめなかったこと」「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」、また、その他回答として「自分の見た目が気になるため」がそれぞれ1件となっています。

（回答者数が7と少ないため、グラフ省略）

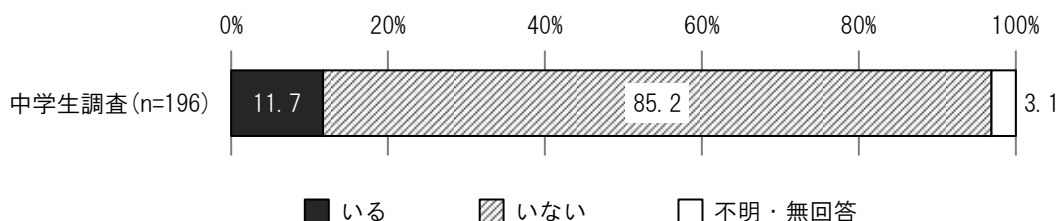
問 12-2（高校生・若者調査） 外出が難しくなっていることについて、相談や支援を受けたいと思いますか。（単数回答）

外出が難しくなっていることについて、相談や支援を受けたいと思うかについてみると、「必要性は感じるが、受ける気がおきない」が3件と最も多くなっており、「特に相談や支援は必要ない」が1件、「受けておらず、受けてみたい」が1件、「受けている」が1件、無回答が1件となっています。

（回答者数が7と少ないため、グラフ省略）

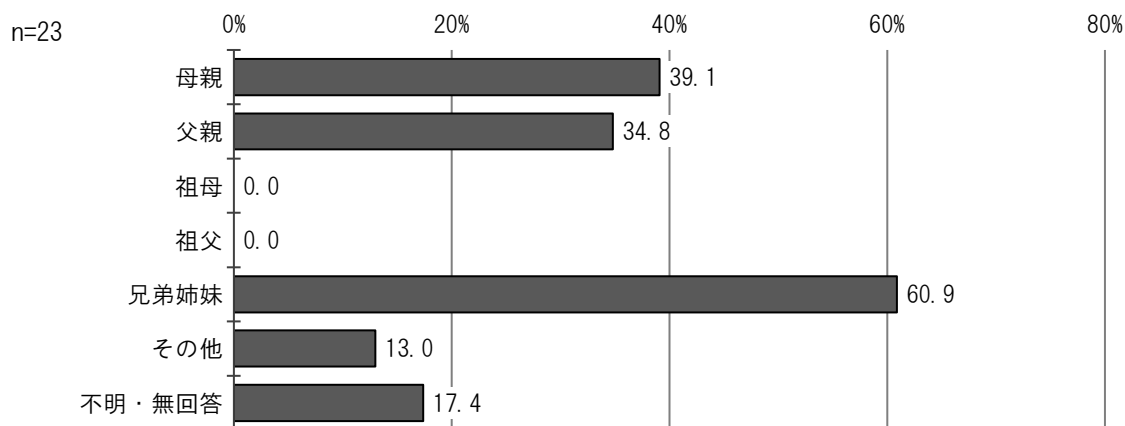
問 12（中学生調査） 家族（一緒に住んでいない家族も含む）の中に、あなたがお世話をしている人はいますか（ここでいう「お世話」とは、普通大人が行うような家事や家族のお世話を指します）。
（単数回答）

家族の中に、あなたがお世話（普通大人が行うような家事や家族のお世話をすること）をしている人はいるかについてみると、「いる」が11.7%となっています。



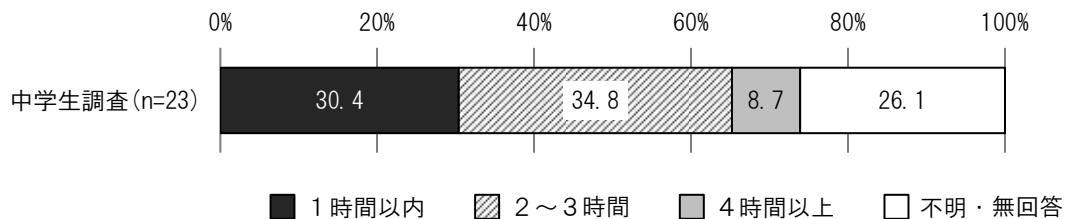
問 12-1 あなたは、誰をお世話していますか。 ※問 12 で「いる」を選んだ方のみ回答（複数回答）

誰をお世話しているかについては、「兄弟姉妹」が60.9%と最も多くなっています。



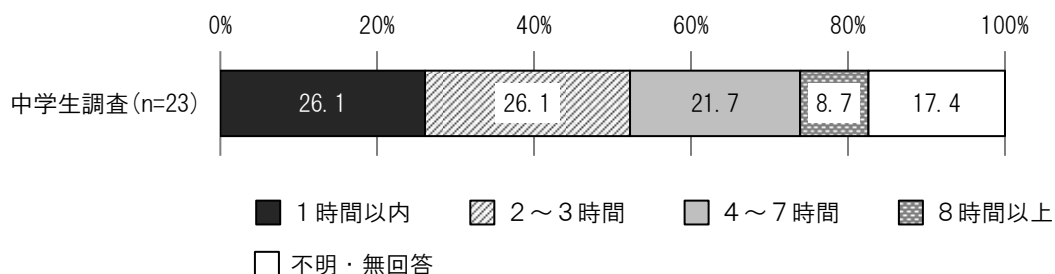
問 12-2 あなたは平日、何時間くらいお世話をしていますか。日によって違う場合は、この1か月の中で一番長かった日の時間を教えてください。 ※問 12 で「いる」を選んだ方のみ回答
（単数回答）

平日のうちお世話にかけている時間については、「2～3時間」が34.8%となっています。



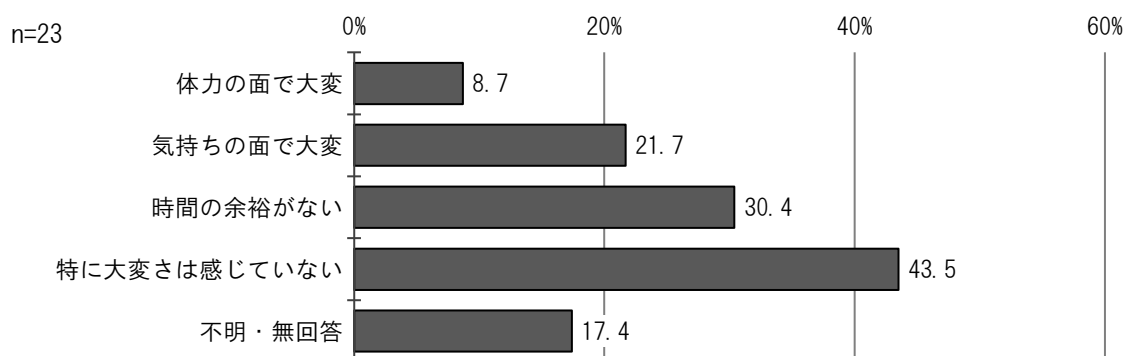
問 12-2 あなたは休日、何時間くらいお世話をしていますか。日によって違う場合は、この1か月の中で一番長かった日の時間を教えてください。※問12で「いる」を選んだ方のみ回答
(単数回答)

休日のうちお世話にかけている時間については、2時間以上の区分が合計で 56.5%となっています。



問 12-3 お世話をすることに大変さを感じていますか。※問12で「いる」を選んだ方のみ回答
(複数回答)

お世話をするについて大変さを感じているかについて、「時間の余裕がない」が 30.4% (7件)、「気持ちの面で大変」が 21.7% (5件) となっています。

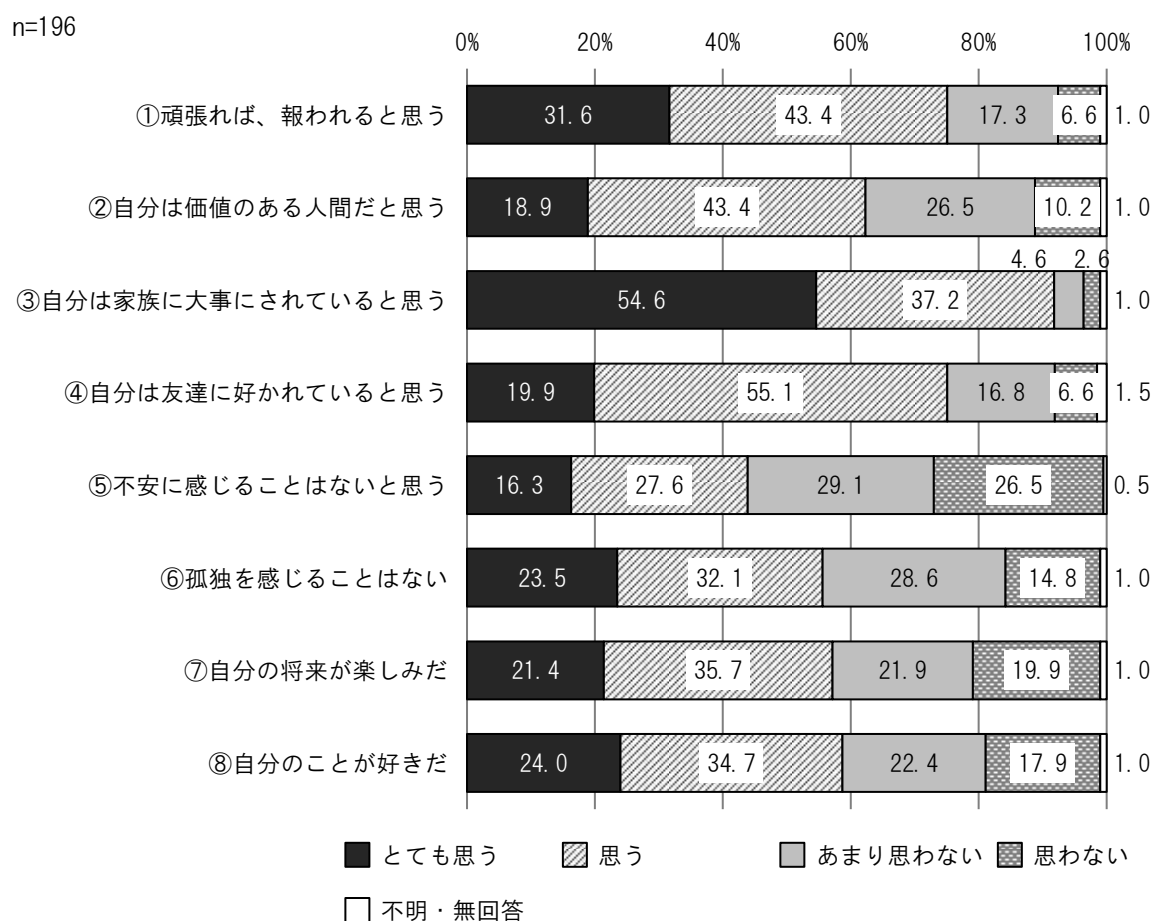


(4) 思いや気持ち、地域のことについて

問 13 (中学生調査) あなたの思いや気持ちについて、最も近いものに○をつけてください。
(単数回答)

〈自分は家族に大事にされていると思う〉については、「とても思う」と「思う」の合計が9割台と多くなっています。

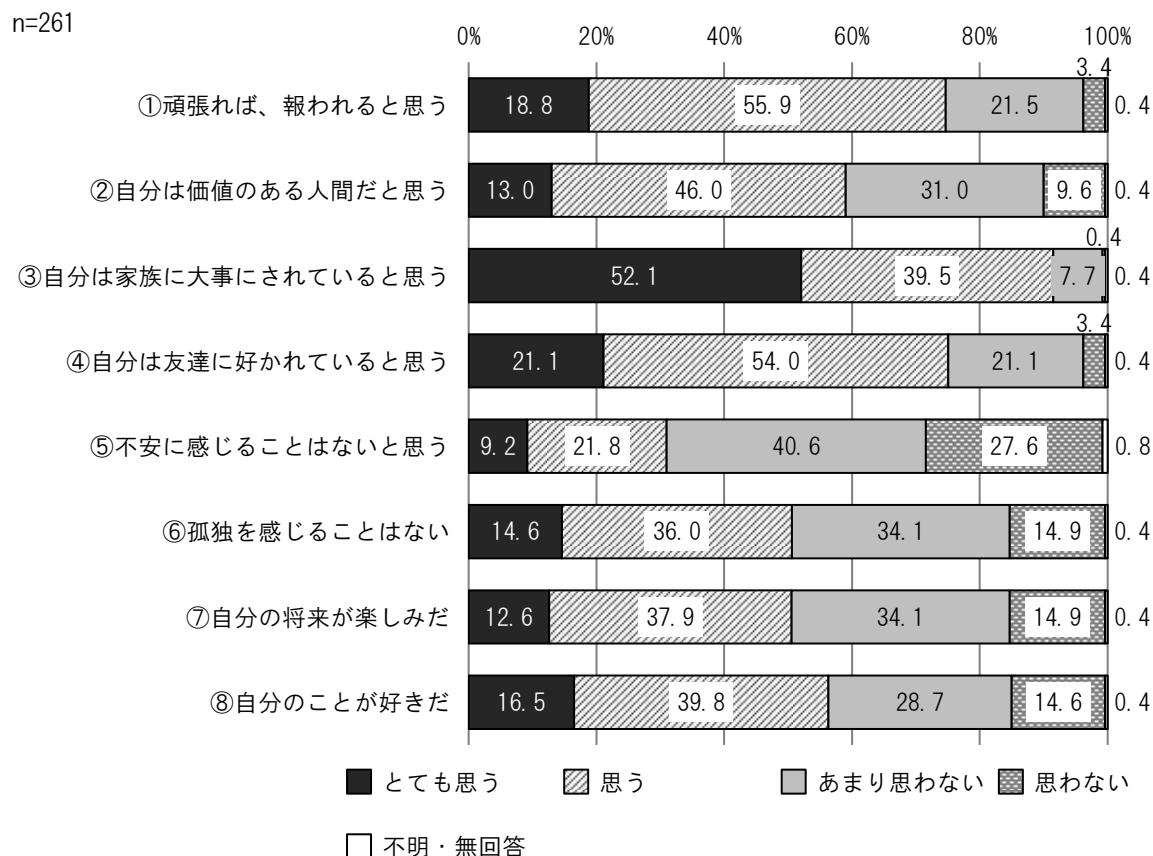
一方で、「とても思う」と「思う」の合計について、〈不安に感じることは無いと思う〉では4割台、〈孤独を感じることは無い〉〈自分の将来が楽しみだ〉〈自分のことが好きだ〉については5割台となっています。



問 13 (高校生・若者調査) あなたの思いや気持ちについて、最も近いものに○をつけてください。
(単数回答)

〈自分は家族に大事にされていると思う〉については、「とても思う」と「思う」の合計が9割台と多くなっています。

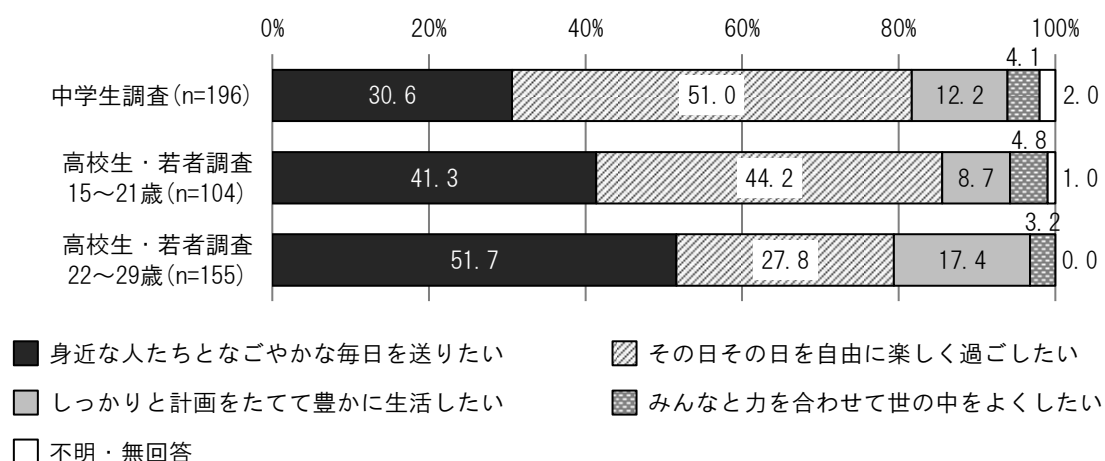
一方で、「とても思う」と「思う」の合計について、〈不安に感じることは無いと思う〉では約3割、〈自分は価値のある人間だと思う〉〈孤独を感じることはない〉〈自分の将来が楽しみだ〉〈自分のことが好きだ〉については5割台となっています。



問 14 次の考え方のうち、自分の考えに最も近いもの、優先したいと思うものはどれですか。
(単数回答)

〈中学生調査〉〈高校生・若者調査 15～21 歳〉では、「その日その日を自由に楽しく過ごしたい」が最も多く、次いで「身近な人たちとなごやかな毎を送りたい」となっています。

〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「身近な人たちとなごやかな毎を送りたい」が51.7%と最も多く、次いで「その日その日を自由に楽しく過ごしたい」が27.8%となっています。

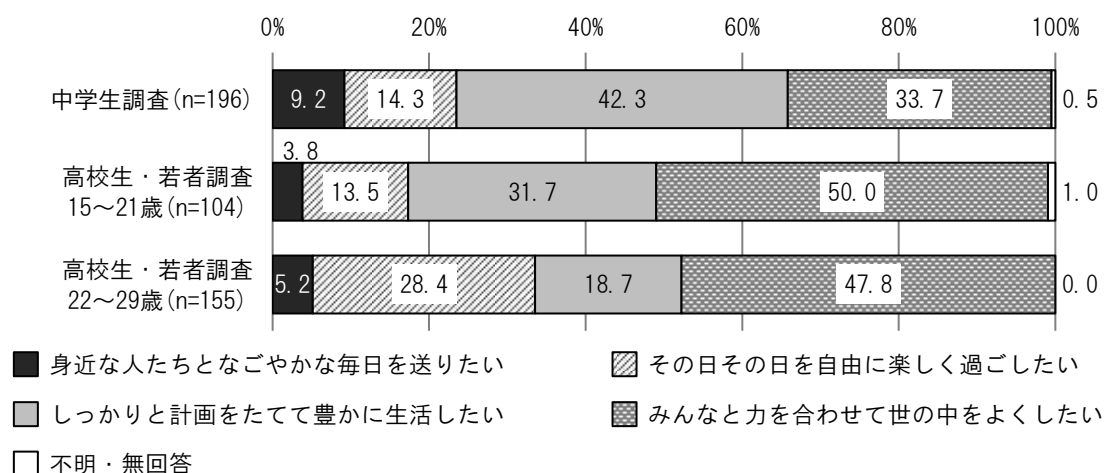


問 15 反対に、次の考え方のうち、自分の考えに最も遠いもの、優先度が低いと思うものはどれですか。(単数回答)

〈中学生調査〉では、「しっかりと計画をたてて豊かに生活したい」が42.3%と最も多く、次いで「みんなと力を合わせて世の中をよくしたい」が33.7%となっています。

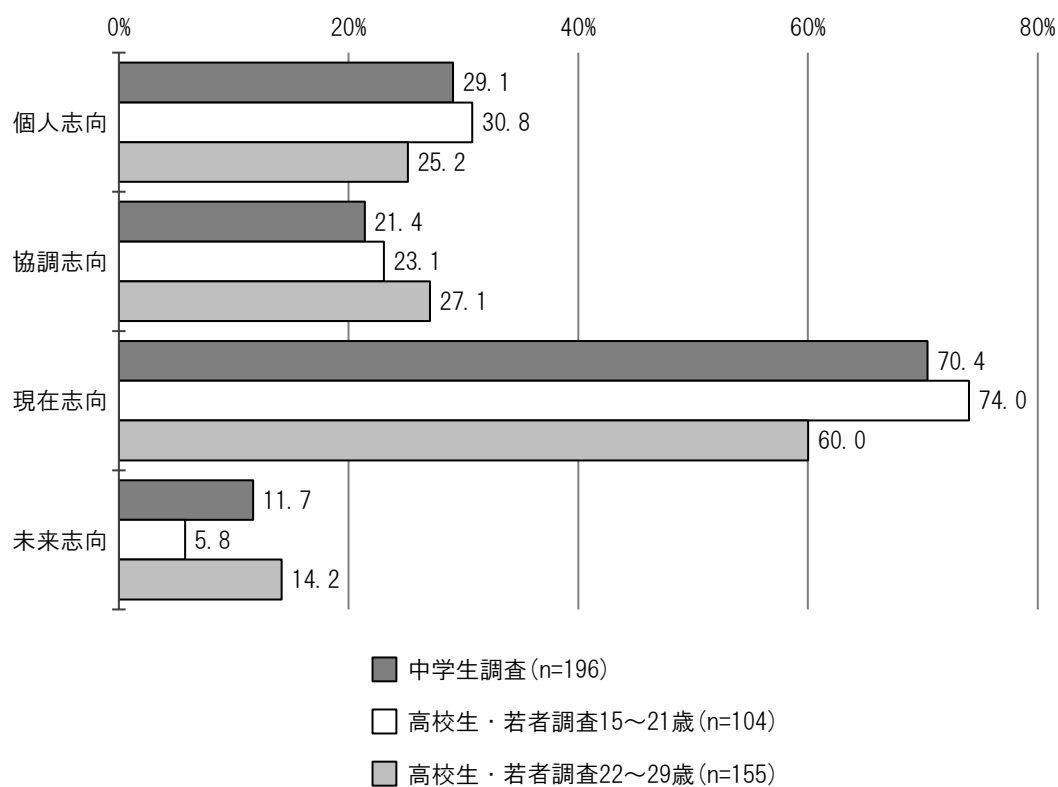
〈高校生・若者調査 15～21 歳〉では、「みんなと力を合わせて世の中をよくしたい」が50.0%と最も多く、次いで「しっかりと計画をたてて豊かに生活したい」が31.7%となっています。

〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「みんなと力を合わせて世の中をよくしたい」が47.8%と最も多く、次いで「その日その日を自由に楽しく過ごしたい」が28.4%となっています。



問 14・15 集計

問 14・問 15 の結果をもとに、志向を分析したところ、いずれの年代でも「現在志向」が多くなっていますが、〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では他の区分に比べてやや少なくなっています。

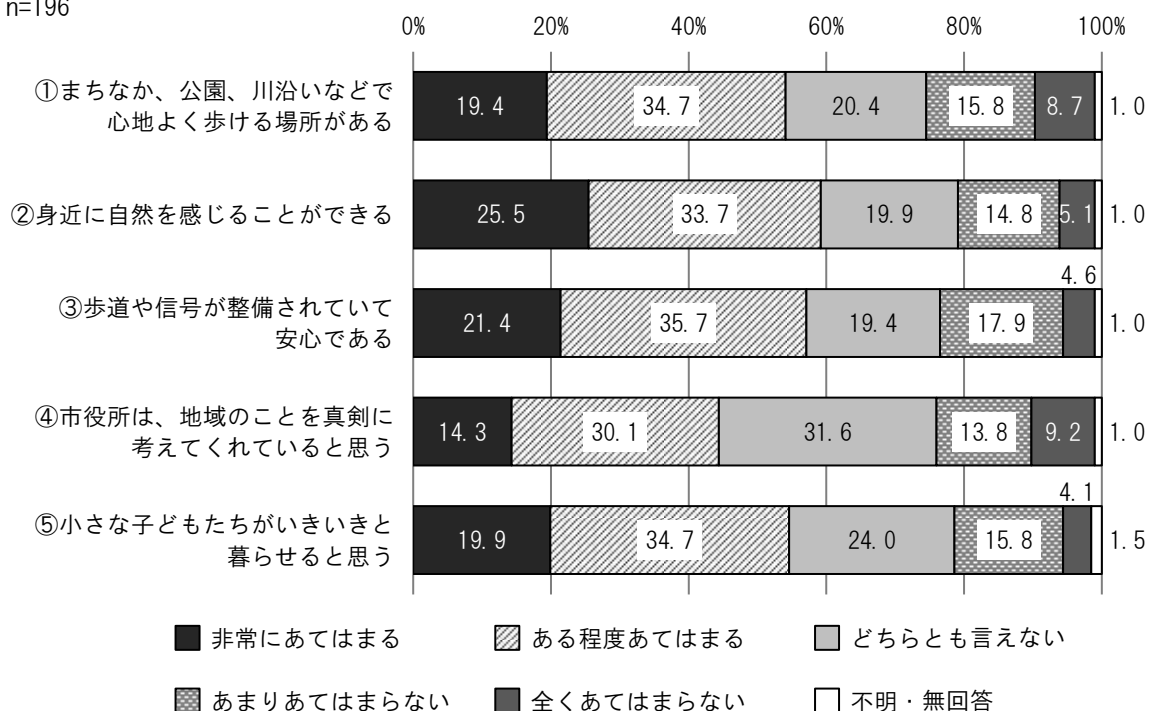


問 14 (最も近いもの)	問 15 (最も遠いもの)	集計
1. 身近な人となごやかな毎日を送りたい	2. その日その日を～	協調志向
	3. しっかりと計画を～	協調志向・現在志向
	4. みんなと力を合わせて～	現在志向
2. その日その日を自由に楽しく過ごしたい	1. 身近な人と～	個人志向
	3. しっかりと計画を～	現在志向
	4. みんなと力を合わせて～	個人志向・現在志向
3. しっかりと計画をたてて豊かに生活したい	1. 身近な人と～	個人志向・未来志向
	2. その日その日を～	未来志向
	4. みんなと力を合わせて～	個人志向
4. みんなと力を合わせて世の中をよくしたい	1. 身近な人と～	未来志向
	2. その日その日を～	協調志向・未来志向
	3. しっかりと計画を～	協調志向

問 16（中学生調査） あなたが暮らしている地域に感じることにについて、最も近いものに○をつけてください。（単数回答）

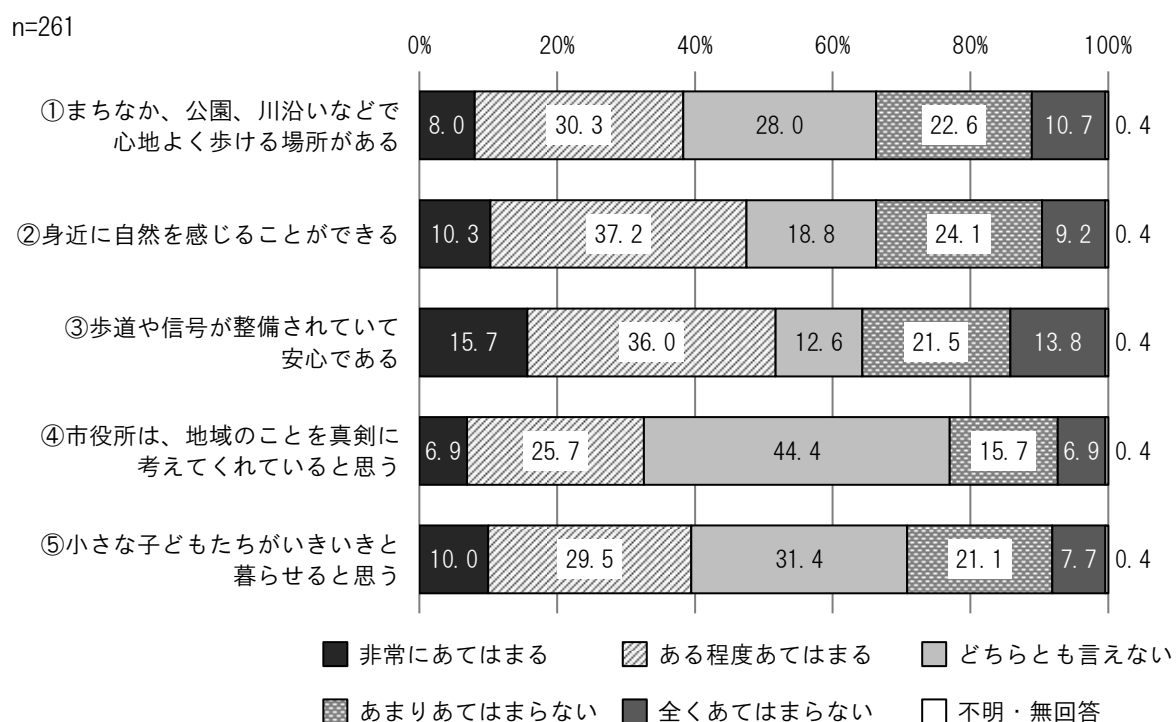
「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の合計についてみると、〈①まちなか、公園、川沿いなどで心地よく歩ける場所がある〉〈③歩道や信号が整備されていて安心である〉〈④市役所は、地域のことを真剣に考えてくれていると思う〉で2割台となっています。

n=196



問 16（高校生・若者調査） あなたが暮らしている地域に感じることに、最も近いものに○をつけてください。（単数回答）

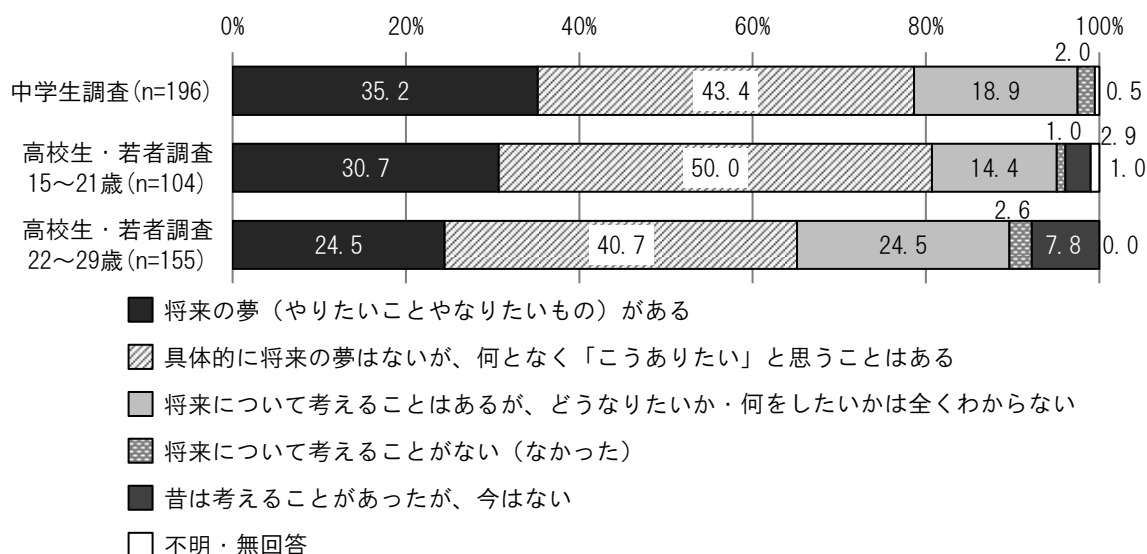
「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の合計についてみると、〈①まちなか、公園、川沿いなどで心地よく歩ける場所がある〉〈②身近に自然を感じることができる〉〈③歩道や信号が整備されていて安心である〉で3割台となっています。



問 17 あなたは、将来についてどのように考えていますか。

(単数回答)

いずれの区分においても「具体的に将来の夢はないが、何となく『こうありたい』と思うことはある」が4割～5割で最も多くなっています。



※「昔は考えることがあったが、今はない」は、高校生・若者調査のみの選択肢です。

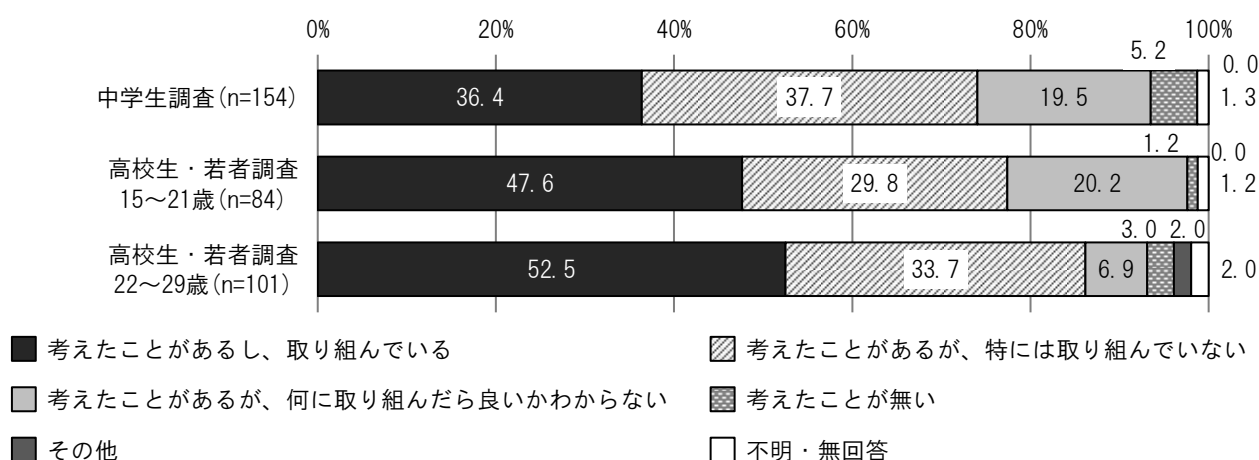
問 17-1 将来の実現にむけて、何に取り組んだら良いか考えたことはありますか。

※ 問 17 で「将来の夢がある」「具体的に将来の夢はないが、何となく『こうありたい』と思うことはある」を選んだ方のみ回答 (単数回答)

〈中学生調査〉では、「考えたことがあるが、特には取り組んでいない」「考えたことがあるし、取り組んでいる」がいずれも3割台となっています。

〈高校生・若者調査 15～21 歳〉〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「考えたことがあるし、取り組んでいる」が約半数となっています。

また、「考えたことがあるが、何に取り組んだら良いかわからない」は、〈中学生調査〉〈高校生・若者調査 15～21 歳〉で約2割となっています。

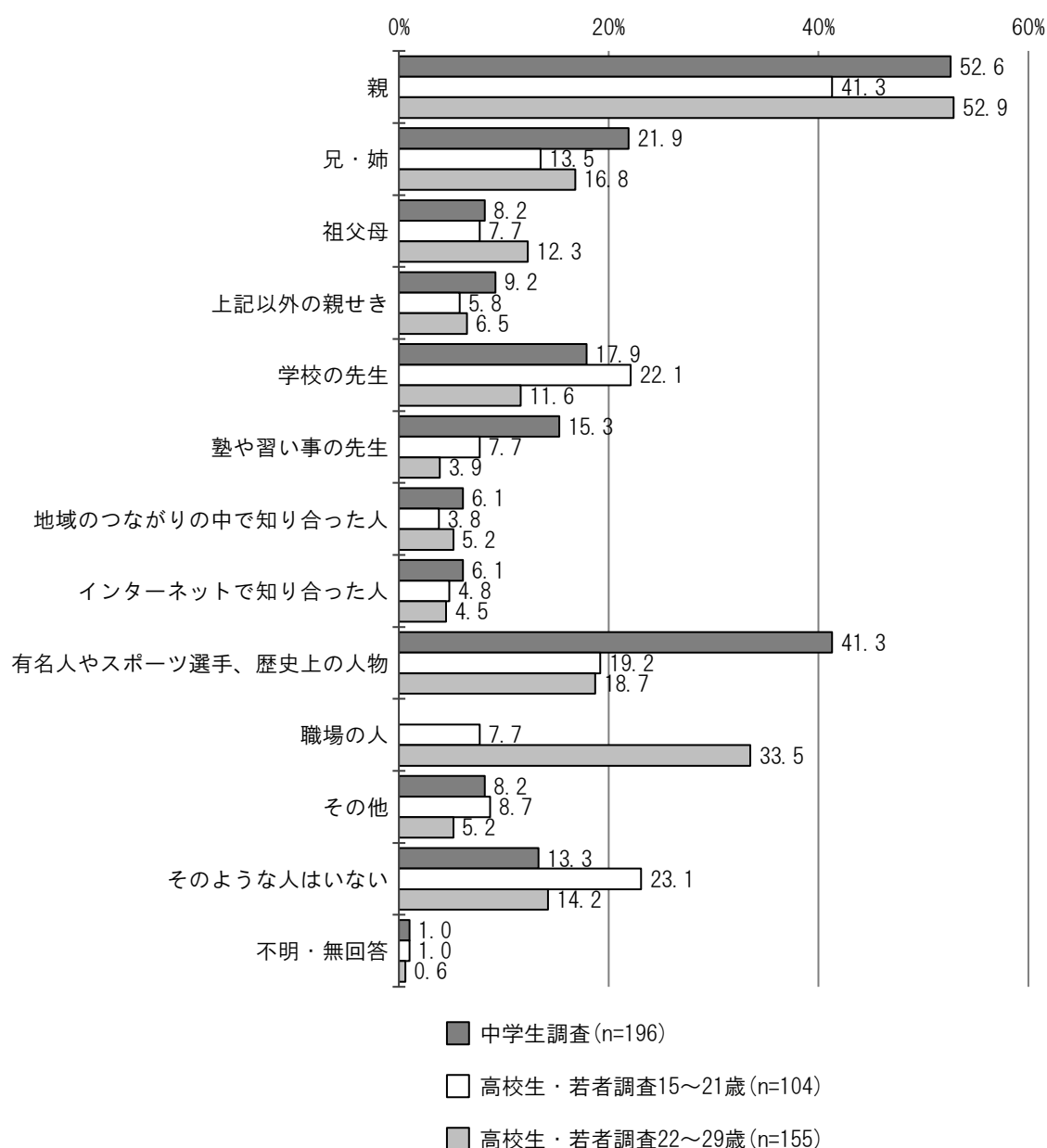


問 18 あなたにとって周りの大人や先輩の中で、将来を考える時に、見本にしたり参考にしたりできる人はいますか。また、それはどんな人ですか。
(複数回答)

〈中学生調査〉では、「親」が 52.6%と最も多く、次いで「有名人やスポーツ選手、歴史上の人物」が 41.3%となっています。

〈高校生・若者調査 15～21 歳〉では、「親」が 41.3%と最も多く、次いで「そのような人はいない」が 23.1%となっています。

〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「親」が 52.9%と最も多く、次いで「職場の人」が 33.5%となっています。



※「職場の人」は、高校生・若者調査のみの選択肢です。

問 19 あなたは、将来の夢を考えたり、取り組んだりするために、どのような環境や支援があれば良いと思いますか。ご自由にお書きください。

中学生調査においては将来の夢の実現に向けた環境や支援について 64 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

(中学生調査)

分類	件数	主なご意見
職場体験や、学校での授業	15 件	・ 職場体験を増やしてほしい (10 件) ・ 職業や進路について学習したり、将来について考えたりする授業やイベントがあれば良い (4 件)
進路や将来についての相談	7 件	・ 気軽に相談できる場所があれば良い (2 件) ・ 将来の夢が何か一緒に考えてくれる支援があれば良い (1 件) ・ インターネット上で相談できると良い (1 件)
仕事に関することなどの情報提供	12 件	・ 様々な業種に関する情報に触れる機会を増やす (2 件) ・ 社会人の話を聞く機会があれば良い (2 件)
自由に挑戦できる機会	4 件	・ 好きなことに挑戦できる環境 (3 件) ・ 誰もが好きなことを発信できること (1 件)
将来について考える機会	5 件	・ 色々な人と交流できる場所 (1 件)
取り組むことに対する理解	5 件	・ 将来の夢を尊重してもらえること (1 件) ・ 応援してくれる人がいること (1 件) ・ 家族に反対されず、自分が勉強したいことに関する本を買ってもらえること (1 件)
経済的支援	11 件	・ 教育費用の支援 (4 件)
学習環境	7 件	・ 勉強できる場所 (6 件)
地域に雇用があること	2 件	・ その仕事に適した環境が必要 (1 件) ・ 障がい者も活躍しやすい地域 (1 件)

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて1件として計上しています

高校生・若者調査（15～21 歳）においては、居場所づくりとして取り組んでほしいこととして 35 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（高校生・若者調査 15～21 歳）

分類	件数	主なご意見
職場体験や、学校での授業	4 件	・ 職場見学や職場体験の充実（3 件） ・ 義務教育の中で講演会などを開く（1 件）
進路や将来についての相談	1 件	・ 相談できる機関があれば良い（1 件）
仕事に関することなどの 情報提供	5 件	・ 就職活動に関する情報提供があれば良い（2 件） ・ 色々な職業について知れる動画があれば良い（1 件） ・ 大学に関する説明を市内で受けられるイベントがあれば良い（1 件）
自由に挑戦できる機会	3 件	・ 学会参加など、専門的な動に対する支援があれば良い（1 件） ・ ボランティアや留学など、知見を広める機会の充実（1 件）
取り組むことに対する理解	3 件	・ 将来の夢を否定されない環境（1 件） ・ 周囲の十分なサポート（1 件 ※外国語での回答）
経済的支援	11 件	・ 学費の支援（6 件）
学習環境	5 件	・ 教育機関の充実（2 件）
地域に雇用があること	3 件	・ 興味のある分野の事業者が地域にあること（3 件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて 1 件として計上しています

高校生・若者調査（22～29 歳）においては、居場所づくりとして取り組んでほしいこととして 45 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（高校生・若者調査 22～29 歳）

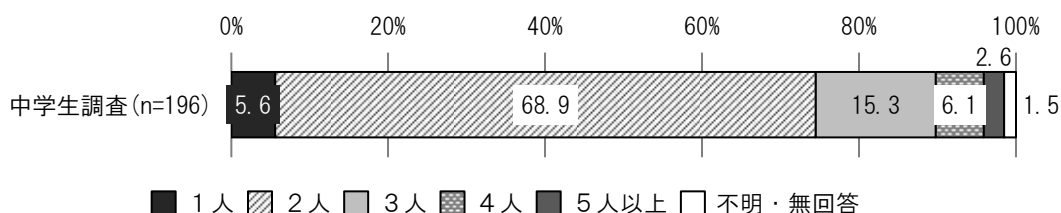
分類	件数	主なご意見
職場体験や、学校での授業	7 件	・ 学生のうちから職業について知れる機会をつくる（3 件）
進路や将来についての相談	6 件	・ 漠然とした内容でも気軽に相談できる場所（2 件） ・ 心理的な相談や自分に合う職業の相談ができる場所（2 件）
仕事に関することなどの 情報提供	2 件	・ なりたい職業に就くための学校や企業についての情報提供（1 件）
自由に挑戦できる機会	1 件	・ こどもが興味を持ったことを挑戦させられる環境（1 件）
取り組むことに対する理解	1 件	・ 他の人と足並みをそろえることを強要しないこと（1 件）
経済的支援	18 件	・ 金銭的な支援（18 件）
学習環境	11 件	・ 自習や勉強ができる環境（8 件） ・ 大人でも学び経験を得られる環境（1 件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて 1 件として計上しています

(5) ご家庭について

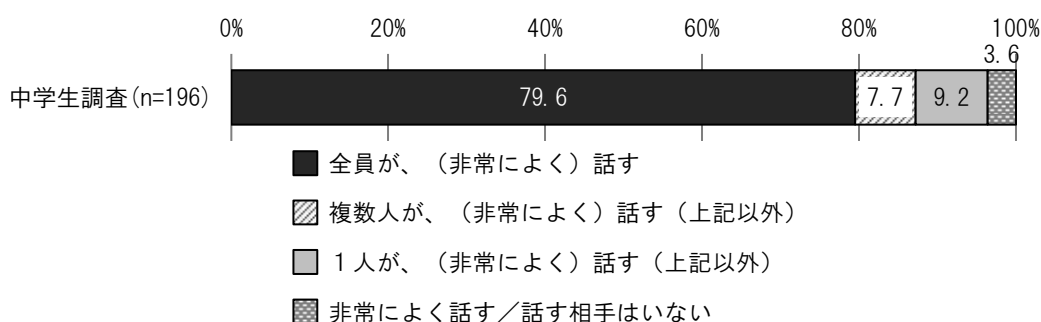
問 20 (中学生調査) あなたと一緒に住んでいる大人の人数について、数字でお答えください。
(単数回答)

一緒に住んでいる大人の人数について、「2人」が68.9%となっています。



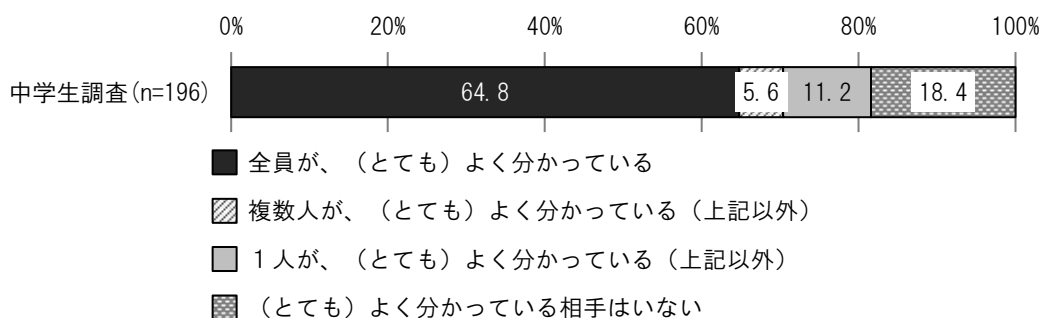
問 21 (中学生調査) あなたと一緒に住んでいる大人の家族と話をするかについて、お答えください。

「非常によく話す」「話す」「あまり話さない」「話さない」それぞれにあてはまる大人の家族の人数をもとに、家庭における会話の状況について集計した結果をみると、「全員が(非常によく)話す」が79.6%と最も多くなっています。



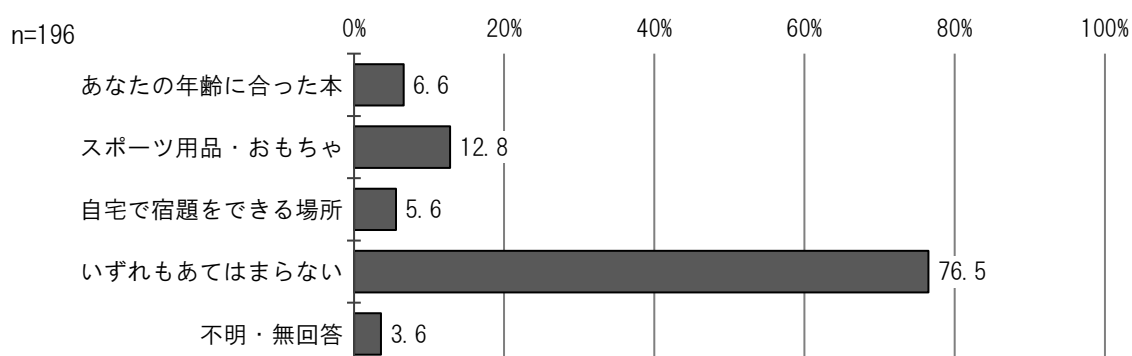
問 22 (中学生調査) あなたの一緒に住んでいる大人の家族は、普段、あなたの気持ちをよく分かっていると思いますか。

「とてもよく分かっている」「よく分かっている」「あまり分かっていない」「全く分かっていない」それぞれにあてはまる大人の家族の人数をもとに、家族の理解に関する状況を集計した結果をみると、「全員が、(とても)よく分かっている」が64.8%と最も多く、次いで「(とても)よく分かっている相手はいない」が18.4%となっています。



問 23 次のうち、あなたのご家庭で、家庭の方針やあなたの興味が理由ではなく、金銭的な理由のためにないものはありますか。（複数回答）

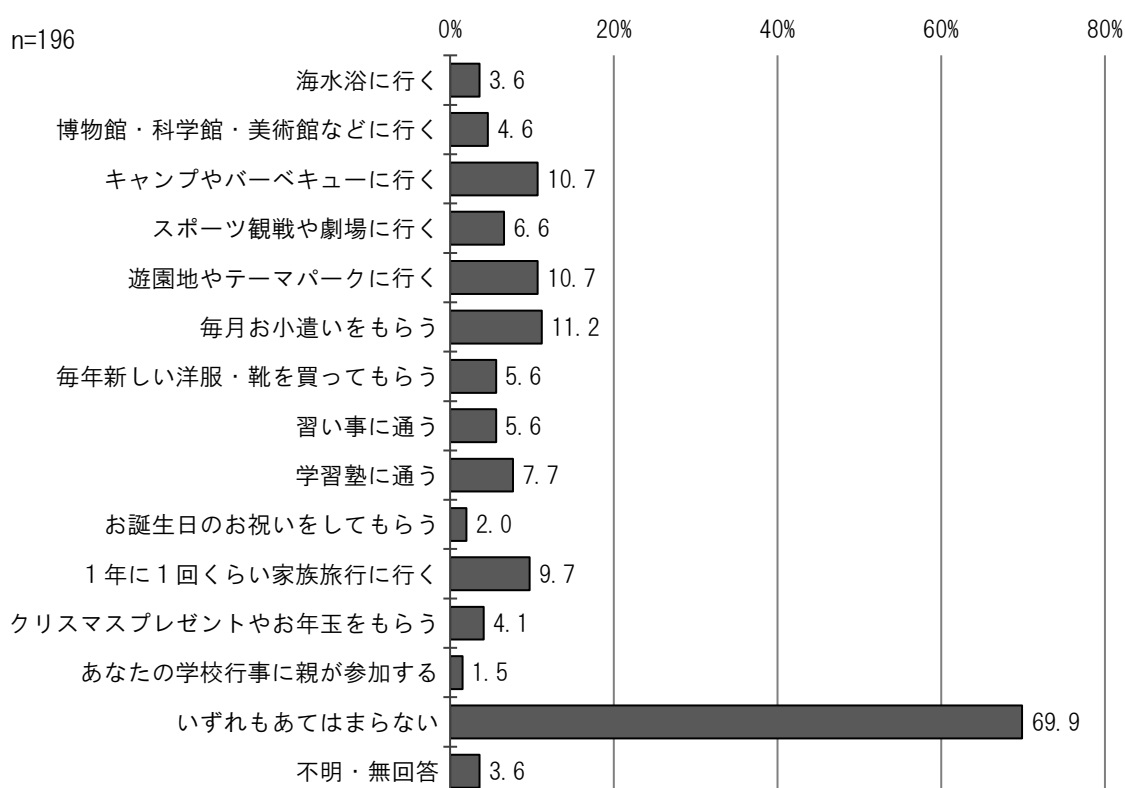
「いずれもあてはまらない」が76.5%、「スポーツ用品・おもちゃ」が12.8%となっています。



問 24 次のうち、あなたのご家庭で、家庭の方針やあなたの興味が理由ではなく、金銭的な理由のために、できなかつたりあきらめたりしたことはありますか。（複数回答）

「いずれもあてはまらない」が69.9%となっています。

また、「キャンプやバーベキューに行く」「遊園地やテーマパークに行く」「毎月お小遣いをもらう」がそれぞれ1割台となっています。

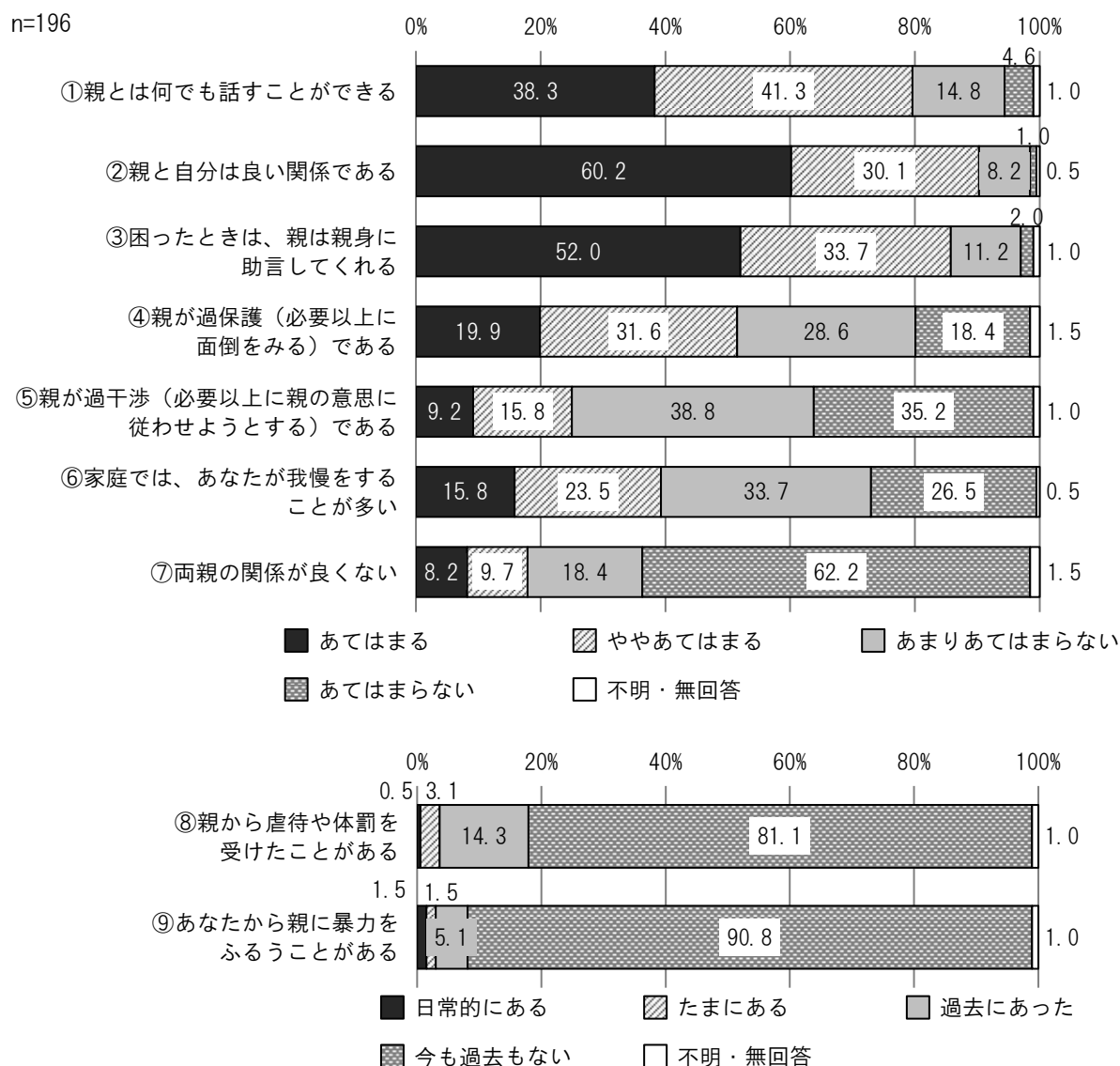


問 25 家庭の状況について、次の項目はどの程度あてはまりますか。

(単数回答)

家庭の状況について、〈④親が過保護である〉は「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が約半数となっています。また、〈⑦両親の関係が良くない〉については、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が約2割となっています。

〈⑧親から虐待や体罰を受けたことがある〉について、「日常的にある」「たまにある」の合計は4.6%となっています。



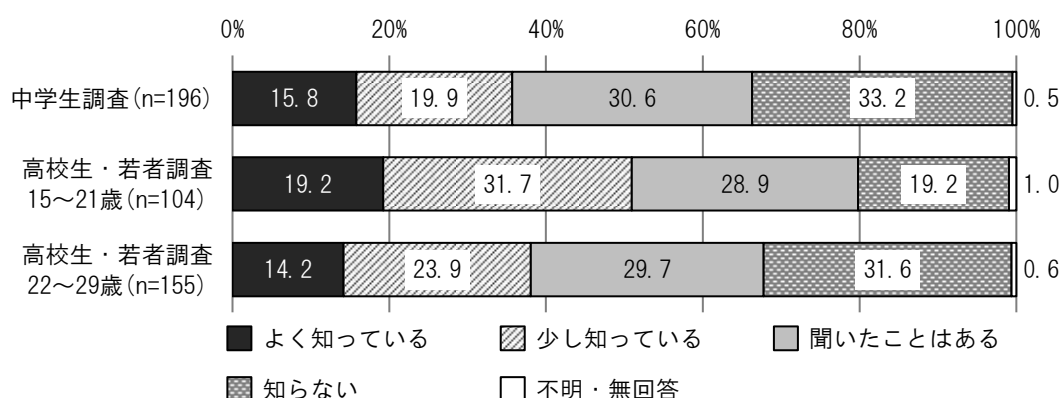
(6) 鎌ケ谷市のこども・若者支援施策について

問 26 (中学生調査) 問 20 (高校生・若者調査)

「こどもの権利」とは、こどもが大人と同じく一人の人間として持つ権利であり、安心して生活できること、自由に意見を言ったり活動したりできることなどが含まれます。あなたは、「こどもの権利」について知っていますか。
(単数回答)

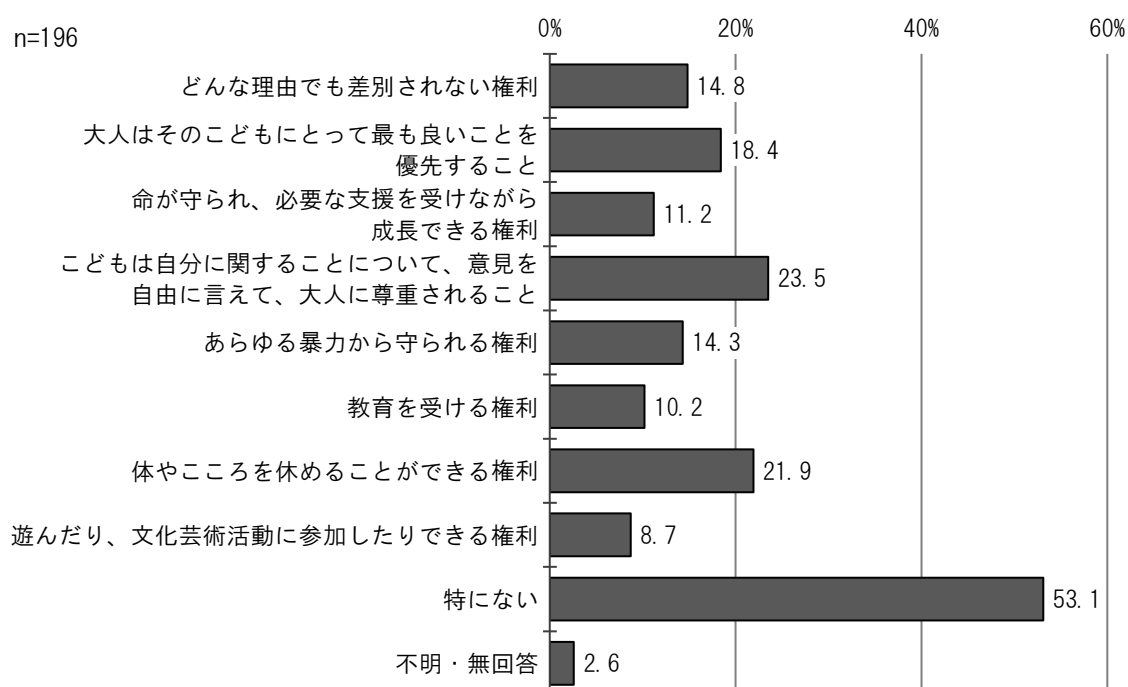
〈中学生調査〉〈高校生・若者調査 22～29 歳〉では、「知らない」が3割台と最も多く、次いで「聞いたことはある」が約3割となっています。

〈高校生・若者調査 15～21 歳〉では、「少し知っている」が31.7%と最も多く、他の区分に比べてやや認知度が高くなっています。



問 27 (中学生調査) 次の権利は、「こどもの権利」として守るべきだとされているものです。このうち、あなたの権利として守られていないと感じるものはありますか。
(複数回答)

守られていないと感じるこどもの権利について、「こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること」「体やこころを休めることができる権利」が2割台となっています。

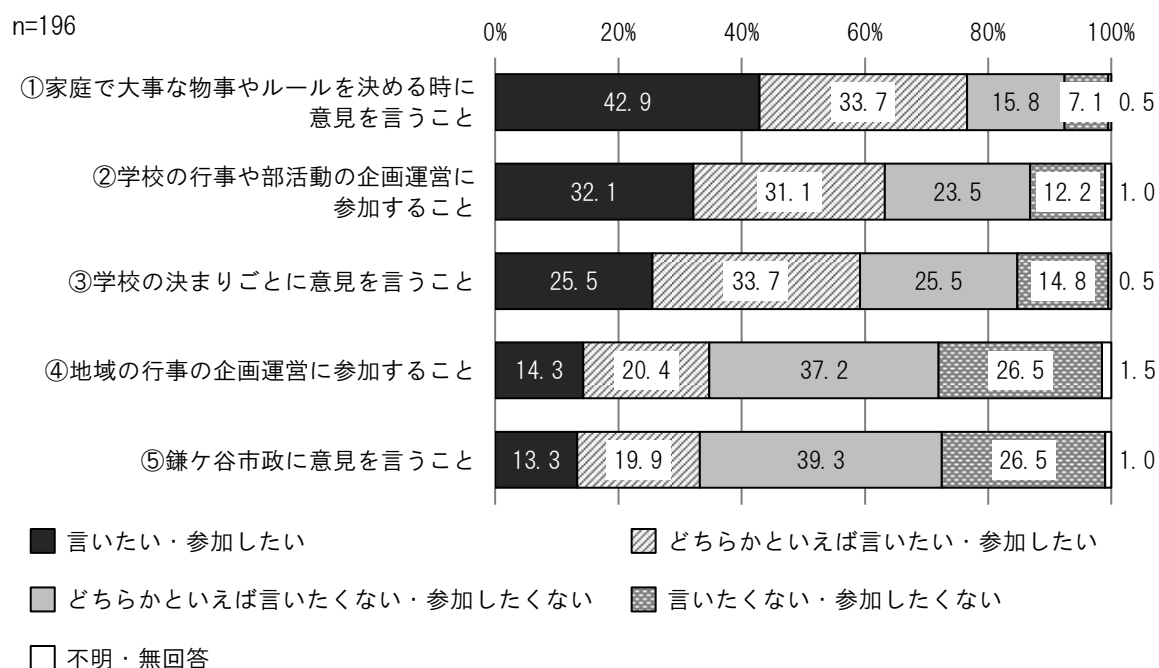


問 28（中学生調査） 次のことを決める時などに、あなたは意見を言ったり、参加したいと思いませんか。（単数回答）

〈①家庭で大事な物事やルールを決める時に意見を言うこと〉では、「言いたい・参加したい」「どちらかといえば言いたい・参加したい」の合計が76.6%となっています。

〈②学校の行事や部活動の企画運営に参加すること〉〈③学校の決まりごとに意見を言うこと〉では、「言いたい・参加したい」「どちらかといえば言いたい・参加したい」の合計が約6割となっています。

〈④地域の行事の企画運営に参加すること〉〈⑤鎌ケ谷市政に意見を言うこと〉では、「言いたい・参加したい」「どちらかといえば言いたい・参加したい」の合計が3割台となっています。

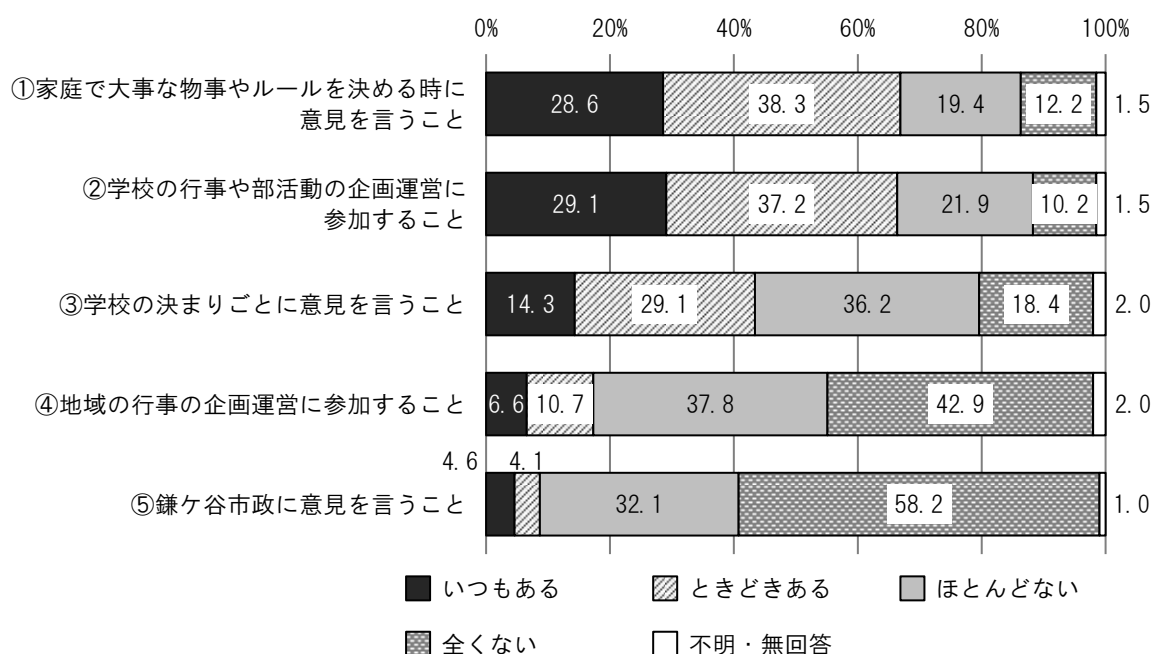


問 29（中学生調査） 次のことを決める時などに、あなたは意見を言ったり、参加したりする機会がありますか。（単数回答）

〈①家庭で大事な物事やルールを決める時に意見を言うこと〉〈②学校の行事や部活動の企画運営に参加すること〉では、「いつもある」が約3割、「ときどきある」が4割弱となっています。

〈③学校の決まりごとに意見を言うこと〉では「いつもある」は1割台、〈④地域の行事の企画運営に参加すること〉〈⑤鎌ケ谷市政に意見を言うこと〉では、「いつもある」は1割を下回っています。

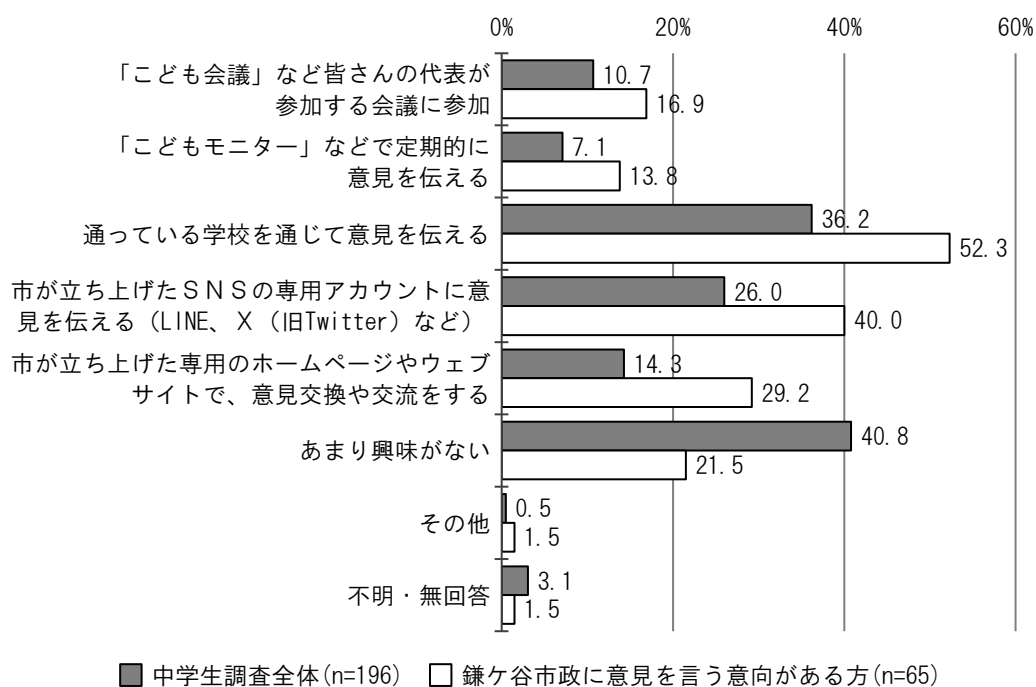
（グラフは右頁に掲載）



問 30 皆さんの意見を鎌ケ谷市の政策や取り組みに反映させるため、あなたが参加しやすい方法を教えてください。（複数回答）

全体では、「あまり興味がない」が40.8%、「通っている学校を通じて意見を伝える」が36.2%となっています。

〈鎌ケ谷市政に意見を言う意向がある方〉では、「通っている学校を通じて意見を伝える」の他、「市が立ち上げたSNSの専用アカウントに意見を伝える」「市が立ち上げた専用のホームページやウェブサイトで、意見交換や交流をする」も3～4割程度となっています。



問 31（中学生調査）問 21（高校生・若者調査） 最後に、市に望むことがありましたらご自由にお書きください。

中学生調査においては 45 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（中学生調査）

分類	件数	主なご意見
学校施設や規則・運営について	9 件	・学校のパソコンについて、インターネットの接続環境が良くない（2件） ・校則に関して、意見を話す場が欲しい（2件） ・体育館の空調設備を整備してほしい（2件） ・給食を増量して欲しい（1件） ・学校のパソコンに、生徒会で使う動画編集ソフトなどのアプリを入れられないため、制限を緩和して欲しい（1件） ・制服について、性別にかかわらず自由に選択できるようにしてほしい（1件）
公園・遊び場・居場所・運動施設について	12 件	・ボール遊びや球技（野球、バスケットボール、テニス）ができる公園が欲しい（5件） ・児童館や図書館を増やしたり、居場所づくりにつながる駄菓子屋さんを作ったりしてほしい（1件） ・公園で遊んでいる声が地域の方の迷惑にならないよう、声が響きづらい場所や環境に公園を作ってほしい（1件） ・田舎過ぎず都会過ぎない鎌ケ谷市の特性を活かして、自然を感じられる公園があれば良い（1件）
商業施設・娯楽施設について	7 件	・商業施設を増やしてほしい（2件） ・映画館があれば良い（2件） ・趣味に関する買い物ができる店があれば良い（2件）
交通安全・生活環境・都市計画について	16 件	・通学路等の街灯や路面を整備して安全にしてほしい（8件） ・都会と田舎が共存する景観を残してほしい（2件）
その他	5 件	・子どもを大切にしてほしい（2件） ・子ども、大人にかかわらず、皆が平等に生きられるようにしてほしい（1件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて1件として計上しています

高校生・若者調査（15～21 歳）においては、34 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（高校生・若者調査 15～21 歳）

分類	件数	主なご意見
学習環境・キャリア教育について	5件	・静かに勉強できる環境の確保や、そういった場所についての情報提供があれば良い（2件） ・若者向けの講座（メイクやデザインについてなど）を市役所で実施して欲しい（1件） ・様々な職業について、年齢が低いうちから体験できるイベントがあれば良い（1件） ・図書館の利用時間を伸ばしてほしい（1件）
公園・遊び場・居場所・運動施設について	7件	・ボール遊びや球技ができる公園があれば良い（4件） ・犬の散歩中、公園が立ち入り禁止になるとトイレをさせる場所が無いので、きちんと処理をすればトイレをさせても問題ない場所があれば良い（1件）
商業施設・娯楽施設について	5件	・映画館があれば良い（4件）
交通安全・生活環境・都市計画について	12件	・通学路を安全にしてほしい（4件） ・新鎌ヶ谷駅の南北自由通路の整備を進めてほしい（1件）
広報・広聴について	9件	・市の政策に関する広報について、イラストを交えるなど読みやすいものにしてほしい（1件） ・市の取組やコミュニティの活動についての情報発信を充実させてほしい（1件） ・児童、生徒から意見を聞いて欲しい（1件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて1件として計上しています

高校生・若者調査（22～29 歳）においては、60 件の回答がありました。分類ごとの件数及び、主なご意見については次の通りです。

（高校生・若者調査 22～29 歳）

分類	件数	主なご意見
子育て支援サービスについて	14 件	・子育てに関する経済的な支援を充実させてほしい（5件） ・一時預かりやファミリー・サポート・センターは気軽に使いづらく、ハードルが低い託児サービスがあれば良い。（1件） ・保育所の結果通知が2月下旬にあったが、可能な限り前倒しいただきたい（1件）
学習環境・公園・遊び場・居場所・運動施設について	5 件	・高校生くらいになると、近隣市で遊んだり学んだりする人が多いため、鎌ヶ谷でもスポーツなど地域の特色を生かして体験ができる場が増えれば良い（1件） ・地域をより良くするために必要なことについて児童・生徒の声を聞いて欲しい（1件）
商業施設・娯楽施設について	8 件	・映画館があれば良い（4件） ・若者向けの商業施設があれば良い（2件）
交通安全・生活環境・都市計画について	19 件	・安全に歩けるよう歩道を整備してほしい（9件） ・渋滞を緩和してほしい（6件） ・バスの本数を増やしてほしい（1件） ・歩きたばこの対策をしてほしい（1件） ・道路工事をする前に近隣の意見を聞いてほしかった（1件）
広報・広聴について	5 件	・伝えたいことがあっても、どう伝えて良いかわからない（2件） ・若者世代向けのイベントや事業についての情報を得たいが、検索しても見つからない（1件）
行事・イベントについて	7 件	・成人式が新型コロナウイルス感染症流行の影響により中止となった世代について、代わりの機会をつくってほしい。（3件） ・スポーツや芸術文化、歴史を活かしたイベントを行って欲しい（1件）
その他	8 件	・若者も高齢者も住みやすいまちにしてほしい（2件） ・働く若者のメンタルケアができるカウンセリングがあれば良い（1件）

※複数の分類に該当するご意見については、それぞれにおいて1件として計上しています

鎌ヶ谷市こども・若者アンケート調査報告書

発行年月 令和6年5月

編集・発行 鎌ヶ谷市 健康福祉部 こども支援課

住 所 〒273-0195

千葉県鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷二丁目6番1号

電話番号 047-445-1141（代表）

047-445-1320（直通）